

SAFE

人道支援要員のための
安全管理マニュアル

日本語版監訳/制作:中出雅治



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

SAFE

人道支援要員のための
安全管理マニュアル

日本語版監訳/制作:中出雅治



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

目次

謝辞	5
序文	6
はじめに	9
10 の推奨事項	12
1. 自分の活動環境を知る	17
1.1 複雑な環境	17
1.2 人道支援に対する脅威は増加しているか？	21
1.3 赤十字国際委員会（ICRC）とその活動	23
1.4 赤十字国際委員会（ICRC）の安全管理	32
1.5 法的な枠組み	45
1.6 他の人道支援組織との連携	50
1.7 活動する環境を知る：自身への 6 つの問い合わせ	53
2. 準備は万端にせよ！	55
2.1 自分自身が何のために参加するのかを知る	56
2.2 冷静沈着に仕事に着手するには？	57
2.3 健康に関する準備と予防	65
2.4 何を持っていくべきか？	70
3. 現場情勢を理解すること	73
3.1 情勢分析	73
3.2 リスク管理	82
3.3 すべての人が等しく危険か？	86
4. 武装した人々	93
4.1 なぜ武装した人たちと話すのか？	93
4.2 武装した人たちにはどんなタイプがいるのか？	94
4.3 戦闘員の特徴	100
4.4 武器所持者についての分析	102
4.5 課題	105
4.6 戦闘員との接触	109
4.7 武装した人々：自身への 10 の問い合わせ	113

5. 自分自身の行動/ふるまい	117
5.1 行動規範 (The Code of Conduct)	117
5.2 文化への感度：必要条件	118
5.3 好印象を与える	122
5.4 詐欺と汚職	127
5.5 写真、動画と録音	130
5.6 情報に関する安全管理	132
5.7 間違った行動を経験あるいは目撃したとき	135
5.8 言動/ふるまい：自身への 10 の問い合わせ	137
6. 個別の脅威	139
6.1 一般犯罪	139
6.2 暴動と市民騒乱	148
6.3 兵器	152
6.4 サイバー攻撃による脅威	170
6.5 性暴力	174
6.6 逮捕/勾留	182
6.7 誘拐と人質	185
6.8 自然災害	196
7. オフィス/宿舎での安全確保	213
7.1 基本原則	214
7.2 活動場所の安全の向上	220
7.3 現地スタッフ	222
7.4 火災、電気、ガス	224
8. 健康管理	231
8.1 自身の身体的健康の管理	231
8.2 自身のメンタルヘルスの管理	245
9. 支援を必要としている人々へのアクセス	257
9.1 フィールドトリップの準備	257
9.2 移動と活動内容の共有	264
9.3 通信	268
9.4 自分自身の識別	273
9.5 パートナーとの活動	274
9.6 道路上で	276

9.7	車列を組む	280
9.8	自分の車両で誰を運べるか	282
9.9	検問所の通過	286
9.10	秘匿情報の保護	292
9.11	フィールドでの宿泊	293
9.12	メディア対応	296
9.13	支援を必要としている人々へのアクセス：自身への 10 の問い合わせ	298
10.	活動中の安全確保	301
10.1	一般的なアプローチ	301
10.2	援助活動の遂行	307
10.3	物資配付	312
10.4	送金と現金の輸送	318
10.5	医療施設での活動	322
10.6	収容所訪問	331
10.7	キャンプでの活動	342
10.8	遺体の取り扱い	344
10.9	怒っている人の対処	346
11.	セキュリティインシデント	355
11.1	セキュリティインシデントとは？	355
11.2	インシデントに対処するための準備	356
11.3	インシデントへの対応	358
11.4	フォローアップ	361
11.5	インシデント後の同僚のサポート	364
11.6	暴力が伴うインシデントに見舞われたら	372
11.7	セキュリティインシデント：自身への 7 つの問い合わせ	373
12.	添付資料	375
12.1	用語解説	375
12.2	武器/兵器	377
12.3	内部サポートメカニズム	379
12.4	何を持っていくべきか？	381
12.5	フィールドトリップの準備	384
12.6	応急手当の基本	386
12.7	国際音声記号	395
13.	参考文献	397

謝辞

本マニュアル（英語原版）は、赤十字国際委員会（ICRC）の安全および危機管理サポートユニットが、関連する部署と緊密に協力し、編集したものである。

本書のイラストはフランシス・マカードによる。

ICRCは、本書の作成に貢献したすべての人へ深謝する。

原著序文

親愛なる同僚諸兄へ、

赤十字国際委員会（ICRC）の総裁として、私はスタッフの安全を最も重要な事項のひとつと考えており、2019年 の総会で安全管理を監督するための特別委員会を設立しました。

私たちが活動する環境は特に困難な状況になりつつあります。人道支援活動は政治化され、しばしば犯罪行為によって脅かされています。人道的なアクセスの正当性に疑問を呈する人々がおり、武器を携行する者はますます多くなり、かつ分散し、しばしば秘密裏にネットワークを形成しています。

ICRCは、アクセスが困難な不安定な地域や最前線など、紛争や暴力が支配する場所で最も苦しむ人々のニーズに応え続けることができるよう、アクセスのための交渉術や、セキュリティおよびリスク管理に関するスタッフのトレーニングなど、重要な能力開発に投資しています。これは、組織全体のセキュリティツールとプロセスを強化することも意味します。これらの2つの要素は、私たちの人道活動が与える影響と、現場で提供する付加価値を高める重要な触媒にもなります。

SAFEは、リスクと、利用可能なルールと資源の両方をよりよく理解することができる貴重なテキストです。私たち一人一人には、自分自身と同僚の安全を確保する上で果たすべき役割があります。活動環境に注意し、安全管理規則を確認し、懸念事項があれば声を上げてください。そうすることが、組織としての私たちの対応に貢献することになります。

本書が役に立てば幸いです。皆様と現場で会うことができることを楽しみにしています。



赤十字国際委員会総裁 Peter Maurer

日本語版序文

赤十字国際委員会（ICRC）が紛争地における安全管理のテキストである *Staying Alive* を出版したのはもう 20 年ほど前のこと、赤十字以外の多くの人道支援団体にも重宝されてきた。*Staying Alive* は 180 ページほどの小冊子で、安全管理の基礎を読みやすくまとめたものであったが、このたび ICRC はこれを全面的に改訂し、紛争地での、より詳細な安全管理のテキスト「SAFE」を発行した。

元々 ICRC 職員に向けて書かれたテキストではあるが、普遍的な内容を扱った章も多く、本文中の「ICRC」を自団体名に読み換えることで、紛争トーンの高い地域で活動する諸団体職員も活用できるし、安全管理担当者にとっては、紛争地で活動する世界最古の人道支援団体である ICRC が、どのようなポリシーと体制で安全管理を行っているかを知ることが出来る。さらに項目によっては、紛争地に限らず海外に派遣されるすべての人道支援団体とその従事者、ジャーナリスト、企業その他の海外駐在員にも役立つ内容であり、同種の日本語の書籍がほとんどないことから、原書をもとに日本赤十字社の国際関連事業の一環として本書を制作した。

翻訳の形式は原著の逐語訳ではなく、日本語として読みやすい形をとった。したがって同じ単語でも文脈によって対応する日本語を変えたり、この分野の読書にとって常識となっていると考えられる単語は原語をそのまま使用している部分もある。一方で読者に相応のバックグラウンドがないと理解しにくいと思われる内容など、適宜訳注をいれて補足説明をしている。

本書が広く利用されるよう、PDF 版は大阪赤十字病院国際医療救援部のホームページ <https://www.osaka-med.jrc.or.jp/aboutus/international/magazine.html> から無料でダウンロードできるようにしてある。ハードコピーをご所望の向きは、同国際医療救援部<imr@osaka-med.jrc.or.jp>までお問い合わせいただきたい。

最後に、派遣要員の命と安全にかかわる内容であることから、赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表部にはセンシティブな言い回しや文言に関して精査、校正に貢献いただいた。また出版に際しては、日本赤十字社本社国際部はもとより、丁寧な校正と製本にご尽力いただいたサン美術印刷の宮田完治氏に深謝する。

2025 年 3 月

中出雅治 日本赤十字看護大付属災害救護研究所 国際医療救援部門長

はじめに

本書は、これから自国または海外のいずれかで赤十字国際委員会（ICRC）の仕事を始めようとしている人のために書かれたものである。一般的に我々は、攻撃や犯罪などの意図的な行為について話す場合「セキュリティ」を使用し、交通事故や疾病、自然災害などの意図的な行為を伴わない脅威について考える場合は「セーフティ」を使用する。ただしこの 2 つは常に明確に区別されるとは限らず、フランス語では「セキュリティ」と「セーフティ」の両方をカバーする「*sécurité*」という単語が使用される。多くのフランス語の ICRC 専門用語と同様に、これが英語に入ってくることもある。

訳注：日本語では、「セキュリティ」と「セーフティ」を区別する明確な単語がないため、本書では文脈に応じて訳語を変えて訳出している。

ICRC の人道支援活動は単なる仕事ではない。ICRC の任務は、多くの場合不安定かつ複雑、予測不可能であり、したがって本質的に危険な環境で活動することになる。ICRC にとっても自分自身にとっても、現地の地域社会と緊密なつながりを築き、発展させ、安全を確保しながら地域社会の回復力を高め、保護と支援を提供できるようにすることは、常に課題となる。

本書がどのように役立つか

本書を読んだからといってセキュリティの専門家になることはできない。本書の役割は、不必要なリスクを冒すことなく活動し、困窮した人々に到達するために必要な基本的なツールを提供することである。その目的は、遭遇する可能性のある主な脅威に対処し、ICRC の安全管理の哲学の理解を深める準備をすることである。

オフィスにいるとき、移動中やフィールドワークを行っているときに、安全を確保するために自らの行動を適応させる必要がある状況に定期的に遭遇する。したがって本書では、自分を守るために何ができるかに焦点を当てている。また、ICRC がどのようなイメージを与え、どう受け止められているかによって、安全管理が左右される程度を明確に示す。

本書は、どのように安全と健康を確保するかについて考えてもらうことを目的としている。遭遇する可能性のある主な脅威の概要を説明し、情報に基づいた系統的かつ安全な方法で対応するために必要なツールを提供し、差し迫った危険やセキュリティインシデントに対応する方法に関する推奨事項を示す。本書を構成する 11 の章は相互に関連しているが、それぞれの章を個別に読んでもよい。

本書はだれのためのもの？

SAFEは、主に新しいICRCスタッフを対象としている。より安全な活動環境を作ることはすべての人がしなければならない仕事であり、本書は、フィールド要員や総務職同様、ドライバー、エンジニア、ロジスティクス専門家、および看護師などの医療職も対象としている。本書はこれらすべての人のニーズに対応できるように作られているが、遭遇する脅威の種類や弱い立場に追い込まれる可能性、責任のレベルは、行っている活動によって異なるため、トピックによっては、読者に直接関係がないものもある。一方いくつかのトピックは、新天地で働くスタッフや、ICRCの宿舎で暮らすスタッフ（家族が一緒の場合も）など、勤務時間外でもICRCの責任下にあるスタッフ向きかもしれない。一部の読者は比較的安定した環境で活動するであろうが、本書で取り上げる問題は、主に武力紛争や暴力がある場合に発生する。（ちなみに、本書では、より正式な「武力紛争およびその他の暴力状況」の省略形として「紛争と暴力」を使用する）しかしながら、ふるまい方や活動環境の分析方法、ICRCの建物で安全を確保する方法、いかにして犯罪者から身を守るか、フィールドトリップの準備、いかにして活動を遂行するか、セキュリティインシデントへの対応法など、いつでもどこでも適用できるものもある。どのトピックが直接自分に関係しているかを判断するのは読者自身である。

ガイドラインは常識とともにある

本書内の情報や推奨事項は一般的なもので、遭遇する可能性のあるすべての状況を網羅しているわけではないが、ICRCの現場での経験に基づき、最も役に立つアドバイスを提供できるよう最善を尽くしている。本書はまた、人道支援活動を行う者のための専門的な出版物やその他の安全マニュアルを参考としており、巻末にこれらの参考文献をあげている。

状況によっては、あることを行う必要があり、別の状況では、あることを行わない必要がある。たとえば、地雷に触れてはならないとか、常にシートベルトを着用しなければならないなどである。ただしほんどの場合、状況に合わせて自分の行動を適応させる必要がある。状況や背景を考慮せずに特定の推奨事項を盲目的に適用することは、ときに不適切または完全に危険である。したがって、本書のすべてのアドバイスは一般的な問題を解決するためのアプローチを示していると認識し、自分の常識と判断力も使わなければならない。

他のリソースの活用

ICRCは、常に活動の目的とスタッフに対する責任とのバランスを考えている。目的とは、紛争や暴力の影響を受けた人々に手を差し伸べることで、あなたの心身の健康を維持しながら、支援を遂行することである。注意義務の一環として、ICRCは専用性を持った担当局の支援を受けて、スタッフの安全を確保するための新しいシステムを継続的に開発している。この義務は、本部および現場で採用された職員、職員に同行するICRCが承認した人々や、契約関係にある活動パートナー（ICRCに出向する要員、ICRCの活動に携わる外部パートナー、国際赤十字・赤新月運動のスタッフ）に適用される。

安全に活動するには、行動規範、一般的な指示、活動分野に関連する指示、活動を展開する地域に適用される安全管理規則など、他のICRC文書と併せて本書を読む必要がある。本書は指示をする類のものではなく、また他の文書に置き換わるものでもない。ただし、トレーニングや活動環境に関する定期的なブリーフィング、および適切な行動についての上司からのアドバイスを補完するのに役立つ。

他の人道支援団体も利用することができるが、本書は何をすべきかを説明するものではなく、一連の標準的な安全管理規則を推進するものでもない。

10 の推奨事項

以下は、安全に活動するための 10 の推奨事項である。

1. 活動場所の状況と背景に興味を持って理解に努める

活動する環境を理解しないことは、地図を持たずに知らない場所に向かうようなもので、問題を予測することはできない。自分が活動する国の文化とそこで起こっている問題を知らねばならない。これは、その地域の歴史と伝統、その社会的、経済的、文化的側面に関心を持つことを意味し、これによって、自分がどのようにふるまえばよいか、越えてはならない一線はどこかを知ることができる。また、活動地域に存在する脅威を特定し、それに対する必要な予防措置を講じることもできる。

2. 敬意を払う

自分の世界観を他人に押し付けない。活動地でも他の場所でも、相手が自分に抱くイメージがセキュリティに与える影響は小さくない。傲慢な態度や失礼な発言、あるいは現地の道徳に反する行為は、不快感や誤解を引き起こし、悲惨な結果をもたらす可能性がある。人々に自分の存在と活動を受け入れてもらいたいのであれば、自分の行動を地元の習慣や伝統に適応させることによって、彼らに敬意を示す必要がある。

3. よく聞き、観察する

特定の通りや市場の人がいつもより少ないという印象はないか？地元の住民が、特定のルートを避けるように伝えてきたりしなかったか？同僚が、街の特定の部分を横断することを避けていないか？遠くで銃声が聞こえるか？聞くことと観察することは安全管理の重要な要素である。些細なことのように見えるものでも、差し迫った危険の兆候であることがある。周囲の状況に注意を払うことで脅威の前兆を認識し、特定のリスクを予測して回避し、危険が発生した場合に最も安全な避難場所をすばやく見つけることができる。絶えず観察したり聞いたりすることに慣れるのに少し時間がかかるかもしれないが、すぐにあなたの習慣になるであろう。

4. 率先して行動する

すべての安全管理システムは完璧ではなく、状況に合わせて継続的に変化していくなければならない。事を急いでいると、安全確保に必要なすべてのことについてスタッフに説明することを誰も考えなくなる。あなたの活動が何であれ、率先して行動し、上司や同僚に定期的に相談して心配事や懸念事項について話すこと

を躊躇しないこと。全員の知識や視点を活かすことで、身の回りの安全な環境づくりに貢献し、徐々に正しい習慣を身につけていくことができる。同様に、安全管理システムの弱点や、その違反、および被害を受けた、あるいは目撃したセキュリティインシデントを報告することは、すべての人を利すこととなる。

5. 安全管理規則を守ること

ICRC が危険であると判断し、通行禁止にしているルートはないか？軍事施設の写真を撮影することは禁じられていないか？活動をする上で従うように要求されている特定の手順はないか？ICRC は安全管理規則を作成しているが、これは全員の利益のために編集されたもので、あなたが毎日の生活を過ごしにくくするためではない！この中には、行動規範など世界中で適用されるものもあれば、その地域の状況を反映して、安全に関する規制やセキュリティインシデントが発生した場合に従う手順などのリスクの共同評価に基づいたものもある。この安全管理規則を充分に理解し、安全管理規則を作成した人々を信頼し、これを遵守すること！

6. 厳格であること

人によって危険に対する認識は異なる。暴力や危険にさらされやすい地域で育った人々は、状況を危険だと見なす傾向が少ないこともあろう。逆に、より安定した地域で生活している人々は、危険がないところで危険を感じ、不必要的予防策を講じて常に警戒しているかもしれない。したがって、活動場所に適用されている安全管理規則を厳格に守って行動することが重要である。同僚や上司に相談する時間がなく、迅速な決断を下す必要がある場合は、常に「害を及ぼさない」という原則を念頭に置き、行おうとしていることの利点と欠点を比較検討し、意図している人道援助の効果と、自分自身、自分の同僚と組織にもたらす危険とのバランスを考える。疑わしいと感じた場合は、ヒーローになるよりも用心しすぎることはない。

7. 慎重に計画および準備をする

活動をしている地域の最近のセキュリティ関連の事案について、常に問い合わせているか？また常に、支援しようとしているコミュニティの意見やサポートを求めているか？使用する車両が適切に装備され、無線が機能していることを確認することに誰も注意を払っていないようなことはないか？これまでの経験上、このような誤ちは、自分自身や同僚の安全に深刻な結果をもたらす可能性がある。それぞれのフィールドトリップと活動を適切に計画および準備するために時間をかけることで、セキュリティインシデントのリスクを大幅に減らすことができる。

8. ソーシャルメディアで公開するものについてよく考えること

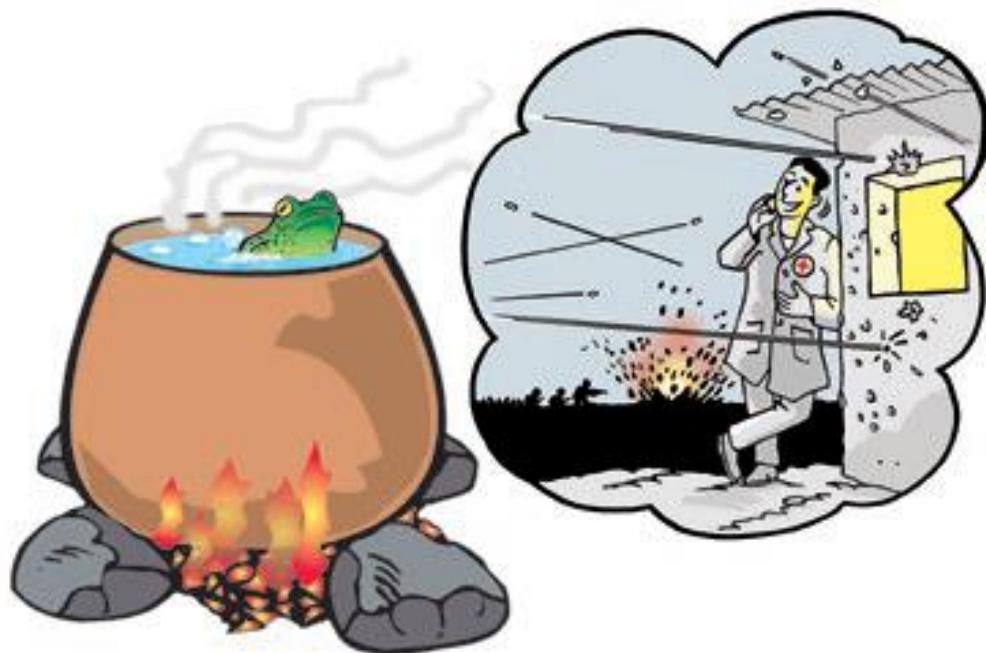
目に見える脅威もあれば、目に見えにくい脅威もある。以前よりも相互につながりのある今の我々の世界では、オンラインで投稿した画像がセキュリティに影響を与える可能性がある。個人的な意見を表明することは、それに共感しない人の怒りを買うかもしれないし、自身の私生活の詳細をオンライン上にさらすことは、組織のイメージを傷つけることもある。また、あなたがオンラインで共有する情報は、他人によってあなたや ICRC に対しての攻撃材料として利用される場合もある。したがって、何かを公開する前に、後で問題が生じないかどうかをよく自問しなければならない。

9. 常識を働かせる

すべての状況は、その状況固有の背景があった上で発生するため、それぞれ異なったものになる。結局は、最も安全なアプローチを決定するのに最適な人物は自分自身である。危険を感じたら、自分の判断と常識を信じること。

10. 自分自身に気を配る

きちんと食事をとる充分な時間があるか？飲むのに適していない水を飲んでいいいか？回復に充分な休息時間が確保できているか？自分自身の健康と自分自身の安全は切っても切れない関係にあるため、自分の肉体的、精神的健康に気を配らねばならない。また、必要なときに助けを求めることがあえてしなければならない。最後に、周囲との連帯はすべての人道支援活動の基礎となるものであり、活動において貴重な財産となる。同僚はあなたをサポートするためにそこにいるし、その逆もまたしかりである。



茹でガエル

カエルを沸騰したお湯に落とすとすぐに飛び出しが、冷たい水に入れて徐々に沸騰させると、手遅れになるまで気づかない、とよく言われる。カエルの生存本能は、物事が突然変化したときにのみ活性化する。

これを、自分自身を危険にさらすことの比喩として見ることができる。つまり突然の変化だけでなく、少しづつ起こる周囲の継続的な変化にも注意を払わなければならない。目に見える、簡単に識別できる脅威だけでなく、あまり目立たない脅威も考慮しなければならない。危険を伴う生活に決して慣れないと。慣れてしまうと、無意識のうちに危険を感じする閾値が高くなり、ある日その代償を払うことになる。

1. 自分の活動環境を知る

複雑で予測できない活動環境では、多くの安全管理上の課題が発生する。脅威を理解することによって、「安全管理」が最優先事項のひとつでなければならない理由を理解することができる。

本章では、ICRC が活動する場所の主な安全管理の側面と、我々の行動を導く原則について説明する。次に、現場での安全管理に対する ICRC のアプローチと、人々を効果的に支援するためには、影響力のある人々、地元住民に受け入れられることがどれほど難しく、しかしながら不可欠であるかについて述べる。

1.1 複雑な環境

武力紛争の性質とそこで活動する状況は、ここ数十年で大きく変化し、人道支援団体に前例のない問題をもたらしている。そのうちのひとつは、被害を受けたコミュニティとの緊密な連絡を維持し、人々を安全に支援することである。

現在のトレンド：

- 武力紛争はますます多くなり、より大きくなっている。

現在、60 の国とおおよそ 100 の非国家武装グループを巻き込んだ約 100 の武力紛争が存在する。国家間の紛争（国際的武力紛争）の数は過去 20 年間安定しているが、国内（非国際的）武力紛争の数は 30 未満から 70 を超えるまで 2 倍以上になっている¹。多くの国では、複数の紛争が同時に進行している。暴力は国境で止まらず、近隣諸国に波及し、地域全体を不安定にすることがよくある。一部の紛争は国境を越え、サイバー活動を通じてデジタル領域に影響を与えるリスクも加わっている。これらは次々に、重要なサービスと人道支援団体の活動を混乱に陥れる。

¹ これらの数値は ICRC の紛争の公式分類に基づいたものである。これらはガイダンスとしての利用のみを目的としており、現実の現場の正確な統計を表すものではない。

コミュニティベースあるいは集団ベースの暴力は、抗議活動と同様に増加しており、暴力的なものもあれば、逆に暴力で抑圧されたものもある。世界はますます不安定になっている。これらは、その影響を受けた国々で、組織的で長期間にわたる機能不全を引き起こし、不平等と脆弱性を高め、人々に移動を強いて、大規模な人道危機をもたらしている。

国家間の武力紛争 ²	非国家間の武力紛争	その他の暴力的状況
<ul style="list-style-type: none"> 二国間もしくはそれ以上の国家間紛争 占領（領土が事実上敵軍の支配下にある） 	<ul style="list-style-type: none"> 政府軍と、非政府武装勢力との紛争 武装勢力同士の紛争 	<ul style="list-style-type: none"> 暴力事案が散発しているが武力紛争レベルには達していない

・ますます断片化される紛争

国家間および非政府武装集団が絡む武力紛争の増加によって、武器を保有する人数も増加することとなった。今日では、以前よりも多くの紛争で複数の交戦団体を巻き込んでおり、状況によっては数十の武装集団が関与している場合もある。それらの武装集団の多くは、構造が不明確で、特定がより困難である。多くの国が、特に同盟や相互協力の一環として他国の国内紛争に介入している。これらの軍事作戦の多くは、聖戦主義者（ジハードの戦士）のグループに対して向けられている。

・より犯罪化する武器保有者

武装集団と犯罪組織の区別はますます曖昧になり、紛争関連の暴力行為は組織犯罪による暴力と区別がつかないことがよくある。このような暴力はまた、戦争が生み出す莫大な金と、政治目的で利用される民族および宗教の違いによって促進される。政治的権威、伝統的権威、社会的権威など、あらゆる権威が深刻に弱体化している地域では、純粹に犯罪的な意図を持つグループも見られる。それらは、確立された権力に従うことなく、完全に独立して活動しているように見える。その活動は、現状把握と権力の力学についての理解をさらに困難にし、人道支援要員の安全管理に影響を及ぼす。

² N. Melzer, International Humanitarian Law: A Comprehensive Introduction, coordinated by Etienne Kuster, ICRC, Geneva, 2018: <https://shop.icrc.org/international-humanitarian-law-a-comprehensive-introduction-pdf-en>.

・遠方からの戦争

自らは戦闘現場に出向かず、最新技術による代替方法³を多く利用したり、武装集団を介して活動したりする国もある。これは戦場からの物理的な距離を維持し、自身の軍隊を配備するための内部コストの発生を回避することができる。サイバー戦や、監視や攻撃用ドローンなど遠隔制御技術の使用の増加に加えて、自律型兵器システムの開発は、敵を非人間化し、多くの民間人の犠牲者を生んでいる。これらもまた人道支援要員に脅威をもたらす。

・いまだ無視される国際人道法（IHL）

IHL の価値は国際フォーラムや軍事外交政策では認識されているが、多くの紛争当事者がその規定を無視し続けている事実は憂慮に堪えない。国内紛争の数の増加（それらの多くは非対称性であるが）、武装グループ数の増加と戦闘方法の発達は、敵対行為に参加していない、もしくは、かつて参加していた人々への深刻な攻撃の増加につながっており、そのような攻撃は通常罰せられることがない。ここで、性暴力、病院、医療従事者、患者への攻撃、拷問と虐待、司法の手続きを経ない即決処刑、人質など、民間人に対する意図的で無差別な攻撃について述べている。これらすべてが極度の苦痛を引き起こす。繰り返すが、この状況は人道支援を行う要員の安全に脅威をもたらす。

・特に大きな打撃を受ける町や都市

世界中で都市化が進んでおり、現在世界の人口の半分以上が市街地に住んでいる。都市部での紛争は、多数の民間人の死傷者を出し、コミュニティを破壊し、大規模な人口移動につながる。紛争当事者は、人口密度の高い地域で広範囲に影響を及ぼし、民間人に悲惨な結果をもたらす爆発性の武器を使用している。電気や水道システムなどの重要なインフラの破壊は、他のサービスにドミノ倒しのように影響をもたらす。紛争下では、非常に多くの公共サービスが低下または欠如しているため、さらに深刻なニーズを生み出す。これまでの経験では、地方に住む人々と比較して市街地に住む人々は、基本的なサービスに、より依存しており、これらのサービスが機能しなくなると、さらに弱い立場に追い込まれる。

³ A. Krieg and J-M. Rickli, “Surrogate warfare: The art of war in the 21st century?”, Defence Studies, Vol. 18, No. 2, January 2018, pp. 113–130.

- **長期にわたる紛争**

紛争が発生するほとんどの場所で、行政機関は基本的なサービスを提供できず、インフラは極度に劣化し、人々のニーズを満たすことができなくなる。公序良俗、健康、教育、食料の確保、水、電気…すべての分野が影響を受け、この状態は容易に社会全体の崩壊につながる。これらは人々をより弱い立場に追い込み、一般的な不安定さの一因となり、繰り返し起こる暴力のサイクルを生み出す。平和と戦争の境界はますます曖昧になり、紛争は長引き、非常に脆い平和な時期と紛争期間が交互にやってくる。

- **気候変動の影響**

暴力の影響を受けている多くのコミュニティは、自然災害の影響も受ける。人々は、環境汚染、長期にわたる干ばつ、集中豪雨、洪水、サイクロンなど、環境被害と地球規模の温暖化の影響を大きく受け、住環境が破壊される。これらの極端な現象は新しいものではないが、その頻度と過去数十年にわたって蓄積されてきた影響は、特に健康と栄養に関して人道的観点から大きな問題になりつつある。利用可能な資源を使い果たし、人々をより弱い立場に追い込み、人口移動につながり、既存の暴力を激化させる。気候変動の影響に対して最も脆弱な 20 か国の中、13 か国が紛争下にある⁴。

- **人道援助機関の認識と道具化**

人道支援団体に対する人々の見方は大きく変わった。正しいか間違っているかはともかく、紛争に影響を与えた、あるいは自国の利益のために行ったとして非難されている団体もある。現場での人道支援要員のアクセス確保は、人道的行動の原則そのものに疑問を投げかけたり拒否したりする非国家グループによって物議をかもしている。主権を絶対的な意味で解釈し、人道援助を管理することは国家の主権であるとして、ICRC を含む多くの組織が求める、中立かつ独立した援助の提供方法に異を唱える国もある。人道支援団体を道具化し、それらを政治的および軍事的戦略に組み込もうとする政治組織もある。援助の提供に政治的または社会的前提条件を課すという不可解な慣習があることもあり、これは必然的に特定のコミュニティを軽視することにつながる。

⁴ Notre Dame Global Adaptation Initiative, ND-GAIN Country Index, University of Notre Dame:
<https://gain.nd.edu/our-work/country-index>.

以上のことから、紛争というものは常に変化していることが明らかで、その結果、活動とセキュリティの面で新たな課題が発生し、ICRC を含む人道支援団体は、活動方法とセキュリティへのアプローチを変化させていく必要がある。我々が紛争や暴力の影響を受けた人々を保護する権利を明らかに確保しているとは決して言えない。情報、データ管理、衛星を使った観測分野における新技術もまた、紛争の性質と人道支援団体に対する人々の認識と期待の両方を変えるであろう。

あなたが活動する複雑でしばしば予測不可能な環境では、100%安全を確保できることは決してない。したがって人道支援の専門家として、あなたは用心深く自分自身を試す準備をしなければならない。

1.2 人道支援に対する脅威は増加しているか？

しかし、我々の活動環境の変化は、人道支援活動がより危険になり、人道支援を行う要員を標的とする攻撃がより頻繁になったことを本当に意味するのであろうか？このような疑問はもっともあるが、既存の分析は、より細かな状況を明らかにし、明確に「イエス」とも「ノー」とも示していない。実際に、殺害、負傷、誘拐された人道支援団体の職員の数は、過去 15 年間で世界中で大幅に増加したようには見えず、また重大事案の大部分は限られた状況で発生している⁵。

多くの国際機関が危険すぎると考える地域から撤退したり、活動方法を変更して他の団体に託す、または、必ず武装警護をつけるなどしたために、評価が難しいこともある。一方で、今日では以前よりもずっと多くの支援団体が存在するため、より多くの人々が危険にさらされている⁶。人道支援団体によるセキュリティインシデントの情報収集の改善も統計に影響を与えている可能性がある。

しかしながら統計が何を示そうとも、人道支援団体が直面している安全性の欠如は看過できない。特定の活動場所ではなおさら顕著である。犯罪組織と武装集団の混合、および政府と非政府勢力双方による IHL の軽視が、人道支援団体の要員に対する意図的な攻撃をもたらしている。これは何も今に始まったことではなく、増加している国すらあると見られる。

⁵ A. Stoddard et al., Aid Worker Security Report: Figures at a Glance 2020, Humanitarian Outcomes, 2020: <https://www.humanitarianoutcomes.org/publications/AWSDFigures2020>.

⁶ The State of the Humanitarian System (ALNAP, 2018)によると、2013 年に約 45 万人の人道支援団体の要員がいたのに対し、2017 年にはおよそ 56 万 9700 人の要員が現場にいた。

1.2.1 赤十字国際委員会(ICRC)とは？

現場に存在し、紛争当事者と困窮している人々双方と近い距離を保つことは、ICRCの活動上のアイデンティティの中核を形成するものである。これは、他団体が撤退した場所、あるいはそもそも他団体が存在しなかった場所で活動することが多いことを意味している。したがって ICRC の職員は、他の団体の職員よりも危険にさらされることになる。我々は現場のニーズを満たすために現場の人員を継続的に増やしており、これによりセキュリティインシデントの統計的確率も高くなる。

過去 25 年間で、組織を標的とした攻撃や誘拐された後に殺害された ICRC の要員は一定数いる。これらが起こるたびに、どうすれば防ぐことができたのかというつらい問題に行きつく。また、このようなインシデントを防止することを目的に、新しい脅威にどのような安全管理対策を打ち出すのかという問題も提起される。

全体の傾向というのは、現実をごく一般化した印象にすぎないため、すべてのインシデントを個々に分析して、それを防ぐことができたかどうか、また再発しないようにするために何ができるかを理解しなければならない。セキュリティインシデントは非常に多く、ICRCにとってスタッフの安全の向上は最優先事項である。要員が安全に働くことができるよう最大限のことをするのは、我々の義務である。

1.3 赤十字国際委員会 (ICRC) とその活動

1.3.1 国際赤十字・赤新月運動(赤十字運動)



ICRC

ICRC は、世界に 191(※2025 年 3 月現在) ある赤十字社および赤新月社と、国際赤十字・赤新月社連盟（以下、連盟）とともに、国際赤十字・赤新月運動（以下、赤十字運動）を構成する団体のひとつ。ICRC、連盟、各国の赤十字社、赤新月社はそれぞれ独立した組織として独自の規則を持ち、他団体へのいかなる権限も持たない。



各国の赤十字社と赤新月社は、自国の政府の人道的活動を支援している。彼らは、緊急時の対応から健康や社会福祉まで、幅広いサービスを提供しており、戦時には民間人を助け、必要に応じて軍の医療事業も支援する。彼らの大きな強みのひとつは、広範なボランティアネットワークを有することである。ボランティアは地元コミュニティ出身で、必然的に地域社会の一部である。赤十字運動の原則の下では、どの国にも赤十字社または赤新月社はひとつしか存在しないが、すべての人に開かれ、国内の至る所で機能しなければならない。

ICRC は、各国赤十字社、赤新月社を活動時の主要なパートナーとして緊密に連携し、その職業技術、地元の背景や文化に対する深い理解、現地の言語知識から恩恵を受けている。現場では当該国の赤十字社、赤新月社と協力し、あるいはそれらの社を通して、家族の追跡調査など多くの事業を展開している。特に物資配付などの援助面では、各社が有するボランティアが ICRC の活動に参加している。



国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）は、世界中の赤十字社、赤新月社の統括組織である。その役割は、各社の人道的な対応を促進し、強化することである。特に、災害や医療上の緊急事態に備え、対応する。ICRC にとっては、特に紛争地域で自然災害が発生した場合に、主要なパートナーのひとつとなる。



1.3.2 人道の諸原則

ICRC の 4 つの活動指針

赤十字運動には、7つの基本原則（人道、公平、中立、独立、奉仕、单一性、世界性）がある。最初の4つはICRCの活動指針となり、との3つは、各国赤十字社、赤新月社などICRC以外の赤十字団体により適用される。

人道と公平は、基本的な倫理原則であり、人道的行動を取るうえで哲学上の核となる。人道は、苦痛を和らげ、命を救い、尊厳を保つことにつながる。公平は、差別をしない、バランスを重んじる、といった概念を包含する。差別化は、ニーズの緊急性と重大さを客観的に分析することで許される。中立と独立は、最初の2つの原則を達成するための戦略あるいは手段で、必要としている人々へのアクセス(Access)と、人道支援が政治的に受け入れられること(Acceptance)の両方を推進するための、活動上の方法である。

理論的には、これら4つの人道原則は非常にわかりやすい。文化的普遍主義の観点からさえ、議論の的になることはめったにない。しかしながら実際には、これらの原則は多くの問題とジレンマを引き起こす。

人道はわかりやすいようにみえて、定義するのは難しい。人間の普遍の苦痛に取り組むことを基本とする。また、暴力の行使を制限し、不必要的苦痛を与えないという、国際人道法の核心を支えている。人道は、単に人々の身体的な健康を守るだけでなく、尊厳を守り、希望や夢に耳を傾けることでもある。逆説的ではあるが、人道支援は、支援対象者を個の人間として見る感覚を失わせるおそれがある。私たちの共

通の概念である人道を認識するということは、人々を群衆として扱い、文化とアイデンティティを無視し、ニーズだけを見ることではない。それをしてしまったら、支援対象者の人間性そのものを否定することにつながる。

公平については、実践するのが最も難しい場面がよくある。異なるグループが衝突する場面では、公平性は主観的な正義の概念にぶつかる。「敵が私たちに多大な危害を加えているのに、なぜ敵を助けるのか？」すべての犠牲者が平等であるという

公平の原則を尊重し、時間をかけて具体的な例を挙げて説明することで、致命的な誤解を避けることができる。

より手厚く支援することなどは、正当化するのに常に困難が伴う。重要なことは、公平とは、双方にまったく同じ人道的対応をおこなうことではないということである。公平な行動は、現場での摩擦と理解の欠如を生み出す主な原因となる。机上で規則を書いている人々は、戦争の唯一の正当な目的は軍事目標を破壊し、領土を獲得することであると信じているが、実際には、特に内戦では、それはしばしば刑罰の対象となり得る。

中立の原則は、事実上非政治的なアプローチを採用することを意味するが、これは他の団体による人道活動の解釈と衝突し、コミュニケーションをとることが困難となる。ICRC の取る立場、我々の行動の性質、そして我々が使用する言葉はすべて、あらゆる側と等しく一定の距離を維持したいという願望に根ざしている。

人道とは、人道的行動の核となる価値観のひとつ。この原則を守ることで、距離的な近さや対話、思いやりを育むことができ、職業人であることを超越して、私たちは活動の中心に個としての人間性を見出すことができる。

考えは、道徳的には受け入れるのが簡単だが、概念と紛争の現実との間には、人々の感情、過去の犯罪の記憶、さまざまな集団同士の敵意が絡み合って大きなギャップが生じる。ニーズの徹底的な分析に基づいている場合であっても、「非対称」の支援、たとえば、あるグループを他のグループと比較してよ

どちらか一方の側につく、あるいはそういう印象を与えると、拒否され、重大な安全管理上の問題にさらされる可能性がある。

紛争当事者が人道支援活動を政治化し、歪曲するリスクは常にあり、それらがおこなわれた場合、特に安全に関して、現場に大きな悪影響を与える可能性がある。人道支援活動は決して政治的な空白の中で行われることはなく、常に多くの種類の圧力と、それを妨害したり模倣したりする企てにさらされている。

独立は、人道支援活動に一定の信頼性を与える。ICRCは、その活動が、国家、ドナー、圧力団体の政治的または経済的利益によって決定されることを決して許容しない。現場において、圧力や干渉なしにニーズを評価することも、独立性に含まれる。

全体への支援ではなく、特定のグループや国家の利益を守っているという印象を与えると、重大な安全管理上の問題にさらされる可能性がある。

日常的な問題

これらの原則を適用するためには、効率性とは真逆の、時間のかかる交渉と努力という代償を払わねばならない。政府がコントロールしている地域、あるいは被害を受けている人々に簡単にアクセスできる地域でのみ活動を行えば、文字通りより簡単で「効率的」である。しかしそれは ICRC の原則、任務、アプローチに反するものであり、被害を受けているすべてのコミュニティと協力して支援できるようにしなければならない。この近接性、つまりアクセスの問題は、ロジスティクスだけではなく、多くの場合安全管理の観点からも課題となる。

さらに、人道支援従事者は、ますます高まる圧力にさらされている。人道支援団体の行動の自由を制限し、その活動を管理しようとする国もある。こうした国々は、さまざまな制限を設けた行政措置を課すことによって、あるいはテロ対策法によって、管理しようとする。このような措置は、たとえば、支援が必要な特定の集団がテロリストの活動を支援していると見なされているために、支援を受けることを許可されないと、あるいは特定の種類の活動が他よりも優先されるなど、独立かつ公平な人道支援活動の概念に疑問を抱かせることになる。ICRCは、国籍、人種、宗教、社会的地位、または政治的信条に基づいて支援する人々を差別しないという原則に忠実であり続けることにより、必然的に組織のあらゆるレベルで私たちが毎日向き合わねばならないすべての種類の不平不満にさらされる。しかしながら、この姿勢を維持しなければ、安全管理の面で影響を受ける可能性がある。

人道主義の原則が侵害されたとき

今日、国連組織の一部を形成する機関を含めて、ほとんどの人道支援団体は、人道の諸原則にしたがっていると主張するであろう。しかしながら組織が実際に原則を適用する方法はさまざまで、また原則の解釈も組織によってばらばらである。ある組織にとっては、このような原則はガイダンスというよりも政治的な隠れ蓑であったりする。このようにさまざまに異なった方法で原則を適用したり語ったりすることは、人道支援分野全体の信用を傷つけることになる。実際、これらの原則に真に行動を合わせようと努力している組織と、レトリックに過ぎない組織を区別することは困難である。

したがって、特に人道支援の考え方そのものに反対している武装集団もあることを考えると、人道支援活動の原則に則って行動することで現地に受け入れられ、安全を確保することができると信じてはならない。

1.3.3 標章

赤十字と赤新月の標章は、世界で最も広く認識され、尊重されているシンボルのひとつである。これらは第一に軍の衛生部隊に付与された保護を表しているが、赤十字運動の構成要素である、中立、公平、人道のシンボルでもある。

ジュネーブ第一条約第 44 条は、ICRC と連盟に、あらゆる状況下で標章を使用する権利を与えており、これにより、ICRC は重要な柔軟性を得ている。各国赤十字・赤新月社は表示の標章*として使用することができ、武力紛争中に医療の側面から軍を支援する場合に限って保護標章として使用することができる。

*訳注：表示の標章とは、保護標章ではなく、組織を表すロゴ、つまり自社のマークとして使用するという意味の標章のこと

保護標章として、または標示の標章として使用する

保護標章として使用する際は、表示の標章よりも高度な可視性が必要である。保護標章としての使用は、原則として武力紛争下の特定の活動、特に医療に限定されている。保護標章を付けている個人、物、または建物への意図的な攻撃は、国際法で戦争犯罪に当たるとされている。多くの人が集まる場合など、さまざまな状況で視認性が必要になるため、視認性を高めるためにサイズの大きい標章を使用することが許される。

ただし、保護標章以外で使用する場合は、小さなサイズにとどめ、純粹に表示の目的、つまり赤十字運動に属する人やモノを識別する目的で使用される。このような状況ではむしろ、各国赤十字・赤新月社や ICRC、または連盟の名称を併記したロ

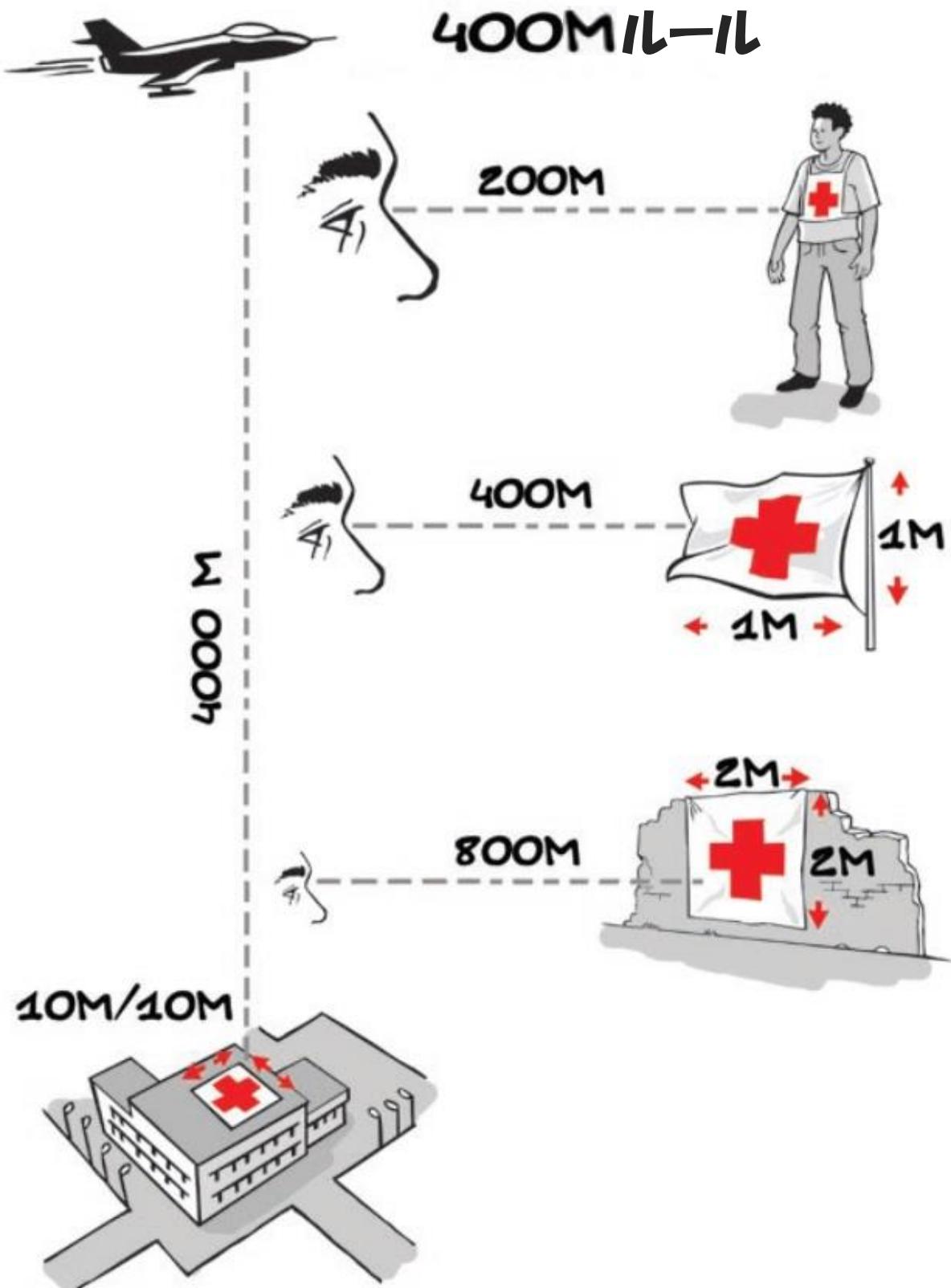
ゴを使用しなければならない。

重要：保護の目的で標章を使用したとしても、保護を保証するものではない。関係者全員のふるまいと行動は、良くも悪くも ICRC が住民と紛争当事者によってどう見られるか、および標章自体の信頼性と正当性に影響を及ぼす。

400m ルール

距離と視認性：

- ・ 400m で $1\text{m} \times 1\text{m}$ の標章が認識され、800m であれば $2\text{m} \times 2\text{m}$ の標章が認識される。
- ・ 身に付けるゼッケンの標章（一辺 50cm）は、最大約 200m の距離から認識される。
- ・ 車両の標章は最長約 400m の距離から認識される。
- ・ 高度 4000m の航空機が屋上の標章を認識するためには、良好な条件下で、少なくとも $10\text{m} \times 10\text{m}$ の大きさがなくてはならない。2000 年 8 月に ICRC の要請でスイス軍が実施したテストで、これらの数値が確認された。



1.3.4 なぜ守秘義務が重要なのか？



守秘義務は ICRC の活動の根幹であり、基本原則である ICRC ドクトリンの 58 に明記されている。守秘義務は我々の仕事を遂行するために不可欠なものであり、自分自身の安全、同僚の安全、そして自分が接触するすべての人の安全を守る。守秘義務は中立と独立の原則に由来し、自分が所有する情報を保護することを意味する。

守秘義務は、閉ざされたドアを開ける鍵である。武装勢力が、もしも自分たちが言ったことが自分たちを攻撃する目的で使われたり、敵の手に渡ったり、公になつたり、法的手続きの中で使用されたりする可能性があると考えた場合、国際人道法の違反や他の人道問題などについて話したくはないであろう。あなたが守秘義務を守ることで対話が可能になる。人々は、自分の言ったことが秘密に保たれるかどうか確信が持てない場合、あなたの安全に不可欠な情報を提供することを拒否する可能性がある。

守秘義務がなければ、単純に行けない場所がでてくる。人々の信頼を得ている場合にのみ、紛争や暴力の影響下にある人々に安全に接触したり、被拘束者を訪問したりすることができる。守秘義務は、当該国の国民である同僚が人道的活動のために報復を受けないようにするのにも役立ち、また ICRC が支援をしようとしている

人々をも保護する。

ICRCは、自らが保有する機密情報を保護する一定の特権と免除を受けているが、この分野での法的な保護の種類は国によって異なる。

分別（ふんべつ）の義務

機密性を維持できないと、人々が危険にさらされ、あなたと現場で協力関係にある組織、団体との間に大きな障害が形成される。判断の責務はあなたの義務のひとつである！

「分別の義務（Duty of discretion）」とは？

分別の義務とは、業務上の秘密保持と同様の義務である。これは行動規範の第IV章で詳述されているが、つまりICRCとの契約期間中だけでなく、その後も、業務の過程で知り得たすべての情報の機密を保持しなければならない。事前にICRCによる明確な許可を得ずに、活動の中で知り得たことに関して、法的な場で証拠として提出することはできない。

どれが機密情報でどれが機密情報でないかを区別するのは、必ずしも簡単ではない。たとえば、当局との対話の質に関する自分の印象、収容施設での勾留状態に関する個人的な感想、戦闘員の位置や軍司令官との電話での会話、あるいはさまざまな組織や団体との話し合いの内容はすべて、それを漏らした場合、大きな問題を引き起こす可能性のある情報である。一方で、現地の人々が直面している困難や、支援した人々の数について話すことは問題ではない。確かにあなた自身をよりよく理解してもらうために、あなたが何をしているのかを説明することが非常に有効であることもある。

口頭での情報、文書、メッセージ、チャット、写真、ビデオ、録音、個人データなど、自分が持つ情報の機密性の程度、その取り扱い方法と可能なセキュリティ対策は、上司からの詳細な指示に含まれている。ICRCには、4つのレベルの機密分類がある。高度な機密情報、機密情報、内部のみ公開可の情報、および外部への公開可能情報である。

どちらか判断がつかない場合は、
機密情報として扱うこと。

1.4 赤十字国際委員会(ICRC)の安全管理

現場での安全管理に対する ICRC のアプローチは、次の 3 つの原則に基づいている。

1. 安全管理は、活動の遂行と密接に関連している。したがって、中央集権化するのではなく、可能な限り活動レベルに落とす。
2. ICRC はその存在と活動を、紛争や暴力の過程に影響を与える可能性のある人々に受け入れてもらうよう努めるが、それらを押し付けようと試みることはしない。
3. ICRC は常に、その活動上の目的と職員に対する責任とのバランスをとるべく努めるが、人道支援活動には必然的に潜在リスクがあることを受け入れる。

ICRC ドクトリン 16（2014 年 9 月）を参照のこと。

最低限の安全確保

現場のすべての ICRC オフィスは、現地情勢の根本的な背景に関係なく、最低限の安全管理規則を作成しなければならない。安全規制の更新の手順、フィールドトリップの手順、すべてのセキュリティインシデントを報告するための規定などを含めた一連のルールである。これらの最低要件に加えて、現場の脅威に応じて別のルールが存在する場合もある。たとえば、地震多発地域の ICRC の建物は、耐震規制に準拠しなければならないなど。

1.4.1 活動と安全管理 – コインの表と裏

ICRC は、活動の実施と安全管理を別々のものではなく、一体のものと考えている。なぜなら適切な安全管理がなければ、支援が必要な人々に到達することはできないからである。したがって、現場での安全管理を決めるのは、その活動に最も密接に関与している人々である。安全管理は、管理者やセキュリティの専門家だけの問題ではない。組織内での立場に関係なく、全員の責任である。

あなたは上司にサポートを依頼することもできるが、特定の安全管理に責任を持つ同僚に相談することもできる。必要に応じて、セキュリティの専門家を入れて、特定の問題の解決に共に取り組むこともできる。たとえば、激しい爆撃や砲

可能な限り安全な活動環境を作ることは、組織内の立場に関係なく、すべての職員の責任である。

撃を受けた町に入る前に、地雷や不発弾などの脅威に対処する方法について、武器の専門家に相談する必要があろう。主なサポートメカニズムの詳細については、第12章の3を参照のこと。

1.4.2 予防は治療に勝る

ICRCの安全管理のアプローチは、予防することに主眼を置いている。その目的は次のとおり。

- ・リスクを軽減する

- (a) ICRCが現地でよりリスペクトされるよう事前準備を行う（行動規範に従う、紛争当事者からの安全保証を取得するなど）
- (b) 実際的な対策を講じる（シートベルトを着用する、建物や車両に救急箱を常備する、複数の通信手段を利用できるようにするなど）

- ・特定のリスクを避ける

特定のエリアを通行禁止区域に設定することで特定のルートを回避する、電子送金システムを使用して現場に大量の現金を持ち込まないようにする、状況が大幅に悪化する危険がある場合は特定のスタッフを移動または避難させる、など

- ・セキュリティインシデントの影響を軽減する

医療退避の手順の設定、スタッフの医療/心理的サポートシステムの作成など

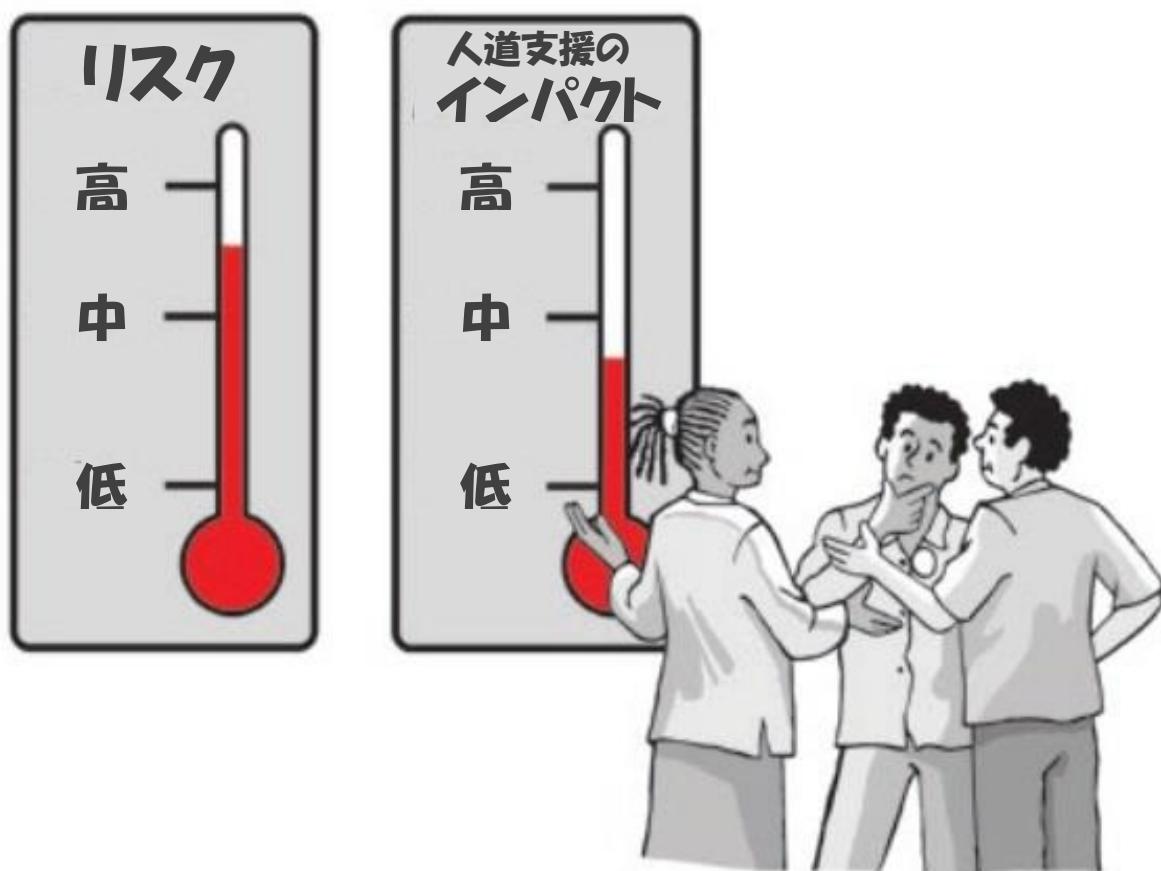
緊急時対応計画（Contingency plan）

ほとんどの人道支援組織がそうであるように、ICRCも緊急時対応計画を作成することで予期せぬ事態に備えている。このツールは状況によって異なるが、安全状況の深刻な悪化や大規模な自然災害など、ICRCやその他の団体の通常の活動に影響を与えるさまざまな例外的状況に備えることができる。緊急時対応計画では、状況の緊急性に応じて、従うべき手順とそれに対応するための行動を定める。

1.4.3 リスクと人道支援のバランス

ICRCは紛争下、あるいは不安定な地域で活動しているため、危険は我々の活動方針の中で常に存在する要因である。我々が特定する脅威は、その地域で我々が何をするか、そしてどのように行うかに影響を与える。我々のアプローチは、ゼロリスクなどあり得ないことを認識しつつ、リスクを最小限に抑えるためにできる限りのことを行うことである。すべてのスタッフが受け入れなければならない、最小限のリスクは常に存在する。

行動を起こす前に、それに伴うリスクを、人道的観点から期待される利益と常に照らし合わせること。



常に、質と量の双方の観点から、リスクと、期待される人道的利益のバランスを考えねばならない。言い換えれば、特定のリスクは、当該活動によって得られる利益をもって正当化される場合にのみ受け入れられる。したがって、常に自分自身に「自分がこれからとろうとしているリスクは、目指す結果をもって正当化されるか」と問わなければならない。答えが「No」の場合は、活動を取りやめるか延期する、または一時停止し、必要に応じて状況を再評価する必要があろう。最初にリスクを評価することをせずにリスクを冒したり、紛争当事者の中に入つたりはしないこと。効果的に活動するためには、停戦は必須である⁷。

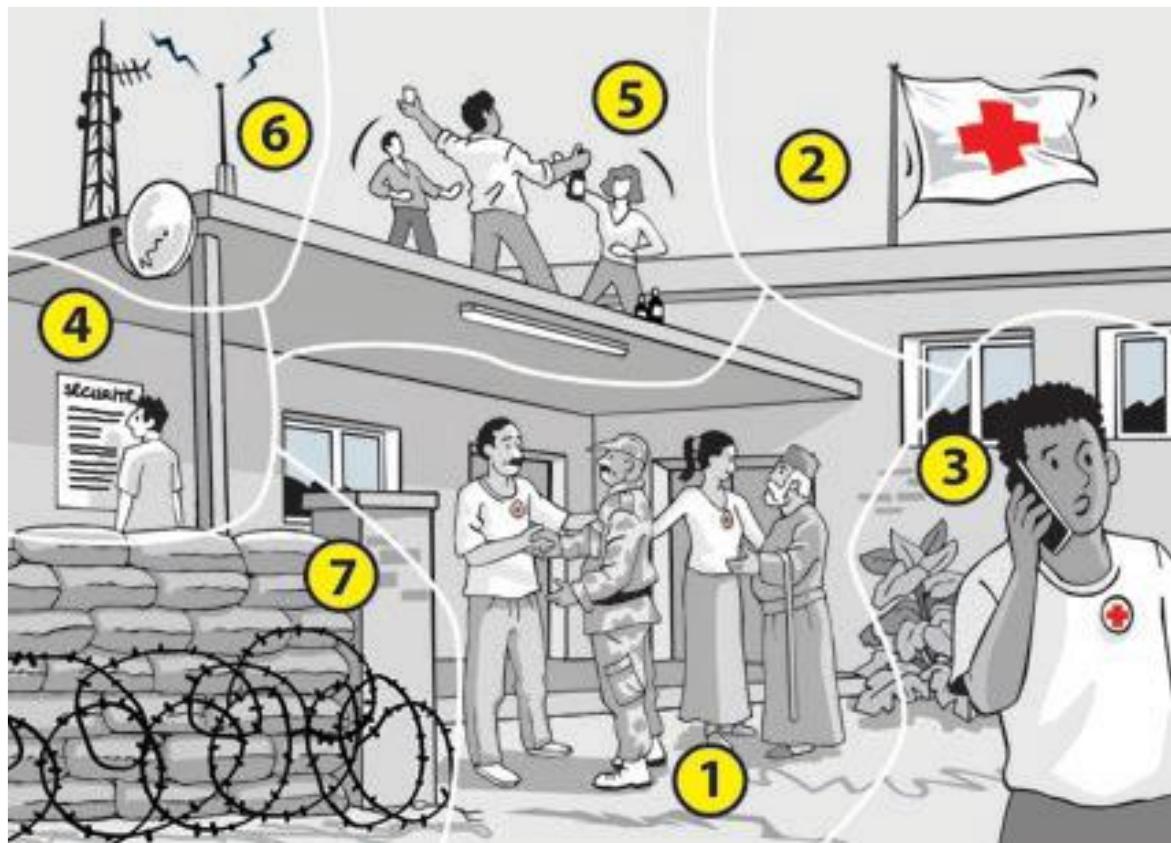
1.4.4 特別な手段

特に危険な状況の場合、ICRCはスタッフを保護するために特別な措置を講じることがある。たとえばリスク評価に基づいて、特定のスタッフをそのプロフィール（国籍、民族、性的指向など）によって他の同僚よりも大きなリスクを負う可能性のある地域に派遣しない、などである。ICRCはまた、派遣職員の家族を帰国させたり、特定のスタッフを移動または避難させたり、特定の活動の実施を現地スタッフ、またはパートナー団体に委任したりする場合もある。この「リモート管理」のアプローチにより ICRC は、一部またはすべての職員が現場にいることができなくても活動を継続することができる。あらゆる措置を講じても、予想される人道的利益と比較して相変わらずリスクが高すぎる場合、ICRCはその地域での活動の一時停止を決定する場合がある。

⁷ P. Brugger, "ICRC operational security: staff safety in armed conflict and internal violence", International Review of the Red Cross, No. 874, June 2009, pp. 431-445: <https://international-review.icrc.org/articles/icrc-operational-security-staff-safety-armed-conflict-and-internal-violence>.

1.4.5 安全の7つの柱

現場での安全管理は、互いに緊密な関係性を持つ7つの柱が基礎となっている。



1. 受容(受け入れ) 2. 識別 3. 情報 4. 安全管理規則

5. 個人の行動 6. 通信 7. 防護手段

「安全の7つの柱*」は、活動の他の分野にも適用されている。

*訳注：「安全の7つの柱 (seven pillars)」は赤十字の安全管理の基本で、日赤の国際要員登録研修のひとつである、3日間の安全管理研修も、これに沿って行われる。

1. 受容 (Acceptance)

ICRCの存在と我々の活動の実践能力は、主に「受容」、つまり現地に受け入れられることに基づいている。これはつまり、我々自身を押し付けるのではなく、当局、被害を受けている人々、武装グループ、およびすべてのグループの同意を得て活動することを意味する。誤解や拒絶に伴うリスクを回避するために、我々は紛争当事者に受け入れられることを目指している。それは、地域へのアクセスを許可するすべての機関、団体、およびそれらに影響を与える人々との対話を試みることを意味する。その目的は、彼らのサポートを得てできるだけ多くの人々に私たちがしてい

ること（またはしようとしていること）を受け入れてもらうようにすることである。武装警護など、物理的な保護または説得によってこれを補う場合があるが、イメージの観点から問題が生じるため、あくまでも例外的な措置である。



受容は態度に依存する

「受容」とは、単に我々が安全に活動するために人々と話すということではない。受け入れられるということは、我々のすべての行動を通じて信頼を得ることを意味する。ICRC 自身とその活動についてポジティブな印象を与えなければならない。このために我々は以下を実践している。

- ・現地の習慣や伝統を尊重する
- ・宗教的および社会的タブーを尊重する
- ・当局、地域社会、およびその代表者だけでなく近隣住民にも、我々の活動の理由を説明し、敬意と礼儀を重んじた関係を築く

被害を受けている人々と当局が ICRC をどのように見ているかを理解する努力も同様に重要である。

政治的、軍事的、社会的環境には脅威が潜んでいる可能性があるが、安全保障を

支える源にもなり得るので、これを利用することができる。たとえば、近所の住民があなたの安全が脅かされていることを警告したり、毎朝あなたが挨拶するチェックポイントにいる兵士が、差し迫った問題についてあなたに話すかもしれない。連絡ができる広範なネットワークとサポート手段を持つことは、活動を実践するうえで、また状況が悪化し始めた場合にも、大きな違いを生む。基本的に、ICRC が自身を保護しているというよりは、ICRC をサポートしてくれたり、ICRC が行うことの価値を理解してくれていたりする人々によって保護されている。長年にわたって築き上げられた関係は、強固なセキュリティネットワークになる。

自分の仕事を遂行するために人を強制する手段など存在しない。影響力のある人物やコミュニティの信頼を得るための最も効果的な方法は、自身の信頼性、自分が誰で何をしているのかを説明する能力、そして日々の交渉や一般的なふるまいである。

これは間違いない戦略か？

紛争に影響を与え得るすべての人に ICRC が受け入れられるようにしなければならない。ただし、最善を尽くしても、一部の個人または集団への直接的なアクセスが困難または不可能な場合がある。さらに集団の数が増加し、その多くが単なる犯罪集団であり、多くが国際的な影響力を持っていると、我々が受け入れられるか、大目に見てもらえるか、拒否されるか、を判断することが難しくなる。人道支援活動は常に緊張を生む原因となり得る – 我々が提供する支援は人々が望んでいたものではなく、我々が反対側を支持していると考えたり、我々の意図を疑っていたりする。これらはすべて自然な反応であり、特に紛争当事国において、我々は常にこの問題を抱える。

ICRC とその活動が受け入れられるためには、我々全員の絶え間ない努力が必要であり、その努力は終わりのないものである。

我々が攻撃されるのは、過ちや活動方法に関する誤解のためではなく、誰かが我々の人道支援活動を断固として拒否したために攻撃される可能性があるということである。

したがって、「受容」がある種の魔法の力だとは決して想像しないこと。これには

我々の目的は現地に受け入れてもらうことであるが、実際の現場では、紛争当事者による受け入れ、寛容、拒絶の境界線が曖昧であることがよくある。また、近年の深刻な安全上のインシデントから学べるように、当事者と ICRC の利益を一致させることができまったく不可能な状況もある。言い換えれば、

制限があることを認識しておかないと、重大なセキュリティ上の問題が発生する可能性がある。

政治家や武装勢力の「受容」とは？

一部の組織、特に武装集団は、軍事占領中、または暴動鎮圧のための軍事作戦中に住民の「心と魂」を獲得することを目的とした戦略をとる。一見すると、こうした行動は人道支援団体の「受容」戦略に似ているように見えるかもしれないが、実際は大きく異なる。「心と魂を勝ち取る」ことは、軍事力を維持したり、安定化措置を正当化することを目的とした単なる戦術である。それは、紛争や暴力の影響を受けたコミュニティを支援するためにアクセスするという純粋に人道的な目的を持つ戦略とは何の共通点もない。

2. 識別 (Identification)

ICRCは、独自のロゴを使用することで自身を明確に識別し、赤十字運動パートナーを含む他の組織と区別するよう努めている。我々は、ほとんどの活動地で、ICRC

部外者にとってそれぞれの
人道支援団体を区別するこ
とは難しい。あなたが何を
しているのかを具体的に説
明することで、その混同を
防ぎ、他の団体とどう違う
のかを示すことができる。

職員や車両、使っている建物を識別するためにロゴを使用する。紛争当事者による意図しない攻撃を防ぐために、たとえば使用している建物の屋根にロゴや標章を掲示したりする。また、当事者にGPS座標を送信して、必要な予防措置を講じる余地を与える。視認性を高める必要がある場合は、車両にICRCの旗を掲げ、職員はロゴ入りのゼッケンを付ける。必要に応じて、我々の動きを関係団体に通知し、ICRC

と我々の活動を周知するなど、他の措置を講じることもできる。

ただし、慎重な行動が最善の策である場合もある。現地の情勢や治安状況によって、必要な場合は目立たないようにする方針をとる場合がある（たとえば、赤十字を掲示しない、またはマークのない車両を使用する）。これは、犯罪がその地域で大きな問題である場合や、赤十字や赤新月が文化的/宗教的に不快感を与え、暴力的な反応を引き起こす可能性がある場合に当てはまる。

3. 情報 (Information)

現地の事情をより深く理解するために、活動地の変化に関する信頼できる情報を探し出し、それを同僚と共有する（地方、国、または国際レベルでの政治状況の変化、外交交渉への潜在的な反応、軍事情勢の変化、コミュニティ間の緊張など）。これにより、セキュリティ状況の悪化を示唆する要因とともに、脅威を特定すること

ができる。それを達成するには、現場とジュネーブ本部の間を含め、すべての関係者間で、あらゆるレベルで情報の自由な流れが必須である。

すべての人を安全に保つために、状況に応じて分別と機密保持の概念を尊重しながら、セキュリティ情報を継続的に収集して同僚と共有する必要がある。

4. 安全管理規則 (Security regulation)

一般的なセキュリティの指示に加えて、各 ICRC オフィスには、インシデント発生時の対処法など、安全管理の手順と行動に関する独自の規則がある。これらの規則は、当該地における特定の状況と脅威を反映しており、情勢の集合的な分析に基づいて作成されている。これらは機密情報であり、必要に応じて更新される。

安全管理規則は、すべての人の利益のために作成されたもので、あなたの生活を困難にするためではない！

必要に応じて規則を更新し、全員が規則に従っていることを確認するのは、当該オフィスの担当者の責任である。すべてのスタッフは、規則を把握し、従わねばならず、そうでない場合は、懲戒処分を受ける可能性がある。また、当該地に勤務しておらず来訪しただけであっても、職員はこの規則に従わねばならず、勤務時間外であっても適用される。

5. 個人の行動 (Personal conduct)

グループのセキュリティは、すべてのメンバーの態度と反応に依存する。セキュリティは、個々のスタッフの人格と障害に対する許容力に密接に関連している。ソフトスキル（人との関わり方やその人の持つ個人的な資質を知ること）は、技術的ノウハウと同じくらい重要である。自分自身や他の人に対してしっかりとした責任感を持ち、耳を傾け、連帯を示し、助け合わねばならない。これらはすべて、人道支援を行う者にとって不可欠な資質である。健康的なライフスタイルを維持し、ストレスを管理し、自分の限界を知ることは、すべての人に役立つ。

自分自身と他の同僚に気を配ることは、良い職場環境とチームスピリットを生み出すのに役立つ。人道支援活動の課題に立ち向かうには、どちらも不可欠である。

6. 通信（Communication）

安全を確保するためには、複数の信頼できる効率的な通信手段を準備し、それらの使用方法を知っておかねばならない。当局への通知、道路状況に関する情報交換、自分の居場所の通知、状況の悪化の報告、問題が発生したときの報告、あるいはセキュリティインシデントが発生した場合に医療専門家からアドバイスを得るために、信頼できる通信が必須である。

あらゆる状況下で通信できるようにするためにと、機密情報を保護するために、利用可能なすべての通信手段の利点と限界を知っておかねばならない。

7. 防護手段（Protection）

ここでいう「防護手段」とは、あなた自身の安全と、ICRC の建物やインフラ、活動のセキュリティを強化する物理的な手段を意味する。ICRC の地位によって、必ずしも我々が犯罪や無差別攻撃から守られるわけではない。

火災報知機や、爆発によってガラスの破片が飛び散るのを防ぐために窓の内側に貼る粘着性プラスチックフィルムなど、いくつかの防護対策は状況に関係なく準備しておかねばならない。その他の対策は、当該地の脅威を考慮して整える。我々がいる場所への侵入を防ぐための対策には、壁や有刺鉄線、窓やドアにつける心張棒、強化ドアなどがある。必要に応じて、警備員を雇用したり、動体検知器や警報機を設置したりする場合もある。その地域の治安状況によっては、砲撃や空爆に備えるため、屋内に安全エリアを設けたり、土のうを使って防爆壁を構築したりすることもある。

ただし、あなたの安全を完全に保証できる物理的な保護手段はないということを覚えておかねばならない。また、過剰なセキュリティ対策は、オープンで透明な組織のイメージを促進するための ICRC の取り組みを損なう可能性がある。たとえば、ICRC は何を隠そうとしているのか？貴重品をたくさん持っているのだろうか？などの誤解を生じ得る。自らの周りに防護措置を施せば施すほど、我々が寄り添う人々やコミュニティから自分自身を遠ざげることになる。

安全を 100% 保証する
物理的な保護
手段はない。

1.4.6 武装警護、防弾車両と個人の防護用具

武装警護

人道支援組織は、車列を護衛したり、独自のインフラ（オフィス、倉庫、住居など）を防護するために武装した人員を使うことがある。民間警備会社や軍隊または武装グループのメンバーのサービスを利用したりもする。国連の平和維持軍が、現地を移動する人道支援従事者を護衛することもある。しかしながら、武装警護を受けることで、それが作り出すイメージとそれに伴うリスクに関して多くの疑問が生じる。

- ・交戦国や一般市民にとって戦闘員と非戦闘員を区別することは難しく、武装警護を受けると、自分の組織がどちら側に見えるのかという混乱の原因となる可能性がある。さらに、民間企業も元軍人をはじめ、治安部隊や警察の元メンバーを雇用している。
- ・武装要員が警護する人道支援車列は、紛争当事者と混同され、故意に攻撃される可能性がある。
- ・武装要員が第一に忠誠を誓うのは雇用主であって、保護すべき人道支援組織ではない。彼らは、人道支援組織が出した指示に關係なく、武力を行使するかどうかを決定する。

ICRC のオフィスや宿舎の警備員は、原則として武装しない。また、武装要員に守られて活動することも避けている。我々の見解では、武装警護は短期的には車両の通過を容易にすることができますが、中期的には我々のイメージを傷つけ、現地からの受け入れを難しくし、我々の活動の基礎となる諸原則、特に中立と独立を毀損する。これらの理由により、武装警護の使用は誤った安心感を与え、それ自体がリスクをもたらす可能性もある。また、部外者の目から見ると人道支援団体はひとくくりにされることがよくあり、その結果人道支援団体全体のイメージを損なうことにもなり得る。

しかしながら脅威が非常に深刻で、多数の人々の緊急のニーズを満たす方法が他にない場合、ICRC は武装警護を取り入れることがある。ただし、それには、組織の最高レベルの事前承認が必要である。



防弾車両

防弾車両は、特定の武器に対する保護を提供するものの、すべての兵器から守られるわけではない。小火器の発砲、爆風、散弾、対人地雷、手製爆弾に対しては防護可能だが、大口径の弾丸、ミサイル、大砲、迫撃砲、爆風、対戦車地雷や爆弾の破片に対しては、そのような兵器向けに特別に設計されていない限り、充分に保護できない。車両が重いほど防護能力は強くなるが、車両の操作性は悪くなる。かなりの重量があるため、防弾車両の運転は難しく、適切な訓練を要する。訓練を受けていない人が防弾車両を運転すると事故を起こす危険が高まり、また窓を完全に開けることができないので、チェックポイントなどで乗員が車両から降りることを余儀なくされ、さらなる危険にさらされる可能性もある。防弾車両は、乗員を車外の環境から隔離するため、乗員の感受性が低下し、住民から遠ざける。最後に、防弾車両は高価であることから、犯罪者にとって非常に魅力的である。

これらの理由から、防弾車両が与える安心感はしばしば誤ったもので、ICRCは例外的な状況下を除いて防弾車両を使用しない。武装警護同様に、防弾車両の使用には組織の最高レベルからの事前承認を要する。

個人用防護具

同じ理由で、ICRCは通常ヘルメットや防弾チョッキなどの個人用防護具を使用しない。戦闘が激しい場合は、事態が落ち着くまで活動を延期した方がよい。極端な場合には、一時的にそのエリアでの活動を完全に回避することが必要になる場合もある。ここでも、必要としている人々を支援しようとする際に想定されるメリットと、さらされるリスクとのバランスが重要となる。

1.4.7 異なる規則と責任

セキュリティリスクの管理と軽減は、幹部から現場スタッフまであらゆるレベルの全員の責任である。ただし、セキュリティに関する正確な役割と責任は、行っている活動の種類とレベルによって異なる。

たとえば、管理職や現場のチームリーダーの責任は、監督下のメンバーの責任と同じではない。特定のセキュリティ関連の任務を他者に委任することができるが、任せられたスタッフがその任務を正しく実行することを確認する責任がある。言い換えると、管理職とチームリーダーは、たとえば必要に応じて頻繁にセキュリティ情報を更新することで、委任した任務の実行を監督、監視、検証する責任があり、部下が直面するリスクに関して十分な情報に基づいた決定を下せなければならない。また、セキュリティの課題をフォローアップし、セキュリティ関連の問題を管理部門に伝える必要がある。

セキュリティに関して誰に相談すればよいか？

ICRCでは、自分の上司がセキュリティに関する最初の連絡先である。さらにセキュリティ関連の問題を報告するさまざまなメカニズムがあり、そこから安全に活動を行うために必要なサポートを得ることができる。

1.4.8 セキュリティ:すべての人が関わるもの

もしもグループのメンバーの1人がセキュリティの重要性を認識していない場合、グループ全体が危険にさらされることになる。セキュリティの管理は、あなたと同僚だけでなく、ICRCの活動にも寄与する。これは単なる義務ではなく、心の在り方で、セキュリティを最優先として、計画の一部に含めなければならない。

あなたの仕事が何であれ、情勢分析、リスク評価、およびリスク軽減策の実施に貢献することは、あなたの義務である。情報を入手し、セキュリティの問題やインシデントを幹部に報告し、適切な措置を講じる。現場で定期的なセキュリティミーティングが開催されていない場合は、開催を要求すること。そうすれば、最新の完全な情報に基づいて決定を下すことができる。ICRCは、あなたが活動している地域の治安状況について、できる限り詳しく説明する義務がある。組織は、直面している脅威について正直に説明する必要があり、そうすることあなたは正しい行動をとることができる。セキュリティブリーフィングの頻度は、状況の深刻度によって異なる。

先を見越して脅威に適切に対応できるようにするために、自ら率先してトレーニングを受ける必要がある。ICRC が提供する、自身の活動に関連するトレーニングを必ず受けること。同僚やパートナー団体の経験を活かし、幹部とセキュリティの問題について話し合い、懸念事項について相談する。

すべての人にとって、より安全な環境の構築を支えることは義務である。勤務中、勤務外を問わず、自分の行動に責任がある。

「ゼロリスク」などというものは存在しないが、これまでの経験から、リスクを許容レベルまで減らすことができることは示されている。ICRC の価値観を体現し、行動規範に則ってふるまうことによって、あなた自身が危険にさらされる可能性を大幅に減らすことができる。

1.5 法的な枠組み

活動の性質上、特に危険な地域で活動している場合や、「テロリスト」と呼ばれる武装グループとの対話など機密性の高い活動を行っている場合は、さまざまな脅威に直面することになるが、これらの脅威は職務上避けられない部分である。

たとえば以下の脅威が挙げられる：

- ・自由と身体的または精神的な健康への脅威（例：軍事的または犯罪的攻撃、逮捕または拘束、虐待）
- ・財務上のリスク（罰金や制裁金など）
- ・職業上の問題（例：専門職から排除される）
- ・管理上の問題（例：ビザの発給拒否、市民権の取り消し）

これらのリスクを軽減し、ある程度の保護を提供する法的規定がある。次のセクションでは、この点に関する法律の最も重要な分野の概要を説明する。

1.5.1 國際人道法(IHL)

国際人道法 (IHL) は、武力紛争中の苦痛を防止または軽減することを目的とした一連の規則である。武力紛争法 (LoAC) または戦争法と呼ばれることもある。主な IHL に関する条約は、1949 年のジュネーブ諸条約とその追加議定書である。IHL は、ICRC の活動の根源である。これは戦争の手段と方法を制限し、敵対行為に直接参加していない人々（または、負傷した戦闘員や被拘束者など、敵対行為にもはや参加していない人々）を保護し、人道的に扱わなければならぬと規定している。IHL は、国際的武力紛争および非国際的武力紛争のいずれにも適用され、国家および非国家武装集団を法的に拘束する。

主な条項は次のとおり：

- ・民間人の死亡および民有財産への損害を阻止または最小化することを目的とした、敵対行為を管理する規則
- ・人道支援要員とその資材、物資を尊重し保護する義務⁸、および必要としている民間人に対する人道援助の通過を許可し促進する義務
- ・医療従事者、医療施設、医療に関わる搬送および輸送手段、資機材を尊重し保護する義務、および医療活動を尊重する義務（たとえば、公平に治療を提供した医療従事者を罰することは違法である）
- ・恣意的な勾留（許容される理由以外による勾留、または適用されている手続きに従わない勾留）、人質、強制失踪*の禁止。
- ・紛争当事者の影響下にあるすべての人に対して、虐待の禁止や公正な裁判を受ける権利など、基本的な事柄を保証。
- ・生物兵器や化学兵器などの特定の兵器や戦闘手段の禁止、および対人地雷、焼夷弾、ブービートラップなどのその他の兵器の使用制限。

*訳注：正当な手続きを踏まず、不都合な人物を殺害、投獄すること

⁸ J-M Henckaerts and L. Doswald-Beck, Customary International Humanitarian Law, Volume I: Rules, ICRC, Geneva, 2006, Rules 31 and 32: <https://ihl-databases.icrc.org/customary-ihl/eng/docs/home>.

IHL はあなたを一定範囲保護し、一定のリスクを軽減することができるが、現実を直視する必要もある。すべての人間が IHL を遵守することは限らない。たとえば人道支援活動に必要なアクセスを考えてみよう。これは IHL によって保証されており、紛争当事者はそれを制限することはできないはずである。それにもかかわらず、ICRC が地域全体または一部に入ることを明示的に拒否されることがある。場合によっては、法律上、行政上の障害、あるいはセキュリティに関する障害を設けることによって、目に見えにくい形での拒絶が行われることもある。

1.5.2 国際人権法(IHRL)

国際人権法（IHRL）は、国家当局による権力の乱用または恣意的な行使から個人を保護するために作られた一連の規則である。IHL とは異なり、IHRL は武力紛争がない状況においても適用される。

人道支援要員に関連する IHRL の規定には、以下のようなものがある。

- ・生命に対する権利。恣意的な生命の奪取を禁止し、管轄下にある人々の生命を保護するために必要な措置を講じることを国家に要求する。
- ・恣意的な拘束と逮捕、強制失踪（p.46 訳注参照）、人質拘束の禁止を含む、人の自由と安全に対する権利。
- ・拷問および残虐、非人道的または品位を傷つける処遇または処罰の禁止。
- ・司法へのアクセス権およびいかなる決定に対しても上訴する権利を含む、司法の保証。

IHL と同様、IHRL はある程度の保護を提供するが、当該国が常にそれに従うとは限らない。

1.5.3 特権と免除

活動に関連するリスクを限定するためのツール

多くの国で ICRC は、いくつかの国内法の免除の特権と免責を与えてもらう協定⁹を締結、またはそのような法律を可決している。

⁹ 協定というのは、ICRC と ICRC が活動する予定の国の政府との間の二国間協定である。協定の目的は、それらの国での我々の仕事を促進することである。

これらの特権と免責の目的は、リスクを最小限に抑えて活動を遂行できるようにすることである。国によっては国内法の中に、我々の活動の障害となり得る項目が設けられていることがあり、これらの協定によってその拘束から免れる。たとえば国内法で、当局が違法と見なす武装グループ（「テロリスト」、「違法な反政府勢力」などと呼んでいる）との対話を禁止している場合がある。この場合 ICRC は、この禁止条項を ICRC には当てはめない協定を政府と結ぶ。

協定により、原則として以下を享受することができる。

- ・証言免除（つまり、当局に証拠を提出する必要がない）および逮捕と勾留からの免除を含む、すべての刑事または行政手続きに関する管轄権からの免除
- ・移動の自由。領域への出入り、および移動が自由にできる
- ・入国に関する制限、税金、および手続きの免除（当該国以外の国籍を持つ要員の場合）

管轄権からの免責は、個人に付与されるものではなく、ICRC の職員の活動が許可されるだけである。その免責の範囲は、当該国が ICRC に付与した保護によって異なる。

ICRC の施設、その所有物（車両、パソコンなどを含む）、書類、および通信の不可侵性も、あなた自身のセキュリティに寄与する。

機密情報非開示の特権

ICRC は非常に特別な特権を享受している。それは、機密情報の非開示である。この特権は、国際裁判所や法廷によって認められており、国際慣習法（「法律として認められた一般慣行」に基づく一連の規則であり、条約に基づく法と並んで存在する）に根ざしたものであり、当局は ICRC の機密情報を漏らしたり、司法手続きや行政手続きで使用したりしてはならない。たとえば当局は、ICRC の報告書にある情報を、戦争犯罪で告発された人物の起訴または弁護の証拠として使用することはできないことを意味する。ただし、非開示の特権はすべての国で同じように認められているわけではない。

当局は、ICRCの機密情報を司法または行政手続きで使用することを許可されない。

あなたや ICRC を疑う可能性がある。あなたが仕事上入手する情報で自分たちが不利になることを恐れているかもしれません、それを案じてあなたの活動を妨げるかもしれない。

このように機密情報を保護することは、当局や紛争当事者との建設的な対話を維持し、人道的アクセスを確保し、あなたとあなたが助けようとしている人々の安全を強化する上で不可欠な要素である¹⁰。

前述のように、場合によってはコミュニティや他者があなたや ICRC を疑う可能性がある。あなたが仕事上入手する情報で自分たちが不利になることを恐れているかもしれません、それを案じてあなたの活動を妨げるかもしれない。

1.5.4 国内法

上記の特権および免除が適用される場合を除き、活動している国の法律には当然従わなければならぬ。そのため、違反を犯した場合、その違反があなたの活動に直接関係していない違反の場合（たとえば制限速度違反、麻薬の使用、暴行、性暴力など）は、これらに対応する刑事罰に直面することになる。

一方で、国内法があなたを助け、あるいは追加の法的保護を与えることもある。場合によっては、当該国の人権法が国際法の規定よりも高い基準を設定していたり、国際規範をより広く解釈していたりすることもある。

国際人道組織で活動しているからといって、活動している国の法律が免除されるわけではない。

1.5.5 その他の法的枠組み

最後に、その他の保護を提供する法的枠組みを紹介する。特に：

- ・外交および領事の保護のための法的文書
- ・人道支援活動の免責を含む、テロとの闘いに関する国際文書
- ・人道アクセスと人道要員の安全に関する国連安全保障理事会と国連総会、および他の国際機関の決議

¹⁰ ICRC の非開示の特権についての詳細は ICRC の以下を参照のこと。“Memorandum: The ICRC’s privilege of non-disclosure of confidential information”, International Review of the Red Cross (IRRC), No. 897/898, 2016, pp. 433–444: <https://international-review.icrc.org/articles/memorandum-icrcs-privilege-non-disclosure-confidential-information>.

- ・人道回廊の創設や人道活動を可能にするための停戦などを規定する紛争当事者間の合意
- ・特定の地域へのアクセスを確保したり、特定の活動を実施するために、ICRC が当局や紛争当事者と交渉する活動上の協定、覚書、その他同様の協定

あなたが享受できる法的保護とそれがどのように実施されるかは、
国によって異なる。どのような保護が自分に適用されるのかに
ついては、自分の上司に尋ねる。

1.6 他の人道支援組織との連携

ICRC が地域で唯一の人道支援組織であることは稀で、現場には以前よりも多くの人道支援団体が存在し、それぞれの目的と活動方法は大きく異なる。特に大規模な自然災害やその他の人道危機がニュースの見出しを飾ったりすると、入ってくる団体はもっと多くなる。これは、現場の多様なニーズに大規模に対応する場合に貢献できる重要な資源となる一方で、調整や、イメージ、評判といった面で問題となる可能性がある。

1.6.1 評判と調整

暴力に関与する人々や一般住民にとって、通常個々の人道支援団体を区別することは難しい。専門家ではない人にとって、赤十字運動のさまざまな構成要素や、ICRC、UNHCR、IRC（国際救済委員会）を区別することも困難である。多くの標章は似ており、さまざまな組織が同じような車両を使用しており、活動分野が重複している。民間部門、宗教的または軍事的背景を持つ機関も援助部門の一部を形成していたりする。協力とパートナーシップは多様化しており、たとえば紛争当事者である軍隊と共同作戦を遂行する国連機関など、この多様性が混乱をさらに助長する。

人道支援組織間の協力は一般的であるが、組織間の調整には多くの課題が残されている。アイデンティティ、構想、目的、規則、活動の原則、および所属が一致しないことで、大きな問題を引き起こす可能性がある。

混乱を避けるため、また他者や他機関があなたや ICRC を他の人道支援要員や組織と混同しないようにするために、次のことを確認すること。

- ICRC の権限、原則、および活動方法が他の機関のものとどのように異なるかを必ず理解する
- ICRC が他の組織と異なる理由を、接触する人々に時間をかけて説明する
- ICRC がどの組織と密接な関係を維持しているかを把握する
- 政治や宗教を前面に出す機関など、ICRC や赤十字運動とは原則が異なる援助機関との関係に注意する
- ICRC について人々が言っていることに注意深く耳を傾け、地元の人々と話をして ICRC がどのように認識されているかを調べる
- 人道支援団体が形成するコミュニティが現地にどのように捉えられているのかを認識し、幹部に共有する

他の人道支援組織のイメージ
は、あなたのセキュリティに
影響を与える。

1.6.2 赤十字運動: 主要パートナー

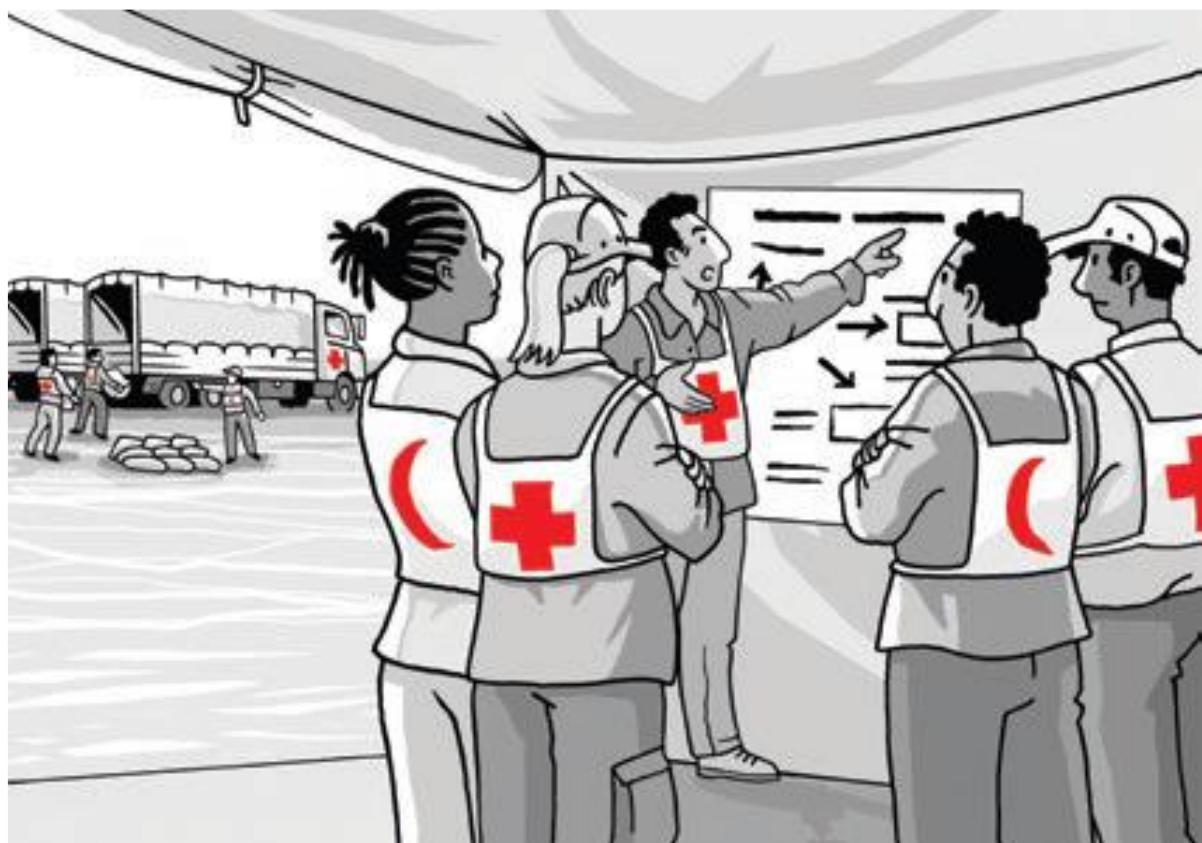
補完性と効率性を確保するために、ICRC は、現地の人道支援機関、国の人道支援機関、あるいは国際人道支援機関と調整して活動を行うことがある。また、医療、水と衛生、農業などの分野の専門家に特定の活動を委任することもある。

ICRC はまた、当該国の赤十字社、赤新月社を含む赤十字運動の構成機関とも緊密に連携している¹¹。現地のパートナー社は、住民に近く、地元の文化や背景に関して深い知識があるため、多くの場合、我々が安全を確保するうえで貴重な存在である。パートナー社の職員またはボランティアは、離散家族の再会支援事業や、物資配付をはじめとした支援活動など、双方の機関にとって有益な活動を行う際に、ICRC チームの一員として組み込まれることがある。現場で一緒に活動することになるため、

¹¹ ICRC は各国赤十字・赤新月社とのパートナーシップを独占しているわけではない。各国赤十字・赤新月社はまた、国連機関を含む赤十字外の人道機関とも協力している。

セキュリティに関しては互いに責任があり、互いの特性を認識する必要がある。

連盟あるいは他国パートナー社があなたと同じ場所で活動している場合は、彼らと緊密に協働するケースもある。



1.6.3 セキュリティに関する情報の共有

ICRCが直接の関わりを持つパートナーにノウハウを提供し、パートナーの経験にすがりたいと考えている分野のひとつが安全保障の分野である。パートナーが赤十字運動のメンバーである場合は、なおさらである。また他の人道支援機関に対して、降りかかってくるであろう脅威に関する情報を伝えることもまた、理にかなっている。ただし、他機関とセキュリティ情報を交換する場合、情報共有に関する厳格な規則に従う必要がある。メディアの報道が瞬時に行われるようになった今日では、このことはこれまで以上に重要である。このため、慎重さを要する情報、機密情報、あるいは個人的な情報の場合は特に注意が必要である。

情報をもたらす人／共有する人を上司に確認する。

ICRCに関するセキュリティインシデントが発生した場合、どの情報を組織外に公開できるかは幹部レベルが決定するが、その決定においては被害者とその家族/友人が不利益を被らないよう考慮される。

セキュリティに関する情報はすべて機密情報であるということが前提である。

1.7 活動する環境を知る: 自身への 6 つの問いかけ

1. ICRC の活動に参加する際にさらされる主なリスクは何か？
2. 人道支援活動には軽減できないリスクが伴うことを認識しているか？
3. セキュリティに関する自分の役割と責任は？
4. 赤十字運動の基本原則を説明できるか？
5. 守秘義務はどのように自分の安全確保に役立つか？
6. 自分が活動している国の赤十字社または赤新月社は、自分の安全にどのように寄与しているか？

参考文献

ICRC, Discover the ICRC, Geneva, 2018: <https://shop.icrc.org/discover-the-icrc-pdf-en>.

2. 準備は万端にせよ！

ICRC の使命と、支援対象者にできるだけ近づくというその目的達成のために、要員はかつて経験したことのない状況に直面することになるであろう。不安定で暴力にさらされている国で活動するということは、深刻な不正義や違反を目の当たりにし、常に苦悩にさらされることを意味する。ほとんどの場所で、セキュリティの欠如は日常生活の一部になる。

待ち受けている困難を予測して克服する能力は、身体的、精神的に、あるいは管理上、どれだけ準備ができているかに大きく依存する。準備のプロセスには、自分自身の家族や友人、特に ICRC の職員としてのあなたが公式に帯同する家族も含まれる。なじみのない地域で働く場合や、活動上現場で長時間過ごさなければならぬ場合は、さらに入念な準備が重要になる。社会的、文化的に異なる規範、あまり経験したことのない天候や衛生状態、食べ慣れない食事、快適さとプライバシーの欠如、身体的に厳しい労働時間と長距離移動、安全上の理由による移動の自由の制限、愛する人と離れ離れの生活、新たに構築しなければならない人とのつながり … これらすべてに適応しなければならない。

ICRC の活動に従事する前に押さえておかねばならないポイントとは？ この質問をこの章で最初に回答する。ほとんどの項目は、ICRC で働き始める人向けだが、その他の人々、たとえば自国以外で活動する人およびその家族に向けたものもある。

2.1 自分自身が何のために参加するのかを知る



あなたは人道支援活動に参加することを決心した。このような活動は、国籍、人種、宗教、階級、政治的所属に関係なく、武力紛争や暴力の影響を受けた人々への思いやりや共感を前提としている。赤十字運動の基本原則の1番目は人道である。赤十字運動は人間の苦しみを和らげるために存在する。ICRCがこれを効率的に行うには、あなたのような人材が最も深刻な紛争の現場に赴いてくれる必要がある。

したがって、人道支援活動に従事することを決めた場合は、自分が何のために身を委ねているのかをよく考えねばならない。危険を軽減するために誰かが何をしようとも、自分の活動環境には軽減できない残存リスクが伴うことを受け入れる必要がある。

セキュリティ面を含め、人道の理念に対するコミットメントが
実際に何を意味するのかを考える。

2.2 冷静沈着に仕事に着手するには？

2.2.1 情報を得る



新しい活動環境のさまざまな側面を理解するには、時間と忍耐、根気が必要である。状況を把握するためにできることは、何であっても理解を深めるのに役立つ。これはあなたが、活動している地域の出身ではない場合に特に重要である。地政学の専門家になる必要はない。活動を始めるための基本的な知識を習得するだけである。活動場所の背景を知れば知るほど、その文化や伝統に興味を持てば持つほど、現地に到着したときの日常生活が楽になる。

- 人道支援の専門家向けのサイト、ブログ、フォーラムをインターネットで調べてみよう。たとえば以下：
 - 大使館（通常、旅行者向けの推奨事項を記載したページがある）
 - 紛争分析を専門とする組織
 - 人権団体
 - 公衆衛生機関
 - 当該国の駐在員を対象としたソーシャルメディアのサイト、フォーラム、グループ

- ・目的地の国に関する文学作品を読む。参考文献やオンラインでは得られない、歴史的、社会学的、民族学的、文化的、宗教的背景を知ることができる。
- ・映画やドキュメンタリーを見る。
- ・その国を知っている人と話す。
- ・目的地の国に関するセキュリティブリーフィングをまだ受けていない場合は、必ず受けること。

ICRC が他の人道支援団体とどのように異なるか、その仕事内容と活動方法をよく理解すること。

2.2.2 自分の家族の準備

家族に知らせる

あなた自身は人道支援活動に内在するリスクに直面する準備ができているかもしれないが、家族はどうであろう？確かにあなたの活動は自身の問題ではあるが、あなたが好むと好まさるとにかかわらず、家族にも影響を与える。家族に対して隠し事をせず、緊密なコミュニケーションをはかる必要があるだろう。これは、自分に健康上の問題が生じたり、事故に遭ったり、重大なセキュリティインシデントに巻き込まれたりした場合に非常に重要である。どんな活動に従事して、どの国で働いているのか知らされないまま、あなたに何かが起ったと聞いたら、家族がどのように感じるかは想像に難くない。

最初のステップは、活動場所の危険性を考えた場合、自分に不測の事態が起こる可能性があるという考えを受け入れることである。次のステップは、そのような不測の事態への事前の準備である。家族との対話もその中に含まれる。家族があなたの生活や活動状況、ICRC が重大な問題にどのように対処しているかを知っていれば、あなたの活動をサポートし、不測の事態が起った場合に適切に対応できるようになる。重大な事故が発生した場合に家族の誰に通知するか、どのような情報を家族が受け取るようにするかを決定するのは、あなた自身である。これにより、ICRC がインシデント（セキュリティインシデントまたは単なる

あなたに何か不測の事態が起こった場合、あなたの家族がどのように反応するかを自問してみよう。何が彼らを助けるか？これらの質問の答えから、そのような不測の事態に備えることができる。

事故) が発生した場合に必要な措置を取りやすくなる¹²。家族に、あなたが生活し、活動する環境を伝えること。そうすれば、家族はあなたの日常生活を垣間見れ、重大な事件に巻き込まれた場合に ICRC がどのように対応するかを知ることができる。くだらない、もしくは不適切と思えるような質問にも答えること。家族が心配するのは当たり前である。何かが起こった時にあなたときちんと連絡が取れるのか、また、誰が家族に連絡をくれるのか心配するのはまったく普通のことである。

連絡先を決める

重大なインシデントに巻き込まれた場合に ICRC が連絡する相手を 1 人以上選択する。その人物に、何をすべきかを正確に伝える。つまり、あなたが決定を下すことができなかつた場合、あるいは最悪の場合、あなたが死亡した時に必要となる可能性のあるすべての指示と情報をその人に提供しておく。理想的には、家族の感情

今すぐ対策を講じ、信頼できるキーパーソンに何をして欲しいかを説明しておけば、何かあった場合でも家族の状況がずっと改善される。

が普通でない状態にあるときに、難しい決断を下す必要がないようにしておかなければならない。あなたが事前に表明した希望を当該者が参照できるようにしておくのがよい。一部の国の法律では、親、祖父母、子供、孫、または配偶者などの近親者を連絡先として選択する必要があることに注意。

2.2.3 事務的処理

ミッションに出る準備をするときに、請求書、借金、税金、保険などの事務的な処理を忘れないでほしい。新たな派遣の前にこれらすべての問題に対処しておけば、心置きなく任務が遂行でき、家族を面倒に巻き込まなくて済む。赴任地がインターネットや電話が通じないような場所ならなおさらである。

重大な事件の被害者となり、自分で対処できなくなった場合や、連絡が取れなくなった場合に備えて、必ず事前に委任先の人物を特定し、そのような状況が発生した場合にどうするべきかを、この人物に正確に伝えておくこと。また、合鍵、銀行口座に関する委任状、パソコンその他のデバイスのパスワードを渡して、あなたの指示を実行できることを確認しておくこと。

¹² 本書では通常、インシデントという用語は、他人の故意の行動（暴行、誘拐など）によって引き起こされたイベントを表すために使用し、アクシデントという用語は、交通事故や自然災害の結果など、意図的ではないイベントを指すために使用しているが、場合によっては、両方のイベントを「インシデント」と表現している場合もある。

活動を始める前に、ICRC の人事に、事故や医療、あなたとあなたの家族のためにどのような保険がかけられているかを確認する。ICRC の保険がカバーするものとしないものを確認し、海外で起こったトラブルに対する補償を提供する個人賠償責任保険など、追加の保険に自分で加入する必要があるかどうかを確認する。

財務および管理業務が最新の状態にアップデートされていることを確認し、正確な指示を残し、あなたがそうすることができなくなった場合に誰かがそれらをできるようにしておく。

2.2.4 あなたのオンライン ID を「消毒」する



あなたのことを探りたい人は、おそらくあなたの名前をグーグルで検索することから始めるであろう。こうした人々は、あなたが問題ないと思ってアップした文章や写真から、あなたが休みの日に何をしているか、支持する理念、宗教的信条、対人関係、性的指向、政治信条や社会的行動など、あらゆる情報を見つけることができる。これらは母国では問題にならないかもしれないが、他の場所、特に基準が異なり、より保守的な場所では、あなたや ICRC に対して反感を生むかもしれない。誰もがあなたの考え方や基準に共感しているわけではない。

また、あなたが逮捕または誘拐された場合、勾留当局または誘拐犯は、オンラインであなたに関する情報を見つけ、それをあなたに対する攻撃材料として使用したり、交渉に利用したりすることを躊躇しないだろう。

新たな任務を引き受ける前に現地でタブーとされていることや微妙な事柄をすべて消去する。

このため、次の予防策を講じること。

- ・あなたに関する情報を含むすべてのサイト、特にソーシャルメディアプラットフォームを「消毒（sanitize）」する。
- ・安全なパスワードを使用して、オンライン上のプロフィールを保護する。
- ・携帯電話に入っている情報を整理し、見られては困る可能性があるものをすべて削除する。

2.2.5 自分の国籍は脅威となるか？

世界の一部の地域では、あなたの国籍が問題となる可能性がある。経験上、紛争が起きている地域や武装勢力が存在する地域では、もしもあなたが同盟国の国民である場合、さまざまな疑惑が生じたり ICRC の中立的なイメージが損なわれたり、直接危険にさらされたりする可能性がある。

したがって、自分の国籍が赴任国で問題になる可能性があるかどうかを自問し、問題がある場合は必要な措置を講じる必要がある。複数の国籍を持っている場合、特に ICRC が誘拐の危険性が高いと考えている国では、これは非常に重要である。国籍によっては、誘拐犯の要求やあなたに対する態度に悪影響を及ぼし、交渉が複雑になる可能性がある。これは赴任地に同伴する家族も同様である。

- ・新たな派遣の前に、ICRC にあなたの国籍が当該国で受け入れられるかどうかを確認すること。
- ・複数の国籍を持っている場合は、ICRC でキャリアをスタートさせる際に ICRC に伝え、新しいポストに就く前に再度伝える。
- ・ビザ申請書の中には、複数の国籍を持っていることを示す情報を求めるものがある。そのようなフォームに記入する必要がある場合は、ICRC に知らせる。
- ・あなたが赴任国で働くために ICRC が認めた国籍を記した身分証明書のみを携帯する。
- ・他の国籍を記す ID カードや、他の国の赤十字・赤新月社のメンバーカードなど、別の国籍を持っていることを示す可能性のある書類を（身の回りまたは荷物の中に）持っていないことを確認する。
- ・パスポートのビザとスタンプが赴任国で問題にならないことを確認する。リスクがある場合は、新しいパスポートを取得する。

- ・家族を同伴する場合は、すべての家族の国籍を ICRC に伝える。

複数の国籍を持っている場合は、派遣を受諾する前に ICRC に伝える。



2.2.6 家族を幸福な状態に保つ

パートナーや家族が同行する場合は、新しい場所で待ち受けている困難や状況に備えるようにすること。赴任地での経験は人生を非常に豊かにする可能性がある一方で、さまざまな困難も降りかかるてくる。安全と健康の問題以外にも、新しい文化、言語の壁、慣れない気候、公害、交通量の多さ、犯罪率の高さ、緑のない環境などは、家族にとってもあなたにとっても、すぐにストレスの原因となり得る。家族のメンバーは、自分のペースで新たな環境に適応しなければならない。家族内のバランスは変化するかもしれない。家族の幸福はあなた自身の幸福に直接影響する。

家族が直面する課題を理解する

「同伴のパートナー」であることは、必ずしも喜ばしいことではない。それでいて、渡航や引っ越しなど、赴任に向けた準備段階で重要な役割を果たす。多くの場合、ICRC 職員のパートナーは、自分の居場所を見つけて新しい社会的なネットワークを構築すると同時に、家族に必要な支援システムを構築しなければならない（医者や育児サポートの選定など）。

パートナーが直面する可能性のある最大の問題のひとつは、赴任国での就職が困難または不可能であるということである。これは保持しているビザの種類や、就労許可証がない、資格が認められていないなどの理由による。就職することができなければ、支援が得られるネットワークは自分の家族だけである。新しい環境は、子供にも大きな変化をもたらす。小さな子供がいる場合は、安全で医療が行き届いていると感じる環境と日常生活が必要である。年長の子供たちは、母国の友達と離ればなれになることになる。したがって新しい友情を築き、新しい学校（そしておそらく新しい教育システム）に溶け込み、課外活動を再開しなければならなくなるであろう。

出発前に家族全員が準備を終えられるように

自分の家族を安心させ、失望させることなく新たな環境に適応させるためには、できるだけ多くの情報を与えることである。リスクとセキュリティ上の制限について正しく知り、海外に行くことの肯定的な面、何をするか（就労する/しない、学校、余暇をどう過ごすか）について前向きに考え、困難に対処できるように事前に計画を立てることが大事である。家族がいろいろなことを心配するのは当然のことで、家族全員の懸念に注意深く耳を傾けなければならない。家族に待ち受けの問題について説明し、必要な情報を提供し、友人や知り合いと別れて新しい生活を楽しむための手助けをするのは、あなたの責任である。

新たな国に赴任することについて家族間で議論を深め、一緒に準備を進めることで、一家は新たな環境に適応しやすくなる。

ICRCは、現地の医療施設や学校のリストなど、いくつかの有用な情報を提供することができる。またあなた自身も、赴任する国の駐在員の家族に連絡を取ったり、ウェブサイト、ブログ、駐在員フォーラムに相談したりすることもできる。

セキュリティ関連事項

あなたの家族は、セキュリティ関連の制限が日常生活にどのように影響するかを理解する必要がある。犯罪率の高い特定の大都市では、徒歩で行ける特定の地域を除いて、車での移動のみが許可される。治安状況により、個人のドライバーを使用する必要がある場合もある。

出発前に：

- ・ 主なセキュリティリスクと、日常生活への影響について家族と話し合う。

- ・想定される生活環境と、地元特有の制限について説明する。
- ・本書の有用な情報を家族に伝える。

健康と医療の課題

- ・あなたの家族に、想定される健康状態とリスク、さらに医療施設と受けられる医療の質について説明する。
- ・家族全員が健康診断と必要な予防接種を受けていることを確認する。
- ・持病があって通院している場合は診療記録を持っていく。
- ・赴任先の国で必要な薬が入手できない場合は持参すること。マラリア流行地域に行く場合は、その地域で入手できる抗マラリア薬を調べ、必要な場合は持参する。
- ・歯科医、歯列矯正医、セラピスト、言語療法士など、どのような専門サービスが現地で利用できるかを調べる。分野によっては、インターネットを介して提供することが可能な場合もある（言語療法、心理療法、心理的サポートなど）。

組織運営に関する事項

- ・仕事で家を空けなければならない頻度を家族に知らせておく。
- ・保険、学費、家事代行スタッフ、航空券など、一家の費用のどの部分を ICRC が負担するかを ICRC に確認する。
- ・パートナーに適用される条件、特にパートナーのビザで就労が可能かどうかを確認する。
- ・現地の住居について調べる（写真が役立つ場合あり）。
- ・訪問者を受け入れてもよいか、よい場合はどのような条件で受け入れるかを確認する。
- ・子供の就学に関しては、学校の数が限られている場合や、記入しなければならないフォームが複雑、締め切りまでの期限が短い、子供が入学するために評価テストを受けなければならぬなどの場合がある。したがって子供を同伴する場合は赴任先が決まつたらすぐに学校を探し始め、できるだけ早く子供たちの登録を済ませる。現地で確実に教育が受けられるようにするために、複数の学校に登録することを推奨する。

- ・可能な限り迅速に地域のサポートネットワークを作る（子供のケア、ドライバーなど）。
- ・持っていくべき、あるいは持参可能な書類と所持品、および許容される最大重量を確認する。

住む場所の治安状況を家族に説明し、最新の状況を知らせておくのはあなたの責任である。

到着したら、安全管理規則を家族と共有し、取るべき行動を説明する。最後に、たとえば家事代行スタッフを雇いたい場合など、遠慮なく ICRC に支援を依頼すること。

2.3 健康に関する準備と予防

人道支援に従事するには、心身ともに健康であることが不可欠である。健康状態の悪化は、特に医療施設がない場所、施設はあっても質の高い医療を提供できないところ、あるいは特定の薬入手するのが難しい地域では、追加のリスク要因になる可能性がある。健康であるということは、困難な状況に対処するために重要である。

出発前に赴任国での健康に関するリスクについて調べ、必要な措置を講じておくことが健康を維持する上で重要である。

**赴任先が決まったらすぐに、現地の健康上のリスクについて確認する。
疑問がある場合は ICRC の医師または職員健康管理担当者に相談する。**



2.3.1 出発前に

健康診断

新天地に派遣される場合は必ず健康診断を受け、困難な環境で心身ともに健康かつ効果的に活動することができるかどうかについて、医師と相談する。また、手術を受けたり、事故にあったり、長引く疾病など健康上の問題を抱える場合でも、適宜健康診断を受ける必要がある。それ以外にも、年に一度の健康診断を受けることを推奨する。医師に対しては正直に話し、後でぶり返す可能性のある健康上の問題を矮小化しようとしないこと。現場での困難な状況、ストレス、および過大な負担は、それまでの健康状態を悪化させる可能性がある。また、人質に取られた場合など、重大事案が発生した場合、健康上の問題により、あなたの日常がより困難になり、家族のさらなる心配の原因となる。

健康上の問題（アレルギー、糖尿病、腰痛、高血圧、喘息の再発、うつ、不安、HIV など）があることがわかっている場合は医師に相談し、ICRC 所定の医療フォームにそれらを記載すること。それはあなた自身の利益のためである！

予防接種

出発前に、過去に受けた予防接種がまだ有効であるかどうかを確認し、必要なすべての予防接種を受ける。ICRCは活動上の理由から、あなたの赴任先を急遽変更することがあるため、最後の最後まで予防接種のことを念頭に置いておく。

自分の活動地域でどの予防接種が必要かは、医師に相談するか、または以下のいずれかのサイトから情報を得ることができるが、熱帯医学の専門家に相談することを推奨する。疑問がある場合は、ICRCの職員健康管理担当に相談する。

推奨ワクチン（ICRC）	
赴任国にかかわらず必須のワクチン	<ul style="list-style-type: none">・A型、B型肝炎・腸チフス・ジフテリア、破傷風、ポリオ・麻疹・黄熱病・狂犬病
赴任国によっては必要なワクチン	<ul style="list-style-type: none">・髄膜炎・日本脳炎（南アジア、東南アジア）
その他の推奨ワクチン	<ul style="list-style-type: none">・インフルエンザ <p>特に、国内避難民のいるキャンプや病院、刑務所など、多くの人が集まり、インフルエンザに感染しやすい場所で活動する場合は推奨される。インフルエンザは、北半球と南半球で異なる時期に流行する。またウイルス株も北半球と南半球で異なり、年ごとにわずかに変異する。したがって、必要なワクチンは赴任国によって異なり、また毎年更新が必要である。</p>

マラリア対策

マラリア流行地域で活動する予定がある場合は、マラリアに対してどのような対策を講じるべきか、抗マラリア薬を服用する必要があるかどうかについて、医師またはICRCの健康アドバイザーに相談する。他の薬を常時服用している場合は、その薬とマラリアの錠剤の間の相互作用を確認する。マラリア予防として抗マラリア薬の服用が推奨される場合は、現地到着までに服用を開始する必要がある。現地を離れるまでそれらを服用し続け、現地では腕と脚を覆う服を着る、蚊よけの防虫剤を塗る、蚊帳の下で寝るなどの追加の対策を講じること。

応急手当のトレーニング



現場での活動を開始する前に、応急処置のトレーニングを受講することを強く推奨する。受講した後は、定期的な再教育コースを受講するとよい。これは形式的なものではなく、緊急時に何をすべきかを知り、正しい決定を迅速に下すことで、救命することができる。人道支援要員として、特に赤十字運動のメンバーとして、応急処置は緊急時に最低限行わなければならないことである。けがをしたら、訓練を受けた同僚に処置をしてもらいたいと思うはずである。基本的な応急処置を知っていれば、家族や同僚にも役に立つ。

自国の赤十字社の救急法講習について問い合わせる。

2.3.2 準備:自身への9つの問い合わせ

1. 活動に内在するリスクについて知っているか？また、家族にそのリスクについて話したか？
2. 心身の健康は、今度の活動を遂行するにあたって問題ないか？
3. 予防接種は最新の状態になっているか？
4. 必要な保険にすべて入っているか？
5. 潜在的なリスクについて家族に話したか？
6. 自分に何かが起こった場合に、託した人間に何をして欲しいかを明確に説明したか？
7. 自分に関するすべてのことを処理する人を準備したか？
8. 同行する家族の準備も適切に行つたか？
9. 自身のオンラインアカウントを「消毒」したか？

有用なウェブサイト

www.fitfortravel.nhs.uk	英国政府による旅行医学に関するサイト
www.cdc.gov/travel	米国政府による旅行医学に関するサイト
www.safetravel.ch	旅行者に対する健康アドバイスを掲載したスイスのサイト（仏語、独語のみ）
<a href="http://www.tropimed.com<sup>13</sup>">www.tropimed.com¹³	包括的な旅行医学のサイト。日々更新される（英語、仏語、独語）
www.who.int	WHOのサイト（アラビア語、中国語、英語、仏語、ロシア語、スペイン語）

¹³ このサイトはIDとパスワードが必要で、ICRCはスタッフの要望があれば提供している。

2.4 何を持っていくべきか？

「何を持っていいですか？」これから海外に行くスタッフからよく聞かれる質問である。特定の書類と、自分自身の医薬品、応急処置キット以外に標準的な回答はないが、現地の気候、必需品や医薬品の入手の可能性、国と輸送業者の両方によって課される持ち込み制限と安全管理規則に加えて、個人的なニーズも考えねばならない。国によっては他の国よりも持ち込み規制が厳しいところもある。持ち込み禁止品目には、たとえば、アルコール、特定の医薬品や食品、電子タバコなどがある。

ICRC が供給していないものも含め、当該国で入手不可能な医薬品を調べる（そのような品は自分が持つていかねばならない。

荷物を準備するときは、次の点に注意：

書類

- 紛失や盗難に備えて、パスポートなどすべての個人文書のコピーを作成し、原本とは別に携帯する。
- 複数の国籍を持っている場合は、ICRC が認めた国籍に関する身分証明書のみを持参する。
- 問題と見なされ得る活動にあなたが以前従事したことを見示す書類、たとえば、当該国から追放された人道支援機関によって発行された ID カード、プレスカード、警察官の身分証明、軍の ID カードなどは持参しない。

医療用品

- あなたと同伴者全員用に、ニーズに合った応急処置・医療キットを持参する。一部の地域や状況によっては、医薬品がほとんどないか、まったく手に入らない場合がある。
- 念のため、3~6か月分の薬を持参する。

その他

- 機内および貨物で禁止されている品目について、関連する航空会社に確認する。貨物として送られる身の回り品も規制の対象となる。
- 可燃物や危険物、または軍事用と見なされる可能性のあるものを持ち込まない。
- 政治的、文化的、または宗教的にデリケートな内容を盛り込んだ本を持ち込まない。持ち込もうとしている本が、あなたの赴任先の国で禁止されていないことを確認すること。

推奨品目と禁止品目については、添付資料 12.4 と、医療および個人の衛生用品の推奨を参考にするとよい。

ICRC が提供する標準品

ICRC の住居、オフィス、車両には応急処置キットが備え付けられている。

ICRC はスタッフに次のものを提供する。

- ・防虫処理蚊帳
- ・皮膚につける防虫剤
- ・抗マラリア錠剤
- ・マラリア迅速診断キット
- ・緊急マラリア治療薬
- ・レイプ暴露後キット (PRK)。時間内に服用すれば、レイプ後の身体的影響を一部防ぐことができる薬を含む。
- ・作業中に汚染された血液に接触した場合に使用する暴露後予防キット (PEP)。

マラリアなどの媒介感染症を予防する品目は、該当する疾患が蔓延している地域でのみ供給される。

2.4.1 何を持っていくか：自身への 5 つの問いかけ

1. 事務的な書類は何を持っていけばよいか？
2. 自分または同伴家族が病気になったり重大事案に巻き込まれた場合、不可欠な書類は何か？
3. 現地で手に入らない医療用品、衛生用品は？
4. 現地で手に入らないもので、快適さを高め、士気をあげ、同僚と打ち解けられるものはなにか？
5. 持っていこうとしているもので、当該国で危険にさらされたり、問題を起こしそうなものはないか？

3. 現場情勢を理解すること

人々に手を差し伸べ、現場のニーズを効果的かつ安全に満たすには、現状の背景や人道的問題の原因、コミュニティのニーズを完全に理解する必要がある。本章では、情勢分析の基本原則と、それがあなたの安全に不可欠な理由について説明する。次に、ICRCがさまざまな状況に固有の脅威を特定する方法について説明する。最後に、個人の特性が安全にどのように影響するかについて述べる。

3.1 情勢分析

3.1.1 なぜ現場の情勢を分析するのか？



目的を設定し、コミュニティへのアクセスを得て、活動を安全に行うために、あなたが活動する状況で発生している問題と関与する軍事勢力をすべて分析し、この分析を常にアップデートして最新の状態に保たなければならない。この目的は、人道上の状況とあなたの安全に影響を与えていたり、もしくは影響を与える可能性のある要因、安定化をもたらす要因、および活動を促進または毀損する可能性のある主要な関係者を特定する

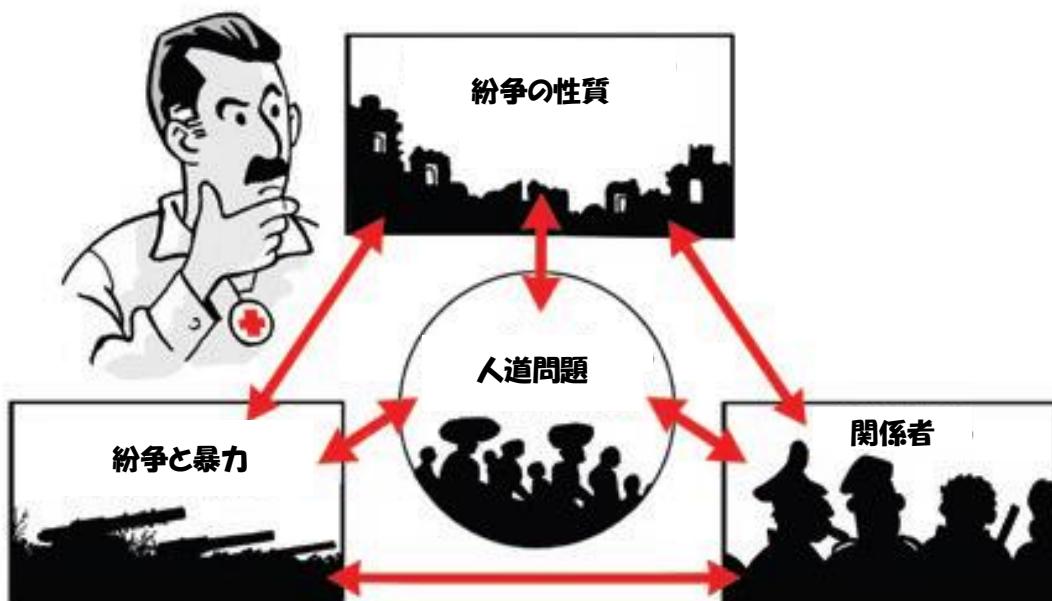
ことができる。これは自己自身と支援する人々の安全のために不可欠なステップであり、地域に存在する脅威を特定し、必要な予防措置を講じることができる。また、状況を適切に理解していることを示すことで、連絡の際の信頼性を高める。

ここからは、現地の情勢分析における正確な方法についてではなく、あなたが目を向けるべきポイントを示すことにする。

現地の情勢分析とは、次の質問に対する回答を得ることを意味する。

1. 私はどんな状況下で働いているのか？
2. 鍵になる人物および団体は誰か？
3. 自分の存在と活動は、自分を取り巻く状況下でどのような影響を与える可能性があるか？

下図に、考慮すべき主な要因を示す。



紛争の性質	紛争と暴力	関係者
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の背景 ・政治的背景 ・経済的背景 ・社会的背景 ・法、文化、宗教上の規範 ・自然環境と資源 ・インフラ ・外国人や支援関係者へのふるまい 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の歴史 ・暴力のパターン ・問題と目的（領土、資源その他） ・分岐点と収束点 	<ul style="list-style-type: none"> ・影響力とパワー、重要性 ・相互作用（たとえば同盟の範囲が地元レベルか、地域レベルか、世界レベルか） ・能力と、我々にとって支援者か敵対者か

3.1.2 安定化の要因も分析する

情勢分析の範囲を、不安定性と危険性の原因に限定しないこと。現時点の、あるいは過去の不正や不法行為のようなものは、人々を分断するが、共通の文化的、宗教的慣習、誰もが使用するマーケット、共通のノウハウ、ある程度の社会的結束などは、人々を結び付ける。たとえ暴力的な環境であってもこれらは存在し続ける。どの社会にも、たとえ暴力を防ぐことはできなくても、人と人とのつながりを維持する人々がいる。特に女性は、社会的結束を維持し、事態がさらに悪化しないようにするために、非公式な場において影響力を行使することがよくある。コミュニティの長老や、教師、宗教のあるいは伝統的な指導者も同様の役割を果たす。

阻害要因のみを分析するのではなく、あなたを保護し、活動の遂行に役立つ要因も分析する。

3.1.3 全員の責任。終わりはない。

役職が何であれ、活動環境に対するあなたの認識は重要である。あなたは誰も知らないことを知っているかもしれない。それを伝えないと、誰かが間違った結論に達し、あなたや同僚が危険にさらされる可能性がある。

情勢分析は、継続的に更新しないと役に立たない。これは全員に責任のある終わりのないプロセスである。環境分析は、幹部や同僚だけの責任ではなく、警備員や運転手、医療専門家、あるいはロジスティクス担当や経理であろうと、それぞれに役割がある。複数の情報源と視点を駆使し、各個人の物事の捉え方にも耳を傾けることで、活動とセキュリティ対策を自分の置かれている状況に適応させることができる。人々の話を聞き、観察すること。そして、たとえば、通常賑わつ

ているマーケットが閉鎖されているなど、違和感を抱いたことは何でも上司に報告することが、環境を分析する上で不可欠である。

3.1.4 どうやって取り組むか？

安全を確保するには、複数の情報源から情報を集め、一見奇妙に思えるものも含めてさまざまな視点から検討し、現場の情報をより俯瞰的な分析と照合することで、バランスのとれた状況把握ができる。ここで難しいのは、事実と作り話を区別し、収集した情報の裏を取り、活動上の目的を達成するのに役立つような方法で分析することである。

異なる視点の比較

多くの場合、ICRC 内に有用な情報がふんだんにある。そのため、外部で探す前に、まず内部で利用できるものがないかを調べる。同僚の見地や分析、記憶はどんな職種であっても貴重で、既存の報告書の内容も有用である。次に外部機関、特にその地域で活動しているシンクタンクによって作成された分析を読む。これらすべてを行えば、情報収集の大部分が完了する。あとは、現地の新聞を読んだり、ラジオを聴いたり、ソーシャルメディアの情報を活用したりする。また、現地コミュニティをはじめ、行政当局や伝統・宗教的な権威などからも情報を入手する。赤十字・赤新月社は、地域の課題や安全保障上の問題につながり得る要因について充分理解しているため、その知識も活用しない手はない。連携している組織や、評判の良い市民団体、駐在している国際組織に相談するのもよい。

今の時代、テクノロジーの進歩によって大量の情報にアクセスできるようになつた。もちろんそれらも参照すべきだが、可能な限り、オンラインで見つけた情報は、実際に現場で見たことと比較する必要がある。そうでなければ、自分はすでにすべてを知っていて、すべてを理解していると勘違いしてしまうリスクがある。ネットで得られる情報は、市民、軍隊、伝統・宗教的

分析は、信頼できるさまざまな情報源に基づいて行う必要がある。時間を無駄にしないためにも、任務遂行に必要な情報のみに目を向け、それを得る最も効率的な方法について上司と相談すること。

な権威や地域社会からの直接的な情報に取って代わるものではない。机の前に座つたままで現地の人々の信頼を得たり、情勢やセキュリティの状況を理解することはできない。自分自身が外に出て、人々に会うことが必要である。ただし最も危険な環境では、物理的に接触することが常に可能であるとは限らないため、その場合は

工夫を凝らし、間接的な情報源から分析する必要がある。その場合でも、情報の機密性は保たねばならない。

情報過多には注意すること。量よりも質が重要である。偽情報、噂、プロパガンダはどこにでもあり、特に高度に政治化された紛争や暴力行為の際にはこれが顕著となる。多くの場合、事実と作り話を区別するのは困難な上に、誰もが自分の興味やアイデンティティ、問題の理解の仕方によって、話す内容が変わる傾向にある。

信頼できる情報に基づいて分析し、本当に必要な情報だけを収集する

情報は、信頼できる情報源から、自分たちの活動に直接関連しているものだけを収集する。情報収集は目的を達成するための手段にすぎず、それ自体が目的ではない。そしてその情報収集の「目的」は、自分の業務を安全に遂行することである。

紛争状況の分析は中立的な活動ではないため、注意が必要である。どの武装勢力がどの地域を支配または影響下に置いているかを知ることが重要であるのは確かだが、活動を行うために必要なもの以上の情報を収集しないように注意すること。武

デリケートな事柄について過度に詳細な質問をすると、スパイ活動をしているという印象を与え、危険にさらされる可能性がある。

装勢力の位置やそのインフラ、資金源などの軍事情報は、非常に機密性が高い部類のものである。信頼に基づいて得た情報を第三者に共有してはならない。そういった行為は自分自身を危険にさらすだけでなく、支援しようとしている人々を含め、ICRC 以外の人々に危害をもたらす可能性がある。違法または不正行為によって、あるいはそう見なされることによって、セキュリティを毀損してはならない。

カギとなる個人と団体を特定すること

なぜ？

活動環境を分析することと、その環境に大きな影響を与える人物を特定することは表裏一体である。活動環境に影響を与える可能性のある個人、団体や組織、公的機関、およびその他の集合体について特定をする必要がある。彼らは、直接的あるいは間接的に、現場でのアクセスを容易にし、活動の成功を保証できる立場にあるからである。逆に、場合によってはあなたの活動を妨害し、安全を脅かす可能性もある。リスクを最小限に抑えるには、相手の興味や利益、関心がどこにあるのか（自分のそれと合致しているのか、対立しているのか）、また、自分たちの活動に対する影響力の有無を理解することが重要である。

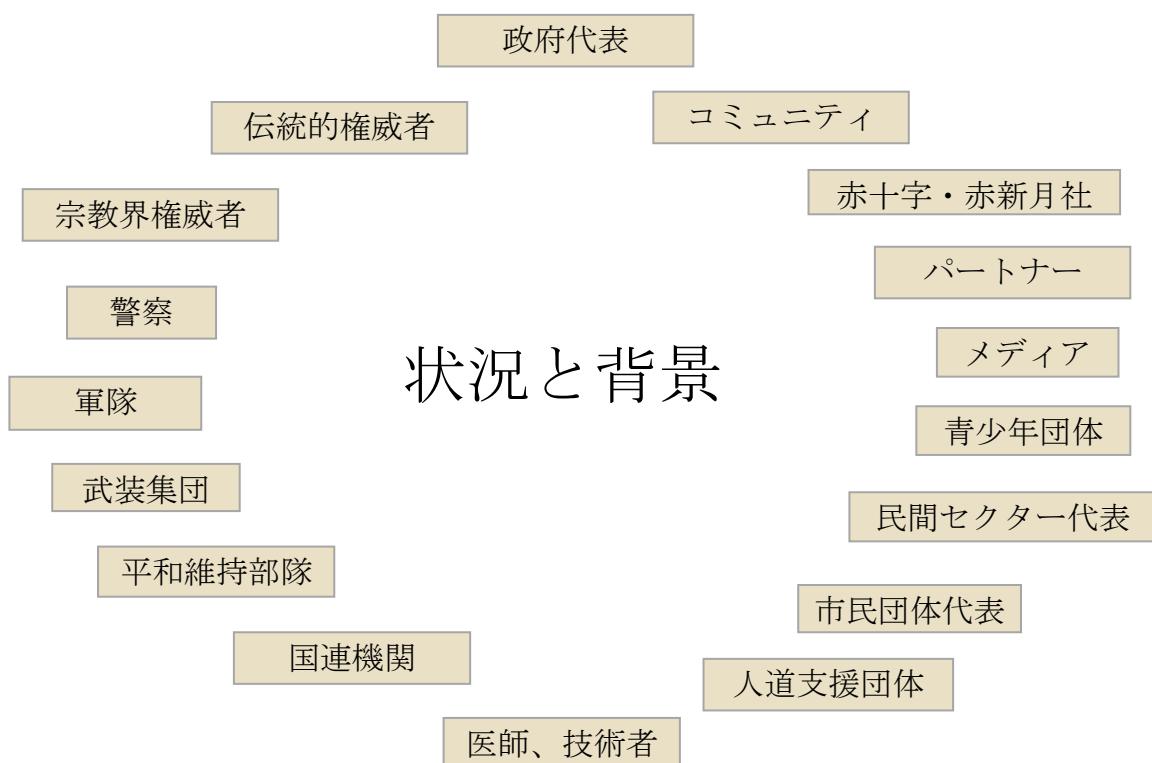
これには、次のことを行うとよい：

- ・人道的状況に利益または不利益となる影響を与える個人や団体を特定する
- ・相手の関心や利益、特に自分たちの活動にとって問題になる可能性があるもの、または自分たちの活動が問題になる可能性があるものを理解する
- ・他の利害関係者への影響を含め、その地域における相手の影響力の程度を理解する
- ・複数の個人や団体の間の相互作用（同盟など）の種類と程度を理解する

相手とは誰のこと？

最初のステップは、活動環境に利益／不利益となる影響を与える可能性のあるすべての個人や組織のリストを作成することである。これには、国境を越えて広がりを持つ組織（国際的な犯罪ネットワークなど）を含む、地域内および外部に拠点を置くすべての組織が対象となる。単にその国やその地域に存在する当局の代表者や武装集団だけではない。たとえば、深刻な民族間の緊張があり、政府の力が弱い場合、伝統的な権威がかなりの権力を行使する場合がある。他には、宗教指導者、市長、民間企業、青少年団体、さらには、意外に思われるかもしれないが、バイクに乗っている若者集団が力を発揮することもある。忘れてはならないのが、女性やマイノリティの代表者も含めること。病院の院長やコミュニティのメンバーなど、直接の被害者も影響力を行使することがある。

しばしば「主要アクター」と呼ばれる人たちを特定することは、グループまたは個人の持つ公式な役割を超えた部分を見る意味である。公式にはそんなに重要な役職に就いていなくても、民兵や犯罪ネットワークの偉大な長かもしれない。

図1：関係者の例¹⁴

誰が、何を、どのように、誰と？

次のステップは、戦時に何らかの役割を果たしている人々、紛争から生じる人道上の懸念、利益を得る人々、およびあなたの活動を成功させるのに重要な人々を特定し、それらが持つ力や関心事、自分たちとの関係性、影響の度合いを理解することである。また、相手の真の関心事は、公式に謳うそれとは大きく異なる可能性があることを心に留めておかねばならない。現在に至るまでの ICRC との関係を考慮し、自分の存在が相手にプラスに働くのかマイナスに働くのか、また逆に、相手の影響力が自分の活動やフィールドへのアクセスにどう及ぶのかを考える。

誰と関係を築く必要があるか？

利害関係者のリストができれば、安全確保と人道支援の課題、および場合によっては活動の計画と実行について、誰と対話を試みるのがよいかが判断できる。重要なことは、他の関係者を無視することはせずに、最も重要な有力者を優先することである。利害関係者の中には、あなたの活動に関係がないか、権限や影響力がほとんどないものもいれば、対話を望まないものもいる。その場合は、メッセージを伝えることができる仲介者を見つける必要がある。

¹⁴ この図に示されている各グループ間の相互作用は、実社会を反映したものではない

関係者の優先順位—2つの選択肢



影響力：利害関係者が、目的の達成を支援または妨害し、他の人にも同様のことを行うよう説得または強制する能力。

重要性：関係する利害関係者のニーズと利益を満たすためにあなたが与えた優先度。

図 2：重要度と影響力に沿った、関係者の優先度



図 3：あなたの活動を支援するか阻害するか、その度合いを基に優先順位を付ける¹⁵

¹⁵ この図に示される分類は、実社会を反映したものではない。

3.1.5 情勢と活動は互いにどのように影響し合うか

情勢の分析は、自然環境、暴力の根底にある要因、セキュリティに影響を与える要因、最も重要な影響力を持つ人物など、組織外の要因の理解にはとどまらない。自分たちの組織が現地でどのように認識されているか、その地域での足跡（経済的およびその他の観点から）、ニーズを効果的に満たすための活動能力、および実施している活動の種類など、ICRC に関連する要因も考慮しなければならない。

あなたは方程式の因子のひとつであり、したがって、リスクの源でもある。あなたが引き起こすリスクは、目に見えて簡単に識別できるものと、そうでないものがある。

あなたは方程式の因子のひとつであり、したがって、リスクの源でもある。あなたが引き起こすリスクは、目に見えて簡単に識別できるものと、そうでないものがある。

人道支援従事者は、自分が行っている活動は間違いなく良い評判をもたらし、人々に受け入れられるに値すると考える傾向にある。しかし実際物事はもっと複雑であり、批判的な分析も必要である。たとえば、どちらか一方を支持し、もう一方を阻害または無視していると見なされる可能性は排除できない。また紛争下では、負傷した元戦闘員を治療することは、敵対勢力からは自分たちの敵が戦闘に復帰するのを助けていると見なされることが多く、これは疑惑と憤慨を引き起こす可能性がある。国内避難民を支援することは、自分たちのニーズも同じくらい大きいと考える地元住民らとの緊張を引き起こすこともある。ICRC の評判が良いため、当該地域での活動が受け入れられているという前提で仕事をするのではなく、もっと慎重になる、あるいはその逆を想定する方がよい。

以下の点を把握しておくことは、活動と情勢の相互作用を理解するために役に立つ。

- ・当該地域での外国人職員を含む国際機関に対するイメージと、それに対する一般市民の態度
- ・国際機関の存在が地域経済にどのような影響を与えているか（たとえば、物価の上昇）
- ・提供された援助の中長期的な効果
- ・当該地域における ICRC や赤十字運動のパートナーや協力団体の歴史と評判
- ・ICRC が当該地域で巻き込まれた過去のセキュリティ案件
- ・さまざまな現場の団体が ICRC とその原則、展開している事業をどの程度理解しているか

- ・あなたの道徳上の目的と、当該地域の影響力のある団体の利益との間の整合性
- ・あなたの活動によって引き起こされた、または悪化したコミュニティ間の緊張
- ・あなたの活動の範囲の外に置かれたコミュニティ、グループ、または個人
- ・現地の個人またはコミュニティの ICRC に対する反感

活動現場の事情について自分はすべてを知っているという
考えは間違っている！

3.1.6 情勢分析: 避けるべき 8 つの過ち

1. 現地情勢の分析は自分の仕事ではないと考えること
2. 事実ではなく、仮説、印象、個人的な信念のみに基づいた分析
3. 事実と比較せずに、疑わしいまたは出所の限られた情報への依存
4. ICRC 内で入手可能な情報を利用しないこと
5. 同僚の視点に対して自分の視点を吟味しないこと
6. 状況を理解していると主張し、自分の仮定を疑わないこと
7. 分析を更新せず、現地のダイナミクスの変化を過小評価
8. ICRC の存在と活動は、状況に影響を与えないと考えること

3.2 リスク管理

セキュリティに関するリスク管理は個人の問題にとどまらない。代表部やオフィスなど各 ICRC 抱点の長は、その地域における職員の安全と活動に責任を負っているため、適切なトレーニングを受け、当該地域を担当する専門アドバイザーのサポートを受けることができる。一般的なアプローチとして、最低限のセキュリティ要件（すべての ICRC 抱点に適用される）に、個々の状況で特定されたリスクに適した対策を補足することである。

ICRC は、管理者とそのスタッフのための方式を編みだした。使い勝手が良く、煩雑な手続きを回避し、セキュリティリスクを評価するための標準的なプロセスとツ

ールから成り立っている。これは、スタッフが活動している現地の事情や、専門知識、分析能力、急速に変化する状況を評価する能力に関して獲得した経験と知識に依存している。

3.2.1 協調プロセス

リスク管理は、現地情勢の分析から始まる。誰もが自分の視点を基にこの分析に貢献できる。専門職に就いている者から運転手、エンジニア、医療専門家まで、分析に加わる人が多様であればあるほど、状況をよりよく理解することができる。情報交換とこの種のリスク評価の演習への参加は、ICRCの職員に限定されず、状況に応じて同伴家族や、ICRC以外の赤十字運動で働く職員も参加することができる。

あなたの視点は不可欠である！セキュリティについて話し合う機会を必ず設け、状況についての理解を同僚と共有すること。

3.2.2 方式

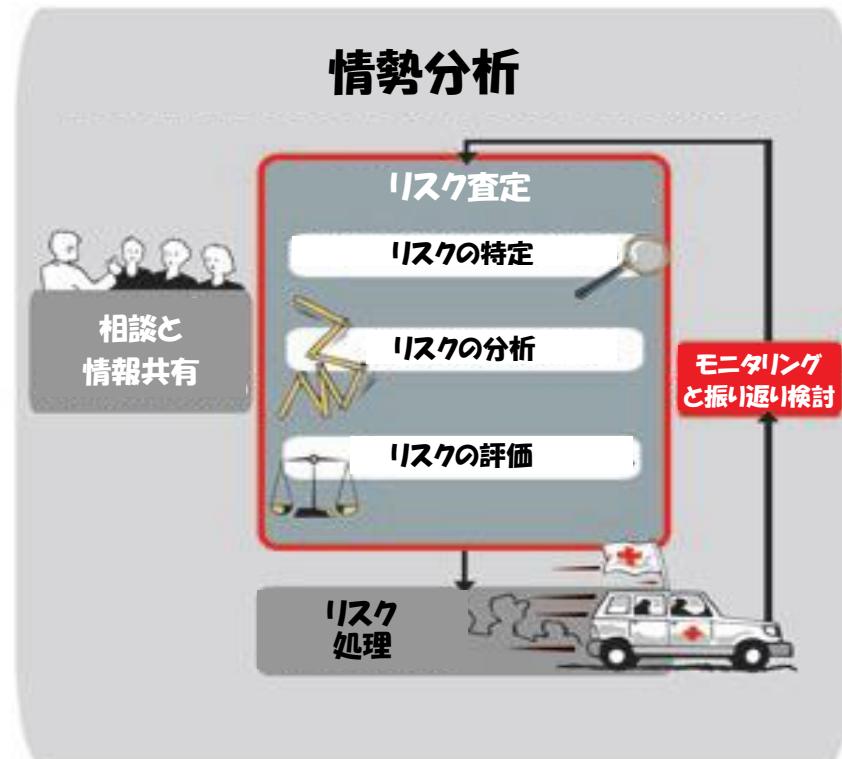


図 4 : ICRC のリスク査定方式¹⁶

¹⁶ 2009 年に国際標準化機構(ISO)によって採用され、2018 年に更新されたもの (ISO 31000) に相当する。

下図は、ICRC のリスク調査のプロセスを示している。チームのセキュリティを担当する ICRC の長であろうと、日常生活を送っているスタッフであろうと、ロジックは同じである。

リスク査定	特定	<ul style="list-style-type: none"> ・状況の精査 - 最終目標を特定する ICRC がどんな環境下で活動しているのか記述する（例：情勢の概要、紛争/暴力の発生源と関係者、人道支援団体の存在と受け入れ、特に ICRC の受け入れの程度）。現情勢下での ICRC の活動の目的やロジスティクスを含む活動範囲などの内部事情、ネットワークの質、組織の評判について記述する。該当する場合は他の赤十字運動パートナーの活動の評判も含む。 ・シナリオを想定する - この環境下でスタッフに何が起こり得るかを想像する。 組織にとってのリスク要因を特定する。同僚や業務はどのような形で危険にさらされているか、またはさらされる可能性があるか？危険にさらされている場合、どのような結果が考えられるか？リスクの要因、脅威が存在する時間や場所など、詳細な情報を把握しているほど、より正確なシナリオが描け、リスクを回避または軽減できる。あるいは効果的なリスク対策を詳細に検討することで、より多くの利益を得ることができる。
分析	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクの分析 - 特定されたリスクを軽減するための措置を編みだし、既存のものを改善する リスクを回避または軽減するため、あるいはリスクの結果に対応するための対策の有効性を評価し、ギャップを特定する。ここでは、意思決定が伴う各シナリオに対応するリスクのレベルを特定することができる。
	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・決定を下す - 特定されたリスクに最も適した対処法を選択する 管理者は、特定の地域での活動がもたらすであろう人道的効果を、さまざまな状況における最終的なリスクレベル（つまり、すべてのリスク軽減措置が講じられた後に残るリスク）と比較する必要がある。この評価には困難が伴うことが多いが、それぞれの場合に必要な対処法や行動を決定する。つまり、リスクを受け入れるか、軽減するか、回避するか、またはリスクを転じさせる。

セキュリティリスクを評価する方法と、どの方策をとるかを決めるツールがある。これらを使うこと！

3.2.3 必要な方策をとる

リスク査定が完了したら、特定したリスクに対処するために、それを行動計画に落とし込む。行動計画は非常に重要で、ここでリスク軽減措置の実施に関する全員の責任とともに、優先順位を定める。また、これらの対策を特定のリスクのシナリオと結びつける。たとえばリスク分析で偶発的な銃撃のリスクが特定された場合は、シェルターを設置する。暴力的な侵入の場合は安全な部屋を設置するなどである。また、実行計画を作成することで、共同リスク評価プロセスに基づく安全規則の背景にある論理が理解しやすくなる。

このように、共同のセキュリティリスク管理プロセスは論理的なシステムであるため、個人レベルに簡単に置き換えることができる。たとえば、道路を横断する前に、さまざまな情報（視覚、聴覚、触覚）をもって分析する。横断するかどうかの決定は、場所によっても異なる（都会か田舎か、厳格な交通規則が守られているか、完全なカオスかなど）。毎日、どのような活動をしていても、似たような決断を下さなければならず、その内容は現地情勢や状況によって異なる。

状況査定によって、以下を知ることができる

- ・どのようなリスクに遭遇する可能性があるか
- ・それらのリスクを処理するうえで適切な準備をしているか
- ・自分の職務上の責任として、それらのリスクとどう対峙すべきか

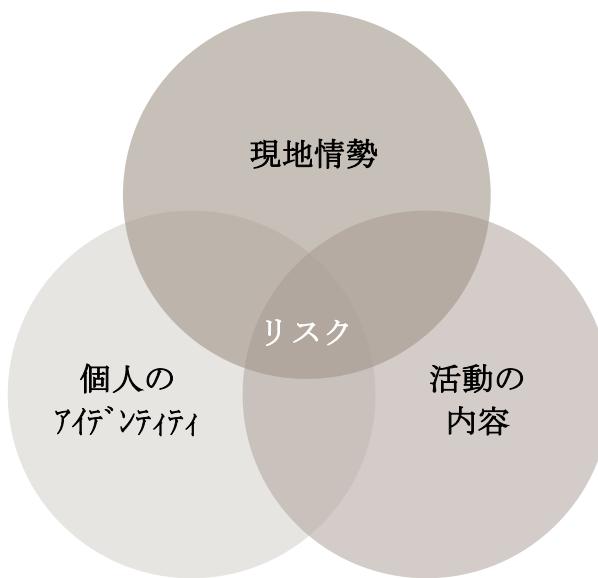
3.3 すべての人が等しく危険か？

人道支援組織にとって、世界中にいるスタッフの異なるプロフィールとスキルが相乗的に作用していることは、大きな利点である。ただし安全面においては、自身のアイデンティティや現地情勢、および現場での役割が相互に作用して何らかの影響を受ける¹⁷。



2つの例：民族間の紛争では、紛争当事者と同じ民族のスタッフが、他の民族出身者からなるコミュニティで活動する場合、紛争に関与していない民族出身のスタッフよりも大きなリスクにさらされる。身体に障がいがある人は、緊急時に建物から脱出、避難するのに時間がかかる。

¹⁷ Global Interagency Security Forum (GISF), Managing the Security of Aid Workers with Diverse Profiles, GISF, 2018: <https://gisf.ngo/resource/managing-the-security-of-aid-workers-with-diverse-profiles/>.



1. 個人のアイデンティティ（国籍、民族、宗教、性別、性的指向、障がい、年齢、学歴、経験、政治的意見など）
2. 現地情勢（法律、文化的規範、紛争の性質、所属組織、活動環境など）
3. 活動の内容（特定の情勢下での活動に求められる慎重さなど）

図 5：あなたを弱い立場に追い込む主な要因

したがって、セキュリティについて考える際には、個人の特性についても考慮しなければならない。ICRCは、客観的なリスク評価に基づいて、特定のリスク軽減措置を講じる。これはたとえば、あなたにとって危険であると考えられる活動にあなたを従事させないこと、あるいは特定の地域にあなたを送らないことなどを決定すること、などである。この決定は、常に躊躇なく明確にあなたに伝えられる。このような措置は、あなたの個人的な特徴に関連するものを含め、予測可能なリスクからあなたを保護する上でのICRCの義務でもある。

あなたが誰であろうと、あなたの個人的特徴、ICRC内の役割、そしてあなたが活動する現地の情勢が組み合わさって、安全性が左右されうる。このことを認識し、関連する懸念事項について上司と話し合うこと。

3.3.1 現地スタッフと外国人スタッフで異なるリスク

一部の活動は、現地スタッフではなく、国内の他の地域から来たスタッフまたは外国人スタッフに任される。これは一般的に、必要な技術が現地にない場合や、慎重さを要する特定の活動が現地の人により危険をもたらす場合、あるいは外国人スタッフを使用することがより中立的で公平であると認識される場合などである¹⁸。この措置は、状況によっては利点にもなり、問題にもなる。

あなたの出身がどこであろうと、以下に留意すること：

- ・自分のセキュリティの最終的な判断者は自分自身。自身の特質が活動時に危険をもたらす可能性があるかどうかを判断するのは自分自身である。
- ・自分と自分の家族に対して ICRC がどこまで責任を持つのかについて ICRC と話し合う。特に逮捕時や避難時。
- ・赤十字 7 原則、ICRC の活動方針、およびそれらがあなたの安全にどう作用するかを完全に理解していることを確認する。
- ・特定の活動で積極的な役割を果たしたり、特定の地域で働いたり、特定の個人や団体と接触したり、特定の情報にアクセスしたりすることに不安がある場合は、上司に相談する。
- ・情報を収集する際にどの程度まで詳細に及ぶ必要があるかを上司に確認し、絶対に必要な情報だけを収集する。
- ・活動の過程で、相手から難題を持ちかけられたら、決定については自分の責任の範疇ではないということを説明する。

自分の限界を知る。行動してはいけない時、あるいは活動をストップするときを知る—このことが、あなたとあなたの同僚の命を救う。

-
- ・自分自身や自分が知っている人が、地域社会、当局、武装集団、諜報機関、またはその他の団体から圧力、脅迫、または報復を受けている場合は、信頼できる上司に直ちに知らせること。

¹⁸ 2020 年夏時点で、ICRC は 20,003 人のスタッフを抱え、18,759 人がスイス国外の現場で働いている。そのうち 2,654 人が国際要員で、16,105 人が現地採用のスタッフ。

- ・同僚の態度が、その地域の文化や規範にふさわしくないと思われる場合は、それとなく伝える。必要であれば上司に相談する。

3.3.2 ジェンダー

一般に、女性の方が男性よりも大きなセキュリティリスクにさらされるという誤解がある。ジェンダーが相互関係に影響を与え、一般的に女性が男性よりも性暴力にさらされやすいのは事実であるが、女性の人道支援従事者が男性の同僚よりも被害を受けやすいというのは事実ではない。

他人からどう見られるか、また、その人が醸し出すイメージに伴うリスクは、主にその人の態度と、他人と接する際に示す気配りの程度によって決まる。地元の社会文化的な力学に関する充分な理解、傾聴する能力、感受性、偏見のない考え方、職業人としての敬意を持った接し方などはすべて、性別よりも人道支援をする際の安全に大きく影響する。多くの場合、職務経験はあるが人道支援に初めて従事する若い女性は謙虚で、傲慢で他者を敬わない若い男性よりも容易にコミュニティからの尊敬を得ることができる。

現地事情からくる社会文化的なルールを認識し、それに沿った行動をしなければならない。これには男女とも従うことが前提のジェンダー特有のルールも含まれる。

女性のみ、あるいは男性のみに適用可能な推奨事項はない。以下は、性別に関係なく、すべての人を対象としている。

- ・勤務地における社会的および文化的規範を尊重する。
- ・性暴力に関して、自分ができる予防策、および対応措置について調べておく。
- ・個人の自由の侵害を感じたとしても、現地の規則に従った服装を身につける。
- ・自分が住んでいる場所で、特定の予防措置を講じる必要があるかどうかを調べる。
- ・夜間に一人で動き回るのを避けるべきかどうかを調べる。
- ・タクシーでの移動が許可されている場合は、ICRC 公認のタクシーカーを利用する。

- 誰かがあなたに嫌がらせや脅迫をしている場合は、すぐに上司または信頼できる人物に連絡する。ICRC 内の第三者委員会である Ethics, Risk and Compliance Office に助言を求める 것도できる。

3.3.3 性的指向

寛容は赤十字運動の価値のひとつであるが、当該国の社会の規範と法律はまた別の問題である。状況によっては、同性の誰かと公然と関係を持っていると、危険にさらされる可能性がある。一部の国では、国内法あるいは宗教法によって同性愛が禁止されており、処罰の対象となっている¹⁹。ただしこれらの法律がどのように実施されるかは、関係する社会の規範に依存する。同性愛が違法であるにもかかわらず、社会的には比較的寛容なところもある。

ICRC は、客観的な分析に基づいて、あなたが任務を行う地域で特定の性的指向が安全上のリスクをもたらすかどうか、もしそうであれば、それらのリスクを減じるためにどのような手段を講じることができるかを教示する。

- 情報を得ること。性的指向に関するリスクがわかっていないれば必要な対策を講じることができる。
- 赴任国の法律や社会規範について調べておくこと。
- 自分の性的指向に関する懸念を、上司に相談する必要があるかどうか判断すること。
- 派遣先の国や地域の社会規範に合わせて行動すること。
- ソーシャルメディアには注意すること。あなたは見られており、あなたが言ったことはあなたへの攻撃材料となり得る。
- 誰かがあなたに嫌がらせをした場合、それが当局であろうと同僚であろうと、憤慨せず、可能な限り落ち着いて礼儀正しく対処し、信頼する上司にすぐに知らせること。
- 性的指向は個人の私生活に関するものである。同僚の性的思考を暴露して同僚を危険にさらさないこと。

¹⁹ 性的指向に関する法律に関するレポートについては、ILGA World、ILGA World, Sexual Orientation Laws in the World, 2020: <https://ilga.org/map-sexual-orientation-laws-december-2020> を参照。

自分の個人の信条と ICRC の価値観、および派遣先の国の法律と規範を区別しなければならない。

3.3.4 自分は同僚よりも危険な状況にいるか？ 自身への 7 つの問いかけ

1. 派遣先の法的および社会文化的状況において、個人的特性が自分の安全にどのような影響を与える可能性があるのか？
2. ICRC が自分に課す可能性のある制限を受け入れる準備はできているか？
3. 赤十字運動の基本原則を適用することは、どの程度困難か？
4. 自分に求められたことを実行できると信じているか？
5. 自分は同僚よりも危険にさらされているという印象を持っているか？
6. 特定の活動に参加しない方が安全か？もしそうなら、そのことを上司に話したか？
7. 同僚、当局、コミュニティのメンバーなどに、自分がどのようなイメージを与えているか？そのイメージは問題を引き起こす可能性があるか？

4. 武装した人々

支援を必要としている人々を助けるため、あるいは単に周囲の暴力に対処するために、軍や武装グループのメンバーと接触することになるであろう。アンリー・デュナンが 1859 年のソルフェリーノの戦いで負傷した兵士の応急処置を体系づけ、政治指導者に戦争の犠牲者を保護するよう説得したときに今の赤十字のアイデアがすべて始まっていたことを覚えておくことは重要である。言い換えれば、ICRC の最初の支援対象者は兵士であった。今 ICRC は、国際人道法の研修や応急処置研修の提供、負傷者の治療、捕虜の訪問、行方不明者の追跡調査や受益者が属している地域社会の支援を行っている。

武器を所持する人々は、人道支援を要する状況下でかなりの影響力を行使するだけでなく、あらゆる紛争地域で主導的な役割を果たすため、あなたの活動を支援することも妨害することもできる。既に武器所持者に対して一定の偏見を持っているかもしれないし、嫌な経験をしたことがあるかもしれない。しかし ICRC で活動する場合、武器所持者がいる地域で安全に活動するためには、相手の信頼を得なければならず、個人的な意見や偏見を脇に置いておく必要がある。

本章では、遭遇する可能性が高い武器所持者について記述するとともに、現場でのセキュリティを確保するためのアプローチの仕方や主要課題について説明する。

4.1 なぜ武装した人たちと話すのか？

ICRC はその使命として、地域に影響力を持つすべての人と対話をしなければならない。仮に私たちの活動を政府が管轄する地域に限定すると、活動の半分しかできないことになるため、非国家主体の武装グループとも対話をする。武器所持者のすべてと対話の機会を持つ理由は 3 つある。

1. 現地に受け入れてもらうことは安全管理の柱のひとつであるため、ICRC とそのパートナーの存在と活動が周知され、尊重されるよう徹底する。
2. 被拘束者や負傷者など、支援を求める人々に安全にアクセスできるようにする。
3. 国際人道法の遵守と人道の諸原則の尊重を促進し、人道法違反や虐待を減らす。

武器所持者は、人道支援を要する状況下や現場へのアクセスをめぐってかなりの影響力を行使する一方で、しばしばICRCの活動により恩恵を受けることもある。また、国際人道法違反や不当な扱いについて、二者間で守秘義務に則って話し合う必要がある対象もある。

4.2 武装した人たちにはどんなタイプがいるのか？

武器所持者は、その目的、文化、人数、指揮命令系統、軍事能力、作戦遂行の仕方、支配する地域、支援や資金の調達方法などにより、さまざまなタイプがある。国家を守る立場の者もいれば、そうでない者もいる。明確なイデオロギーを持っている者もいれば、あいまいな目的意識を持ち、命令によって作戦を実行するだけの者もいる。組織犯罪ネットワークに関与している者もいる。中央集権的に運営されている組織化の者もいれば、独立したサブグループで構成された横のつながりの中で動いている者もいる²⁰。

4.2.1 国軍



²⁰ ICRC, The Roots of Restraint in War, ICRC, Geneva, 2018: <https://shop.icrc.org/the-roots-of-restraint-in-war-pdf-en>.

「軍隊」または「政府軍」は、国家の軍隊を指す。これらは、あなたが活動している国の正規軍であるか、もしくは国連の一部として、紛争に関与している外国の軍であることもある。

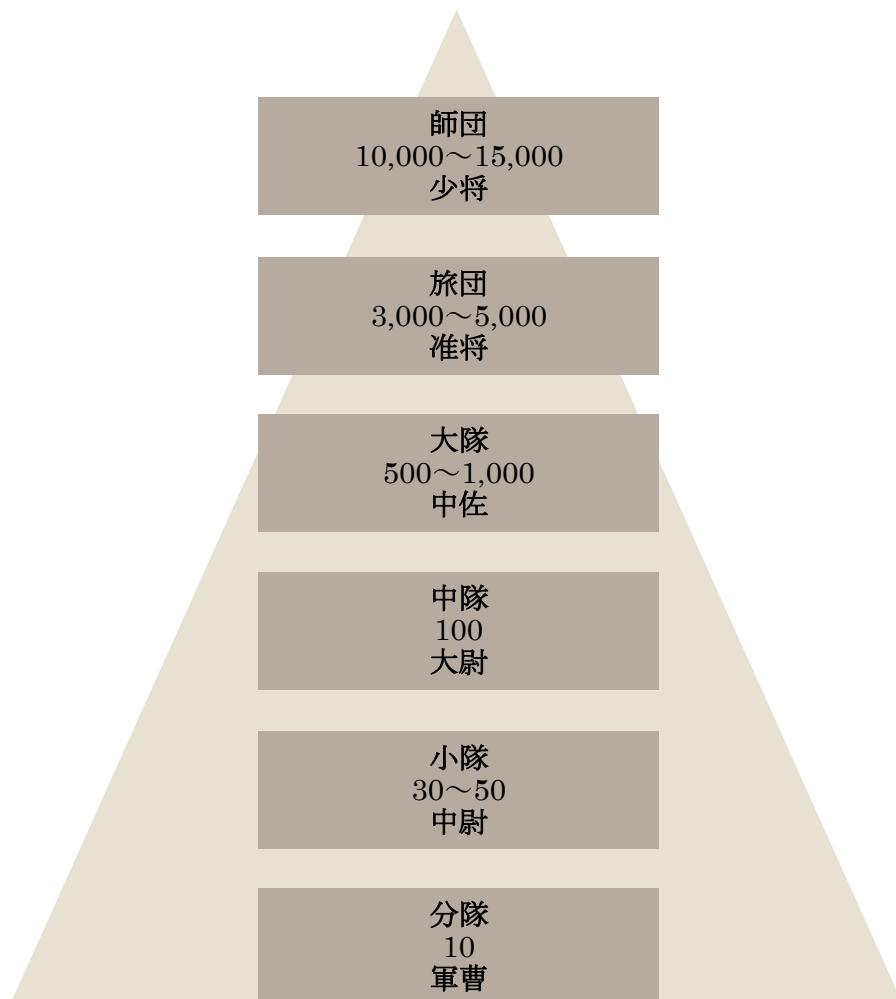
国軍は、多くの場合、陸軍、海軍、空軍に分かれている。ICRC が主に接触するのは、歩兵や砲兵などそれぞれ独自の役割、装備、技能を持つ多様な兵科で構成されている陸軍である。軍隊には階層構造があり、明確に定められたトップダウンの指揮命令系統を持つ。軍人は厳格な軍規に従う義務があり、統一された方法で適用される書面による規則が定められている規則に違反した軍関係者は、軍法会議によって課せられる罰則の対象となる。軍事作戦を行っていないとき、軍人はキャンプに住んでいるため、民間人との接触はほとんどない。軍隊に所属するほとんどの要員は、軍事訓練を受けており、これには国際人道法の基礎も含まれている。

本来政府軍は、目視できる記章が付いた同一の制服を全ての要員が着用しているため、他との識別は容易である。一方で、武装勢力のメンバーも政府軍の軍服を着ていることが多く、識別をより困難にしている。国軍のもうひとつの利点は、最高司令官が軍全体を拘束するコミットメントを交わす権限を持っていることである。上級将校が ICRC の活動を尊重すれば、現場にいる部隊全体が活動を尊重してくれる可能性が高くなる。ただし、用心に越したことはないため、その逆も想定しておいた方がよい。軍隊が人道支援活動の内容について基本的な理解を持っていることも期待できる。また軍のロジスティクスは、自然災害時に支援を提供したり、インフラを再構築したりするためによく使用される。

しかし、すべての軍隊がこのように体系だった中で活動しているわけではないことに注意しなければならない。軍隊が国家の名の下に戦っており、その要員が明確に識別可能な制服と記章を着用しているという事実によって、軍が規律をもって効率的にプロ意識のもと活動しているという印象を持つことは完全に誤りである。実際、指揮官は想定よりもはるかに軍隊を制御する力を持っておらず、規律から大きく逸脱した行動につながることがある。軍隊の一部が、その指揮命令系統に従わずに、他の武装グループと連携することすらある。これらは、軍が広範囲に分散していてコントロールが難しいこと、軍内部の氏族/民族グループ間の対立、あるいは単に報酬をほとんど、もしくはまったく受け取っていないことなどが原因となって起こる。軍が結成して間もなかつたり、武装グループの元メンバーを吸収したものであつたりすることも多い。

そのような場合、ほとんどの部隊が若く、経験が浅く、プロ意識に欠けている。また、意志に反して徴兵されたために、所属する組織の目的に共感しない者もいる。

典型的な軍の構造²¹



世界中の軍隊はそれぞれ異なる構造を持つが、少なくとも歩兵に関しては、かなり似かよっている。約 10 人の兵士からなる 3 つの部隊（または分隊）が 30 人から 50 人の小隊を構成し、3 つの小隊が 1 個中隊を構成する。3 つの中隊が 500 人から 1,000 人の大隊を構成し、3 つの大隊が 3,000 人から 5,000 人の旅団を構成、3 つの旅団は 10,000 人から 15,000 人の師団を構成する。歴史的に、歩兵連隊（2 個以上の大隊からなる）はかなり重要であったが、今日歩兵連隊は、戦闘編成というよりは、歴史上のあるいは儀式的な存在になりつつある。

²¹ Source: ICRC, Engaging with State Armed Forces to Prevent Sexual Violence: A Toolkit for ICRC Staff on How to Engage State Armed Forces in Dialogue on Preventing Sexual Violence in Armed Conflict, ICRC, Geneva, 2020: <https://shop.icrc.org/engaging-with-state-armed-forces-to-prevent-sexual-violence-a-toolkit-for-icrc-staff-on-how-to-engage-state-armed-forces-in-dialogue-on-preventing-sexual-violence-in-armed-conflict-pdf-en>.

4.2.2 武装集団



武装集団とは、国家のために公式な任務を帯びていない武装組織のことで、異なる目的、構造、行動規範、資金源、軍事能力、および領土管理能力を有するさまざまなグループが存在する。活動規模が地域限定か、国際的なものかを問わず、民兵、反対派グループ、ギャング、聖戦を唱えるグループなども含まれる。国内紛争の当事者である場合、非国家主体の武装グループとして国際人道法の遵守が求められる。

武装集団が分散化すればするほど、そのリーダーを特定するのが難しくなり、宗教的、社会的、政治的、または経済的な外部の影響を受けやすくなる。

一般的に武装集団は、どのように組織化されているかによって 3 つのカテゴリーに分類される²²。

- a) 中央集権型
- b) 地方分散型
- c) 地域社会型

中央集権型武装集団

一部の武装集団は縦割りで、明確に定義されたピラミッド型の指揮命令系統、明確な行動規範、容易に識別できる制服と階級章を備えた軍隊のような構造を持つ。したがって、上級指揮官はかなりの権限を行使し、軍全体を確固とした指揮下に置いている。このようなグループは、明確なイデオロギー、共通のビジョン、および

²² ICRC, The Roots of Restraint in War, op. cit. (脚注 20 参照).

中央組織への強い忠誠心を持っているものの、それは必ずしも犯罪行為をしないことを意味しているわけではない。厳格な規律の元で民間人から離れて暮らしており、厳しい訓練を受け、一般的に国際人道法の知識も持っている。ただし、グループ内のコミュニケーションが常に最適の状態にあるとは限らないため、指揮官の命令が現場の戦闘員に届かないというリスクがある。

地方分散型武装集団

ほとんどの場合、遭遇する戦闘員は前述のグループよりもはるかに上下関係が少ない組織の中で活動しており、中央集権や体系化の度合いははるかに低い。実際には、ほとんどの非国家主体の武装グループは、小さなグループ同士の同盟で構成されており、それぞれのグループの指揮官が大きな意思決定権と責任を持っている。

これらは慣習的なルールに従い、独立して活動する、小規模で孤立しているグループである。司令官はかなりの権力を有し、将軍のようにふるまう。その目的は多様で、地域の苦情を処理したり、領地を守ったり、あるいは単に金持ちになりたいというのもある。メンバーは、本格的な軍事訓練を受けていないことが多く、規律のレベルは低い。管理も行き届いておらず、現場の戦闘員はしばしば指揮官の命令を無視するものの、一般的に不処罰の文化がある。

見かけとは裏腹に、これらの小さなグループは他のグループと同盟関係を築いていることが多い、それぞれが独自の構造、歴史、目的、および資金を持っている。このような同盟は、状況や機会に応じて形成された、共通のイデオロギーを促進する単一の戦闘力となることもあり得るが、実際には軍事作戦の計画とグループ間の調整が徹底しているとは言い難い。同盟は、全体の結束を損なうことなく、機会が生じたときに変化する可能性がある。それはまた、より広い活動の一部として機能し、そのグループの地位を地域限定ではなく、より広範な、または世界的規模に上げる可能性もある。

このような、同盟関係の絶え間ない変化、その分権化された性質、規模の小ささ、および活動手段によって、しばしば混沌とした印象を与えることがある。その上、メンバーは、おそらく政府軍から盗んだと思われる制服を着用することも多く、どのグループのメンバーかを特定したり、メンバー同士が同じグループに属していることを確認したりすることは困難である。しかし、このような混沌としたイメージは必ずしも正しくない。一見組織化されていないように見えても、ある程度の構造が存在する。非常に効果的な作戦を立てる能力があり、打ち負かすのは困難である。適応能力が高く、全体が存続するためにどのサブグループが欠けたとしても問題ないからである。

地域社会型武装集団

このタイプの場合、知らず知らずのうちに武装勢力のメンバーに遭遇することがある。コミュニティの他のメンバーとは一見見分けがつかず、実際に戦っていないときは武器も持っておらず、ただ日常の生活を送っているだけである。この種の、コミュニティをベースとした武装集団（地元の民兵、自衛団など）は自発的に形成される。通常 10 人から 50 人程度の若い男性で構成されており、上下関係のない、完全に平等な構造になっている。リーダーは頻繁に変わることもある。ルールは口頭で共有され、地域の価値観や伝統に則っている。このようなグループは、一般にコミュニティの利益を守っているが、他の武装グループを支援するためや、地域の天然資源の管理のために戦闘に駆り出される可能性もある。内部の結束は、入会の儀式に基づいたものである。制服を持っているグループはほとんどないがタトゥー や体に刻んだ紋様や施した装飾など、グループ帰属を示す印をしている場合がある。

4.2.3 その他の武装した組織

民間警備会社

これらは、軍事作戦の実行、人道支援組織の活動場所を含む重要な施設の確保、情報収集、軍または警察の要員の訓練などのために雇用されることがある。

警察

警察組織は多様で、さまざまな名称、役割、構造、権限を持つ。市民警察、犯罪捜査部門、憲兵、警備員、諜報機関など、いずれについて話している場合でも、警察の基本的な役割は、地域社会に奉仕し、その責任下にある人々を犯罪行為から保護することである²³。したがって、秩序維持、逮捕と勾留、捜索と押収、武器を含む武力行使の権限を行使することによって法を適用するのが仕事である。場合によつては、警察業務の訓練を受けていなくとも、軍隊の職員（制服または私服）が警察の権限を行使することがある。

²³ United Nations, Code of Conduct for Law Enforcement Officials, United Nations, 1979: <https://www.ohchr.org/EN/ProfessionalInterest/Pages/LawEnforcementOfficials.aspx>.

平和維持軍

国連の平和維持軍は、平和維持活動の軍事的構成要素であり、文民および警察と連携して活動する。このような部隊は、国連安全保障理事会から、派遣された国の平和と安全を維持または回復する任務を受けることになる。平和維持軍は一般に、1カ国または複数の国から提供される軍事派遣団で構成される。平和維持軍の役割は任務によって異なるが、ますます多様になってきている。停戦協定が守られているかどうかの監視、秩序の維持、戦闘員の武装解除と動員解除、あるいは民間人の保護などである。民間人保護の一環として、たとえば医療退避を実施したり、治安状況を改善するための措置を講じたりして、人道援助活動が安全に行えるようにする。警察、司法制度、刑務所制度の改革など、法の秩序を促進し、平和を定着させるための活動を行うこともある。平和維持軍は、特に武装集団に対して、より広範な武力行使を許可する「強硬な」任務を行なうことがあります増えてきている。

もちろんあなたにとって脅威となるものではないが、平和維持軍が交戦国として紛争に直接参加している場合は特に、その文民と軍事の任務の多様性が現地住民の混乱を招き、中立、公平、独立を掲げるあなたの道支援活動に対する住民の見方に悪影響を与える可能性がある。特に平和維持軍が人々を保護できない場合、住民はあなたの活動に敵意を持つおそれがある。

4.3 戰闘員の特徴

ICRC が行った 2 つの研究²⁴によると、戦闘員の行動の特徴には以下が挙げられる。

権威への服従：一般的に言って、人はたとえその行動が自分自身の信条に反したものであるとしても、それが正当とされている、あるいは法律で決まっているものであると認識すれば、抵抗なく権力や当局に従うという傾向がある。これは一般に、民事よりも厳しい軍事権力下にある戦闘員の場合に特に当てはまるため、その結果として戦闘員は通常、要求されることをそのまま遂行する。他の戦闘員と共に、軍事訓練、および、悪者と決め付けて人間性を否定してきた敵に立ち向かう準備をすることによって、その従順さはより強固なものとなる。

²⁴ D. Muñoz-Rojas and J.-J. Frésard, *The Roots of Behaviour in War: Understanding and Preventing IHL Violations*, ICRC, Geneva, 2004: <https://shop.icrc.org/he-roots-of-behaviour-in-war-understanding-and-preventing-ihl-violations-pdf-en.html>. ICRC, *The Roots of Restraint in War*, ICRC, Geneva, 2018: <https://shop.icrc.org/the-roots-of-restraint-in-war-pdf-en>.

同僚からの圧力：一般に戦闘員は、敵への憎しみや恐怖ではなく、仲間からの圧力（仲間への忠誠心、集団としての評判を守る必要性、組織の成功に貢献したいという欲望など）によって動機付けられている。内部規律に服従し、組織の性質によっては、より広い

コミュニティによって設定された規則に従い、指揮官を尊重する。仲間への忠誠心は強く、「誰一人取り残さない」などの戒律が根強くある。また、戦闘の経験を共有することで、家族間の絆よりも強い絆が生まれることもある。いわゆる「戦友」は、愛国心やイデオロギーといったものよりも戦闘を行う強い理由となる。

道徳的価値観：戦闘員は道徳的な判断をしないと仮定するのは間違いである。「私は命令に従っただけである」という抗弁は、多くの法廷や裁判所によって却下されている。軍事訓練は、習慣を教え込み、戦闘員が自分の道徳的判断を下す場面を減らすことを目的としているものの、個人の行動は依然として、文化や社会の道徳的価値観や暗黙のルールの影響を受けている。つまり、戦闘員は盲目的に命令に従うだけではないということである。個人的な倫理または「兵士の名誉」は、特に直接の監督下に置かれないで活動する場合、国際人道法に準拠して行動するということは考え得る。

宗教：特定の宗教に属することは、戦闘員がその属する集団に捧げる忠誠心を大幅に強化する可能性がある。個人の宗教的信念は、国際人道法よりも行動に大きな影響を与えることが多いということが認められている。たとえば、イスラム教徒の戦闘員は、一般的に国際人道法による決まり事よりもイスラム法の戒律に従う傾向がある。しかし、これら 2 つの法体系には多くの共通点があり、特に文民に対する攻撃の制限と、特定の戦闘方法および手段の禁止などはこれに当てはまる。

戦闘員といえども普通の人間である。仕事として銃を携行することを要求され、自分の集団に忠誠心を示しているだけである。戦闘員だからといってモラルにかけているわけではない。

4.4 武器所持者についての分析

セキュリティに関して何をするかは、その地域で影響力のある武器所持者によつて異なるため、その詳細を確認する必要がある。あなたの存在とあなたの活動を受け入れ、安全を保つためには、武装した人々が誰であるか、目的はなにか、どのように組織されているか、誰が影響を与えているか、ICRCとの関係はどうかなどを把握しておかなければならない。たとえば、対象となる武装集団に明確な階層組織がなく、指揮命令系統が機能していない場合、指揮官に申し入れたことが部下に伝わる可能性はほとんどない。また、メンバーが多かれ少なかれ独立して活動している単なる犯罪者のギャング集団である場合は、どうすればあなたの活動が妨げられずにすむか、戦略を考えなければならない。武器所持者を分析することで、人道的な諸問題にどの程度関与しているか、またそれらの問題を緩和するために武器所持者に何ができるのかを理解することもできる。

最優先事項は、相手の構造を理解し、ICRCがこれまでどのような関係を築いてきたかを把握することである。

経験豊富な同僚の経験を活かす。
彼らから、当該地域で活動している
戦闘員について教えてもらうことができ、また彼らは ICRCとの関係の
歴史を知っているであろう。

- 組織構造：**戦場でどのように活動するかを決定し、その軍事能力や、戦闘員に対する指揮官の権限も組織構造によって決まる。そこを理解すれば、意思決定者と行使する権限の種類を特定することができる。彼らが独自に作成したマニフェストや計画、指揮官リスト、部隊の編成を示す文書、行動規範、軍事マニュアル、ウェブサイト、公式声明などの文書が利用できる場合もある。この組織構造の分析は、安全を担保する方法と、誰からそれを取得するかを理解するために不可欠である。また、現地のコミュニティを含む他団体が、当該組織に影響を及ぼしているかどうかも把握することができる。もしもそういった団体があるのであれば、セキュリティに関するメッセージの伝達や、必要に応じて支援を求めることができる。

2. ICRCとの関係：武器所持者と ICRCとの関係の歴史は、お互いの信頼度に大きな影響を与える。歴史を知れば、ICRCとの対話が行われたレベルと質もわかる。歴史を振り返ると、当該組織に関連して生じた障害と成果を理解するのにも役立つ。また、ICRC、我々のパートナー、あるいは他の人道支援組織に影響を与えたかどうかにかかわらず、それらに関連するセキュリティインシデントについて知っておくことも重要である。過去の ICRCとのやり取りを調べると、武装した組織があなたの存在と活動をどの程度受け入れ、容認し、あるいは拒否しているのかが明らかになる。

*ICRCに関する出来事の記憶は、それがポジティブなものであろうと
ネガティブなものであろうと、武装した人々があなたに示す敬意の程度に
大きな影響を与える。*

武器所持者の分析	
主な指標	指標に関するセキュリティ因子
組織構造	
イデオロギー、戦略的目的と動機 (政治、経済、民族、宗教など)	<ul style="list-style-type: none"> - ICRCのアイデンティティとイメージ、およびあなたの個人的なプロフィールがどのように問題を引き起こす可能性があるか - あなたの人道的目的が相手組織の目的と衝突する可能性があるか
意思決定 階層の種類、規律と制裁を含む指揮統制能力、内部コミュニケーション、教育、訓練など	<ul style="list-style-type: none"> - セキュリティについて誰に相談するか。通知に関する戦略はどうあるべきか - 誰が兵士に命令を下し、それらの命令がどれだけ効果的に伝達されるか - それらがどの程度実行されているか - ICRCに影響を与える相手組織の決定を実行する能力
識別手段 制服、記章、階級章、身体に描く紋様や施した装飾など	<ul style="list-style-type: none"> - 相手組織の構成員と、意思決定力を特定する
領土上の影響力の範囲 (および地域外で行使する影響力)	<ul style="list-style-type: none"> - そのエリアでの安全保証を取得するためにどの組織に連絡をすればよいか - 同僚や、本部を含む ICRC の部署からサポートを得る必要があるかどうか

武器所持者の分析	
主な指標	指標に関するセキュリティ因子
組織構造	
相互作用/隔離の度合い (権力やコミュニティ関連)	<ul style="list-style-type: none"> - あなたの活動がどれだけ受け入れられるか。これは支援しようとしている人々の安全確保にきわめて重要である - 当該組織があなたの活動から間接的に利益を得るか、どのように利益を得るか - あなたが地元の人々を動員する際、影響力を行使し、支援してくれる相手かどうか
外部との連携、影響力、支援の有無 国や、国内外のあらゆるレベルで活動する武器所持者	<ul style="list-style-type: none"> - 必要に応じて ICRC が頼ることのできる相手かどうか - 当該組織が、より広範囲なネットワークに所属しているか、または影響を受けているか（これは現場でさらなる脅威となる可能性がある）
ICRC との関係	
過去から現在までの関係性	<ul style="list-style-type: none"> - 構築された信頼の度合いと、過去に経験した障害
影響下にある地域へのアクセスのしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> - ICRC とその活動がどの程度受け入れられているか
対話における信頼性	<ul style="list-style-type: none"> - 適正なコミュニケーションと通知に関する戦略
セキュリティインシデント (ICRC あるいは他の人道支援団体が巻き込まれたものかどうか)	<ul style="list-style-type: none"> - 安全管理とロジスティクスの計画策定において考慮すべき過去のインシデントの把握

4.5 課題



ここまで来てお分かりのとおり、安全に活動するには、武装するすべての組織や団体との関係を維持し、あなたの活動を確実に受け入れてもらうために、多くの課題を克服しなければならない。

武装した人々との接触遭遇：危険な環境、または道路が悪く損傷していたりそもそも道自体がない場所で、物理的に会うことが難しい場合がある。

- ロジスティクス面をはじめ、武装した組織と会う際の危険因子を軽減するための適切かつ効果的な方法についてチームで話し合う。ビデオ通話などのテクノロジーの使用も選択肢のひとつではあるものの、対面での対話に勝るものはない。

誰が誰であるかを知る：あなたは政府軍の制服を着た兵士がいる検問所に来た。それはまさに陸軍の制服を着た地元の民兵組織のメンバーで、その「使命」は通行人から金を奪うことであった。あなたが今話しているは指揮官か？ いいえ、彼はただの兵士で、決定権はない。彼は教師かもしれない？ だとしても、学校の教室の外では、彼は地元の民兵組織の一員である。誰がどの団体に属しているかを把握することは、多くの場合見た目よりも複雑である。特に、制服や階級章の有無は紛らわしい。話している相手の階級は、その人物が組織内でどの位置にあるかを示している

ため、知つておくのは重要だが、実際どのようなポストを占めているかを知ることも同様に重要である。それによって、負っている責任や役割、組織内での影響力がわかる。

- ・同僚たちの力を借りて、現場に存在するすべての軍隊や武装集団のマッピングをしておき、定期的に更新する。
- ・各組織がどのような制服を着ているかを確認し、その他の特徴もとらえる。体に刻んだ紋様や施した装飾、入れ墨、使用言語などは、どこのメンバーかを特定するのに役立つ。
- ・コミュニティメンバーと話すときは、友人や家族の誰かが兵士であるかもしれない、紛争当事者のどれかを支持しているかもしれない、あるいはその人自身が武装集団の一員であるかもしれない、ということを想定して話をしなければならない。また、現地スタッフの中にも、軍や武装集団の上級職に就いている兄弟や親戚がいるかもしれない。

見かけ上の目的と実際の目的を区別する：武装集団の本当の目的は、表立てた目的とは大きく異なる場合がある。一見崇高な大義は、主に金融/犯罪絡みのビジネスの隠れ蓑である可能性もある。ただ、根掘り葉掘り質問をするのは賢明ではなく、大義についてはある程度あいまいなままにしておく方がよいことが多い。

- ・確実なことは、自分の活動が地元の武装集団の利益を損なう危険がある場合、自分自身が危険にさらされるということである。
- ・金銭をどこから得ているのかを決して尋ねない。
- ・たとえ誰もが犯罪に関与していると知っていたとしても、相手が何らかの犯罪に関与している可能性があることをほのめかしてはならない。

意思決定者の特定：その組織に明確な階層がない場合、誰が命令を出し、誰が決定を下し、誰が影響力を持っているのかを理解するのが難しい場合がある。場合によっては、宗教指導者や有力な実業家など、組織の外の人々が、指揮官よりも大きな影響力を持っていることもある。

- ・特に武装集団が地域社会と密接な関係を持っている場合には、民間人や伝統的・宗教的指導者、また地域社会を通じて、あなたのメッセージを武装集団に伝えることができることもある。

安全の保証を得る：あなたが関係性を保つ必要がある武装集団は、多くの場合分散化、あるいは断片化しており、場合によっては他の集団と同盟を結んだりしている。これはつまり、同じ集団内にいくつかの派閥が存在し、それぞれが互いに何をしているのか知らない可能性があるということである。派閥のひとつがあなたに与えた安全に関する保証について、別の派閥が何も知らないかもしれないし、その保証が別の派閥の利益と衝突する可能性すらある。もしかしたら、自分たちの支配地域にあなたを入れたくないかもしれない。

- ・自分が活動する地域の武装集団を詳細に分析することで、安全の保証を得る戦略を立てることができる。
- ・現場で戦闘員に出会ったときに、状況が許せば、誰から命令を受けているのかを尋ねる。

武装集団の安全保障上の懸念の尊重：武装集団は秘密裏に活動していたりする。彼らは自身の安全や評判を恐れているため、あるいは現在軍事作戦を行っている最中であるために、あなたと会うことに対して消極的である場合がある。特に、敵対勢力があなたの動きを追跡して攻撃してくるのではないかという懸念を持つかもしれない。実際に武装勢力はこれまででも、ICRCが意図せずに敵対勢力からの自分たちに対する軍事作戦を助けた、として非難してきたことがある。

あまり強引に物事を進めないこと。会合の延期の要求はすべて受け入れること。これはあなたと相手のセキュリティにとって非常に重要である。

コミュニケーション不足への対処：純粋に犯罪を目的としており、連絡の取りようもないグループが存在する可能性もある。また一部の武装勢力は、ICRCの原則に同意しない、あるいはあなたが国家やその他の団体と密接すぎる関係にあると信じている、はたまた ICRC を西側の道具と見なしているため、あなたとの対話を拒否する場合がある。

政府は時々、ICRCと特定の武装集団との接触に反対したり、武装集団に直接利益をもたらす可能性のある人道援助（たとえば負傷者の治療）を阻止したり、武装集団の管理下にある地域への立ち入りを禁止したりすることがある。政府はこれらの武装集団を犯罪者またはテロリストとみなしているかもしれないし、人道支援団体と武装集団との対話が、武装集団にある程度の正当性を与えることになるのではないかと懸念することもある。実際には、国際人道法は、「対話をを行うこと」と「立場」について明確に区別している（ジュネーブ諸条約共通第3条を参照）。

このような問題を解決するには、おそらく ICRC がより高いレベルで声を上げる必要がある。そうは言っても、現場における人脈の重要性を過小評価してはならない。伝統的または宗教的指導者、ビジネスマン、あなたが訪問する被拘束者、家畜の飼育者、看護師、あるいはコミュニティの単なるメンバーであったとしても、あなたが接触しようとしている武装集団に直接影響を与えることができる可能性がある。

アルコール、薬物などの「コントロールできない要素」：コントロールされていない、あるいはコントロール不可能な存在や個人に遭遇する可能性もある。泥酔した戦闘員による発砲などが一例で、アルコールと薬物が組み合わさると、特に戦闘員が若い場合は深刻な問題が発生する。また、敵を助けた、あるいは自分たちの村を助けるのが遅かったため、ICRC やあなた個人に対して恨みを抱いている戦闘員がいるかもしれない。ICRC が自分の家族や地域のメンバーを解雇したこと、憤慨しているかもしれない。

- ・ 酒に酔っているか薬物を使用していると思われる戦闘員には決して話しかけないこと。すぐにかんしゃくを起こし、攻撃的になることがある。あなたが何かを言うと怒り出し、コントロールを失う可能性がある。相手が話したい場合は、手短に話させ、会話を長引かせないようにすること。
- ・ 自分の活動地域に、常態的にアルコールや薬物に依存している疑いのある戦闘員がいる場合は、どう対処するのか、関わらない方がいいのかも含めて上司と確認しておくこと。

自分を受け入れてもらうための最初のステップは、相手の役割や立場を問わず、会う人全員に、人間味、共感、敬意を持って接することである。

4.6 戦闘員との接触



あなたの目的は、チェックポイントでちょっとした会話を交わす場合でも、また、自分の活動の一部として長期的に対話を行う場合でも、相手の信頼を獲得することにある。戦闘員と良好な関係を維持することは、多くの場合縄渡りのようなもので、機転、傾聴力と常識が必要であり、これらを充分に理解していないとうまくいかない。つまり一般的に、あなたのイメージや態度が、性別や国籍、役職よりもはるかに重要であることを意味する。ICRC の活動はつながっている一本の糸のようなものであると認識すること。前任者の行動がその地域の個人や団体、組織との関係を形成し、あなたの行動と後任者の行動もまたしかりで、一貫した過程での出来事である。信頼は個人レベルと組織レベルの両方で築かなければならぬ。

あなたが作り出すイメージと人間関係を構築するスキルは、相手の信頼を得る重要なツールであり、ICRC の原則と活動手段にも寄与するものである。

あなたの個人的な役割と ICRC を代表する者としての役割との間で適度なバランスを取ることは難しい。個人と組織の間に充分な距離をとっているつもりでも、あ

なたの人となりは、組織の公式見解と同じくらいの影響力を持つ。個人的な接触も重要であるが、そこには自分自身と ICRC に対するリスクも伴う。自分に責任のない決定に対して非難されるかもしれないし、政府から特定の武装勢力と近しい関係にあると糾弾される可能性もある。そして、あなたがいないことで対話は中断され、活動自体も同じ憂き目にあうおそれもある。

安全管理に関して、誰と協議すればよいか

ICRC は、その活動と協議すべき事柄に応じて、武装した人々といいくつかの異なるタイプの関係性を構築している。これは我々の分野横断的な戦略の一部である。その目的は、チェックポイントにいる兵士から戦略や政策を決定する高い地位の人まで、すべてのレベルで対話をを行うことがある。

国軍や武装集団の構造、協議すべき事柄、そしてあなたの肩書が、どのレベルにアプローチし、誰と対話するかを決定する。あなたが話す戦闘員は、あなたが何者で自分たちの地域で何をしているのかを知る必要がある。信頼を得ることができれば、相手はおそらく自分たちの活動区域の安全に関する最新情報をあなたに提供し、誰の命令下にあるか教えてくれるであろう。

4.6.1 自分が何者で何をしているかを説明する

戦闘員が、あなたが何者で自分たちの活動エリアで何をしているのかを自力で把握するのは難しい。彼らは間違いなく多くの人道支援団体に遭遇するが、それぞれを区別するのは困難である。あなたと初対面である場合、最初は疑い深く、多少攻撃的であったとしても、それは完全に正常な反応で、常に警戒を怠らないことがその役目である。あなたが懸念していることは相手の懸念とは大きく異なる。人道支援が敵対する相手を救うことに対して、双方が不安を覚えることも、また自然である。

検問所（治安状況が許せば）であろうと、木の下でお茶を飲みながらであろうと、公式の会議や説明会の場であろうと、その地域で ICRC の活動を積極的に知らせることは、すべての人の信頼を得るために役に立つ。したがって、自分が何者で何をしているのかを説明するうえで、あらゆる機会を最大限に活用すること。メッセージを伝える最善の方法は、たとえば自分の医

あなたのすることを
伝え、伝えたことを
実行する！

療活動があらゆる面で負傷者に利益をもたらしていることを説明したり、捕虜交換の際の中立的な仲介者としての ICRC の役割について話したりすることによって、その公平性を説明することである。おそらく何十年も活動してきた国であっても、ICRC の原則と我々の活動についてほとんどの人が知らないことに驚くであろう。戦闘員が、自分たちの活動地域であなたが実際に何をしているのかを知らないというだけでも誤解や不満を引き起こす可能性があり、危険につながる。最後に、戦闘員は、あなたが現場で何をしているかを監視していることを覚えておく必要がある。あなたの行動と言動が一致することを期待し、自分たちとの約束を果たすことを期待するであろう。実際に影響力のある武装集団が、ICRC が約束を守らなかつたことを理由に、安全の保障を公に撤回したことがある。

4.6.2 人間関係構築スキルの重要性

戦闘員の信頼を獲得するための魔法は存在しない。警察や一般の人々に対応するときと同じ態度で、その地域で慣例となっている方法によって敬意を示す必要がある。何よりも、相手の価値観、経験、懸念事項は、あなたのそれと異なっていたとしても、同じくらい重要であるということを忘れてはならない。戦闘員は、上司や仲間にに対して忠誠を尽くすことも忘れないこと。他人を理解するには、その人の考え方に対応する必要がある。コミュニケーションを確実にする最善の方法は、共感と敬意を示すことである。

特に：

- ・**敬意を払う**：基本は礼儀正しくあること。当該地域のやり方に倣って敬意を表す。相手を批判したり、相手の状況を理解していると主張したりしない。特に相手の仲間の前では、軽視したり屈辱を与えたり、面目を失うようなことをしないように注意する。傲慢な態度をとったり、相手の大義が無価値である、あるいは単なる犯罪者であるかのようにほのめかしたりすれば、自分の首を絞めるだけである。
- ・**傾聴する**：話すことよりも積極的に聞くことを優先する。相手の話に耳を傾け、時間をかけて質問に答えること。
- ・**明確かつ簡潔に話す**：特に紛争下では、相手の時間は貴重である。相手は、あなたとの会合に同意することでリスクを負っている可能性もある。したがって、明確、簡潔、そして規律を守って話すこと。特定の点について何度も追及すると相手をイライラさせるおそれがあるため、話題の切り替え時を見極めること。また、チームの一員の不適切な行動によって全体が損なわれる可能性があるため、強固なチームワークが速やかな対話を促進する。

- ・**共感を示す**：相手の視点を理解しようと努め、その立場に立つと、すべての人が受け入れられる解決策を見つけられるように自分の議論をより適切に調整できるようになる。良い対話というものは決して一方通行ではない。相手の話を聞かずにはただ話し続けると、表面的な議論にとどまり、相手を不機嫌にさせるだけである。
- ・**冷静さを保つ**：多くの社会において、短気は相手の尊敬を永久に失うことを意味する。逆に、激情にとらわれず、ただ辛抱強く人道的な目的を守ることは、相手の信頼を得るのに役立つ。
- ・**オープンであること**：武器を所持するすべての組織に ICRC の一貫したイメージを共有することが重要であり、相手の敵を含む幅広い人々と話をしているという事実を隠さないことが重要である。そうでないと、スパイ活動をしているのではないか、裏表のある行動をとっているのではないか、と疑われるおそれがある。また、偏った印象を与えないように、相手によって敬意の払い方を変えないように注意する。
- ・**慎重な行動**：自分の活動に直接関係する事柄についてのみ話し、相手の軍事戦略や意図、資金源については質問しないこと。あなたに提供された情報は慎重に扱い、たとえば一方の当事者から得た情報を他方の当事者に渡すようなことは決してないこと。安全に関する情報は機密情報であることに留意する。
- ・**柔軟な対応**：純粹に形式的な会議に限定するよりも、自分たちのイメージを損なわない範囲で、相手と時折飲食を共にすることは有益である。常識的な範囲内で友好的に接する。
- ・**自分の言葉について考えること**：誤解を避けるために、自分の話し方を相手の話し方に合わせる。法律用語などを使って印象づけようとしないこと。人道支援従事者が頻繁に用いる専門用語や略語も避けること。通訳と一緒に話をしている場合は、通訳が話している間は相手を見据えて、通訳があなたのメッセージができるだけ正確に伝えているかどうかを確認する。
- ・**同僚を最大限に活用する**：ある問題を解決するために現地の言語を話すことが不可欠で、自分にそれができない場合は、現地の同僚に手伝ってもらう（反対意見がない限り）。逆に、相手に歓迎されない決定を伝えたり、相手があなたの車を使いたいなどという要求を断ったりする場合は、外国人の要員から言う方がよい。外国人の同僚が不在で、自分が言わなければならない場合は、決定はあなたでは

なく組織が下したことを強調すること。多くの場合、これにより状況は沈静化し、プレッシャーにさらされることを避けることができる。

状況が許せば、戦闘員と話すすべての機会を最大限に利用すること。

活動地域のセキュリティについてその場で聞くこと。

彼らに活動地域の安全情報について尋ねる。

4.7 武装した人々：自身への 10 の問いかけ

1. この地域で武器を所持している人々とその特徴について知っているか？
2. 武装したさまざまな組織・団体を区別できるか？
3. ICRC はどのような関係を持っているのか？過去の我々の活動で相手の利益となつた活動はどんなものだったか？
4. 対話をする自信が自分にあるか？ない場合は、それを上司に伝えたか？
5. 自分の行動が疑惑を招く可能性はあるか？あるいは、自分の行動が公平でないと見る人がいる可能性はあるか？
6. コミュニティに安全にアクセスできるように、安全に関する保証を誰に依頼すればよいか知っているか？
7. 戦闘員に会うとき、ICRC の原則と使命、そして当該地域での自分たちの活動について話す習慣があるか？
8. 安全管理関連の口コミや前兆に十分な注意を払っているか？
9. 武装した特定の組織や団体が、自分が計画している活動に不満を抱いている可能性があるか？
10. 活動を開始する前に、当該地域で影響力のある武器所持者に通知し、必要に応じて支援を得たか？

参考文献

Centre of Competence on Humanitarian Negotiation, Field Manual on Front-Line Humanitarian Negotiation, V 2.0, 2019:
<https://frontline-negotiations.org/home/resources/field-manual>.

ICRC, The Roots of Restraint in War, ICRC, Geneva, 2018:
<https://shop.icrc.org/the-roots-of-restraint-in-war-pdf-en>.

ICRC, International Humanitarian Law: Answers to your Questions, ICRC, Geneva, 2015:
<https://shop.icrc.org/international-humanitarian-law-answers-to-your-questions-pdf-en>.

ICRC, Engaging with State Armed Forces to Prevent Sexual Violence: A Toolkit for ICRC Staff on How to Engage State Armed Forces in Dialogue on Preventing Sexual Violence in Armed Conflict, ICRC, Geneva, 2020: <https://shop.icrc.org/engaging-with-state-armed-forces-to-prevent-sexual-violence-a-toolkit-for-icrc-staff-on-how-to-engage-state-armed-forces-in-dialogue-on-preventing-sexual-violence-in-armed-conflict-pdf-en>.

D. Muñoz-Rojas and J-J. Frésard, The Roots of Behaviour in War: Understanding and Preventing IHL Violations, ICRC, Geneva, 2004: <https://shop.icrc.org/he-roots-of-behaviour-in-war-understanding-and-preventing-ihl-violations-pdf-en.html>.

5. 自分自身の行動/ふるまい

あなたの活動には、関係当局、武器所持者、地域のコミュニティとの信頼関係を構築し、仕事と私生活の両方で、赤十字運動の活動原則と価値観を広める大使として行動することが含まれる。

安全管理は、主に現地における受け入れと認識の問題であるため、大部分を個人の行動やふるまいに依存する。すなわち、あなたの対人スキルや態度は、あなたやICRCに対する現地の人々の評価に影響を与え、不適切な行動は、疑惑や不信を引き起こす危険がある。ここでの「不適切な行動」とは、その地域の習慣や伝統に反する行動、あるいは宗教的信念、人間の尊厳、活動の基本原則、行動規範に定められた規則を尊重しない行動を意味する。文化的に不適切な行動、新植民地主義的または傲慢な態度、人種差別的なコメント、交戦国との過度に緊密な関係などについて、同僚たちは間違いないく、恥ずかしい思いをした話や間違いを犯した話、あるいは本当に危険な状況に陥った話など、数多くのエピソードを持っているはずである。

本章では、あなたの行動がどのように社会的受容を促進し、ひいては安全を促進するのか、そしてそれがどのように ICRC の評判を毀損し、あなたを危険にさらすのかについて説明する。またそれとともに、ICRC のポジティブなイメージを伝えるために、現地の文化的、宗教的基準を尊重し、行動規範にしたがって行動することの重要性を強調する。

5.1 行動規範(The Code of Conduct)

ICRC の行動規範 (The ICRC Code of Conduct) の目的は、すべての人に対する敬意と安全を促進することにある。行動規範は、活動の原則、特に人道の精神を尊重しながら、世界中でどのように行動するか、またどこまで誠実に行動するかについて、倫理的に参考すべき資料として位置づけられる。また、ICRC が推進する倫理基準と価値観も定めている。行動規範がカバーする事柄には、我々が活動している当該国の法律を

行動規範を遵守すること！
そうすることであなたと同僚、
および、あなたが支援する
人々を守ることになる。

遵守すること²⁵、宗教的信仰、慣習と伝統、規則、人々の習慣や日常的な活動を尊重すること、思慮分別の義務、あらゆる形態のハラスメントの禁止、権力乱用、買春や未成年者との性的行為を含む性的搾取の禁止、詐欺や汚職の禁止、薬物使用の禁止などが含まれる。安全管理規定にも、現地の事情を反映した細かい規定が盛り込まれている。

ICRC の職員は、行動規範に定められた倫理基準と規則に従わねばならない。この制度が適切に適用されるかどうかは、自分が被害者または証人となる可能性のある不法行為を、すべての人が報告するかどうかにかかっている。

5.2 文化への感度: 必要条件

5.2.1 現地の習慣に沿ったふるまい

自分の住んでいる地域以外で活動している場合、社会的、文化的にどのような行動が許容され、許容されないと考えられているかを理解する努力をすると、より容易に溶け込むことができるようになる。出会う人々に対して文化的な配慮と敬意を示せば、おそらく相手はより協力的になるであろう。

また、周囲で何が起こっているかをより容易に解読でき、より効果的にコミュニケーションがとれるようになる。

ICRC が大規模に活動する国では、宗教的、伝統的信仰が最重要の役割を果たす。

人間の数と同じくらい現実の捉え方はそれぞれで、独自の伝統、宗教、善惡の観念、礼儀正しさに関するルール、道徳、習慣などがある。ある文化における敬意の表し方が、別の文化では無礼なふるまいであったりする。たとえば、ビジネスに取り掛かる前に、時間をかけて挨拶をしたり世間話をしたりすることを重要とするところもあれば、おしゃべりは非効率で役に立たず、時間を無駄にせずにすぐに本題に入らねばならない文化圏もある。男性または女性に挨拶する方法、あるいは年配者に敬意を示す方法も、文化によってそれぞれ異なっている。座るときに足の裏を見せることや、左手で飲食することが失礼な行為とされていたり、自分が無神論者であることを公にすると、人々の尊敬を失う場合もある。

²⁵ ただし、ICRC の特権および免責に別段の定めがある場合、または行動規範に別段の定めがある場合を除く。
例：買春の禁止

どこに行っても両手を広げて歓迎されるわけではないことに留意すること。あなたが外国人であること、特定の国籍、民族グループ、宗教に属していること、あるいは単に国際人道支援団体で働いているという理由だけで人々はあなたを疑うかもしれない。また、あなたが住民を助けるためにそこにいるからといって、自動的に信頼が得られるだろうと考えないこと。

文化にまつわるほとんどの失敗は、現地スタッフにアドバイスを求め、それに従うことで回避できる。

- ・新しい任務を始めるときは、現地の習慣、文化、タブーについて、ブリーフィングで十分に説明をしてもらえるよう依頼すること。
- ・地元の民族学的、文化的、宗教的実践に興味を持つこと。それに関する小説を読んだり、映画やドキュメンタリーを観たり、インターネットで調べたり、文化的なイベントに参加したり、同僚から学んだりすること。
- ・自分の意見を他人に押し付けたり、活動している当該国社会的または政治的側面に干渉したりしないこと。
- ・地元の宗教的信仰、慣習や習慣を尊重すること。
- ・その国の政治的、社会的、文化的、宗教的側面について否定的、あるいは攻撃的なコメントを避け、宗教的な祭事の間はなんらかの規則に従う必要があるかどうかを確認すること。
- ・自分が信じる宗教を広めようとしないこと。
- ・自分の行動が不適切だと感じたら教えてくれるよう同僚に依頼し、不適切だと思われる行動をした同僚に対しては、ためらわずに（プライベートな空間で）優しい言葉で指摘すること。
- ・行動規範に違反していると思われる行為を ICRC に報告する窓口について上司に確認しておくこと。

地元の文化を尊重しない態度を見せることは、あなたの存在を
快く思っていない人々の悪印象に拍車をかける。



5.2.2 多文化の環境における活動

国際機関で働くということは、世界中から来た同僚と働くことを意味する。2020年夏の時点で、159の異なる国籍の人々がICRCで働いている。この多様性は事業を遂行する際に利点にもなるが、問題を引き起こす場合もある。あなたは魔術を感じているが、同僚は目に見えるものだけを信じている場合はどうするか？ 同僚のジョークがあなたを不快にさせることもあるかもしれない。祈りを捧げたいのに、チームリーダーが車を止めてくれない。この種の問題に遭遇することは必ずあり、あな

あなたは、自分の見
解や物事の見方を他
人に押し付けるため
に人道的活動を始め
たわけではない。

たの信仰、価値観、習慣が同僚のそれと大きく異なる可能性があるため、誤解が生じることは避けられない。それに加えて、言語の壁や職務の違いによる障壁もある。

別の文化を持つ同僚と仕事をするのが難しいと感じたり、少しイラつくことはごく普通のことだが、全員の視点や文化的感受性を理解し、考慮に入れるよう努めれば物事が楽になる。心を広く持ち、自分の思い込みや考え方を自問し、傾聴の姿勢と敬意を示すことで、物事がスムースに進むようになる。これにより、チーム内の結束と情報

の流れも促進される。両方とも全員の安全にとって不可欠な要素である。

5.2.3 男女の関係

自分と他人の間にどのくらいの物理的距離を置くべきかは、どの文化圏においても再度学ぶ必要がある事柄のひとつである。十分なスペースがあるにもかかわらず、知らない人があなたのすぐ近くに座ったり立ったりしたときにどう感じるかを考えればわかると思うが、不適切な距離は、ときに人を不快にさせたり、攻撃的にさえしたりする。

この問題を避けるには、あまり関係が深くない男女間の交流に関する現地の習慣に従う。異性との社会的接触には問題が生じることがあり、たとえば非常に伝統的な社会では、男性が勤務時間外に女性の同僚に運転を教えたりすると、女性の家族との問題に発展する可能性がある。思わずぶりな視線や性差別的なジョークなどは、なによりセクハラに該当する。一方、同性の人と近づきすぎると、同性愛者だと思われるおそれがあり、同性愛が認められていない社会では問題になりかねない。

ある社会では、話している相手に触れるることはごく普通のことだが、それがまったく受け入れられない社会もある。公共の場で誰かの肩に手を置く、手を取る、ハグする、キスするなど、友情、愛情、思いやりを示すごく自然な行為のように見えることでも、社会によっては非常に不快な行為とみなされることがあり、どのようにふるまうべきかを知るのは難しい。相手があなたに心の内を打ち明けてくれたとき、どのようにすれば「文化的にふさわしい」方法で相手を慰めることができるか？おそらく最善の選択肢は、一定の距離を保ち、積極的に話を聞き、苦しみを理解していることを示し、自分に何かできることはないかと伝えることで思いやりを示すことであろう。

- ・異性・同性間の関係や身体的接触に関してタブーがあるかどうかを調べる。
- ・自分と同性の地元の人々の行動を観察する。たとえば彼らが常に他人から一定の距離を置いて座っている場合、自分も同様にする。
- ・一定の距離を保つことで、出会った相手に敬意を示す。
- ・自分の態度や行動に性的な意図があると思われないように注意する。これに関しては、重要なのはあなたの意図ではなく、他人がどう感じるかである。

現地の文化的・宗教的基準に沿って、一定の距離をとる。

5.3 好印象を与える

5.3.1 簡単に実践できること

明らかに ICRC の倫理と価値観に反している行為もあるが、もっと小さなことが問題を引き起こすこともある。無礼なふるまい、敬意や配慮の欠如、軽蔑的な態度、不適切な服装、あるいは繰り返される不適切な言動など、どれも問題を引き起こす。近年ではソーシャルメディアのおかげで一気に拡散され、ICRC にとって悲惨な結果をもたらす場合もある。

ある状況では問題がないことが、別の状況で問題視されないとは限らない。たとえば、公共の場で癪癱を起こすと周囲の人々からの尊敬を失う。テラスから写真を撮ると、隣人がプライバシーを侵害していると不快に感じるかもしれない。ICRC の車両で村を最高速度で走行することは危険であるだけでなく、特に窓を開けて音楽を鳴り響かせながら走行したりすると、地元住民とのトラブルに巻き込まれる可能性がある。

以下は言わずもがなの常識のように思うかもしれないが、同僚を観察すると、必ずしもそうでないことがわかる。

- ・自分が与えるイメージについて常に考える。
- ・公共の場で癪癱を起こしたり、怒りを表したりしない。
- ・決して見下したり軽蔑したり、誰かを辱めたりしない。
- ・自分自身に注目が集まるようなことをしない。
- ・控えめにし、知ったかぶりをしない。
- ・裕福なイメージを与えない。
- ・国際組織の職員としての地位を乱用しない。
- ・車は、適切な速度で、落ち着いて悠然と運転する。

常に礼儀正しく、
慎重で他者に敬意
を示すこと。

5.3.2 あなたの外見がいかに危険をまねくか

個人の外見、特にどのような服装をするかは、物議を醸すことがある。服装は個人の自由だと信じている人もおり、ICRC が特定の服装規定を課さなければならないという事実をよしとしない人がいるかもしれないが、種類によっては禁止されているものもあれば着用が義務付けられているものもある。たとえば特定の地域では、男性は長ズボンと長袖シャツの着用が義務付けられ、女性は髪を隠さなければなら

重要なのは、あなたが自分自身をどう見るかではなく、他人があなたをどう見るかである。

ない。あなたが自分の国で、異なる文化の服を着ている人や、だらしない、贅沢、下品と感じる服装をしている人を見たときに、どう感じるかを考えてみるとよい。それはどこでも同じである。外見は、人々があなたを評価する際に大きな影響を与える。注目を集めないほど安全である。

適切な服装

人道支援団体の職員が不適切な服装をしている例は枚挙にいとまがない。全身を隠すことが「通常の服装」である地域でミニスカートやショートパンツを履いたり、首回りが大きく開いた服と体の線を強調するスリムジーンズで収容所に拘束されている人々を訪問したり、知事との会合にビーチサンダルを履いて出席したり、暴徒化した兵士にすべてを奪われたばかりの村民のニーズ調査に、軍隊を描いた T シャツを着ていったりするケースもある。

職場環境、従事する活動、会う予定の人たちに対して適切な服装を選ぶことが。あなたが負う責任である。カジュアルすぎる服装は、敬意や尊厳を欠いていると見なされやすいが、一方で高価な宝石や時計などを身につけていると、犯罪者の注意を引くだけでなく、傲慢さのあらわれと捉えられ、困窮している人々に屈辱感を与えるおそれがある。特定の服装は攻撃的または挑発的であると見なされたり、「モラルにうとい」という印象を与えたりする可能性もある。

- ・勤務する地域の ICRC の服装規定に従うこと。
- ・当該地域の出身でない場合は、現地の習慣に詳しい同僚に何を着るべきかを尋ねること。
- ・服装を現地の文化的・宗教的基準、会う可能性のある人々、仕事の種類に合わせて選ぶこと。
- ・通常よりもシンプルかつ控えめな服装をし、派手と思われる服装は避ける。

- ・軍の記章やイメージを伴う服や帽子など、軍事全般を連想させるものは絶対に着用しないこと。

自分の家では全く問題がない服装でも、活動地域では全くそぐわない服装
かもしれない。

タトゥー、ピアス、宗教的シンボル

タトゥー、ピアスやイヤリング（男性の場合）は場所によっては眉をひそめられ、敬意が払われないおそれがある。たとえばタトゥーは犯罪と結びついて考えられる国もある。肌に絵を書くことは、特に宗教的なシンボルの場合、国によっては違法であったり、わいせつであるとみなされる可能性もある。

タトゥー、宝飾品、宗教的シンボルに関する現地のルールを調べる。

状況によっては、自分の宗教を表示すると問題が発生することがある。宗教的なシンボルの形をした宝飾品を身に着けたり、車のミラーにそうしたシンボルを取り付けたりすると、異なる信仰を持つ人々を不快にさせる可能性もある。宗教的なシンボルを表示すると、

人々が ICRC の宗教的中立性に疑問を抱き、特に宗教上の問題で深刻な緊張や暴力が存在する地域では危険にさらされる可能性がある。

したがって、タトゥー、特定の種類の宝飾品、または宗教的シンボルが不寛容または敵意を招く可能性がある場所で活動している場合は、そのような宝飾品やシンボルを身に着けず、タトゥーを服の下に隠すこと。

5.3.3 あなたのプライベートな生活



このセクションは主に、自国以外の国に配属された職員および ICRC の宿舎に滞在する訪問者を対象としている。

実際に活動に従事していないとき、一部の人道支援要員、特に外国人スタッフは、周囲の苦しみや貧困を無視する傾向がある。24 時間 365 日 ICRC を代表していることを忘れ、ICRC のイメージを損なったり、ICRC を直接危険にさらすおそれのある行為に出ることがある。

リラックスする時間や社交生活は自身の健康にとって不可欠だが、自制心を示す必要もある。特に自分と現地の人々との差を過度に強調しないようにしなければならない。時折パーティーを開くのは問題ないが、夜間に大音量の音楽やその他の騒音を出したり、四六時中行き交う車で近所に迷惑をかけることは避けなければならない。評判が悪いと思われるレストランやバー、クラブの前には車を駐車せず、むしろ最初から行かないほうがよい。勤務時間外に社交目的で軍事基地を訪問すると、イメージは傷つく。行動規範（III.2）では、休暇中や海外休暇中であつ

あなたは人道支援従事者。何をしていても遅かれ早かれ周囲に知れわたると認識すること。

ても、常に「買春」を禁止していることに留意すること。

最後に、あなたの「プライベート」な生活は、決して 100% プライベートなものではないことに注意すること。あなたが自宅で行っていることは、公に知られる可能性がある。あなたの生活空間を管理する家事スタッフや警備員があなたのことを家族や隣近所に話すのはごく普通のことであり、隣人もあなたの生活をのぞいているかもしれない。あなたが周りの人たちに敬意を示さないと、必要な時に助けてくれないかもしれない。

5.3.4 アルコールと薬物

アルコールの過剰摂取は、さまざまな形で健康に影響を与え、薬物や特定の医薬品はその効果を增幅させる。

気分が優れないときは、
信頼できる人か医療職に
相談する。アルコールや
薬物は解決策ではない。

アルコールは集中力や識別力を低下させ、反応を鈍らせる。気が大きくなり、飲まずにいれば取らなかつたであろうリスクを冒すことがある。また、特定の脅威に対してさらに自分を弱い立場に置くことになる。アルコールが文化的に不適切または完全に違法である状況では、公共の場で飲酒することは無礼とみなされ、イメージを傷つけたり、場合によっては犯罪となる可能性がある。

アルコールの過剰摂取は、自分自身や他の人の安全に重大な影響を与える可能性がある。アルコールの乱用は、常時警戒が必要で、あらゆる脅威に対して迅速かつ効果的に対応しなければならない紛争地域での仕事とは両立しない。ICRC は、飲酒運転と薬物の所持・服用に対して、一切容認しない方針をとっている。薬物に関しては行動規範 II.B.3 を参照のこと。

- ・飲酒が許可されている状況で夜に外出する場合は、飲酒しない者を決めて、他のメンバーを車で送り届けることを事前に決める。組織付きのドライバーが利用できる場合は利用する。
- ・見知らぬ他人からアルコール飲料を受け取らない。
- ・飲み物を置いたまま放置しない。誰かがそれに薬物を入れる可能性がある。

5.4 詐欺と汚職

人道支援活動は、資源が不足しているところへ大量の資源をあてがうこともする。これは、我々の持つ資源が無限であるかのような印象を与えることがある。この資源の流入は現地の既存の力関係を混乱させ、悪事への扉を開く可能性がある。詐欺、汚職、談合などに手を染める誘惑は、紛争やその他人道上の緊急事態のとき、また贈収賄が日常的に汚職が蔓延している国では、さらに強くなる²⁶。人々は、圧力や心理的・身体的脅迫を利用して、あなたを詐欺行為に誘導することがある。またあなたも、ICRC の資源を自分のために使いたくなるかもしれない。

5.4.1 「詐欺と汚職」とはなにを意味するか？

「詐欺」と「汚職」の定義は、国や法制度によって異なる。これらの用語は、自分自身、自分の組織、あるいは第三者のために、金銭、物品、サービスなどの不正な利益を得ることを目的としたさまざまな不正行為を説明するために使用されることが多い²⁷。詐欺や汚職に該当するものとそうでないものの区別が難しい場合もあるが、たとえば以下が挙げられる：

- ・ ICRC 車両を許可なく私用で使用すること。
- ・ 未受領の商品またはサービスの請求書の作成。
- ・ 文書（目録など）を偽造し、署名を捏造する。
- ・ 資産の不正流用（燃料、救援物資など）。
- ・ 自らの立場を利用して、有利な決定（契約の締結など）や実際の人道支援と引き換えに、現金または性的接待を含む現物の賄賂や贈答品を要求または受領すること。
- ・ 検問所を通過したり、地域や収容施設などにアクセスするために第三者に賄賂を渡すこと。

²⁶ Transparency International, Corruption Perceptions Index, 2020 を参照のこと：
<https://www.transparency.org/en/cpi/2020/index>

²⁷ ICRC がどのような事項を詐欺とみているかの詳細については ICRC, Code of Conduct Policies: Prevention of and Response to Sexual Misconduct, Fraud and Corruption を参照のこと：
https://collab.ext.icrc.org/sites/TS_GCOI/Activities/GCO%20FINAL%20PRODUCTS/REPOSITORY%20OF%20PUBLICATIONS%20PDF/4348_002_Code_of_conduct_policies_EN.pdf. [ただしこれは ICRC スタッフのみ参照可]。

詐欺や汚職は、確固たる人道的使命を損なうだけでなく、あなたと、我々の支援対象者の安全に脅威をもたらす。したがってICRCはあらゆる形態の詐欺と汚職に対して情状酌量なし（zero-tolerance）の方針をとっている。

5.4.2 健全なふるまい

ICRCが発行している行動規範およびその他の指針にしたがって誠実に行動することに加えて、次の措置を講じることで詐欺や汚職のリスクを軽減することができる。

- ・ ICRCの管理手順を遵守すること。緊急時に迅速に行動する必要があるからといって、手順を守らないことを正当化することはできない。
- ・ この種の不正行為を報告するための内部メカニズムについて知つておくこと。
- ・ 同僚または組織側からの汚職または不適切な行為の申し立てを真剣に受け止める。こと。圧力を受けた場合、または汚職を目撃した場合は、上司や信頼できる人に相談し、どう対処すべきかと一緒に決める。

ICRCの事務手続きを遵守することで詐欺や汚職を
防ぐことができる。

5.4.3 贈答品と賄賂

業務中に提供される贈答品は、受け取るべきか断るべきか？賄賂と、受け取ることができる誠実な贈答品の違いは、その意図にある。自分の決定に影響を与えたり、何らかの利益を得ることが目的であれば、それは汚職である。それ以外で、相手が単にあなたの存在とサポートに感謝したいだけであれば、それは汚職ではない。良好な関係を維持したり、重要な機会を記念したりするために、現地で一般的に許容される象徴的な贈答品を公に受け取ることは、贈答品の種類とその価値が現地のしきたりの中で適切であり、何も見返りなどを期待されていない限り、通常は問題ない。断ることでかえって敬意やマナーに欠けているとみなされ、相手を怒らせる可能性もある。ただし、現金を贈られる場合は必ず拒否しなければならない。

- ・ 贈答品を受け取ってよい場合とそうでない場合について上司に確認すること。
- ・ 自分が受け取ったすべての贈答品について上司に報告すること。

検問所を通過したり、業務が円滑に進むようにしたり、特定の行政手続きを迅速化するために、賄賂を支払ったりささやかな贈り物をしたくなるかもしれないが、これはたとえ緊急時であってもしてはならない。ICRCの方針に反するというだけではなく、これは ICRC や他の人道支援団体のイメージを損なう前例を作り、我々の活動に悪影響を与えるおそれがある。いずれにせよ、経験上汚職が深刻な国であっても、賄賂を支払わずに事業を運営することが可能であることがわかっている。

- ・要求される可能性のあるすべての書類と許可証を常に持っていることを確認すること。
- ・忍耐強くなること。あなたが明らかに急いでいるとわかれば、相手はあなたに賄賂を支払うよう圧力をかけてくる可能性が高くなる。
- ・笑顔、気持ちの良い態度、ちょっとしたユーモア（適切であれば!）、そして数分間の話し合いだけで、相手に賄賂を要求することをやめさせるよう説得できることがよくある。また、もしもあなたが敬意と優しさを持って相手に接すれば、賄賂なしであなたを通過させる可能性がさらに高まるであろう。
- ・賄賂を支払えない理由を（賄賂という言葉を使わずに）説明する。「私の組織はそうした費用を私が支払うことを許可しません」などのように、相手を非難するように聞こえない簡単なフレーズをいくつか覚えておく。
- ・賄賂をしつこく要求してくる場合は、相手の上司と話したいことを伝える。通常は上司が関与することを望まないため、多くの場合、賄賂の要求を思いとどまらせる効果をもたらす。
- ・もしも政府機関が、提供するサービスと引き換えに賄賂と思われる金額の支払いを強制した場合は、領収書を要求すること。

物理的な危険を回避する唯一の方法でない限り、煩わしさの回避や、活動のやりやすさのために賄賂を支払ってはならない。

5.5 写真、動画と録音



活動中にあなたは、写真や動画を撮ったり音声を録音したくなることがあるだろう。特にスマートフォンを使用するとこれらはとても簡単であるが、充分注意を払わなければならない。誰もが同じような考え方や意識でその画像を見るわけではなく、これに関するルールは社会や現地の事情によって大きく異なる。たとえば、写真を撮るとその人の魂が盗まれると特定の文化圏で今でも広く信じられており、気づかぬうちに自分自身や他人を危険にさらすおそれがある。

デリケートな環境や紛争下では、さらに注意しなければならない。あなたのカメラや携帯電話、ドローン、その他のデバイスに保存されている画像、音声、その他の素材が、あなたに悪影響を及ぼす可能性がある。たとえばスパイ行為や軍事機密の入手を試みたとして告発される危険がないとはいえない。活動時以外であっても注意が必要である。自分の宿舎からその地域の写真を撮ったつもりでも、あなたの隣人は嫌がるかもしれない。

写真、動画、音声録音の基本原則

ICRC の行動規範には、「職員は、業務上必要な場合、または ICRC から明確な承認を得ている場合を除き、使用する媒体に関係なく、活動中に写真を撮ったり、動画を撮影したり、録音したりすることは禁じられる。」と規定されている。ICRC による承認とは、たとえば、活動業務に広報が含まれている場合などである。ICRC の建物内での写真撮影や動画撮影は許可されている。行動規範のセクション II.B.5 を参照のこと。

活動中に写真や動画を撮ったり、音声を録音したりすることに何の問題もなく、ICRC にとって役に立つと思うかもしれない。

行動に出る前に取るべき措置：

- ・ ICRC に自分の意図を伝えること。
- ・ 撮影した写真や動画の存在を ICRC に伝えること。
- ・ 仕事とプライベートの両方の場面で適用されるルールについて調べること。
- ・ 必ず事前に関係者の同意を得ること。子供を撮影する場合は親またはその子の保護者の同意を事前に得ること。被拘束者や患者など、デリケートな立場の人物に適用される特定の規則を遵守すること。
- ・ 文化的な配慮を尊重すること。すでに弱い立場に置かれているコミュニティに対する固定観念を強めるような写真や動画を撮らないこと。
- ・ 撮影しようとしている画像が本当に役に立つものなのかどうか、誰かを危険にさらす可能性はないのか、また、その撮影が自分の国でも受け入れられるかどうかを自問すること。母国では、学校の校庭にいる知らない子供たちの写真や、病院のベッドに横たわっている見ず知らずの患者の写真を撮ることはないであろう。
- ・ 軍事インフラや軍事活動、警察署、刑務所、空港（滑走路を含む）、検問所、その他の機密性の高い物体の写真を決して撮影しないこと。
- ・ 自分に問題を引き起こす可能性のある画像が、携帯電話やパソコン、他のデバイスに保存されていないことを確認する。
- ・ ICRC から許可を得て、現地に適用される規則を確認しない限り、ドローンを使用してはならない。

自分の携帯電話や他のデバイスを取り出す前に、
そこが適切な場所と時間であるかどうかを自問すること。

5.6 情報に関する安全管理

自分が持っている情報の保護もまた安全管理の一部である。機密情報を収集、共有、保存、保管する場合は注意が必要である。第三者は、文書を盗んだり、バーでの会話を盗み聞きしたりするなどの簡単な方法であなたの情報を入手する可能性がある。また、ユーザーのオンライン活動の監視、メタデータの収集、ソーシャルメディアのアカウントをハッキングして個人情報を盗んだり、オンラインに保存されている情報にアクセスしたりするなど、より高度な手段に頼ることもある。さらに、サイバー攻撃により通信システムが破壊される可能性もある。あなたがどのように通信し、情報を扱い、どんなテクノロジーを使用するかは、あなたと ICRC だけでなく、あなたと接触する人々にとっても脅威となる可能性がある。

5.6.1 情報漏洩の防止



高度なテクノロジーがなくても、情報を手に入れようとする誰かがあなたの不注意や無知につけ込むおそれがある。パソコンと携帯電話は特に狙われやすい。これらは泥棒にとって魅力的であり、USB ドライブやメモリーカードを使用して大量の情報を抜き取ることができる。

したがって、デバイスの盗難や機密データの漏洩を防ぐために次の措置を講じ、データの盗難を可能な限り困難にする。

- ・慎重であること、目立たないこと。機密性が高いと考えられている事柄について専門知識をひけらかせばひけらかすほど、危険が増す。
- ・公共の場、電話、無線などでデリケートな話題について話し合わない。
- ・ICRC のセキュリティ分類システム（厳密な機密情報、機密情報、社外秘の情報、および公開してよい情報）にしたがって、託されたすべての機密文書を施錠して保管、責任を持って管理する。机の上やプリンターの上に放置しておいたり、施錠していない引き出しの中に入れておかない。
- ・機密文書は細かく裁断してから破棄する。
- ・自分のオフィスを離れるときは施錠し、パソコンも使用していないときはパスワードでロックすること。USB ドライブや外付けハードディスクなどの保存デバイスも、パソコン同様のセキュリティ管理をする。
- ・現場に持ち込む書類は、計画した活動に絶対に必要なものだけにする。
- ・パソコンや携帯電話、機密文書を無人の車内に放置しない。
- ・他人の電話番号は機密情報として扱う。それらを安全に保管し、関係者の許可なしに他人に渡さない。
- ・パソコン、携帯電話、USB ドライブ、外付けハードディスクなどにあるデータが暗号化されていることを確認する。暗号化されていない場合は専門家に相談する。

ICRC ではない外部の誰かがあなたの所有する機密データにアクセスしている、あるいは試みているという疑いがあれば、上司に知らせること。

「デリケートな情報」とは何を意味するのか？

- それが開示された場合、情報源、支援対象者、接触相手、その同僚などに損害を与える可能性のある情報。
- 開示されると ICRC のイメージが損なわれたり、ICRC の業務の遂行に悪影響を及ぼす可能性のある情報。
- セキュリティに関する情報。特定の個人データ。

5.6.2 責任を持ってソーシャルメディアを利用する



ソーシャルメディアは、人道問題、および ICRC とその活動を紹介する優れたコミュニケーションツールである。しかしながら写真やコメント、リンクなど、オンラインで公開するものはすべて、本来の文脈から切り離され、誤解され、あなたや ICRC の評判を傷つけるために使用される可能性もある。あなたが投稿したものは、ある社会や状況下で全く問題がなくとも、別のところでは事情は異なる。また、ソーシャルメディアでは個人の私生活と業務を区別するのは困難である。あなたが ICRC の職員であることは容易に特定されてしまう。人道支援に従事する前に公開したものも含め、あなたの発言はすべてその組織に帰せられる可能性がある。誰かがアカウントをハッキングし、あなたの名前で投稿やコメントを公開する可能性もある。さらに、ソーシャルメディア上のある種の情報は、あなたが逮捕されたり誘拐されたりした場合に、あなたに対して悪用される可能性がある。

非常に単純なことであるが、投稿、コメント、写真がメディアや第三者の手に渡ることを望まない場合は、公開しない。行動規範 IV.1～IV.4 を参照のこと。

- ICRC で仕事を開始する前、および新たな任務に就く前に、一緒に働く人々や支援対象者を不快にさせる可能性のあるもの、ICRC の中立性、独立性、公平性に疑問を投げかける可能性のあるもの、あるいは信用を落としめる可能性のあるものはすべて削除すること。

- ・すべてのソーシャルメディアプラットフォームで、政治的またはデリケートな話題についての議論を避け、活動地域の政府や影響力のある組織を批判しない。
- ・ソーシャルメディア上のさまざまなキャンペーンの支援については、慎重に検討すること。
- ・安全管理全般、ICRC または同僚の安全管理に少しでも関連する情報は、上司から事前に許可を得ることなく公開しない。当該地域の軍事あるいは治安状況に関するコメントを投稿しない。
- ・機密情報を開示しない。
- ・何かを投稿する前に、関係者の同意を得ること。必要に応じて ICRC の許可も得なければならない。
- ・攻撃的で憎悪に満ちた、差別的なコメントは公開せず、他人の意見を尊重すること。面と向かって言えないことはオンラインでも言わないこと。性的なコンテンツを公開してはならない。
- ・ソーシャルメディアのアカウント設定を適切な状態に保ちプライバシーと情報を保護する。たとえば公開範囲を「全員」ではなく「友達」に限定するなど、自分の投稿を閲覧できる人を制限する。

ソーシャルメディアに投稿する前に、それが本当に有用か、それによって ICRC と自分がどう見られるかを自問すること。

5.7 間違った行動を経験あるいは目撃したとき

労働環境の安全を強化し、不正行為や行動規範の違反を防ぐにはどうすればよいか。間違った行為や行動を経験または目撃した場合にどうすべきかは、その行為の深刻さやその状況の緊急性、またあなたや他の人の安全に及ぼす影響の大きさなど、状況によって異なる。

- ・当該地域の慣習に対して不適切なコメントをしたり、不遜な態度をとるなど、同僚の不注意による失敗：同僚と個人的に話す勇気を持つこと。なぜ当該行動が問題だと思うのかを慎重かつ気遣いをもって説明することで、将来的に改善する機会を与えることになる。

- ・もっと深刻な問題、あるいは単純にあなたを悩ます状況については、自分で溜め込むのではなく、同僚、あるいは信頼できる他の人に相談するのがよい。「より深刻な」行為とは、搾取、性暴力、同僚やコミュニティのメンバーに対する不適切な性的行為全般、詐欺や汚職などである。迅速に対応する必要がない場合は、ICRC内の第三者委員会である Ethics, Risk and Compliance Office に不適切な行為を報告、または苦情を提出できる。
ICRC の IntegrityLine Web サイト (<https://icrc.integrityplatform.org/>) は、まさにこのような目的のために設立された。添付資料 12.3 では、利用できるさまざまな内部サポートメカニズムについて説明している。

Ethics, Risk and Compliance Office (ERCO) はどのような支援ができるか?

脅迫、汚職、ハラスメント、性的虐待、またはその他の行動規範違反など、同僚の不当と思われる行為について、報告することをためらうかもしれない（文化的な理由で、または報復やキャリアへの損害を恐れて）。このような場合、必要に応じて、匿名で ERCO に懸念を伝えることができる。ERCO は、当該行為を慎重かつ公平に調査するために、提供された情報を使い、情報提供者が報復を受けないよう、あらゆる予防策を講じる。特に、ERCO はあなたの身元を秘匿情報として扱う。報告内容が正当であることが確認された場合、犯した行為の重大さに鑑みて、懲戒免職など解雇を含めた制裁が当該人物または関係者に適用される。

ICRC に籍のない者であっても、ICRC 職員による不正行為の疑いを ERCO に報告することができる。

5.8 言動/ふるまい: 自身への 10 の問いかけ

1. 地域の文化的および宗教的規範について十分に知っているか?
2. 男女関係に関する現地の社会的な規範は何か?
3. 自分が与えるイメージに、疑惑や誤解、あるいは拒絶を引き起こす可能性はないか?
4. 自分の価値観を他人に押し付けようとしているか?
5. 十分に慎重か?
6. 自分の服装が注目を集めたり、不快感を与えていたりするおそれはないか?
7. 同僚は自分を誠実な人だと見ているか、それとも腐敗と見なされる行為を自分がしている可能性があるか?
8. 情報を安全に保つための規則を把握しているか?
9. 写真を撮影したり、ソーシャルメディアにおける積極的なエンゲージメントは、自分や ICRC の評判にどの程度悪影響を及ぼす可能性があるか?
10. 不正行為の疑いを報告するための内部メカニズムについてよく知っているか?

参考文献

ICRC, Code of Conduct for Employees of the International Committee of the Red Cross, ICRC, Geneva, 2018: <https://www.icrc.org/en/document/code-conduct-employees-icrc>.

ICRC, A Guide to what you Can and Cannot do While You Work for Us, ICRC, Geneva, 2020: <https://shop.icrc.org/a-guide-to-what-you-can-and-cannot-do-while-you-work-for-us-this-is-an-easy-to-read-guide-to-the-code-of-conduct-for-people-who-work-for-the-icrc.html>.

ICRC, Code of Conduct Policies: Prevention of and Response to Sexual Misconduct, Fraud and Corruption, Geneva, 2019.

6. 個別の脅威

本章では、現場で遭遇する可能性のある主な安全上の脅威について概説する。それから身を守り、対処する方法について説明する。軽犯罪やサイバー攻撃など、あらゆる状況で発生する脅威もあれば、地雷原や地震など、特定の場所や状況でのみ発生するものもある。すでに以前の章で述べた、職場で定期的に繰り返し行うリスク評価プロセスによって、あなたがさらされている脅威の性質とその重大度が明らかになる。ICRCはまた、そのリスク評価を使用して、適切な安全管理対策を講じ、周囲の状況に応じた安全管理規則を作成する。

本章の推奨事項は一般的な性質のものであり、実際にはあなたの置かれた環境や状況に応じて調整しなければならない。どのような予防策を講じるか、脅威にどのように対応するかを決定するには、次のことを行う必要がある：

1. 活動している地域に適用される安全管理規則を参照すること。
2. 職場の緊急時対応計画を必ず把握しておく。
3. 上司にアドバイスを求め、懸念事項があれば共有する。
4. 疑わしい場合は活動を一時中止する。
5. 常識を働かせ、自分の活動がもたらす潜在的な人道上の利益と、それに伴うリスクのどちらが重いかを判断する。

6.1 一般犯罪

6.1.1 強盗

犯罪はいつでもどこでも潜在的な脅威である。物質的な側面とは別に、どんな形態の強盗も、特にそれがあなたの目の前で起こった場合、脅迫された場合、または暴力を伴う場合には、トラウマの残る経験となる。このタイプの犯罪者は、あなたの携帯電話、財布、あるいはブランド物のサングラスを盗むためには何でもする準備ができている。彼らは武装していたり、飲酒していたり、薬物の影響下にあったり、時には子供である可能性すらある。その脅威は、物質的なモノを失うという不安をはるかに超えている。



強盗はどのように行動するか？

一般に信じられていることとは異なり、たとえ年少の強盗であっても、見境なく強盗することはめったになく、通常は、合理的、計画的、組織的な方法で活動する。単独で活動する場合もあれば、集団で活動する場合もあるが、捕まらずに強盗できる場所や状況を選択し、最も魅力的で最も弱い立場にある個人をターゲットにする。言い換えれば、不運にも強盗に出会ったとか、強盗が単に「間違ったタイミングで間違った場所にいた」というケースはほとんどない。

この種の犯罪は一定の決まった場所でのみ起こるわけではないものの、最も危険なエリアや状況を知つていれば、犯罪を回避したり、少なくとも、より注意を払うことができる。たとえば大都市では、自動車のスピードを落とさねばならない信号や渋滞が発生している場所で、ギャング（子供の場合もある）に襲われることがよくある。人通りのない、あるいは照明が暗い場所も強盗にとっては好都合である。

また、国際機関で働いている、特に海外から来たスタッフであれば、それだけで、現地では手に入らないもの、あるいは多くの人にとて手の届かないものを所有している「金持ち」とみなされ、自分が魅力的なターゲットになることも認識しておかねばならない。

強盗に遭いやすくなる要因

- ・人道支援団体で働いている
- ・海外または地域外から来た
- ・警戒心がない
- ・派手に振る舞う
- ・価値のあるモノを見せる
- ・狙いやさしいように見える
- ・外出の計画と準備が不十分
- ・いつも同じ道を通る
- ・安全管理規則を遵守していない

盗難の防止

盗難の予防措置は、次の 3 つのカテゴリーに分類される：

- ・露出を控える。例) 特定の場所を避ける
- ・華美を避ける。例) 高価に見えるものを持ち運ばない
- ・強盗が乗り越えねばならない障壁の数を最大にすることで、防止または思いとどまらせる。例) 常に車両に鍵をかける

強盗に遭うことは單
に「不運」だから
ではない。

1. 移動時

慎重かつ用心深く行動し、犯罪の多発地帯として知られるルートやエリアを避けることで、強盗のリスクを大幅に減らすことができる。

危険な状況を避ける

- ・立ち入り禁止が宣言されている場所や経路を避け、門限を遵守する。
- ・新しいルートを通るときや、これまで行ったことのない場所に行く前に、その地域に詳しい同僚に相談する。
- ・夜間の一人での外出は避け、明かりの少ない場所を避ける。
- ・歩行者が頻繁に強盗に遭う地域を通過する必要がある場合は、可能な限り車で移動する。
- ・車を安全な場所に駐車し、必ず施錠する。
- ・ICRC が推奨するタクシー会社以外は使用しない。

慎重に行動する

- ・不必要に自分自身に注目を集めない。
- ・腕時計、宝石、ブランドのサングラスなど高価な物や高価に見える物を着用しない。
- ・スマートフォンは人に見られないよう、盗まれにくい場所に保管する。
- ・外出は慎重に計画する。

ルーチンを避ける

- ・予測されないよう行動する。もしも犯罪者があなたの日常生活、ルート、定期的に行く場所を知つていれば、攻撃の準備が容易になり、成功する可能性が高くなる。
- ・車で行く場合でも徒歩で行く場合でも、ルートや移動時間を変えるようにする。
- ・そのルートを通る朝一番の車にならないようにする。

警戒を怠らない

- ・空港、駅の近く、混雑した場所、孤立した場所、観光地、市場、公共交通機関では注意すること。
- ・バーやレストランなどの公共の場所、特に海外駐在員に人気の場所では気を付ける。「偶然」の出会いには用心すること。
- ・車のスピードが遅い場合は常に注意。侵入を防ぐため、車のドアと窓は必ず施錠する。
- ・一部の「事故」は、そちらに注意をそらして強盗をするために仕組まれたものである可能性がある。

お金には気をつける

- ・大金を持ち歩かないようにするが、いざというときに強盗を懐柔するための少額の現金を常に用意しておく。
- ・路上や個人とではなく、ICRC または公的な銀行を通じて通貨を両替すること。
- ・現場で多額の現金を持ち歩くのは、その他の手段で送金する選択肢がない場合のみ。その場合でもまず上司から許可を得ること。
- ・ATM からお金を引き出す必要がある場合は、日中の時間帯に引き出し、可能であれば警備用に誰か一人同伴する。人通りの多い場所にある機械を使用し、誰も後をつけていないことを確認する。
- ・クレジットカード詐欺に注意。買い物をするときはカードから目を離さないようにする。

2. オフィスと宿舎



ICRCがオフィスや宿舎を守るために講じている措置は、あなたが適切に行動しなければ効果がない。また、すべての盗難が不法侵入を伴うわけではなく、中にはすでに内部にいる人々によるものもある。現金や貴重品を放置しておくことは盗難を促し、窃盗犯の仕事をやりやすくする。

- 特に夜間や外出時には、施錠すべきすべてのドア、門、窓を施錠する。
- 貴重品や重要書類は施錠して保管する。金庫があればそれを使用する。
- 鍵は注意深く管理し、鍵を紛失した場合は報告する。
- セキュリティシステムに弱点がある場合は、責任者に報告する。ロックに欠陥があると、重大な結果につながるおそれがある。
- 訪問者の受け入れに関して定められた手順に従い、許可された者のみを入れる。
- 侵入者の疑いがある場合に警報を鳴らす方法を調べる。
- 家族が ICRC の宿舎に住んでいる場合は、パートナーと子供たちと、とるべき行動をリハーサルし、全員が何をすべきかを理解していること。

職場や宿舎で盗難が起こった場合、ほとんどは職員の不注意が原因である。
常に用心すること。

同僚やハウスキーパーが窃盗の嫌疑をかけられることがあるが、通常は不当なものである。これは自分を含め皆にとって深刻な結果をもたらす可能性がある。このような状況の発生を防ぐには、次のことを行う：

- ・ハウスキーパーを自分で雇う前に、必ず ICRC にアドバイスを求める。
- ・ハウスキーパーに明確な指示を与える：誰にいつドアを開けてよいか、誰を入れて誰を入れないか、家事のための経費の管理方法など。
- ・同僚やハウスキーパーを窃盗で告発する前に、必ず ICRC 内で信頼できる人に相談すること。

強盗への対応

特にアルコールや薬物の影響下にある場合、強盗の言うとおりにしないと、強盗は予期せぬ反応を示し、暴力的になる可能性がある。抵抗を示したり突発的な動きをすると暴力的な反応を引き起こす。強盗はあなたが武器やその他の抵抗手段、逃走手段を探していると考えるかもしれない。あなたの反応はその後の事態に大きな影響を与える。

- ・すべての犯罪者が武装していると考えること。
- ・できるだけ冷静に協力し、要求してきたものを全て与える。
- ・暴力を引き起こすことを避けるために、抵抗しない。
- ・突然動くことは避ける。
- ・ヒーローになろうとしない。
- ・盜難があった場合は、直ちに ICRC に報告する。この種の事件は犯罪のレベルに関する重要な指標となるため、事件について知ることで安全管理対策を練りなおすことができる。

自分の財産を守る

覚えておくこと：

- 命は、あなたの財産、お金その他のいかなるものよりも貴重である
- いかなる抵抗も、あなたを危険にさらす
- 怒りや攻撃的な姿勢、侮辱的な言動や恐れを表すことはすべて、状況を悪化させる

6.1.2 ゆすり

人道支援団体の職員であるあなたは、あなたから金を巻き上げたり、あなたの仕事に関連して利益を得ようとする人々にとって魅力的な標的となり、経済的利益、

物品またはサービスを獲得する目的で、脅迫または恐喝を受ける可能性がある。あなたが人に知られては困る情報を暴露すると脅したり、協力を拒否するとあなたやあなたの家族に危害を加えると脅したりする可能性がある。

脅迫者の要求に屈することが最善の解決策のように見えるかもしれないが、一般的にはそうではない。最初の要求を呑んだら、さらに要求をエスカレートしてくる。新しいリストを提示し、拒否したらどんな目に合うかを告げ、脅迫をしてくる。そうなるとあなたは悪循環に陥り、そこから抜け出すことがますます困難になる。

事態がそこまで進まないようにするには、ICRC がどのような資産を持っているかについて口を閉ざし、脅迫や脅迫の最初の兆候が見られたときに主導権を握る必要がある。

- ・攻撃的または脅迫的な行為があった場合は報告すること。
- ・誰かがあなたに圧力をかけている場合、ICRC の金品は実際には組織のものではないこと、それらは我々が支援しようとしている人々のものであり、脅迫者がそれらを持ち去った場合、それは自分たちのコミュニティから盗んでいることになる、ということを説明する。
- ・誰かがあなたを脅迫している場合は、ICRC 内の信頼できる人に相談する。

活動に関連して脅迫を受けている場合は、状況が悪化するまで待たず、
できるだけ早く ICRC に援助を求める。早く行動すればするほど
トラブルから抜け出すことが容易になる。

6.1.3 武力攻撃と待ち伏せ

最も危険が大きいのはフィールドトリップ中である。不安定で危険な地域では、車両や車列が道路上で攻撃される可能性がある。ほとんどの場合、それは一般的な盗賊によるものである。このような場合、攻撃者の主な目的は、あなたに危害を加えることではなく、私物を盗んだり、車列から（金銭、援助物資、通信機器、機械部品などを）奪ったり、車を盗んだりすることである。ただし例外的に、あなた自身がターゲットになることがある。その目的は、あなたを人質にしたり、怪我をさせたり、殺したりすることかもしれない。

相手の基本的なアプローチは一般に、被害者を驚かせ、ことが済んだら用意してある安全なルートですぐに逃走する。よくあるやり方は、発砲したり、障害物（車、

トラック、バイク、木の幹など) を使用したり、偽のチェックポイントを設定したり、事故を装ったりして車両や車列を強制的に減速または停止させる。車両に激突して強制的に停止させることもある。車両を動けなくした後、乗員を車両に向かってひざまずかせて両手を頭に当てさせたり、顔を地面に付けて横たわらせたりするなどの脅迫、服従させるテクニックを使用することがよくある。抵抗できないよう、銃を頭に当てたり、殴りつけたりすることもある。

相手は経験が浅く、あなたを無作為に選んだのかもしれないし、慎重に計画され、組織化され、調整された方法で意図的に狙われたかもしれない。通常険しい山道など、土地の性質上逃げることが困難または不可能な場所を選んで襲撃し、バックしたり加速すると発砲する可能性がある。どのような場合であっても、これは危険な状況であり、回避するためにあらゆる努力を払う必要があるが、一方で心構えはしておく必要がある。

攻撃や待ち伏せを受ける可能性を減らす方法

綿密に計画された攻撃や待ち伏せ攻撃を予測するのは非常に難しい。あなたが疑惑を持ち、引き返せるような状況はほとんど、あるいはまったくないといってよい。

相手の狙いは意表を突くことだが、被害者になるリスクを減らすためにできることがいくつかある：

- ・ ICRC がその地域で特定したリスクについて、常に最新の情報を入手し、与えられたすべての指示に従う。
- ・ 通行が禁止されている経路を通ってはならない。
- ・ 他の手段で送金するための選択肢がある場合には、多額の現金を持ち歩かない。できるだけ目立たないように行動する。
- ・ 朝、その経路を通る最初の車にならないようにする。
- ・ 可能な限り、経路と移動時間をいつも同じにせず、いろいろ変更する。
- ・ 夜間の移動は避け、門限を遵守する。
- ・ 軍や治安部隊の車両からは十分に離れること。それらも狙われる可能性が十分あるので、近づきすぎるとその後の銃撃戦に巻き込まれてしまう。
- ・ 普段は交通量の多い道路なのに対向車が来ないなど、異常な点がないか気を配る。
- ・ 倒れている人を助けようとする前に、よく考えること。それは罠である可能性がある。

経験豊富なドライバーは通常、武力攻撃や待ち伏せの可能性のある場所がどこか、代替経路はどこかを知っているので、そのアドバイスに耳を傾けて従う。

- 即興で作られたように見えるチェックポイント、または最近設定されたばかりのチェックポイントは疑うこと。疑わしいと思ったら停止し、可能であれば方向転換できるまで後退し、来た道を戻る。

待ち伏せ攻撃や武力攻撃への対応

待ち伏せ攻撃や武力攻撃は極めて危険な状況である。ただし、攻撃者があなた個人ではなく、あなたの私物や運搬している物品、あるいは車両をターゲットにしている場合は、あなたとあなたのチームが正しく対応している限り無傷で済む可能性が高い。最善の選択肢は、攻撃者の数や意図、武器と戦術、地形、車列の編成などの状況によって異なる。バックしたり加速したりすると、発砲されるおそれがあるだけでなく、車両のコントロールを失う可能性があることに注意すること。引き返そうとするとターゲットになりやすい。したがって、相手があなたに直接発砲し、生死に関わる状況にあると思われる場合を除き、逃げようとしないことを勧める。

あなたに止まるよう
に言ってきた人間
は、誰であれ武装し
ていると思わなけれ
ばならない。

その他の留意点：

- 相手が停止するよう指示した場合は、すぐに止まること。
- 手を相手から見える位置に保ち、突然動いたりしない。
- 指示されない限り、しゃべらない。
- 相手に協力的な態度を示し、その指示に従い、要求された物品を渡す。
- 相手から指示されない限り、（状況が許せば）相手が立ち去るまで去ろうとしない。

交渉はすべきか？

多くの場合、交渉は不可能であるが、それは判断の問題である。相手が神経質で攻撃的で、明らかにできるだけ早く逃げたいと考えている場合は、交渉を試みるのが原則である。ただし特定の例外的なケース、たとえば相手がチームメンバーに危害を加えるのを防ぐために交渉することは適切な場合もある。このような場合、交渉は1人が行い、他のメンバーは交渉への関与を避けること。

6.2 暴動と市民騒乱



6.2.1 群衆の暴力

群衆はすぐに脅威となり、制御不可能になりやすい。暴力は、暴動、攻撃、略奪などの形で、何が起こっているのかわからないうちに勃発する。それは単純な噂や誤解が原因の場合もあれば、クーデター未遂、重要人物の暗殺、燃料やその他の生活必需品の価格の高騰、国内避難民のキャンプ閉鎖の発表などの具体的な出来事、あるいは引き返せないところまで緊張が高まった一連の小さな出来事の結果である場合もある。

群衆の怒りは、人道支援全体に、あるいは ICRC に向けられることもあれば、あなた個人に向けられることもある。たとえばあなたが交通事故に巻き込まれた場合、あるいは単にあなたがよそ者だから、異なる民族グループに属しているからなどの理由でもあり得る。あなたの活動は、特に文化的な理由で人々に理解されていない場合、または特定のコミュニティが不利益を被ったり無視されていると感じたりする場合、緊張の原因となり得る。また、物資の配給の管理が不適切だと、すぐに厄介な状況に陥ることになる。

群衆の暴力を予測し、防ぐ方法

グループや群衆が暴力的になるリスクは常にあるが、そういう状況は予測できことが多い。

- ・**大勢の人々から離れる**：デモが始まったり、喧嘩が始まったりした場合は、巻き込まれないよう、できるだけ早くその場を離れる。間違っても写真を撮ったり、動画を撮影したりしてはならない。これは群衆や関係者を刺激し、あなたを重大な危険にさらすことになりかねない。
- ・**常に耳を傾ける**：コミュニティやその代表者の意見に耳を傾けることで、失望や憤りをすぐに察知できるようになる。こうした人々は通常、何かが起こりつつあることを知っている。フリーのメディアが存在する場合、地元メディアやソーシャルメディアに常に目を光させておくと、住民の怒りが募る様子を把握することができ、それが誰に向かっているのかを知ることができる。
- ・**明確なコミュニケーションをとる**：ICRC に関する偽情報が多くなるほど、誰かがあなたを攻撃するリスクが高くなる。したがって、人々に積極的に情報を提供し、あなたがしている活動がどのように、誰のために展開され、何をしているのか、どんな期待に応えられるのかを明確に説明することが重要である。
- ・**計画**：地域の説明会や支援物資の配付など、多くの人が集まるイベントは慎重に準備しなければならない。コミュニティに利益をもたらすことを目的とした活動の重要な段階すべてに、地元コミュニティの代表者を参加させ、発生する可能性のある緊張に対処できるように予防措置を講じる。配付を実施する場合は、群衆のコントロールに必要な措置を講じる。
- ・**批判を受け入れる**：あるグループがあなたの活動によって不利益を被っていると考えている場合は、時間をかけて相手の批判に耳を傾け、一緒に解決策を探すことで、緊張はやがて緩和されることが多い。

耳を傾け、先を考えることで、自分に向けられる怒りをその場で認識することができる。

状況を開ける

群衆の怒りの矛先があなたに向けられている場合、何らかの影響力を持っていると思われる人物と交渉することで状況を鎮静化できる場合がある。ただしこの方策は、もはやどうにもならない状態になってしまった場合にのみ使う方がよい。もしも当該地域に詳しくない場合は、交渉する前に現地スタッフにアドバイスを求めるといい。こうした同僚たちはたいてい、群衆の発する言葉や心理をあなたよりも明確に捉えることができ、また、リーダーを特定するのに有利な立場にある。避けるべき過ちが何であるかも把握している。

早く対処すればするほど、状況が悪化することを回避する確率が高くなる。

群衆の怒りを和らげるために考えられる方法：

- ・**リーダーと交渉する**：グループに影響力を持つ人物を探し出し、交渉することを目指す。そういった人物がその時不在の場合は、来てもらうように依頼しなければならないかもしれない。あなたの代わりに群衆とコミュニケーションをとってもらうことで、発信するメッセージはより信用されるものになる。
- ・**敬意を持って耳を傾け、毅然とした姿勢を保つ**：群衆の不満を把握して、解決策を探すよう努力はするが、脅迫や強制を受けてするものではないことを強調する。
- ・**群衆から離れる**：可能であれば、直接群衆の圧力を受けないように、群衆から一定の距離を置いて交渉する。理想的には、争点を別の日に解決するようとする。守れない約束はしない。
- ・**避難経路を特定する**：必要な場合に、できるだけ早く避難するための最も安全な経路を見つける。

状況が悪化した場合

怒った群衆は、たとえよく訓練された治安部隊であっても、すぐに制御するのが困難なことがある。

自分自身が危険にさらされており、状況を開ける試みが無意味であるか、すでに失敗している場合は：

- ・できるだけ目立たないようにして、すぐに安全な場所に移動する。
- ・できる限り早く、この件を ICRC に報告する。

6.2.2 略奪

治安が不安定な地域では状況が急速に悪化し、一時的な無政府状態に陥ることがある。ICRC の病院、倉庫、オフィス、宿舎があらゆる安全対策を講じているとしても、略奪が起きる可能性はある。すべてが瞬時に消えてなくなることもある。人道支援の車列も略奪の対象となっている。たとえ略奪者が元々は窃盗だけを目的としていたとしても、グループの力関係や飲酒や薬物のせいで、あなたを攻撃するリスクが常にある。

略奪の差し迫った脅威がある場合、最善の策は、略奪者が到着する前に、在庫を減らすか、一部の車両をより安全と思われる場所に移動するなどによって、物品を盗られないように保護すること、もしくは盗られてもよい物品だけを残した後に避難することである。ただし、実際にはこのような状況を常に予測できるわけではない。

略奪が発生した場合

略奪者を静止したり、説得したりすることは危険である。ほとんどの場合、邪魔をしないでしたいようにさせるのが最善の策である。略奪者が入手できる物品の量が減少し、時間が経過することで、リスクが個人に及ぶ可能性が高まる。強盗の場合と同様、原則は単純である：

抵抗せず、欲しいものをとらせること！

ICRC の建物内にいる場合は、すぐにその場を離れるか、安全な場所（頑丈な部屋がある場合はその部屋など）に移動することが最善の策である。他の選択肢は唯一略奪者と交渉することであるが、これは自分や同僚の身の安全が脅かされている場合、または交渉することで避難するための車両や助けを呼ぶための衛星電話など、自分の安全に不可欠なものを確保できると思われる場合にのみ行う。

一般的に：

- ・落ち着いて怒らず、注意を引かないようとする。
- ・恐怖を表に出すと、あなたに対する略奪者の優越感が増強され、あなたへの攻撃を促すことになる。
- ・使える通信手段を維持するように努める。
- ・できるだけ早く ICRC との連絡を再開する。

交渉はすべきか？

- ・多くの場合、交渉は選択肢には含めない。
- ・略奪者を怒らせるようなことは絶対にしない。
- ・状況が許し、交渉を試してみる価値があると思われる場合は、相手側で最も権限があると思われる人物と交渉する。
- ・交渉を行うのに最も適した人物を速やかに決める。
- ・自分が交渉に直接参加しない場合は、交渉の邪魔にならないようにし、首を突っ込まない。またパニックに陥らないこと。

ヒーローになろうとしないこと。あなたとあなたの同僚の命は、あなたや
ICRCのあらゆる財産よりもはるかに貴重である。

6.3 兵器



兵器は、その精巧さや殺傷能力のレベルにかかわらず、あなたの安全に対する大きな脅威で、状況によってはより危険をもたらす場合もある。戦闘が進行中またはごく最近停止した場合、基地や戦略的インフラなどの軍事目標の近く、犯罪率の高い地域ではその脅威はより深刻になる。地雷や爆発性戦争残存物（ERW）は、多くの戦闘地域における危険要素であり、その脅威は戦闘が終った後何年も続く。もちろん、武装した強盗に襲われるリスクも常にある。

この項では、あなたが遭遇する可能性のある主要な武器による脅威を説明する。戦闘に巻き込まれることを避ける方法や、地雷、ブービートラップ、ERW の犠牲にならないための方法について、実践的な推奨事項を示す。さまざまな種類の武器とそれが引き起こす創傷について説明している添付資料 12.2 と併せて読むとよい。

6.3.1 一般的なアプローチ

脅威を理解する

まずは自分の派遣先が作成した活動リスクの評価と、それに基づいた安全管理規則を読むこと。武器の専門家になる必要はないが、現地の武器所持者がどのような種類の武器を使用しているのか、いつどのようにそれらを使用する可能性があるのか、武器への依存が差し迫っていることを示す可能性のある出来事は何かを知らねばならない。

紛争地帯でのフィールドトリップの前に、どういった当事者がいるのか、それぞれの意図は何なのか、どのような武器を持っているのかを確認すること。活動予定のエリア、つまり移動予定の経路に沿って、活動を行う予定の場所、および夜を過ごす予定の場所を特定する。これらの予防措置は、その地域を初めて訪れる場合には非常に重要である。

予防策

セキュリティに関しては、起こってから対応するよりも、事前に適切な計画を立てておく方が効果的である。戦闘に巻き込まれると、あらゆる当事者のさまざまな兵器があちこちから向けられる。これらに適切に対応するには、極めて冷静な頭脳と素早い反応、豊富な経験、そして周囲の環境についての確かな知識が必要となる。

攻撃されるリスクが高い時間や場所を避けるように、移動や活動を計画する方はるかに賢明である。

以下の予防措置を講じることで、リスクを大幅に軽減することができる：

- ・明らかな軍事目標から十分に離れる。
- ・攻撃が起こりやすいと考えられる場所や時間帯を避ける。
- ・予備のバッテリーまたは充電器を備えた適切な通信機器を携行する。
- ・武装した団体の管理下にある地域を通過する前に、事前に当該団体から安全の保証を得るように努める。
- ・最近戦闘が発生した地域では注意する。このような地域に入る前に、専門家のアドバイスを得ることが必要な場合もある。
- ・ICRC の建物（オフィス、倉庫、宿舎など）と、病院など勤務先以外の建物の双方で攻撃が発生した場合を想定し、安全を確保するのに最適な場所を特定しておく。
- ・危険な地域を運転する場合：音楽を消し、VHF および HF 無線の音量を最小にして周囲に注意を払い、外の音が聞こえやすいよう窓を少し開けて運転する。
- ・前線の近くにいる場合、あるいは目立つ方が安全であると判断した場合は、遠くからでも識別できる ICRC のゼッケンを着用し、どこかで一晩過ごさねばならない場合は、ICRC のロゴで自分のいる位置を表示する。ICRC の建物の GPS の座標は、その地域での空軍作戦を実施している可能性のある軍隊に伝達されなければならない。

6.3.2 近距離での攻撃

この文脈での「近距離攻撃」とは、棒、こん棒、ナイフ、ナタ、銃剣²⁸など、手に持った物を使用したあらゆる攻撃を意味する。これらの武器は鈍的外傷（棒やこん棒の場合）または穿通創（ナイフ、マチエーテ*、銃剣などの場合）を生じさせる。近距離での攻撃に使用される武器は、入手したり隠したり、使用するのが簡単である。一方、この種の攻撃は、攻撃する者が対象者に近づく必要があり、反撃にさらされることになる。

*訳注：東南アジアやアフリカ、中南米などで木や草を刈るのに使うナタのような刃物。形状は様々。

護身術をうまく使用するには、相当の訓練や練習と技術が必要で、普通の人が使うとさらなる危険にさらされるおそれがある。いずれにせよ、そのような攻撃を受けた場合にどうすればよいかは、状況に応じて決めなければならない。

²⁸ 銃剣（Bayonet）とは、短剣をライフルの銃身や同様の武器に固定した武器のこと。

近距離攻撃のリスクを軽減する

- ・周囲に注意する - 気を散らさない。
- ・攻撃が頻繁に発生することが知られている場所は避ける。
- ・攻撃してきそうな者との間に十分な距離を保つ。
- ・攻撃が差し迫っていると思われる場合は、助けを求めながら逃げることを試みる。
- ・非常口とその他の避難経路を確認しておく。

犯罪が多発している区域や、厄介ごとが起こる危険がある
混雑した場所は避ける。

6.3.3 テロ攻撃

どこで活動していても、また街なかであろうと、スーパーマーケットであろうと、直接的に無差別な攻撃を受けるリスクは常にある。簡単な予防策のひとつは、市場、スーパーマーケット、礼拝所、スタジアム、レストラン、映画館、ホテルなどの公共の場所にいるときは、非常口の位置を常に把握しておくことである。

テロ攻撃への対応

最善の対応は危険からできる限り遠ざかることだが、それが常に可能であるとは限らない。

普遍的な解決策ではないが、「走って、隠れて、伝える (Run, Hide, Tell)」アプローチが有効な場合もある。行動方針の決定が早いほど、効果的になる可能性が高くなる。攻撃者を無力化しようとするかどうかを決めることができるのはあなただけである。状況によっては、これが唯一の選択肢となる場合もある。

1. **走る**：露出を最小限に抑え、安全な場所に移動する。状況が許せば、他人が逃げるのを手助けするか、少なくとも危険の源に近づくのを思いとどまらせる。
2. **隠れる**：逃げられない場合は、部屋に閉じこもり、ドアに鍵をかけるかバリケードを張る。それができない場合は、固い物の後ろに隠れる。持ち運んでいる機器の音を消す（携帯電話のバイブルーション機能を含む）。点灯している照明をすべて消す。
3. **伝える**：自分がさらなる危険にさらされない限り、他人にも警告する。警察や治安部隊が到着したら、言われた通りに行動する。そちらに向かって走ったり、咄嗟の動きをしないこと。両手を上げて武器を持っていないことを示す。

6.3.4 小火器



小火器による発砲とは、拳銃やもう少し銃身の長い武器を使用した戦闘員同士の銃撃戦や、祝賀の際の空中への祝砲、あるいはこうした武器による無差別発砲を意味する。小火器とは、主に拳銃、ライフル、機関銃、肩に担いで発射する対戦車兵器、および擲弾発射装置を指す。これらの武器はターゲットを直接攻撃するように設計されており、通常狙撃者はターゲットを直接視認している。

これらは、運動エネルギー（弾丸の場合）、あるいはその破片（手榴弾などの場合）、または設計方法から生じる特定の効果（例：鉄板を貫くように設計された特定の対戦車弾など）によって傷害や損傷を引き起こす。有効射程距離は、拳銃の弾の場合はたかだか数十メートルだが、対戦車弾の場合は 1 キロメートルに及ぶ場合もある。

武器は、使われ方によって、別の脅威となることもある。銃器から発射された弾丸は常にターゲットに当たるとは限らず、外れた弾丸はそのままかなりの距離を飛び続け、その範囲にいる人々を危険にさらす。たとえば、ライフルの弾丸は 100 メートル離れた標的に外れても数百メートルは殺傷能力を維持しながら飛び続ける。また、銃弾は物に当たった後あらゆる方向に跳ね返る可能性があり*、特に市街地ではさらなる脅威となる。
*訳注：跳弾と呼ばれる

車の中や背後は安全か？

いいえ。通常の車両では、銃弾（拳銃の弾であっても）、ロケット弾、手榴弾、またはこれらの破片から身を守ることはできない。どれも車体を貫通することができ、ロケット弾や手榴弾の場合は車体を破壊することさえできる。また、ガラスの破片で重傷を負う可能性もある。フィールドで使用しているランドクルーザーやトラックの後に隠れても、ほとんど防御することはできない。車両は相手の視界から隠れることはできるが火器からの防護には使えない。狙撃者からは見えないが、銃弾は当たり得る。また、どれだけ速く運転しても、弾丸の方が常に速いということを心に留めおかねばならない。

小火器への対処

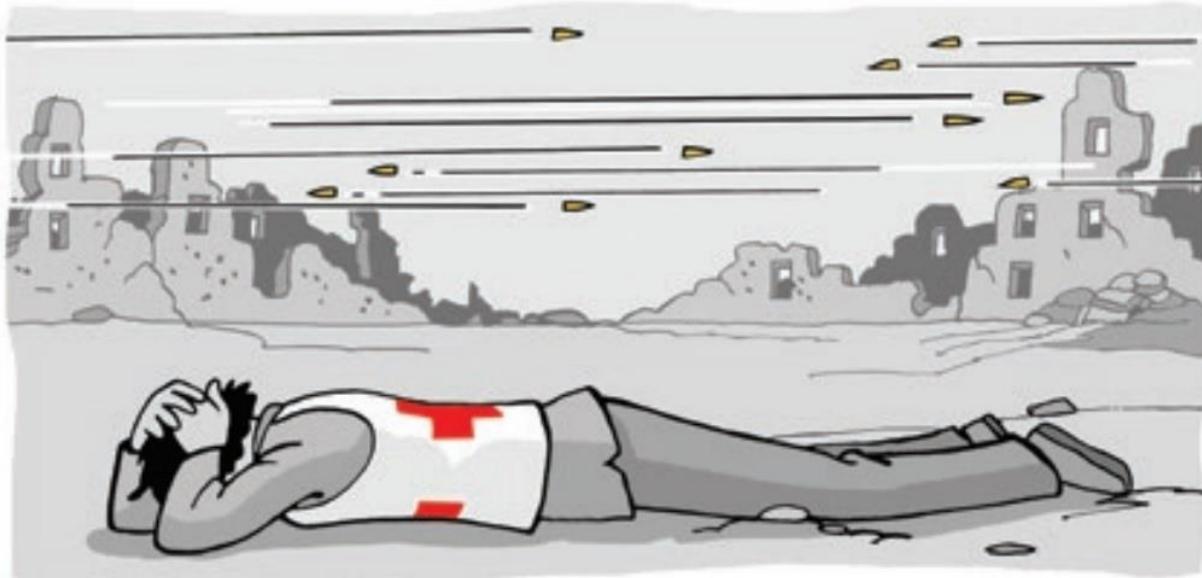
銃弾から身を守る最善の方法は、銃弾が飛んでくる場所にいないことである。しかし、銃撃戦の真っ只中にいたり、跳弾や、標的を外れた銃弾にさらされたり、狙撃兵や犯罪者の標的になることもある。実際に自分が真のターゲットではない限り、次の推奨事項により、関連するリスクを減らすことができる。

木やフェンス、薄い壁は、遮蔽物を探している間、狙撃者からあなたを隠してくれるもの、実際にはあなたを守ってくれない。小火器から身を守るには、岩、コンクリート、または頑丈な壁のようなものが必要である。

自分が銃撃戦の只中にいることに気づいた場合

自分が今どこにいるか、最も近い遮蔽物からどれだけ離れているか、狙撃手があなたからどのくらい離れているか、そしてあなた自身を狙っているかどうかによって、どのように反応するかは異なる。

- ・**銃撃が行われている場合**：できるだけ早く離れる。岩やコンクリート構造物、または頑丈な壁の後に隠れる。できるだけ多くの方向に分散することで、射手を十分に混乱させることができるために、その間にあなたは身を隠すことができる。ジグザグに走っても、あなたに対する攻撃が難しくなるわけではない。
- ・**屋外にいて火器から身を守るものがない場合**：地面にうつぶせになり、体と頭ができるだけ地面に近づける。銃撃がどこから来ているかを突き止め、近くの安全な場所を確認する。今留まっている場所よりもそちらの方が危険が少ないとしたら、できるだけ姿勢を低くしてそこに移動する。



- ・あなたの車両が攻撃を受けた場合：最善の選択肢は、車両を停止し、車外に出て避難することである。道路をそのまま進んだり、逆走したりすると、狙われやすくなる。
- ・避難場所を備えた建物にいる場合：そこに避難する。
- ・十分に安全が確保されたら：時間をかけて状況を分析する。銃撃が止まったからといって、外に出ても安全であるとは限らない。

6.3.5 砲撃と空爆

砲撃



ここでいう「大砲」には迫撃砲*も含む。迫撃砲は標的が遠すぎるか、森や丘などの障害物が邪魔をして直接視認できない目標に対する間接射撃兵器**として知られている。*訳注：小型、軽量で歩兵も扱える大砲 **直接視認できないものに対して砲撃する

大砲や迫撃砲は一般に、爆風、破片や、それ自体の運動エネルギーによって損傷や傷害を引き起こす。ただし、火災を起こしたり、煙を発生させたり、夜間にエリアを照らしたり、化学物質や生物剤を散布したりするように設計されたものもある。

これらの武器の精度はさまざまな要因によって決まる。一般に誘導付きシステムや「インテリジェント」システムはより正確だが、それらも完璧ではないので、自分がターゲットではないからといって安全だとは決して考えないこと。あなたの車両や建物に保護エンブレムがはっきりと表示されている場合でも、武器を発射する側は数キロ離れており、エンブレムを見ることができない場合もある。

空爆



ここでいう「空爆」とは、航空機、ヘリコプター、ドローンなどによる、あらゆる武器の使用を意味する。使用される武器には爆弾、ミサイル、ロケット弾、大砲などが含まれる。それらは通常、爆発、断片化、または焼夷効果によって動作する。飛行体による化学物質や生物剤の散布も可能である。

武器を発砲する攻撃者がターゲットを視認できる場合もある。また、物理的な慣性力やレーザー、あるいは電子システムによって誘導される爆弾やミサイルもある。無誘導兵器を使用した空爆は非常に不正確になる。したがって空爆が行われているところが自分からある程度距離があるという事実は、あなたが安全であるという保証にはならない。ミサイルの発射音は距離があるため聞こえないことが多く、爆発が起こって初めて攻撃に気が付く。

大砲、迫撃砲、空爆による脅威への対応

自分が標的になっていないからといって、自分は安全だと決して考えてはならない。危険を冒さないように逃げられるのであれば、おそらく最も安全な選択肢はその場から逃げることである。ただし、爆弾、砲弾、その他の重量のある爆弾が近くに落ち始めた場合は、何かの下に避難しなければならないかもしれない。

間接射撃兵器の場合、主な脅威は爆発、爆弾自体（砲弾など）の破片、爆発によって飛び散る破片である。

最善の対応方法は、自分がいる場所、発砲/爆撃がどこから来ているか、爆弾や砲弾が着弾する位置、近くにどのような避難設備があるかによって異なる。

一般的に、あなたがターゲットではないと仮定した場合：

- ・間接的な衝撃から保護するように設計されたシェルターを持っている建物にいる場合は、できるだけ早くそのシェルターに逃げる。ICRC の建物に関する限り、大砲、迫撃砲、ミサイルの砲撃による間接的な影響から身を守るように設計されているのはシェルター部分だけである。
- ・そのような施設が利用できない場合は、即席の避難所、できれば丈夫な屋根のある頑丈な建物に避難する。階段部分や地下室など、最大限の保護が提供される場所を選択する。窓や割れる可能性のあるもの、ガスボンベなどの可燃物から遠ざかる。ICRC のシェルターには、持続的な攻撃に対する保護を提供するものではなく、爆弾や砲弾の直撃を受けると、最も頑丈な構造物であっても崩壊するおそれがある。



- ・安全な場所に行けない場合は、重要な臓器を保護する。最適な姿勢は仰向けになり（内臓を背側から守るため）、腕と肘を頭の上で組み、耳を覆う。膝を胸の高さまで上げ（臓器を正面から守るため）、息を吐き出せるように口を開ける（これは圧力の影響による肺の損傷を防ぐため）。この姿勢が取れない場合は、地面にうつ伏せになる。ただしうつ伏せの体制は、重要な臓器を保護する可能性が低くなる。

6.3.6 地雷、ブービートラップ、爆発性戦争残存物(ERW)

地雷とブービートラップ

これらは通常、慎重に選ばれた場所に設置される。多くの場合、植物や瓦礫に隠されたり、埋められたり、覆われていたりする。また、放棄された家やその他の建物の中や周囲に設置されることもある。

地雷は、軍事基地やキャンプ、防衛拠点、発電所、給水システム、道路、橋などの戦略的に重要なインフラなど、重要な施設を保護するためによく使用される。地雷を敷設する者は通常、敵軍や民間人の反応を予測しようとする。たとえば、浅い川にかかる橋に設置したり、橋を避けて川を渡ろうとする人を狙って橋に隣接する川岸などに地雷が設置される場合もある。地雷が単独で敷設されることはあるが、ひとつ見つけたら、おそらくはその近くに他の地雷があると考えねばならない。また、雨、洪水、土砂崩れなどにより、本来設置されていた場所から地雷が移動していることもある。

地雷やブービートラップは通常、爆風とその破片、あるいはこの2つの組み合わせによって人々を殺傷する。これらの最大の特徴は、犠牲者自身によって爆発が引き起こされることである。言い換えれば、圧力プレートやトリップワイヤー、赤外線などの検出器を介し、犠牲者の行動または車両の通過によってこれらが作動する。一般に対人地雷は踏んだ時に爆発すると思っている人が多いが、実は踏んだ足を挙げた時に爆発する。

ブービートラップは通常、隠された爆発装置、または犠牲者の注意を引くように設計された物体に接続された爆発装置で構成される。これらは、ライフルや弾薬などの軍事品、あるいは食料、家庭用品、玩具などの一見無害な物体に爆破装置がつなげられていたり、あるいは死体にもブービートラップがかけられることがある。

地雷とブービートラップは一般的に視認できないという事実により、さらに危険になる。これらの存在が知られている、または疑われている場所で活動するときは常に警戒しなければならない。その地域で専門家による撤去が済んでいない場合、紛争地域におけるあらゆる物は、ブービートラップの可能性があると想定しなければならない。同じことが一旦放棄された土地においても、たとえ住民が戻り始めたとしても、当てはまる。

爆発性戦争残存物（ERW）

爆発せずに戦闘中または戦闘後に放棄された爆発物のこと。これらには、紛争中に爆発しなかった子弾、砲弾、迫撃砲弾、手榴弾、その他の爆発性弾薬などがある。交戦側が放棄した弾薬の備蓄もこれに当てはまる。運が良ければERWは表面に存在し目視できるが、残念ながらこれらは多くの場合、畑や瓦礫の中に埋もれているか、隠されている。不安定な状態であることが多く、誰かが動かしたり触れたりすると爆発する可能性がある。その結果、住民と人道支援従事者両方にとって深刻な脅威となっている。

多くの国には金属のスクラップを扱う業者が多数おり、これらはERWに含まれる金属をリサイクルする目的でERWを採取するかもしれない。何度処理されたとしても、このような装置には依然として爆発性の物質が含まれている可能性があり、非常に危険である。したがって、誰かがあなたに誇らしげにお土産のコレクションを見せようとした場合は、その親切な申し出を断り、それに伴う危険性を説明すること。

地雷、ブービートラップと ERW の脅威と対峙する



地雷、ブービートラップ、ERW は非常に危険であり、疑わしい場合は、専門家に相談する、あるいは住民に聞くこと。地元の人びとは通常、通ってはいけない場所をよく知っている。

- ・よく利用されている道を歩くこと。朝一番に道路を走る車にならないようにする。通ったことのないルートを使う前に、地元の住民がそのルートを使用しているかどうかを確認する。
- ・その存在を把握している、または存在する疑いがある場合は、道路から離れる。地雷が埋まっている可能性があるため、できるだけ硬い路面の道路を使用し、道路の縁には近づかないこと。道路の真ん中にある大きな枝など、地雷を隠している可能性のある障害物には注意。
- ・地雷、ブービートラップ、ERW の存在を示す標識に目を配り、すべての警告表示に従う。

戦闘行為があった場所、とりわけ都市部では、常に用心すること。

- ・特定の場所に地雷、ブービートラップ、ERW があると思われる場合は近づかず、専門家に当該地域を調べてもらうこと。できるだけ早く報告し、危険を冒さないようにその位置がわかるように印をつけ、報告書と情報引継ぎのためにその位置を地図に記す。
- ・弾薬、武器、その他の爆発物である可能性のあるものには決して触れないこと。そのような物体を他人に代わって見張ったり処理することは決してしないこと。
- ・医療活動に従事している場合は、地雷または ERW による外傷患者は全症例を報告する。

自分が地雷原にいると思われる場合：

- ・その場を動かない！ 攻撃されているなどのやむを得ないセキュリティ上の理由がない限り、その場から移動しない。どうしても移動しなければならない場合は、差し迫った危険を避けるために必要な範囲のみ移動する。救助を求め、専門家によって周到に計画された救助活動が開始されるまで、その場に留まる。
- ・同僚が負傷したり危険にさらされたりした場合、たとえ同僚が助けを求めてきたとしても、急いで助けに行ってはならない。地雷がひとつあるところには、他の地雷が周りにある可能性が高く、新たな犠牲者がでることは誰にとっても何の得にもならない。

6.3.7 化学、生物学的、放射線性の危険物(CBRN)

非常に複雑な事柄については詳しく説明しないが、この項では脅威についてある程度理解し、汚染の兆候を認識する方法について説明する。また、放射性物質や化学物質が存在している現場で、それらにさらされるリスクを減らすためのアドバイスも提供する。

化学兵器や生物兵器、放射性物質・核兵器（CBRN）による脅威を軽減するには、複雑な対策が必要となる。適切な訓練を受けているか、特定の状況に即した手順が策定されていない限り、CBRN 兵器が使用されたと思われる地域では活動しないこと。

脅威を理解する

CBRN 兵器は、人を殺し、傷つけ、または疾病を引き起こすように設計されている。人や環境に与えるダメージの性質と深刻さは、病原体の種類と暴露量によって

異なり、これら 2 つの要因によって、症状がいつ現れるかが決まる。多くの CBRN 兵器の中身の物質や病原体を五感で覚知することはできないが、特定の状況下では検出できるものもある（下記参照）。これらの CBRN の物質は、保管されている密閉容器から取り出され、環境中に放出された場合にのみ脅威となる。

CBRN 汚染が意図的であるか偶発的であるかにかかわらず、取るべき措置は有害物質の種類と暴露の程度によって決まる。

化学物質：これらは有害な化学物質であり、工業目的で合法的に製造されているものもあれば、化学兵器として使用するために意図的に設計されたものもある。これらの物質の大気中への飛散は、特にロケット、爆弾、砲弾、即席爆発装置（IED）などの兵器によって意図的に放出された場合、人と環境の両方に深刻な影響を及ぼす。意図的または誤って工業用容器から放出された場合も同様である。このような物質は、製造、保管、輸送中、あるいは自然災害の結果として、誤って放出される可能性もある。有毒な化学物質を保管している施設は、攻撃を受けると損傷を受けこれらを放出する可能性がある。

化学兵器は禁止されているため、大量に入手することは難しく、近年では限られた数の武力紛争でのみ使用されている。ただし有毒物質自体は色々なものが、工業用、農業用、飲料水の浄化用などとして広く使用されている。最も一般的なものは、塩素（浄水）、アンモニア（肥料）、シアン化カリウム（鉱業）、ホスゲン（プラスチック）である。

生物学的物質（病原体）：生物学的物質は、通常自然界に存在する、または遺伝子組み換えによって生み出された微生物（ウイルス、真菌、細菌）または毒素（生物によって生成される有毒物質）の形をとり、これらが環境中に放出されると、疾病に罹患したり、死に至る場合がある。特定の生物学的物質（病原体）は、エボラ出血熱、豚インフルエンザ/SARS（HxNx）、重症急性呼吸器症候群（SARS）、あるいは牛の風土病である炭疽病などの流行を引き起こしている。生物兵器は、通常はすでに存在するウイルス株をまき散らすことによって機能する。

放射性物質：放射性物質とは放射能を出す物質である。これらは天然由来のものである場合もあれば、工業目的または医療目的で製造されたものもある。たとえばそのような物質は、癌治療のためのガンマナイフ放射線療法、血液を処理するための装置、および X 線撮影装置に使用される。これは、病院や工場への爆撃や砲撃によってそのような設備が爆発し、損傷した場合に、放射性物質が放出される可能性があることを意味する。このような状況では、化学汚染も同時に発生する可能性もある。

放射性物質は、たとえば戦車の装甲板を貫通するように設計されている劣化ウラン弾など、ある種類の弾薬にも含まれている。これらは爆発した地点のすぐ近くで放射能汚染を引き起こす。しかし、このタイプの弾薬による最大の脅威は、おそらく放射能ではなくウランの毒性であり、法医学の分野での活動に従事する人道支援関連の職員は特に注意しなければならない。爆発地点の周囲の土壤を掘り返した場合、劣化ウランを含む粉塵の粒子を吸い込み、身体が汚染される可能性がある。

従来の爆弾に放射線を発生させる線源を追加することも可能であろう。これは「汚い爆弾（Dirty bomb）」として知られている。このような爆弾は爆発する際に放射性物質を飛散させる。その目的は建造物を破壊することではなく、直接的な放射線や放射性物質の摂取と吸入によって、そのエリアと住民を汚染することである。このような爆弾を持とうとすると、放射性物質入手し、爆弾を製造し、配備するために大きな組織が必要である。したがって、こういった爆弾が実際に使用されるリスクは非常に低い。

核の脅威：核兵器/原子兵器（核分裂からエネルギーを得る）または熱核兵器（原子核の融合を使用する）といった、爆発中の放射性物質の放出に関連した脅威である。

しかしながらこのような兵器が使用される可能性は低く、国家と国際原子力機関の両方によって厳重に監視されている。誰かが核兵器を使用する可能性があるという確実な兆候があった場合、唯一の選択肢は当該地域を離れることがある。したがって本書でこれ以上述べることはしない。

汚染の可能性を示す指標

紛争の一方の当事者が、もう片方に対して CBRN 兵器を使用し、住民に対して汚染物質をまき散らしたとして非難することがある。そのような告発がなされた場合、専門家がその訴えが正当であるかどうかを検証し、正当である場合には汚染の正確な種類と程度、範囲を確認する必要がある。これは伝染病の場合も同様である。特定の状況下では、五感によって特定の CBRN の汚染物質を認識できる場合もあるが、常にそうとは限らない。ほとんどの化学兵器は本質的に無臭であり、すぐには明らかな症状を引き起こさないものもある。また生物兵器の場合は、症状が生物兵器によるものか、それとも自然発生した疾病によるものかわからない場合もある（たとえば、多くの自然発生の疾患でみられる発熱や全身疾患）。このような場合、疾患の発生を検出し、疾患者を確認するには、数日または数週間かかるおそれがある。また放射線の場合は、症状の発現が遅れるために放射線被ばくの兆候がすぐには分からぬこともある。

CBRN 事案が発生した可能性のある兆候には次のようなものがある：

- ・匂いや爆発時の特徴もしくは煙
- ・原因不明の異臭（苦いアーモンド、桃の種、刈り取ったばかりの干し草や緑の草のような臭い）
- ・多くの人々（おそらくあなたも含む）に見られる原因不明の症状：頭痛、吐き気、嘔吐、呼吸困難、けいれん、めまい、見当識障害、水疱、皮膚の変色、熱傷など
- ・上記の症状による多数の入院例
- ・人や動物の死亡数の突然の増加
- ・担当者が防護具を着用している

汚染した患者を治療し、汚染地域における法医学的業務を遂行するためには特別な技術が必要とされる。

上記の兆候の数が多ければ多いほど、CBRN 事案が発生した可能性が高くなる。あなたが病院で働いており、上記の症状を持つ患者を多数受け入れている場合は、治療を開始する前に自分自身を守るための措置を講じなければならない。そうしなければ、自分自身が犠牲者になる危険がある。

CBRN による汚染物質への暴露

CBRN による汚染物質が放出された時にその場所にいた場合だけでなく、その後に汚染地域に入った場合でも、放出された地点以外の場所で汚染物質にさらされる可能性がある。さらに、最初は汚染されていなかった地域が、汚染された人や物体によって後に汚染地域になってしまう可能性もある。

考えられる暴露経路は次のとおり：

- ・空気中に存在する物質の吸入
- ・目、皮膚、あるいは開放創との接触
- ・汚染された食品または水の摂取
- ・汚染された物体に触れた後の手から口を介した感染
- ・人から人への感染
- ・残留性物質との接触/吸収
- ・空気中に浮遊して残存する物質の吸入

対処の手順

ICRC が CBRN の脅威が重大であると考える地域では、適切な手順が安全管理規定に追加される。必要に応じて ICRC は、医療従事者など特に暴露される危険のある職員向けの研修を行い、個人用保護具も支給する。



放射性物質汚染（の疑い）への対処

放射線は目に見えず、健康への影響も通常、すぐには判別できない。これらの影響は、線量、被害者と線源の間の距離、および暴露時間によって異なる。放射線は物理的な障害物によって減衰するし、場合によっては、わずか数時間で放射線レベルが大幅に低下することもある。一般的に屋外や車両内よりも建物内の方が安全である。

放射性物質による汚染が疑われる場合：

- ・指示がない限り勝手に避難しない。放射線から身を守るために、できるだけ密度の高い資材の後ろの内側の部屋（できるだけ建物の中心に近い場所）に移動する。
- ・布を使用して、鼻、口、皮膚を放射性粉塵から保護する。すべての窓と扉をダクトテープとプラスチックシートで閉じて密閉する。すべての鍵穴と亀裂を脱脂綿

または濡れた雑巾で塞ぎ、水に浸した布を使用してテープでドアの下の隙間を塞ぐ。空調の通気口、換気扇、セントラルヒーティングシステムを止める。

- ・他人との物理的接触を避ける。
- ・自分自身の汚染を除去する：靴と衣服を脱いで、少なくともビニール袋を二重にし、しっかりと密閉し、汚染物が入っていることを示すマークを袋に付ける。可能であれば石鹼とお湯を使って、体を頭からつま先まで、髪の毛も含めてきちんと洗う。皮膚はこすらないようにする。
- ・汚染されている可能性のある食料や水の摂取を避ける。
- ・直ちに ICRC に連絡し、状況に関する信頼できる情報を入手するよう努める。
- ・できるだけ早く医師の診察を受ける。必要な治療は、暴露した物質の種類によって異なる。

化学汚染（の疑い）への対処

化学薬品や有毒な工業製品にさらされた場合の最優先事項は、健康への影響を最小限にすることである。特に汚染された区域の端にいる場合は、いくつかの対策を講じることができる。

- ・まずは避難する！ 鼻と口を保護し、汚染物質との接触を避けて、直ちにその場から離れる。
- ・避難/自己保護/除染キットを支給されている場合はそれを使用する。支給されていない場合は布で鼻、口、皮膚を覆う。
- ・風向きに対して直角の方向に向かい、できるだけ高い場所に行く。車に乗っている場合は、窓を閉め、換気、空調、暖房のスイッチを切る。
- ・避難が不可能な場合は、建物内、できれば上の階に避難する。すべての窓と屋外へ通じる扉をダクトテープとプラスチックシートで閉じて密閉する。すべての鍵穴と亀裂を脱脂綿または濡れた布とテープでふさぎ、水に浸した布を使用して扉の下の隙間を塞ぐ。空調の通気口、換気扇、セントラルヒーティングシステムを止める。
- ・他人との物理的接触を避ける。
- ・自分自身の汚染を除去する：靴と衣服を脱いで、少なくともビニール袋を二重にし、しっかりと密閉し、汚染物が入っていることを示すマークを袋に付ける。可能であれば石鹼とお湯を使って、体を頭からつま先まで、髪の毛も含めてきちんと洗う。皮膚はこすらないようにする。
- ・汚染されている可能性のある食料や水の摂取を避ける。
- ・直ちに ICRC に連絡し、状況に関する信頼できる情報を入手するよう努める。
- ・できるだけ早く医師の診察を受ける。必要な治療は、暴露した物質の種類によって異なる。

6.3.8 兵器:自身への5つの問いかけ

1. この地域の武器所持者はどのような種類の武器を持っているか? それらに関連する脅威は何か?
2. 交戦者の最も可能性の高い標的は何か?
3. この地域で地雷が埋まっている可能性のある地域はあるか?
4. 自分が使用している建物内で攻撃から避難するのに最適な場所を知っているか?
5. 最近戦闘が行われた地域に入る前に、武器の専門家に相談する必要があるか?

6.4 サイバー攻撃による脅威

誰かがあなたの個人データ、電子メール、オンラインショッピングの情報や銀行口座を入手したらどうなるであろう? 実際、個人情報の盗難は頻繁に発生しており、被害者に深刻な影響を与える。犯罪者は、複数のウェブサイトから盗んだ情報を使用してあなたになりすまし、あなたの知らないうちにローンを組んだり、クレジットカードを取得したり、商品やサービスを注文したりできるようになる。

パスワードの盗難は、あなたの仕事に重大な影響を与える可能性もある。個人または団体が機密情報にアクセスしたり、あなたのIDを利用してあなたの名前やICRCの名前で声明を発表したりすることも起こり得る。このような行為はICRCの評判を傷つけ、あなたを危険にさらす。悪意のある第三者が、ICRCが支援している人々に関する機密情報を入手した場合、どのような結果が生じるかは想像に難くない。

6.4.1 サイバー攻撃からの防御

ハッカーはほとんどの場合、巧みな手口を使ってデータを取得する。最も簡単なやり方は、あなたの好奇心や不注意を利用することである。家を強盗から守るのと同じように、データを保護する必要がある。ロックできるものはすべてロックし、見知らぬ人に決してドアを開けない。

- ・仕事上の連絡に個人用システムを使用しないこと。
- ・ICRCによって保護されていない通信システムを介して機密情報を送信しない。一部の国では、メッセージングシステムが常に監視されており、メッセージは簡単に傍受される。

ハッカーに対して防御を怠らない。ICRCが承認した通信システムのみを使用し、安全を保つ。

- ・ 使用するシステムごとに、異なる複雑なパスワードを使うこと。パスワードを最低 10 文字で構成し、大文字、小文字、数字、特殊文字を組み合わせたものとすること。日付や町の名前などのわかりやすいものは避ける。20 文字以上のパスワードを使用するとさらに良い。誰にも渡さず、書き留めず、定期的に変更すること。パスワードを安全に保管するには、パスワードマネージャー（パスワードを保管する金庫のように機能するシステム）を使用するとよい。
- ・ ICRC 以外の人物が作成した USB ドライブは決して使用しないこと。あなたの端末をスパイしたり、コンピュータにマルウェアをインストールしたりするために使用される可能性がある。
- ・ どのようなシステムを使用していても、通信が傍受される可能性があることを常に想定しておく。したがって、公にしにくいことを言ったり、書いたり、投稿したりする前に、慎重に考えること。
- ・ 特に、空港、レストラン、ホテルなどの公共の接続を介した通信は、無線接続、有線接続に関係なく、容易に傍受される。

情報技術設備の利用

ICRC の行動規範 (V.2) では、業務関連の情報のやり取りには ICRC が提供または認可した IT ツールのみを使用しなければならないと規定している。その目的は、最適な情報管理を確保し、ハッキングのリスクを軽減することである。

6.4.2 サイバー攻撃

サイバー攻撃は現実のものであり、人道支援団体を含むすべての人にとって脅威となっている。過去の経験からこのような攻撃は、特に住民にとって不可欠な基本サービスに支障をきたす場合、多大な損害を与える可能性があることがわかっている。たとえば、病院の IT システムが停止すると、医療の提供が非常に困難になる。通信システムがハッキングされた場合、その影響は個人のセキュリティへの影響をはるかに超える可能性がある。サイバー攻撃は業務を混乱させ、一緒に活動する人々に損害を与えるため、我々全員が必要な予防措置を講じる責任を共有している。

これらの攻撃は誰がするのか？「初心者」ハッカー（通常は若者）は、多くの場合単なる娯楽のためにランダムに対象を攻撃する。さらに、政治的、宗教的、環境的、またはその他の目的を持つ個人がおり、利益を得るためのサイバー犯罪者がいる。最後に、国家その他の団体が、スパイ活動ほか、色々な理由でシステムを攻撃している。

サイバー攻撃はいくつかのフェーズで構成される。



最も一般的で最も発見しやすいハッキングのひとつはスパムメールで、ユーザーをだましてパスワードを得ることが目的で、フィッシングとして知られる。これらの電子メールには、マルウェア（悪意のあるソフトウェア）が添付されていることもある。マルウェアは端末のパソコンだけでなく、接続しているネットワーク全体に対する脅威となる。これに対する最善の対処は電子メールを開く際に注意することである。

メールに関するその他の注意点：

- ・フィッシングの主な目的は個人情報を盗むことである。送信者の名前やメールアドレスに騙されない。
- ・緊急であると主張するメッセージや、慎重さの必要性を忘れさせることを目的とした脅迫が含まれるメッセージには疑いを抱くこと。価値ある目的の支持や嘆願書への署名を求めるメールも同様である。

- ・リンクや添付ファイルをクリックする前に必ずよく考え、不審な電子メール内のリンクや添付ファイルは決してクリックしない。

疑いを持つこと。予期していない、仕事に関係がないと思われる電子メールを受信した場合は、開かない。

6.4.3 インスタントメッセージとファイル管理システム

インスタントメッセージ*とファイル管理システム**には注意が必要である。これらは広く利用されているが、機密情報の共有や保存を目的として設計されているわけではなく、あなたがそこに託した情報をコントロールできなくなる。さらに、将来の ICRC の活動にとって重要な可能性のある情報がアーカイブされないため組織的に失われてしまう。これにより、我々の組織としての記憶に不可欠な情報が奪われてしまう。また、データがどこに保存され、どの法的管轄下にあるかがわからないため、データが第三者に開示されるリスクがある。ICRC の特権と免責は、法廷での強制開示から我々の情報を保護するが、そのためには情報が我々自身のシステムに保存されていなければならない。これらを外部に保存していた場合、裁判所または法廷がサービスプロバイダーに対して、我々の活動に支障をきたし、ひいてはあなたに損害を与える可能性のある情報の開示を強制することが可能になる。

*訳注：LINE や WhatsApp の類 **クラウドなど外部にファイルを保管するシステム

- ・どのインスタントメッセージシステムとファイルストレージシステムを使用してどれを避けるべきか、またそれらを使用する際の注意事項については、ICRC に相談すること。

フェイスブック

携帯電話のフェイスブックアプリは、データへのアクセスに関連する約 50 の許可を要求する。これを許可すると、アプリは GPS データ、テキストメッセージ、連絡先、カレンダー内のすべてのものにアクセスできる。

6.4.4 サイバー攻撃からの防護: 8つの推奨事項

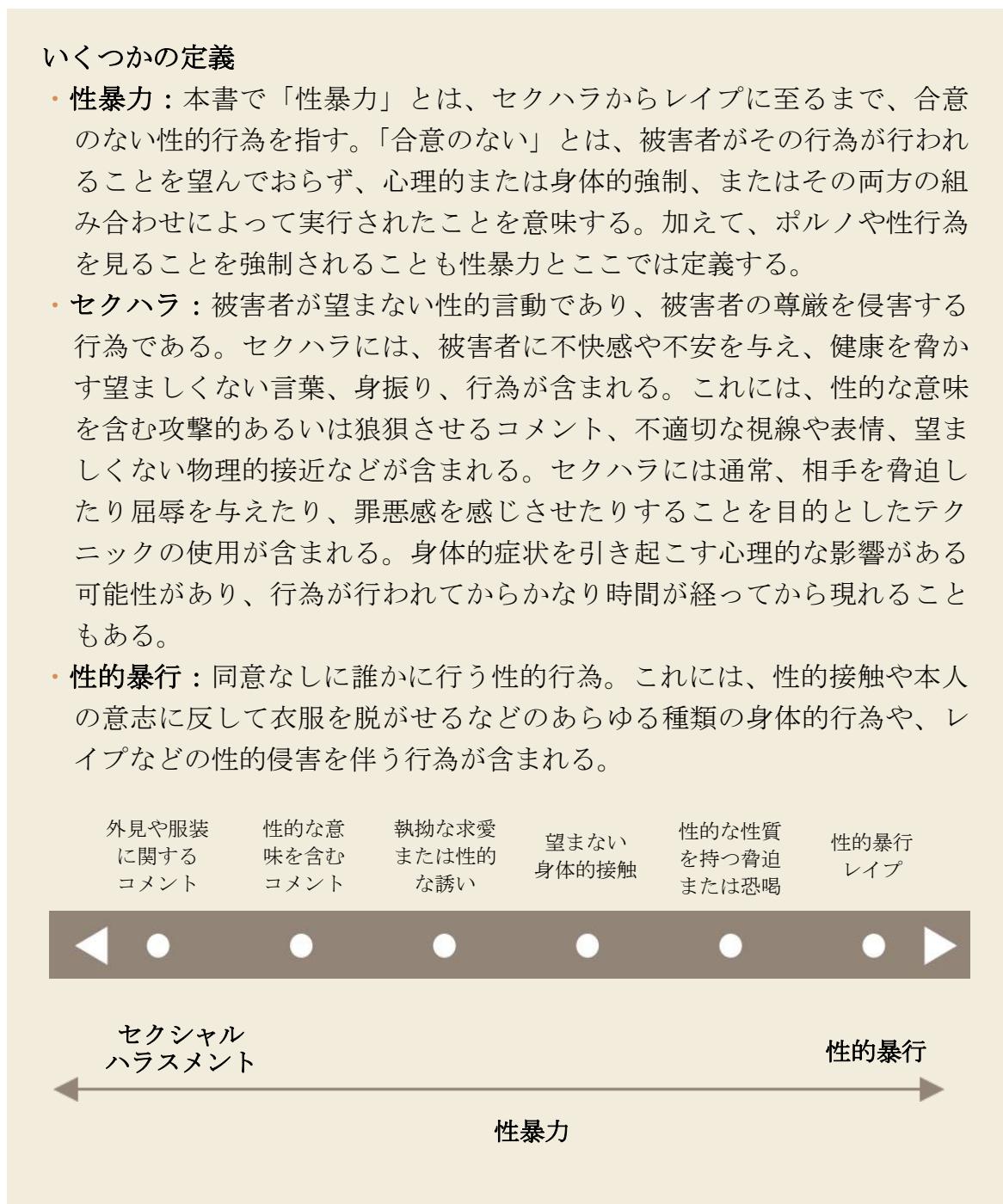
1. ICRC によって認可されたツールとアプリケーションのみを使用する。疑問がある場合は、ICRC の IT 専門家に相談する。
2. 機密データに関してはインスタントメッセージを使用しない。
3. 機密情報を暗号化されていない手段で送信しない。
4. 強力なパスワードを作成し、複数の通信システムで同じパスワードを使用しない。
5. 出所がわからないメールのリンクや添付ファイルはクリックしない。
6. ICRC 以外の人物が作成した USB ドライブは決して使用しない。
7. 情報を適切な場所に保存する。業務関連のデータをクラウドやプライベートのディスクやデバイスに保存しない。
8. オンライン上での個人的な露出を制限する。

6.5 性暴力

人道支援に従事する職員の性暴力被害は過小評価されており、そのような事件は報告されないことが多い。しかし、いくつかの研究によると、その件数はかなりの数になることが示されている。人道支援女性ネットワークが 2016 年に人道支援団体で働くあらゆる出自の女性 1,000 人を対象に実施した調査によると、半数以上が他の人道支援従事者から性暴力を受けており、4%がレイプされた経験があるという。性暴力の被害者のほとんどは女性（あらゆる出自、あらゆる教育レベル）であるが、男性に被害がないという意味ではない。同性愛者、あるいは同性愛者であると思われている人が最も危険にさらされる。

どこで活動しているかにかかわらず、性暴力は ICRC の倫理的価値観と基準に反しており、決して正当化されず、決して容認されない。ICRC は、被害を受けたのが職員か、職員が当該行為を行ったのかに関わらず、いかなる形態の性暴力も容認しない。

この項では、性暴力の脅威の性質と、自分が弱い立場に置かれないようにする方法、自分または同僚が性暴力を受けた場合の対処法について説明する。

図 6：性暴力の連続性の図²⁹

²⁹ この図は以下を参考に作成した：Global Interagency Security Forum (GISF), Managing Sexual Violence against Aid Workers: Prevention, Preparedness, Response and Aftercare, GISF, 2019, p. 5: <https://gisf.ngo/resource/managing-sexual-violence-against-aid-workers/>.

6.5.1 性暴力のリスクの軽減

脅威を理解する

加害者は誰か？性暴力が懸念される場合、武装した人々が主な脅威であると考えるのは間違いである。研究によると、人道支援に従事する職員に対する最大の脅威は見知らぬ人からではなく、知り合いであることがわかっている。人道支援従事者に対する性暴力の加害者のほとんどは男性の人道支援従事者であり、多くの場合被害者よりも上の階級である。もちろんこれらだけではなく、特に武器を所持した外部の者からの重大な脅威も存在する³⁰。

最も危険な状況は何か？性暴力はあらゆる社会で発生するが、特に次のような特定の状況で蔓延している：

- ・武力紛争の影響を受けた地域
- ・法の支配が弱い、または存在しない地域
- ・家父長制の強い社会
- ・性差別と同性愛嫌悪が蔓延している環境下
- ・女性に対する暴力のレベルが特に高い社会
- ・加害者が処罰されずに行動できる環境下
- ・アルコールの乱用や薬物乱用が蔓延する祝賀行事
- ・逮捕、拘束、人質を取るなど、個人が他者をほぼ完全に支配する環境下

性暴力のリスクを懸念しているにもかかわらず、着任時に受けたセキュリティに関する説明でその件が取り上げられなかつた場合は、同僚の保健担当アドバイザーまたはICRC内で信頼できる他の人物に連絡すること。

弱い立場に置かれないとめに

誰もが性暴力の被害者になり得る。弱い立場に置かれる場合は、その人の特性（国籍、性別、民族性、性的指向など）、組織内での立場、および所在地によって異なる³¹。

³⁰ 出典：D. Mazurana and P. Donnelly, STOP the Sexual Assault against Humanitarian and Development Aid Workers, Feinstein International Center, Tufts University, 2017: <https://fic.tufts.edu/publication-item/stop-sexual-assault-against-aid-workers/>.

³¹ Global Interagency Security Forum (GISF), Managing the Security of Aid Workers with Diverse Profiles, GISF, 2018: <https://gisf.ngo/resource/managing-the-security-of-aid-workers-with-diverse-profiles/>.を参照のこと

性暴力から身を守るためにまずしなければならないことは、行動規範を理解して従うこと、性暴力を認識する方法を知ること、そして助けを得る内部メカニズムを知ることである。

- ・同僚の行動があなたを不快にさせる場合は、遠慮せずに「慎重に」同僚に伝える。例：「こんにちは」とハグされたが、あなたはそれを望んでいない場合。
- ・確信が持てない場合、何かについて不快に感じた場合、または性暴力に遭った場合、ICRC 内外を問わず、誰に助けを求められるかを調べておく。
- ・このような事案の ICRC の報告メカニズムについて調べておく。

安全管理規則にしたがって、特定の基本的な予防措置を講じることで、ターゲットになるリスクを大幅に軽減することができる。たとえばグループで移動すると危険が軽減される。外から直接アクセスできない部屋で寝ることで、侵入者のリスクを軽減できる。

その他の注意事項：

- ・アルコールや薬物の影響下にある人には特に注意が必要である。また、アルコールや薬物は注意力を低下させ、判断力に影響を与え、その結果、ますます弱い立場に追い込まれる可能性があることに注意する。薬物の摂取は ICRC 行動規範で禁止されている。
- ・あなたの住居に誰かが立ち入るのを防ぐために、または少なくとも侵入を遅らせるためにできる限りのことをする。特に夜間は扉、窓、門を施錠し、警報システムをよく理解しておく。
- ・遠隔地に数日間滞在する予定がある場合は、応急处置キットに加えて、チームがレイプ暴露後キットを携行する必要があるかどうかを調べる（以下を参照）。キット内の薬はレイプ発生後 72 時間以内に服用する必要があるため、最寄りの ICRC から 48 時間以上離れることが予想される場合は、レイプ暴露後キットを持参する必要がある。

6.5.2 性暴力への対応

被害を受けた後に行動に出るかどうかの決定

起こったことが性暴力に該当することが完全に明らかである場合もあるし、状況によってはそれほど明確ではない場合もある。自分が経験したことが性暴力かどうかはどうやって判断できるのであろうか。

簡単に言えば、誰かの行動が性的であると感じて不快感を覚える場合、あなたは何らかの形の性暴力を経験している可能性がある。

- ・あなたがやりたくないことを誰かがあなたにやらせたら、「ノー！」と言うこと（安全に実行できる場合）。
- ・不快に感じた場合は、ひとりで抱え込まずに、できるだけ早く信頼できる人に相談すること。相談する人は ICRC で働いているかどうかに関係なく、信頼できる人物であればよい。状況の深刻さを評価し、何が起こったのかを考え、あなたをサポートし、必要な措置を講じるのを手助けするのに適した立場にあるかもしれない。

不快に感じる状況が、性的な要素を帯びている可能性がある場合、自分で対処しようと考へず、信頼できる人に相談する。

我々は全員、性暴力が決して起こらない組織文化を築く責任を共有している。たとえそれが取るに足らないものであっても、同僚による性暴力行為に対処しなければ、被害者は何も言えなくなり、加害者に自分たちがやっていることは問題ないという印象を与えることになってしまう。多くの場合、相手を怒らせないように注意しながら、単純にそれは受け入れられないと言うだけで、その行為を止めさせるのに十分である。

性的暴行やレイプに対する反応

性的暴行やレイプの差し迫った脅威に自分がどう対応できるかを事前に知ることは不可能である。あなたの対応は、あなたがどこにいるか、加害者の人数、加害者があなたにということをきかせるために使う手段は何か、あるいはあなたは加害者のことをどれだけよく知っているか、そして助けを呼ぶか逃げることが可能かどうか、これらによってかわってくる。困難を乗り越えて生き残る可能性を最大限に高めるために、あなたの防御機構を活性化させねばならない。

言い換れば、対応に「良い」方法も「悪い」方法もない。この種の状況を経験したほとんどの人は、次のうちのひとつまたは複数の対応をとる：

- ・**積極的な抵抗**：助けを求めて叫びながら逃げる、反撃する、もがく、加害者を殴ったり蹴ったり、噛みついたりする、など。
- ・**受動的な抵抗**：「自由」と引き換えにモノ（お金、時計など）を提供するか、逃げ出すために機転を利かせて、加害者を思いとどまらせようとする。

- ・固まる：一切抵抗をしない。他に選択肢がなく、服従することが生き残る唯一の希望である場合、被害者は本能的にこうなってしまうことがよくある。

とにかく生きて乗り切ることが最優先。次に、性的暴行やレイプの肉体的被害を最低限にすること。

レイプの目撃を強制された場合

直接（視覚的に）または間接的に（事件を聞くことによって）レイプを目撃することを強制される場合がある。これは、何よりも攻撃を防ぐことに対して無力であるため、非常に悲惨な状況になる。このような状況に陥った場合：

- ・加害者への説得や交渉の可能性を考える。
- ・自分を危険にさらす可能性のある行為は避ける。
- ・レイプを防ぐためにできることが何もない場合は、その後被害者を助ける最善の方法に精神的エネルギーのすべてを集中する。経験上、このような態度を取ると、当該状況に対処しやすくなることがわかっている。

6.5.3 性暴力後の支援

性暴力を受けた後に恥辱や罪悪感、屈辱を感じ、それを知ったときの家族や友人の反応、他人の目を恐れるのはごく普通のことである。事件を可能な限り秘密にしておきたいと考えるのは十二分に理解できることである。自分が経験した暴力について誰に何を話すかを決めるのは自分である。

自分がレイプや性的暴行を受けた場合は、できるだけ早く医療専門家に連絡する。その職務上、守秘義務に則って対応してくれる。

最優先事項は、自分が安全だと感じる場所を見つけ、医療と心理社会的サポートを受けることである。誰と一緒にいると居心地がよく、誰に助けを求められるかは、自分が一番よく知っている。それは、友人や同僚であったり、健康アドバイザー、上司、またはその他の人物であることもある。

ただし、適切な治療を受けられるよう、できるだけ早く医師または看護師に連絡することを勧める。医師と看護師はその職務上守秘義務があり、あなたに何が起こったのか、あるいはあなたの健康状態に関する情報は、事前の同意なしに他人に開示されることはない。これは、自分に起こったことについて完全に内密に話しをすることができるることを意味する。

レイプの場合、ICRCは、発生する可能性のある緊急の医学的脅威に対処するためのレイプ暴露後キットを提供するが、キットの薬を発生後 72 時間以内に服用しなければ効果がない。キットは医療専門家の厳重な監督の下で使用しなければならず、それぞれの薬の役割、注意点、正しい用量、副作用などについては専門家に教えてもらうことができる。

6.5.4 性暴力に遭った同僚へのサポート

同僚が性暴力を受けたとあなたに伝えた場合に、どう対応するかを知っておくことも重要である。まず第一に、同僚に話をする機会と、安全であるという印象を与える必要がある。あなたの役割は、希望やニーズに耳を傾け、可能であればサポートできる専門家と連絡が取れるように支援することである。性暴力が人に与える影響は、その人の信念、文化、アイデンティティによって異なることに注意し、緊急の治療が必要という状況でない限り、あなたがその人の代わりに決断を下さないことが重要である。性暴力は、身体的および精神的な健康を損なうだけでなく、社会の一員としてのその人の安全と将来を脅かす可能性がある。したがって、どの対策が適切であるかを最もよく判断できるのは被害者自身であるため、あなたは何らかの行動を起こす前に相手の同意を得る必要がある。

最初のステップは、被害者が ICRC 内で適切な医療専門家を見つけられるよう支援することである。彼らは被害者が正しい行動方針を選択する際に導くのに最も適任である。

- ・被害者が安全であること、そして安全だと感じていることを確認する。
- ・思いやりと共感を示す。
- ・彼ら自身のニーズを認識できるように支援する。
- ・疑問を持たずに話を聞き、信じていることを示す。
- ・正確に何が起きたのかを質問したり、完全な説明を求めたりしない。話すことを強要せずに、ただ耳を傾けること。
- ・医学的および心理的サポートの観点から利用可能な選択肢について話し合い、正しい決定を下すのに役立つ客観的な情報を提供する。
- ・当面の実際的な事柄に対処するのを手伝ってほしいかどうかを尋ねる。例：家に連れて帰る、清潔な服に着替えるなど。

被害者を非難したり批判したりするような発言をしないように十分注意する。責任があるのはただ1人、加害者である。

提供されたすべての情報は、被害者と推定加害者の身元と同様に、極秘に扱う。ただし、被害者が黙秘を望んでおり、これによって被害者や他の人が危険にさらされていると思われる場合は、被害者を特定せずに上司にアドバイスを求める。

性暴力に遭った同僚に伝える メッセージ	避けるべき事柄
<ul style="list-style-type: none"> - 何かお手伝いできることはありますか？ - あなたは一人ではありません。守秘義務に則ってあなたに寄り添い、必要なあらゆる措置を講じるのを手伝ってくれる専門家がいます。 - あなたが感じていることは、まったく普通のことです。 - 起こったことについて自分を責めないでください。責められるのは加害者だけです。 	<ul style="list-style-type: none"> - 何が起きたのかについての詳細な説明を求める。 - あなたに話した内容の真実性や正確さについて疑問を呈する。 - 事件の深刻さを軽視する。 - 推定加害者が「そのようなことをする」ことはありえないと示唆する。 - おそらくすべて単純な誤解であり、加害者と直接話すことで解決できると示唆する。 - 当てにならない約束をする。 - 被害者のために決断を下す。

6.5.5 加害者の起訴

レイプを警察に通報するかどうか、また加害者に対して法的手続きを開始することが自分の利益になるかどうかは難しい判断であり、自分のケースについて専門家と話し合う必要がある。加害者を明確に特定することの難しさ、法廷で使用できる物的証拠の収集と保存、当該国の法律、伝統的な司法制度の存在、司法制度の完全性、当該国における強姦犯が法廷でどの程度免責されるかなど、考慮すべき要素は数多くある。これらの要素によっては、法的手手続きが非現実的になるだけでなく、あなたとあなたの家族にとって危険が及ぶ場合すらある。

何事も焦らない。

加害者を起訴することがあなたの利益になるかどうかを判断するのを手伝ってくれる、有能で客観的な人物に相談する。

加害者が同僚の場合は、ICRC の ERCO に連絡して内部調査を要求することができる。あなたの訴えが認められた場合、加害者は懲戒処分の対象となる。

6.5.6 性暴力:自身への5つの問いかけ

1. 性暴力に該当する行為を正しく特定できるか？
2. ICRC がいう、性暴力に関する「情状酌量の余地なし（zero tolerance）」とは何を意味するか？
3. 性暴力の被害者になるリスクを減らすにはどうすればよいか？
4. 誰に助けを求めればよいか把握しているか？
5. 性暴力を ICRC に報告することは、今後の性暴力の防止にどのように役立つか？

6.6 逮捕/勾留



人道支援活動に関連した理由で当局があなたを逮捕する可能性はゼロではない。当局があなたを逮捕する理由は、交通事故への関与、当局が違法とみなす武装集団との交流、支援活動を利用してスパイ行為を行った容疑など数多くある。これらは、正式な司法手続きの一環として逮捕にいたることもあるが、常にそうとは限らない。逮捕は誤解から生じる場合もあれば、政治的策動である場合、脅迫が目的の場合もある。もちろん、たとえば殺人の疑いがある場合など、あなたの逮捕が完全に合法であり、あなたの活動とは何の関係もない場合もある。

6.6.1 予防策

一般に逮捕を予期することは不可能だが、その可能性を低くするためにできることはいくつかある：

- ・国際機関で働いているからといって、自分が超法規的な存在であると考えてはならない。現地の法律には当然従わなければならず、そうしない限り ICRC での活動はできない。ただし、ICRC が関係国で特権と免責を受けている場合があり、その場合は ICRC がその職務の遂行に関連した国内法違反があっても、その特権を発動することができる。
- ・行動規範を遵守すること。
- ・自分が相対するすべての人に対してオープンかつ正直であること。時間をかけて自分が何をしているのかを説明し、建設的な対話を進める。
- ・ICRC の許可がない限り、政治的または軍事的状況や出来事について公にコメントすることを避ける。言ってよいこと、いけないことは、ICRC の行動規範にある。SNS などに投稿する内容に政治的な意味合いが含まれておらず、活動している国で物議を醸していないことを確認すること。あなたが逮捕された場合、オンライン上で自分が公開したものはすべて自分に対して不利に利用され得ることに留意する。
- ・軍や警察の建物や活動、検問所など、機密性の高い被写体を撮影しないこと。
- ・活動に関連して、しかるべき上司から許可を得ていない限り、ドローンを使用しない。

6.6.2 逮捕

あなたが当局（国家当局であろうと、武力紛争の非国家主体の勢力であろうと）によって逮捕あるいは拘束された場合、あなたはただちにその理由と告発のすべてについて遅滞なく知らされるなど、特定の手続き上の保護措置を受ける権利を有する。起訴された場合には、無罪と推定される権利、自分に不利な証拠を提出したり有罪を認めたりする義務を負わない権利、自分を弁護する権利、その他の基本的な保証を受ける権利もある。しかしながら実際には、当局によって認められ適用される手続き上の保護措置は、国際法で定められたものと必ずしも一致するとは限らない。

逮捕による難事を軽減し、手荒な真似をされることを防ぐには：

- ・勾留当局の指示に従い、当局に対して敬意を払う。
- ・文書内の言語や内容が理解できない場合は、可能であれば文書に署名しない。
- ・なぜ逮捕されたのかその理由を調べることを試みる。ICRC の使命と、我々の活動が純粹に人道的な性質のものであることを説明する。
- ・家族、ICRC、そして必要に応じて大使館や領事館に連絡できるよう（冷静に）求める。直接連絡を取ることが許可されない場合は、勾留当局に逮捕されたことを伝えてもらう。
- ・弁護士がいる場合は、弁護士に連絡できるように依頼する。弁護士がいない場合は、適切な法的支援を求める。
- ・取り調べには弁護士の立ち会いを求める。それが不可能な場合は、ICRC の代表者、大使館、または領事館の立ち会いを求める。必要に応じて通訳を依頼する。
- ・ICRC の訪問を依頼する。
- ・医療介入が必要な場合はその旨勾留当局に伝える。
- ・個人の規律を維持するために最善を尽くす。ポジティブな思考と頭の体操に集中するようにする。
- ・可能であれば、定期的に運動をする。
- ・自分の周囲ができるだけ清潔かつ衛生的に保つ。
- ・状況が当初の予想よりも長く続く可能性に対して心の準備をしておく。

あなたがしなければならないことは、誰かがあなたを助けられるように、あなたがどこにいるのか、誰があなたを拘束しているのか、なぜそうしているのかを外部に知らせることである。

6.6.3 あなたが逮捕されたとき、ICRC は何をするか

ICRC の対応は状況によって異なる。その主な判断要素は以下のとおり：

- ・勾留当局の種類（警察、入国管理局、諜報機関、軍隊など）
- ・逮捕の理由
- ・適用される法的枠組み
- ・逮捕と人道支援活動との関連性
- ・ICRC と勾留当局との間の対話の質

ICRC が正確にどう対応するかは、多くの要因、特にあなたの逮捕と人道活動との関連性、およびあなたが告発されている犯罪によって決まる。

特定のケースでは、特にあなたの逮捕が ICRC の活動に直接関係したものである場合、ICRC は適用できる可能性のある、あらゆる特権や免責事項を行使して、あなたの釈放に全力を尽くす。ICRC は、必要かつ適切な場合には外交ルートを持って、保有するあらゆる法的資源を利用する。これと並行して、家族と緊密に連絡を取り合い、家族をサポートし、進捗状況を継続的に知らせる。しかしながら状況によつては、ICRC はあなたを訪問して、あなたが当局に適切に扱われているか、勾留条件が許容できるものであるかを確認することしかできないかもしれません。

6.7 誘拐と人質

人質に取られるということは、精神的にも肉体的にも非常に苦痛の伴う経験である。しかし、この脅威は特定の地域に限定されており、誘拐される人道支援従事者の数は、現場にいる人の数と比較すると非常に少ない³²。

ほとんどの誘拐は純粋に刑事事件であり、その目的は身代金を得ることである。政治的な誘拐はそれほど多くないが、場合によっては、経済的な目的と政治的な目的という二重の動機があることもある。さらに、誘拐犯の要求は、交渉の過程やあらゆる機会に応じて変更されることもある。誘拐の被害者が、あるグループから別のグループに移送されることも珍しいことではなく、その場合しばしば困難な状況下で移送されることになる。被害者がどれくらいの期間監禁されるかは、状況と誘拐犯の目的によって異なる。監禁は数時間または数日間続く場合もあれば、例外的に数か月、数年続くこともある。

誘拐が無視できないリスクであると考えられる地域では、ICRC は予防措置を講じ、拉致、誘拐に対応する手順を定めている。

³² 統計の詳細については、A. Stoddard et al., Aid Worker Security Report 2020: Figures at a Glance, Humanitarian Outcomes, 2020: <https://www.humanitarianoutcomes.org/AWSR2020>.

6.7.1 自分自身と家族の準備

誘拐の脅威が存在する地域で活動している場合は、誘拐が自分に起こる可能性に對して自分と家族が準備をしておく必要がある。さらに、あなたの釈放を確實にし、家族のケアをするために ICRC が何をするのか、その概要を知つていれば、もしあなたがこのような状況に陥った場合に、自分自身が生き残ることに集中することができる。

- ・自分が活動している地域での誘拐の脅威について調べておく。
- ・家族に誘拐のリスクについて話し、誘拐されたらどうしてほしいかを伝えておく。
- ・人質案件に関する ICRC の方針と組織としての対応（後述）について調べ、これらの点について家族に説明しておく。
- ・あなたが ICRC に名前と連絡先を共有した緊急連絡の際のキーパーソンが、あなたが人質になった場合に必要な情報をすべて持っていることを確認する。
- ・オンライン上に余計なものを載せていないか、プロフィールが安全であることを確認し、誘拐犯があなたに対して利用できるものがオンライン上にないことを確認しておく。
- ・新しい任務に就くときは、誘拐の脅威に関して講じるべき管理措置について上司に確認する。
- ・個人文書は安全な場所に保管する。ただし、必要に応じて ICRC がアクセスできるようにしておく。
- ・最新の応急処置のトレーニングを受講しておく。

6.7.2 人質になったときの生き延び方

たとえ多くの要因をコントロールすることはできないとしても、監禁中にあなたがとる行動によって、あなたの状況が改善する可能性がある。したがって、監禁されたときの環境と、そのような状況に陥った場合に直面する困難について知り、理解しておく必要がある。

経験によれば最も危険な瞬間は、拉致される時と、その直後の数時間、そして解放の時である。

主な困難

人質となった経験者によると、最も困難だったのは次のような点であった。

- 何が起こるか、あるいはその状況がどれくらい続くかわからない。
- 無力感と自分自身の命のコントロールの完全な喪失。
- 家族がこの状況にどう対処するかわからないという不安。

拉致 (Abduction)

最初の 72 時間は、全員がストレスにさらされているため、特に重要である³³。誘拐犯はおそらく非常に緊張しており、ピリピリしているはずで、抵抗や予期せぬ障害に遭遇すると非常に攻撃的になる可能性がある。武器で脅されたり、暴力を受けたり、レイプすると脅されたりすることを覚悟しなければならない。また、誘拐犯はあなたに目隠しをしたり、何度もあなたを移動させたりするかもしれない。おそらく何が起こっているのかわからないまま、すべてのことが非常に早いスピードで起こるであろう。人質の経験者の中には、極度のストレスにさらされ、厳戒態勢にあったと語る人もいる一方、現在起きていることを知らされず完全に孤立し、解離されていると感じたと報告する人もいる。

拉致されている最中に、安全に脱出できるという絶対的な確信がある場合（おそらく脱出の最大のチャンスである）を除いて、当面は状況を単純に受け入れるべきである。ショック、恐怖、苦痛をできるだけ早く克服するように努める。これにより、正気を取り戻し、誘拐犯の要求にもっと注意を払うことができるようになる。

- ・できるだけ冷静を保つ。
- ・誘拐犯の指示に従い、受け身でいること。
- ・たとえシートベルトを外すだけであっても、突然動くことは避け、移动する前に相手の許可を得ること。
- ・言わされた場合にのみ話し、攻撃的にならないようする。
- ・誘拐犯を直接見ないようにする。
- ・あなたの誘拐犯はおそらくあなたが理解できる言語を話さないので、身振り手振りや非言語メッセージに目を配ること。

³³ J. Leach, *Survival Psychology*, Palgrave Macmillan, London, 1994

監禁中

誘拐した犯人はあなたを完全にコントロールしている。一人であれ他の人質たちと一緒にあれ、はたまた監禁中の身体的状況がどのようなものであれ、この状況に対処するには体力と精神力のすべてが必要になる。

- ・自分が今、誘拐犯の手中にいるという事実を受け入れるよう努める。
- ・監禁状態が何か月も続く場合に備えて心の準備をする。これによって日常生活に対処し、多くの心的トラウマによる失望感を避けることができる。
- ・誘拐犯の指示に従う。
- ・誘拐犯の発言に疑問を投げかけたり、議論したりしない。同時に、彼らの言うことをすべて信じないこと。あなたに誤った希望を与え、恐怖を与え、さらにはあなたの組織に敵対させることを目的として、嘘を使ってあなたを操作しようとすることもある。
- ・自分が持っているものはできるだけ長く保持するようにし、たとえ役に立たないと思われる私物でも捨てない。
- ・誘拐犯は警告なしにあなたを別の場所に移動させることがある。必要なものはすべて手の届くところに置いて、持ち運べるようにしておくこと。
- ・自分が ICRC や家族に見捨てられたと思い込まないこと。誘拐犯は被害者を脅迫するため、そう思うように仕向けることがよくある。

すべてがうまくいくと確信し続けること。持ちうる体力と精神力のすべてを發揮する。あなたの適応力と忍耐力は、この身体的および心理的困難を乗り越えることを可能にするだけでなく、再び自由になったときの回復を可能にする。

身体的健康

- ・治療が必要な場合、または重度のアレルギーがある場合は、できるだけ早く誘拐犯に伝えること。相手が可能な限り必要な薬を提供できるよう、正確な情報を提供する。
- ・状況が許せば、スペースが限られている場合でも、毎日運動を行う。これは精神的な健康にも良い影響を与える。可能であれば、これがあなたにとって非常に重要なことを誘拐犯に説明する。
- ・与えられる食べ物と飲み物を受け入れること。毎日、提供されるものをすべて食べるのが望ましい。可能であれば、飲料水を備蓄する。

- ・自分の周囲をできるだけ清潔で衛生的に保つ。状況が許せば、水道やトイレが使えるよう頼み、衛生用品を求める。
- ・生活環境を改善できることを感じる場合は、優先順位を決めて、誘拐犯と話し合いを持つ。人質が複数人のグループである場合は、要望リストを作成してみる。

メンタルヘルス

精神力を刺激し訓練することは、この経験を乗り越えるのに役立つ。これには意識的な努力が必要である。自分に合った手段で精神を活発に保つよう努める。拘束された人の中には、頭の中で音楽を作曲したり、詩を書いたり、理想の家の設計をしたりして長い拘束期間を過ごす者もいる。多くの人は、再び自由になれるときのことを考えており、これが非常に役立つと感じている。筆記用具、本、ラジオを利用できた人は、これらが非常に有益だったと報告している。

- ・ICRC、そして多くの場合あなたの母国の当局が、家族と連絡を取っていることを常に忘れないこと。最新の状況を家族に知らせ、家族をサポートするためにできる限りのことをしている（後述）。
- ・ポジティブな思考と頭の体操を大事にする。希望を失ったり、逆に過度に楽観的になったりしない。
- ・個人の規律を維持するためにできる限りのことを行う。これは、置かれた環境特有の困難を克服するとともに、拘束されて動けない状態に対処するのに役立つ。
- ・時間を記録するように努める。可能であれば、毎日規則正しく生活する。

誘拐犯との関係

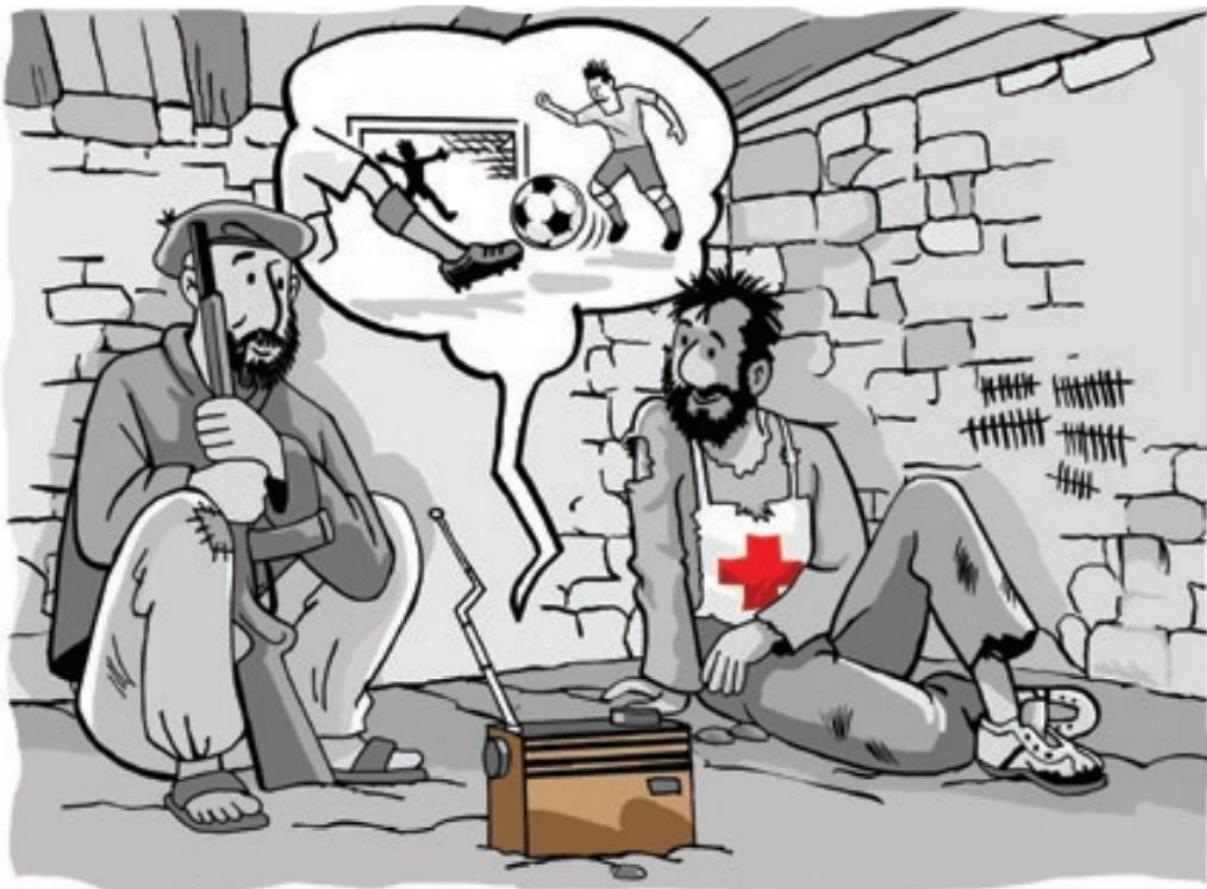
あなたと誘拐犯との関係は、拘束の状況に大きな影響を与える。あなたを大切にするか解放するかを決定できるのは誘拐犯だけである。あなたのことを、自分たちへの攻撃に対する保険だと考えているかもしれない。したがって、相手を尊重すれば、彼らもあなたを尊重してくれる可能性が高い。また、良好な関係を築くことで、あなたを単なる取引の材料としてではなく、人間として見るようになる。相手の文化的習慣に合わせて自分の行動を変えることも、良好な人間関係を構築する一助となる。

誘拐犯と良好な関係を築く
ように努める。あなたをどう扱うかは完全に誘拐犯の
意思に委ねられている。

ストックホルム症候群とリマ症候群

長期間監禁されている人質を観察すると、中には、犯人に対して肯定的な感情や共感を抱くようになったり、犯人と一心同体のようになる人もいるということがわかっている。この逆説的な現象は、ストックホルム症候群として知られている。一方で誘拐犯の中にはリマ症候群といって、自分たちが捕られた人に対する共感を深め、ほぼ「兄弟」のような関係を築く者もいる。

- ・誘拐犯を敵に回さないこと。あなたは誘拐犯の手中にいる。身体的攻撃も、言葉による攻撃も、してはならない。
- ・誘拐犯に対してプロフェッショナルなふるまいを維持し、文化的に適切な態度で行動する。
- ・常に冷静さを保つ。誘拐犯に対して怒ったり、非難したりしない。咄嗟の行動をしない。
- ・誘拐犯のリーダーに対するすべての要求は、冷静に、しかし毅然として、同情心をそそることを意図せずにいる。
- ・ICRC の活動を紹介することが賢明であるかどうかを判断し、それが役立つと思われる場合は、負傷者のケア、捕虜の訪問、紛争で引き裂かれた家族への支援など、誘拐犯に直接利益をもたらす可能性のある具体的な活動について説明する。家族、子供、スポーツは格好の話題である。
- ・政治と宗教に関する話はしないこと！
- ・誘拐犯が身元を隠そうとしている場合、あなたが認識していることを伝えないと。
- ・釈放時に不利な証拠を提出する、と脅してはならない。



あなたが人質の集団の中のひとりである場合

- ・集団を代表して皆の代わりに話すのに最も適した人を決める。そうすることで全員が安心し、プレッシャーや恐怖を和らげることができると同時に、要求を調整し、団結を示し、まとまった意見として話すことができる。これは、誘拐犯があなたを操り、人質を互いに敵対させたりするのを防ぐ手段でもある。
- ・持っている情報はすべて相互に共有する。
- ・集団から離れる可能性があることに備える。

音声/動画の記録と電話

誘拐犯があなたの音声や動画を記録することを予測しておかねばならない。釈放の交渉において、自分の家族や関係機関と直接連絡を取るよう指示される可能性もあり、この時個人的なメッセージの伝達が許可されることがある。これはあなたにとっておそらく非常に難しい経験になるが、解放の交渉プロセスを進めるのに役立つ。

このような事態に備えて、最も重要だと思うメッセージを家族に伝達できるように準備しておくとよい。誘拐犯はおそらくそうした機会の提供を直前に通知するた

め、考える時間はあまりない（数十秒から1分程度）。

- ・家族への30～60秒のメッセージを頭の中で準備しておく。自分の健康状態について話したり、必要なものを尋ねたり、安心させたり、愛していると伝えたり、特別なイベントのお祝いの言葉を送ったり、言いたいと思うことを準備する。
- ・誘拐犯の言うことを忠実に実行する。たとえ伝えるべきメッセージの内容に同意できない場合でも、誘拐犯の要求どおりに伝える。
- ・遠回しに言うことを避け、明確かつポイントを突いて話すこと。
- ・指示がない限り、誘拐犯については言及しない。
- ・話している相手とは交渉しない。

家族に言うべきことをいくつか慎重に準備しておき、その機会が来たときに慌てないようにしておく。

逃亡を試みるべきか？

逃げようとする命が危険にさらされる可能性がある。一方、例外的な状況では、逃げることで命が救われる可能性がある。これは非常に危険な選択肢であるため、ICRCは逃げようという試みをしないことを推奨している。失敗すると罰せられ、さらに劣悪な拘束環境に耐えなければならないリスクがある。しかし、脱出の機会が訪れた場合、自分に十分な体力があると感じ、成功すると絶対的な確信が持てるのであれば、リスクを許容できるかどうかを決断するのは自分自身である。

救出活動への対応

武力攻撃のように見える行為は、あなたを救出しようとする試みである可能性がある。最初の対応は、自分の身を守り、救出活動を行う職員の指示に従うことである。彼らはあなたをすぐに入質として認識せず、最初は誘拐犯の一人であると考えるかもしれないことに注意する。救出側があなたと同じ言語を話さない可能性もある。

- ・突然の動きは避ける。両手を挙げてあなたが非武装であることがわかるようにする。
- ・すぐにはあなたを認識できないかもしれないため、識別できるように自分の名前を叫ぶ。

交渉

ICRCは職員であるあなたの釈放の交渉に全力を尽くす。ただし、誘拐犯があなたを説得しようとするかもしれないことを認識しておくこと。誘拐犯が交渉のためにICRCあるいは他の機関に接触するとき、こちら側の最初のステップは、あなたを拘束している事実を確認し、あなたが生きているという証拠を入手することである。

「生きている証」として知られるこの証拠は、あらゆる交渉に必要な信頼を生み出す重要な要素である。これには、動画や写真、あなたの声を録音したもの、あるいはあなたを特定する個人情報など、さまざまな形がある。

職員の釈放のための身代金は支払わないのが ICRC の方針である。なぜなら、身代金を支払うことで人道支援要員が手軽な金づるであるという印象を誘拐犯に与え、我々の職員全員を危険にさらす可能性があるからである。さらには当該地域で活動

あなたの仕事は生き
延びることであり、
解放の交渉をする
ことではない。

している他の赤十字運動の同僚や他の人道支援団体の職員も危険にさらす*。したがって、誘拐犯の要求が金銭的なものである場合、この問題に対する ICRC の立場は交渉の期間に影響を与える可能性がある。しかし、ICRC は前向きな結果を得るために全力を尽くし、最も適切と思われる利用可能な手段を採用する。救出作戦については生命の危険が大き過ぎるため、ICRC は推奨していない。

*訳注：現在主要な国際人道支援団体は、同じ理由で人質解放のための身代金は支払わない、政治的な交渉には応じないというコンセンサスが得られている。ちなみに日本の外務省も同様に邦人解放に身代金は支払わないと表明している。（国連安保理決議 2133 [2014 年]）

- ・自分の釈放について誘拐犯と交渉しようとしたことを強く推奨する。これは、すでに進行中の交渉を妨げることになり、事態を複雑にするだけである。
- ・ICRC、あなたの母国、またはあなたの家族がどのような措置を講じるかについて推測したり、この件について誘拐犯と話し合ったりしないようにする。

解放

人質解放とその直前の時期は、誘拐犯が特に緊張して神経質になっている可能性が高いため、危険も非常に大きく、特に注意深くなる必要がある。解放の遅延や失望に対して心の準備をしておく。解放の方法として、あなたが仲介者に引き渡され、仲介者があなたを受け取る人たちに引き渡すこともある。

- ・誘拐犯の命令には細心の注意を払い、その命令どおりに行動すること。
- ・緊張を高めてパニックを引き起こす可能性のある突然の動きをしない。

人質になることは、精神的にも肉体的にも非常に厳しい経験である。通常の生活に戻るには、おそらく時間がかかるであろう。しかし、前向きに考えること。適切なサポートによっていずれ克服する。

あなたが解放されると、誰もがあなたと話したいと思うであろう。あなたは平穏と静寂を求めていたとしても、関係当局、そしておそらくメディアはすぐにでも話を聞きたいと考えている。家族に会えるまで、もう少し待たなければならないかもしれません。³⁴

6.7.3 ICRC はどう対応するか？

ICRC があなたの拉致を知るとすぐに、あなたの解放が組織の最優先事項のひとつとなる。組織の幹部たちが動員され、ジュネーブの ICRC 本部に危機管理チームが設置される*。同チームはそのような状況の管理に経験のある ICRC スタッフで構成され、あなたの解放を実現するために絶え間なく動く。解放を勝ち取るために、現場のスタッフと緊密に連携し、支援できる可能性のあるすべての外部機関とも協働する。必要に応じて、あなたの母国または他の当局とも動きを調整する。

自分が ICRC や家族に見捨てられたと
誘拐犯に信じ込まされること。

ICRC はあなたを解放するために休むことなく活動し、他の機関と協力して取り組む。ICRC は家族と緊密に連絡を取り合い、継続的なサポートを提供する。

*訳注：日本赤十字社（日赤）の職員が人質となった場合、日赤本社内に、社長を本部長とする重大事案対策本部が設置され、その下に各種タスクフォースが置かれることになっている。日赤職員が人質となった事案はこれまで（2025年3月現在）起こったことはない。

これらの動きと並行して、ICRC は、特別に訓練を受けた担当者を通じて、あなたの家族との緊密な関係を確立する。継続的に連絡を取り合い、ICRC に送られてくる重要な事実を知らせる。解放に至るまでの間サポートとアドバイスを提供し、必要に応じてそれ以降もサポートを継続する。ちなみにあなたの給与は拘束期間中ずっと支払われる。ICRC は、特定の個人的な事務処理も行う。

³⁴ S.A. Perone et al., “Psychological support post-release of humanitarian workers taken hostage: the experience of the International Committee of the Red Cross (ICRC)”, British Journal of Guidance & Counselling, Vol. 48, No. 3, 2020, pp. 360–373: <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/03069885.2018.1461193>.

機密保持の必須性

誘拐が発生した場合、ICRC の職員は、誘拐事案そのものや誰が誘拐されたか、その関係者などについて一切発表しない。これはまた、ソーシャルメディア上に市民による支援グループを作らないことや、ネット上で誘拐された職員の状況についての議論が行われないようにすることを意味する。被害者の家族や友人に対しても、同じ方針を保つよう推奨する。誘拐事案を扱う際には最大限の機密保持が必要である。誘拐犯、被害者の家族、またはその他の人物（被害者の本国の代表者など）との関係を損ねると、交渉が遅れたり、結果に悪影響を及ぼす可能性さえある。

6.7.4 人質事案: 10 の留意事項

1. 自分自身と家族が人質に取られる可能性に備える。
2. もしそれが自分に起こったら、長期間の監禁に備えて心の準備をする。
3. 誘拐犯と良好な関係を築くように努める。敬意を示し、文化的に適切な態度でふるまう。
4. 誘拐犯を敵視したり、攻撃的になったりしない。
5. 自分の日課を確立し、個人の規律を維持するために最善を尽くす。
6. 可能であれば、定期的に運動や、心と頭の体操を行う。
7. 家族とコミュニケーションをとる機会が与えられた場合に備えて、家族への個人的なメッセージを考えておく。
8. 自分のケアにエネルギーを集中する。自分の解放に向けて努力するのはあなたの仕事ではない。
9. ICRC はあなたのことを忘れず、あなたの解放のために動き、サポートが必要な状況が続く限りあなたの家族に寄り添っていることを心に留めること。
10. ポジティブでいること！

6.8 自然災害

6.8.1 総論

気象によるものか地質学的な原因かにかかわらず、自然災害は多大な損害や危害を引き起こす可能性がある。そのうちのいくつかは事前に来ることがわかるが、突然発生するものもあり、どう対応するかを考える時間はない。とはいえ、自然災害は常にランダムに発生するわけではなく、この種の脅威にさらされる地域は一般的に知られているため、ある程度の準備は可能である。

予測可能な結果

大規模自然災害による主な短期的な影響は次のとおり：

- ・多数の犠牲者：死傷した情報以外で、自分の家族に何が起きたのか多くの人がわからない。
- ・食料と水の供給が途絶える。



- ・アクセス集中により通信システムがパンク、もしくは通信不能に陥る。
- ・移動の困難：幹線道路が損傷、破壊、あるいは避難しようとする人々によって使えなくなっている。
- ・連鎖反応：たとえば、地震の後に津波や暴風雨、地滑り、火山の噴火が起こる可能性がある。

- ・関連リスク：火災、感電死、ガス爆発、コレラなど。
- ・人道支援団体の活動能力が低下、ゼロになることもある。
- ・人道援助を提供するよう地域社会から圧力を受ける。多くの場合、非常に不安定でストレスの多い状況下で、人々は自分自身で身を守らなければならない。彼らは医療、食料、水、避難所、家族の消息などの緊急のニーズに対応することを人道支援団体に期待するが、必要な援助をすぐに受けられない場合、失望してあなたに対して攻撃的になる可能性がある。
- ・略奪：自然災害後の数時間から数日間は、自力で生き残ることを考えなければならぬため、略奪がよく起こる。

いつ何が起こってもよいように備える

自然災害が発生しやすい地域で働く場合の一般的なアプローチは、他のリスク管理のそれとほとんど同じである。つまり脅威を知り、対策を取り、警告メカニズムを知り、発生時にどのように対応するか、また、発生直後にどのような予防策をとるべきかを知ることである。

自然災害への備えと、
災害が起きた場合の
対処法について家族と
話し合っておく。

- ・自分が被災する可能性のある自然災害について調べておく。
- ・地域の警報システムをよく理解しておく。
- ・差し迫った自然災害を警告してくれるスマートフォンアプリがないか調べる。そのようなアプリが存在する場合は、それらがどの程度信頼できるかを確認する。
- ・緊急時に連絡する人のリストを常に携帯する。
- ・避難できる場所、避難経路、避難手段を控えておく。
- ・緊急時に使用できるバックアップの通信手段（衛星電話または無線）を用意し、その使用方法と従うべき手順を理解していることを確認する。
- ・最新の応急処置トレーニングを受けておく。
- ・避難しなければならない事態に備えておく³⁵。
- ・食料と水の備蓄をしておくべきかどうか、もしそうなら何日分備蓄しておくべきかを調べて準備しておく。
- ・非常持ち出し袋を用意し、常に手の届くところに置いておく。
- ・実践的な訓練に積極的に参加する。

³⁵ ICRC にとっては、これらの手順は危機管理計画に記載されている。



非常持ち出し袋

避難やその他の緊急事態に備えて、必需品をまとめた非常用持ち出し袋を用意しておく。防水のプラスチック製のもので、重さは 10kg 以内に抑える。以下の品目を入れ、持ち出す瞬間に通信機器と個人用救急セットを追加する。

- ・懐中電灯と予備の電池
- ・笛（救助者の注意を引くため）
- ・防塵マスクと保護メガネ（火山地帯）
- ・重要な個人文書のコピー（パスポート、組織が発行した ID カード、運転免許証、予防接種記録簿など）
- ・連絡先のリスト
- ・少額の現金
- ・個人の常用薬
- ・水筒または魔法瓶、浄水タブレット
- ・24 時間分の十分な飲料水 (1.5 リットル) と保存食 (ビスケット、シリアルバーなど)
- ・気候に適した丈夫で防水性のある衣服
- ・基本的な衛生用品

自然災害が人々の安全や治安に及ぼす影響

大規模な自然災害が発生すれば、人々の安全や治安情勢に大きな影響を与えることは必至である。火災、感電、インフラの崩壊、略奪などの直接的な脅威に加えて、紛争地帯での災害は暴力を悪化させる場合もあれば、逆に紛争の力学を搖るがすことによってある程度の安定をもたらす場合もある。

したがって、大規模自然災害の後に活動を再開する前に、簡単なセキュリティリスク評価を実行する必要がある。これにより、危険から身を守るために不可欠と思われる対策を決めることができる。たとえ国民のニーズが非常に高く、迅速な人道的対応が求められているとしても、安全確保に関しては手を抜かないこと。状況が少し落ち着いたら、リスク評価の範囲を拡大し、より念入りに実施することもできる。

災害発生後の地域に到着したら、地元の人に、治安状況と取るべき予防策について尋ねること。あなたの上司は人道ニーズへの対応に忙しすぎて、適切な説明ができない場合がある。

6.8.2 地震

地震の発生は予測できないが、どの地域で地震が起こりやすいかはわかっている。したがって、地震多発地帯で活動している場合は、たとえ地震を経験する可能性が低いとしても、備えをしておかねばならない。また、実際に地震が起ったとしても、物事は決して予測通りには進まない。最大クラスの地震は、特に震源地が人口密集地域に近い場合、すべての自然災害の中で最も破壊的な災害の一つである。

地震の後には余震が起こることが多い。これらは本震から数時間、数日、さらには数か月後でも発生する可能性がある。余震は本震ほど激しくないのが普通であるが、本震によって脆くなった建物が倒壊する可能性がある。これらは人々にとって大きなストレス源でもあり、パニックを引き起こすこともある。地震は地滑り、大雨、洪水を引き起こしたり、沿岸地域では津波を引き起こす可能性もある。

脅威を理解する

一般に信じられていることに反して、建物のがれきの下に埋もれてしまう可能性より、窓ガラスやいろいろなモノ、家具などの落下や飛来によって重傷を負う可能性の方がはるかに高い*。多くの場合、堅固な建物はそのまま残っているか、少なくとも完全に倒壊することはない。つまり、家の中のものを適切に設置し、家具が動かないように床や壁に固定するなどの簡単な対策で命を救えるということである。

*訳注：途上国の素焼きレンガなどの建物では、この限りでない。

地震後の最も重大な脅威は、建物やインフラ（道路、橋など）の倒壊、ガス爆発、（送電線の落下による）感電死である。窓、玄関の小屋根、屋根は建物の中で最初に損壊することが多いため、建物のそばにいると特に危険である。

地震対策

しっかりと備えをしておくことで、地震の被害を軽減することができる³⁶。

- ・地震中および地震後に何をすべきか、何をしてはいけないかを調べる。防災訓練に積極的に参加し、知識を家族と共有しておく。
- ・時間をかけて職場や宿舎を検証し、部屋ごとに避難するのに最適な場所を特定する。怪我を防ぐために物を移動するか固定するかを考える。たとえばベッドの上に鏡がかかっていないかなど。
- ・消火器の位置と避難経路を確認する。
- ・ICRC の建物に亀裂があれば報告する。
- ・防災用品がどこに保管されているかを確認する。

逃げるのに最も
安全な場所を
確認しておく。

地震発生時

地震の揺れが非常に激しいと、反応する前に倒れてしまう可能性がある。すぐに動いたり、別の部屋に移動したり、建物から出ようとしたりするのは危険である。最初の衝撃を感じたらすぐに床や地面にしゃがみ、その後、事前に決めておいた安全な位置に這って移動する。移動の際に頭と顔を保護することを推奨する。「しゃがむ、覆う、しっかりとつかまる（Drop, Cover, Hold on）」。落下物から身

最初の衝撃では、地震の程度については何もわからない。地震が始まると感じたらすぐに身の安全に努めること。

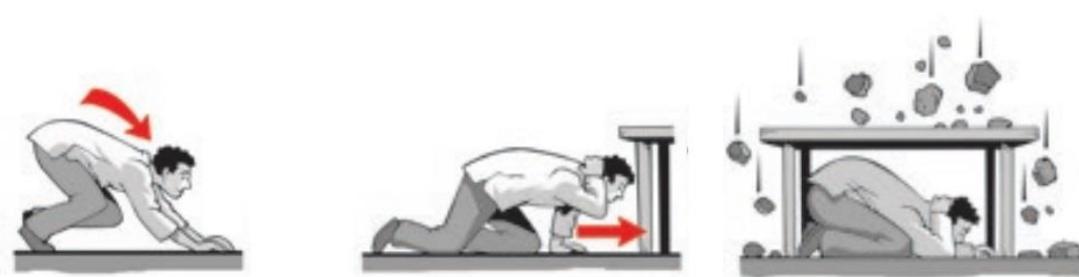
を守ることができ、建物が倒壊した場合でも周囲の空間にエアポケットができていれば生存の可能性が高くなる。「しゃがむ、覆う、しっかりとつかまる」ルールの唯一の例外は、耐震基準を満たしていない建物内、たとえば、重い天井を支える素焼きレンガ（日干しレンガ）で作られた建物の1階などにいる場合である。このような建物の内部

にいる場合は、できるだけ早く外に出る。

³⁶ ICRC は、特定の地域の地震のリスクに応じて、取るべき措置のリストを作成している。

地震への対応

屋内、屋外、または車内にいてもそこに留まり、落物や飛来物から身を守る。

屋内にいた場合**腕と膝をさげてしゃがむ**

頭と顔面を腕で覆い、頑丈な家具の下へ這ってもぐる

近くに家具がなければ窓から離れた壁際へ這って行き、頭と顔面を覆って守る

揺れが収まるまでしっかりとつかまる（家具が動いていたら、家具と一緒に移動する）

隠れるものがなければ、両手で頭と顔面を覆って守る

もしもベッドにいたら、そのまま動かず、枕で頭部を覆う**屋外にいた場合**

屋外に留まる：木、建物、車両、街灯、電線がない開けた場所に行く。

車の中にいた場合

車の中に留まる：運転を停止する。屋外が好ましく、落下する可能性のあるものから離れた場所で停まる。橋、木、電線、街灯、建物の近く、またはトンネル内では停止しない。

がれきの下に埋もれた場合

- ・ハンカチや衣服で口を覆い、動かない。
- ・マッチを擦ったり、ライターを使用したりしない。エアポケット内の酸素を使い果たすおそれがある。
- ・救助者が見つけられるように、できれば金属製の物体でこんこんと音を立てる。だめな場合は、大声で助けを求める。その際粉塵を吸い込む可能性があるので注意。

してはいけないこと

- ・エレベーターは使用しない。
- ・以下の場所には避難しない。
 - 出入り口。一般に信じられていることに反して、出入り口は通常、建物の他の部分と比べて頑丈ではない。さらに出入り口につかまるのは難しく、動くものから身を守ることはできない。
 - バルコニー
 - 窓や外壁の近く
 - 建物の横
 - 樹木、電線、車など、物体が落下/移動する危険がある場所

地震後

主な脅威は、建物等の倒壊、ガス爆発、火災、感電死である。揺れが収まても余震に備えて慎重に行動する。

- ・同僚、家族、そして自分自身の安全を確認する。
- ・可能であれば、負傷者に応急処置を行う。
- ・電線や電線に接触している物体には触れないように注意。感電する可能性がある。
- ・ガス爆発の危険があるため、火花の発生を避ける。スイッチに触れたり、火気を発生させたりしない。ガス漏れの疑いがある場合（ガスの臭いやシューシューという音など）、直ちに建物から離れる。
- ・倒壊したり落下したりする可能性のあるものに注意しつつ、慎重に建物から離れる。
- ・たとえ一晩を外で過ごすことになっても、損傷した建物には入らない。
- ・状況に関する情報を入手するように努める。
- ・道路、橋、トンネルに重大な被害が発生している可能性があるため、車を運転する場合はこれらに注意。

6.8.3 津波

津波は、地震、地滑り、海底火山の噴火によって引き起こされる、海洋における一連の波である。海岸に近づくにつれて波は遅くなり、水が蓄積して数十メートルの高さの壁を形成することもある。津波は進路にあるすべてのものを破壊し、鉄砲水を引き起こす可能性もある。通常、津波は重い瓦礫を数百メートル内陸にまで運ぶ。

海岸の低地はどこでも津波の影響を受ける可能性があるが、太平洋沿岸とその近隣の海域では、強力な地震が多発するため、その危険性ははるかに高い。科学者は津波がいつ発生するかを正確に予測することはできないが、発生する可能性が高い場所はわかっている。警告システムも存在するが、常に機能するとは限らない。

津波の特徴

- ・津波は一連の波で構成され、5分～60分間隔で到達する。多くの場合、最初の波はもっとも高い波ではない。津波は、第一波の到着から数時間後も脅威であり続けることがある。
- ・地震は津波が到来する前兆であることがある。
- ・地震による津波は、警報が出る前に到達する可能性がある。
- ・海岸沿いの水が海に吸い込まれるように突然後退した場合、津波が近づいている兆候である。
- ・津波の速さは凄まじく、津波から走って逃れることはできない。

津波への予防措置

- ・津波警報を受けた場合、通常必要なのは海岸から離れて高台に移動すること。
- ・現地の警報システムをよく理解しておく。
- ・警告が発せられた場合に避難するのに最適な場所と、そこに行くための最良の手段を確認しておく。道路が渋滞するため、車ではなく徒歩になるであろう。
- ・津波警報が出たらどこに行くべきかを家族にも教えること。

津波が発生しているとき

- ・自分がどこへ行こうとしているのか考える。落ち着いて慎重に行動する。交通渋滞や瓦礫、その他の障害物を避けるためには、車を使用するよりも早く歩く方が良い場合がある。
- ・可能であれば、ICRC が指定する集合場所に行く。
- ・最初の波が去ったからといって、危険が終わったと考えてはならない。さらに大きな波が続く可能性がある。
- ・波を見るために海岸に近づかない。川や小川からも離れる。

海岸や海岸近くにいて、強い揺れや長時間の揺れを感じた場合、あるいは海が海岸線から遠ざかったように見えた場合、電車のような音が聞こえた場合、あるいは警報が出た場合、速やかに内陸部に移動して高台に避難すること。

津波の後

波が引いても危険が終わったわけではない。被災した地域は浸水し、建物、インフラ、電力網が損傷している。水や泥には電気が流れている危険もあり、下水や土壤からの化学物質によって汚染されているかもしれない。軍需品や有毒化学物質などの危険な物体や物質、さらに爬虫類やその他の野生動物が潜んでいる可能性もある。

- ・同僚、家族、そして自分自身の安全を確認する。
- ・可能であれば、負傷者に応急処置を行う。
- ・流れている水には入らない。
- ・浸水した建物には近づかない。
- ・電線や電線に接触している物体には感電するおそれがあるため、触れないように注意する。
- ・どうしても建物に入らなければならない場合は、十分に注意して入ること。建物の損壊、漏電、目に見えない損傷、また、野生動物が潜んでいるなどの危険がある。
- ・飲料水を確保するように努める。洪水で流れてきた水を飲むのは避けること。
- ・状況に関する情報を入手するように努める。
- ・水害によって脆くなったり構造物は車の重みで倒壊する可能性があるため、運転しなければならない場合は注意すること。
- ・安全な場所に移動したら、洪水による水で汚染されたすべてのものを洗浄、消毒する。

6.8.4 洪水

洪水とは、普段は水位より高い場所が水によって浸水することである。洪水は突然発生することもあれば、徐々に起こることもある。考えられる原因としては、豪雨または長期にわたる雨、川や小川の水位の異常な高さ、異常な高潮、サイクロン、津波、ダムや堤防の決壊などが挙げられる。アジアでは、モンスーン期に洪水が頻繁に発生する。洪水は、ほとんどまたはまったく警告なしに突然発生した場合に特に危険である。この種の洪水では、大量の水が流れ込み、重量物でさえ流されることがある。

水は、思っている以上に強力である！

わずか 15cm の深さで水が動くだけで転倒するのに十分である。60 cm の水でほとんどの車が浮いてしまう。

洪水への予防措置

備える

- ・避難できる場所と避難経路を特定しておく。
- ・現地の警報システムをよく理解しておく。
- ・避難する場合にどのような手順に従うべきかを調べておく。
- ・非常持ち出し袋を常に用意しておく。
- ・運転する前には必ず天気予報や道路状況を確認する。大雨が予想される場合は、状況が急激に悪化する可能性があるため注意。

建物の安全を確保する

- ・感電や火災の危険を防ぐため、電気を切る。ただし、建物がすでに浸水している場合は、感電死の危険もあるので、電気を切らない。
- ・ガスの元栓を閉める。危険が去った後は、自分で開けず、専門家に相談すること。
- ・入口や開口部を土嚢で保護する。合板などで窓を覆う。
- ・貴重品は上の階に移す。
- ・水によって移動する可能性のある重量物や危険物は建物内外で固定しておく。

洪水が起こっているとき

洪水が発生したら

屋内にいた場合

- 安全な場所に避難する。
- 組織と連絡を取り合う。必要に応じて、家族に最新の状況を知らせる。
- 状況に関する情報を入手するように努める。

屋外にいた場合

徒歩

- 高台に行き、そこに留まる。
- 足首を越えるような深さの流れている水の中へ入らない。たとえ水深が浅くとも、足元をすぐわれる危険がある。

自動車

- 浸水した地域に入った場合は、引き返して安全なルートを見つける。
- 車の前に小さな船首波（車体の前方中心を頂点とする逆V字形の波）ができる程度の速度で運転する。こうすることで、エンジンが浸水したり、タイヤがグリップを失うのを防げる。
- 必要に応じて窓から外に出られるよう、窓を開けたまま運転する。
- 車が地面との接触を失い始め、浮き始めた場合は、ドアを開けて水を入れ、車を重くする。
- 車がエンストした場合は、車を放棄し、高台に避難する。

洪水後

津波と同様に、波が引いても危険が終わったわけではない。被災した地域は浸水し、建物、インフラ、電力網が損傷している。水や泥には電気が流れている危険もあり、下水や土壤からの化学物質によって汚染されているかもしれない。軍需品や有毒化学物質などの危険な物体や物質、さらに爬虫類やその他の野生動物が潜んでいる可能性もある。

- ・ 同僚、家族、そして自分自身の安全を確認する。
- ・ 可能であれば、負傷者に応急処置を行う。
- ・ 流れている水には入らない。
- ・ 浸水した建物には近づかない。
- ・ 電線や電線に接触している物体には感電するおそれがあるため、触れないように注意すること。
- ・ どうしても建物に入らなければならない場合は、十分に注意して入ること。建物の損壊、漏電、目に見えない損傷、野生動物が潜んでいる可能性などの危険がある。
- ・ 飲料水を確保するように努める。洪水で流れてきた水を飲むのは避けること。

- ・状況に関する情報を入手するように努める。
- ・水害によって脆くなつた構造物は車の重みで倒壊する可能性があるため、運転しなければならない場合は注意すること。
- ・安全な場所に移動したら、洪水による水で汚染されたすべてのものを洗浄、消毒する。

6.8.5 火山噴火

火山の噴火は、火山が溶岩、テフラ（燃える岩石の固体の破片）、ガス、灰のいずれか、またはそれらすべてを放出する地質学的現象である。火山にはさまざまな種類があり、さまざまな脅威をもたらす。溶岩流、落石や降灰、火碎流³⁷、ガスの放出³⁸はすべて噴火に直接関係したものである。これ以外に二次的な現象として、土石流や、灰と水からなる泥流、地滑り、津波などが考えられる。

科学者は危険な活火山を監視しており、火山の脅威があるほとんどの地域では、その危険性を示す地図が作成され、警報システムが設置されている。

脅威を理解する

溶岩流の平均温度は1,000°Cで、限定された範囲に影響を与える。住民に避難する時間的余裕があれば中程度のリスクとなる。通常溶岩流は岩石の破片や灰の落下を伴い、岩石で重傷を負ったり、窓が割れたり、建物に火災を引き起こしたりする危険がある。火山灰の潜在的な影響には、呼吸器疾患や未処理の水源の汚染もある。灰が積もると屋根が倒壊するおそれがあるし、降灰を伴う雨は、大規模な土石流や地滑りを引き起こすことがある。火碎流は高速で移動するため、非常に危険である。火碎流に対して可能な唯一の対応策は、そこから離れることである。

火山活動が活発な地域での予防措置

活火山または休火山の近くに住んでいる、または付近で仕事をしている場合は、どのような種類の噴火が発生する可能性があるかを確認し、いつでも避難できるよう準備しておく。

³⁷ 高温ガスと火山物質の高速で動く流れ。800°Cを超える温度に達することがある。

³⁸ CO₂は無臭でそれ自体無毒であるが危険なガスである。空気より重いため、地面に沿って低いところに滞留する傾向があり、10%から20%を超える濃度では窒息を引き起こす可能性がある。ガスマスクはCO₂に対して役に立たない。

- ・防災訓練に積極的に参加し、得た知識を家族と共有する。
- ・現地の警報システムをよく理解しておく。
- ・避難できそうな高台を事前に確認しておき、火山の風下の地域を避ける。
- ・いつでも避難できるように、非常持ち出し袋を常備する。
- ・ゴーグルと防塵マスクを入手しておく。

火山噴火が起こっているとき

火山噴火への対応

建物内に避難し、皮膚と気道を保護し、ニュースを聞いて何が起こっているのかを確認する。

屋外にいる場合

- ガスが蓄積するおそれのある低地を避け、建物内に避難する。
- 溶岩流の表面がすでに冷えているよう見えても、溶岩流には近づかない。
- 灰が降っている場合は、運転してはならない。視界が悪くなり、灰でエンジンが詰まり、失速する可能性がある。
- 川や小川には近づかず、土石流に注意すること。

屋内にいる場合

- 屋内に留まり、ガスが蓄積する可能性のある低地を避ける。
- やむを得ない場合を除き、外出しない。外出する場合は、傘、ゴーグル、防塵マスク、これらがない場合は布で身を守る。
- 窓、ドア、その他の開口部（暖炉/煙道など）を閉める。
- 水を飲む前にその水が安全であることを確認する。水の中に灰が含まれている場合は、沈殿させてから、きれいな水のみを使用する。

自身を守る

- 炎症や熱傷を防ぐため、適切な衣服で皮膚を覆う。
- 角膜を傷つけるおそれがあるため、ゴーグルなどで目を保護し、コンタクトレンズは着用しない。
- 呼吸を容易にするために、防塵マスクまたは湿った布で鼻と口を保護する。

噴火後

- ・同僚、家族、自分自身の安全を確認する。
- ・可能であれば、負傷者に応急処置を行う。
- ・噴火が止まったからといって危険が終わったと考えず、引き続き警戒すること。
 - 二次的なリスクが潜在している可能性がある。
- ・状況に関する情報を入手するように努める。

防塵マスクとゴーグルを着用し、水で建物の屋根に積もった灰を取り除く。水と灰が混ざると表面が滑りやすくなるので気を付ける。

6.8.6 サイクロン

サイクロン³⁹は、最大風速 360km/h に達する、旋風と降雨を伴う激しい嵐である。風はサイクロンの中心、いわゆる目の周辺が最も激しいが、空気が回転する中心部である目の部分は穏やかなエリアになる。サイクロンに伴う雨量はさまざまで、非常に強力であっても比較的雨量の少ないものもあれば、強度はそれほど高くなくても洪水を引き起こすほどの豪雨を伴うものもある。これらは、建物やインフラに損害を与え、地滑りを起こすこともある。

サイクロンは熱帯地域で発生し、破壊的であるため恐れられている。脅威が深刻な地域では、サイクロンの動きを監視し、その動きを予測するシステムが設置されている。

サイクロンへの予防措置

サイクロンに対して取るべき予防策は、食料や水の備蓄など、地震の場合と同様である。非常に強力なサイクロンは、その進路にあるすべてのものを破壊し、移動を困難または不可能にすることがある。

- ・現地の警報システムをよく理解しておく。
- ・サイクロンの警報が出た場合に避難できる頑丈な建物を特定しておく。
- ・自分のいる建物の防護策を考える。一般に、建物内への物体（特にガラスの破片）の吹き込みを防ぐために開口部をベニヤ板などのシート状のもので覆い、吹き飛ばされて怪我をしたり損壊を引き起こす可能性のある物をすべて固定することを推奨する。
- ・いつでも避難できるように、非常持ち出し袋を常備する。

サイクロン発生中

- ・屋外に出ない。建物内に避難するか、すでに屋内にいる場合はそこに留まる。自分がいる建物の最も頑丈な部分、できれば窓のない部屋に移動する。部屋に窓がある場合は、できるだけ窓から離れる。
- ・洪水の危険があると思われる場合は、地下に避難しない。
- ・裸火（ろうそくやパラフィンランプ）を照明として使用しない。
- ・建物が倒壊し始めたら、利用可能なものの（マットレス、敷物、毛布など）を使って身を守り、水道管や重いベッドなどの固定物にしがみつく。

³⁹ 「ハリケーン」、「サイクロン」、「台風」という用語は、観察される地域によって呼び方が異なるだけで、同じ気象現象を指す。

- ・車を運転している場合は、樹木、電線、街灯柱、川などから十分離れた、開けた場所に停止する。
- ・サイクロンが過ぎ去ったと早合点してはいけない。警戒を続けること。「穏やか」なのは、サイクロンの目の中にいるからかもしれません、その場合、再び強風が始まること。

サイクロンの後

- ・倒れたり落ちたりする可能性のあるものがないか周囲に注意を払う。
- ・感電する危険があるため、電線や電線に接触している物体には触れないように注意。
- ・破損した建物には立ち入らない。
- ・同僚、家族、そして自分自身の安全を確認する。
- ・可能であれば、負傷者に応急処置を行う。
- ・状況に関する情報を入手するよう努める。
- ・橋などの損傷したインフラの使用を避け、倒木に注意。洪水のおそれがある区域は避ける。

最も重大な脅威は、建物やインフラ（橋など）の倒壊、倒木、および（送電線の落下による）感電死である。洪水や土砂崩れにも注意が必要である。

7. オフィス/宿舎での安全確保

潜在的に暴力がはびこる環境で活動するということは、ICRC の建物が安全でなければならないことを意味する。立地は重要であり、建物を攻撃されないようにするために、紛争当事者に建物の正確な GPS 座標を提供する。ここでの「建物」とは、オフィス、倉庫、作業場、宿舎など、ICRC が占有するあらゆる建物を意味するが、本章では主にオフィスと宿舎について取り上げる。理想としては、巻き添え被害を避け、必要に応じて効率的に避難できるよう、潜在的な軍事目標の近くに建物を建てるべきではない。

犯罪、強盗、近隣での戦闘、火災などの日常的な危険、自然災害の影響から身を守るために、さらなる対策を講じる必要がある。警報システム、壁やフェンス、頑丈な部屋や防風壁などのいくつかの対策は、特定の脅威が認められる場合にのみ行う。その他の火災予防措置、窓の防爆フィルム、緊急時に使用するための安全なエリア、および緊急設備は、ICRC が使用するすべての建物に設置するよう義務付けられている。ただし、特に武力紛争が周囲で起こっている場合、安全を完全に担保する対策は存在しないということを理解しておかねばならない。ICRC の活動地で必要な防護措置のレベルは、その活動地のリスク評価によって決まる。

本章では、ICRC のオフィスや住居での安全を確保するために従うべき基本原則を概説する。ICRC が建物の安全を確保するために講じる措置と、職員自身の行動がその有効性をどのように高めたり低下させたりするかを説明する。対象となるポイントには、侵入を防ぐ方法、近くでの戦闘に対処する方法、火、ガス、電気に関連する危険から身を守る方法が含まれる。



7.1 基本原則

7.1.1 多層防御(Defence in depth)

「多層防御（Defence in depth）」とは、入ることを許可されていない人物が、秘密裏に、または強制的にオフィスや宿舎に侵入しようとした時に費やさなければならぬ時間と労力を増加させる複数の防護層を作成することである。脅威が大きい場合は、建物をフェンス、境界壁、または有刺鉄線で保護する。必要に応じて、侵入を防ぐために窓などの開口部にバーを取り付ける。特定の場所では、CCTV カメラ、自動および手動警報装置などのセキュリティシステムを設置し、不正な侵入、あるいは侵入が試みられたとき、それらを検出する。これらのシステムを使用するには、システムを正しく設置し、定期的な保守点検をしなければならない。

受動的安全対策 (Passive security)

暴力が発生している地域において、建物の物理的な安全性に関する ICRC の一般的なアプローチは、玉ねぎの層のように複数の独立した同心円状の保護層を作成することである。これらの複数の層を重複させることでセキュリティを強化する。つまり、セキュリティが境界壁の質だけに依存しないということである。また、その場所が要塞のように見えないようにしながら、あなたが住んでいる場所や活動場所から脅威ができるだけ排除するよう努める。重要なのは、ICRC の認識や地元への受け入れを損なわないように、物理的保護手段によって適切なレベルのセキュリティを確保することである。防護措置が行き過ぎたり、目立ちすぎたりすると、あなたを周囲の環境から孤立させたり、活動しているコミュニティから切り離されたり、人々が ICRC に対して不信感を抱いたりするおそれがある。

また、使用している建物への不正な接近を防止したり、少なくとも侵入者の速度を遅らせて、逃げるか安全な場所に避難できるようにすることもできる。重大なインシデントは、一連の小さなミスの結果として起こることがよくあるが、それらのミスはそれぞれ、扉や門の施錠を忘れたり、鍵を置き忘れたり、窓を開けっ放しにしたりするなど、警戒心の欠如が原因であることが多い。

- ・外出するときは必ずドアと窓を閉めること。
- ・夜間は、施錠すべきすべての扉や門を施錠する。
- ・キーは厳密に私物として自分が管理し、決して放置しない。
- ・キーを紛失した場合はすぐに組織に報告する。
- ・貴重品を公共の場に放置せず、安全な場所に保管する。
- ・家事スタッフや宿泊施設を共有する人たちにも同様に注意を払う。彼らが不注意であることに気付いた場合は、彼らが従うべき基本的なルールを（丁寧かつ慎重に）再確認させる。

7.1.2 アクセスのコントロール

アクセスコントロールは重要なセキュリティ予防措置である。原則として、敷地内に侵入するすべての人および車両を特定して、脅威を及ぼさないことを確認し、脅威をもたらした場合には警告を発する。これは主に警備員の仕事だが、人々が勝手に入ってこないように注意

外部からの人の建物への立ち入りは、訪問者に関する規則に従って許可する。

し、不審に思われる場合は通報するのもあなたの責任である。隣人は効果的な監視役になり得るため、彼らと良好な関係を築くように努力する。たとえばもし何か問題が発生した場合、彼らがあなたのことによく知っており、あなたに対して親切な態度を示しているなら、あなたが彼らに対して無礼でなぜあなたがそこにいるのかさえ理解していない場合よりも、知らせてくれたり何かしてくれたりする可能性がはるかに高くなる。

7.1.3 警備員

警備員は ICRC が直接、または警備会社を通して雇用する。彼らの主な任務は、ICRC が占有する敷地へのアクセスを管理し、軽犯罪者やその他の望ましくない訪問者の立ち入りを思いとどまらせ、異常な出来事があれば通知し、必要に応じて警告を発することである。完全な警備システムというものはなく、特に適切に管理されていない場合、警備員は誤った安心感を与える。したがって、警備員はセキュリティの 1 つの要素にすぎないと認識しておくこと。

非武装の警備員

ICRC のセキュリティに対するアプローチは、ICRC が現地に受け入れられているという原則に基づいている。したがって警備員は、例外的な状況で本部の許可がある場合を除いて武装していない。彼らの仕事は主に、軽犯罪者からあなたを守り、あらゆる脅威について警告し、必要に応じて援助を求めることがある。武力攻撃、民衆蜂起、略奪からあなたを守るのは彼らの仕事ではなく、彼らにその能力はない。

警備員の選定と管理はあなたの責任ではないが、警備員の役割と任務の限界を認識しておくこと。

さらに：

- ・あなたの代わりに市場に行ったり、部屋に荷物を運んだりするなど、彼らの仕事内容にないことを依頼しない。
- ・警備員が眠っているのを見た場合は、彼を起こして上司に知らせる。また、彼が仕事をしていない、または本来あるべき立場にないという印象を持った場合も、その上司に伝える。

時間をかけて警備員と良好な関係を築くようにする。

ただし、彼らの職務の邪魔にならないようにすること。

7.1.4 爆風の脅威

爆風は爆発によって引き起こされ、爆発は家庭でのガス事故でも起こるし、紛争地域での戦闘でも起こる。爆発による爆風で窓ガラスが割れ、その破片によって爆発そのものよりも多くの怪我が発生することもある。最も簡単な予防策は、特別に設計された粘着性のあるプラスチックフィルムを窓やガラスのドアの内側に貼り付けることである。このフィルムは透明で、ガラス越しの視界に影響を与えることはない。このタイプの防爆フィルムを窓に貼ることは、ICRCが入居するすべての建物に義務付けられている。

このプラスチックフィルムが入手できず、緊急を要する場合は、通常の透明な粘着テープをガラスの内面全体に貼り付けるか、蚊帳を窓ガラスの内側に固定する。防爆フィルムほど効果はないが、飛散する破片の量は減少する。

紛争地域では、窓、鏡、家具、燃料やガスボンベはすべて潜在的な危険品になる。

爆風による脅威を軽減するために、土嚢を使って爆風壁を構築するなど、他の対策も可能である。爆発や小火器の発火による影響を最小限に抑えるために、車両を駐車し、燃料やガスを人の住む建物から離れた場所に保管し、発射物や爆発から保護するのが良い。家具の置き場所を間違うと危険があるので、物の置き場所もよく考える。

7.1.5 安全区域、防空壕と頑丈な部屋

治安状況が突然悪化した場合、または建物に何者かが侵入した場合は、すぐに安全な場所に移動するか、それが最善の選択肢である場合は逃げる必要がある。つまり、非常口と防護エリアの位置、およびそれらをいつ、どのように使用するかを知っておかねばならない。

防護エリアは、一時的な使用を目的としている。どのような種類のエリアが提供されるかは、地域の脅威によって異なるため、活動場所によって大きく異なる。ICRCには3種類の防護エリアがある。

- ・時折発生する小火器の発砲から保護するための安全エリア
- ・重火器による火災から身を守るためのシェルター
- ・暴力的な侵入から守るための堅牢な部屋

どのような避難経路や保護区域が利用可能で、どこにあるのかを調べておくこと。

防護区域のタイプ	目的と限界
安全区域	<ul style="list-style-type: none"> - 時折起ころる小火器の発砲時の流れ弾や、迫撃砲、ロケット弾、手榴弾の破片から保護する。 - こちらに狙いを定めた継続的な小火器の射撃、迫撃砲爆弾、ロケット弾、手榴弾による直撃、暴力的な侵入を防ぐことはできない。 - 非常に短期間の使用を目的としている。 <p>すべての ICRC の建物には安全区域が必要である。これは最低限のセキュリティ要件の一つである。</p>
シェルター	<ul style="list-style-type: none"> - 継続的な軍事作戦中に防護を提供するよう設計されている。小火器による直接的な射撃と重火器（迫撃砲、大砲、ロケット弾）による間接的な影響から防護する。また、近くで重火器が無差別に使用された場合に、その重火器による単発の直撃から保護することもできる。 - 持続的な攻撃や、殺傷を目的とした暴力的な侵入者に対する防護はできない。 - 最大 12 時間の使用を想定している。
堅牢な部屋	<ul style="list-style-type: none"> - 誘拐、傷害、または殺害する目的で強制的に建物に侵入する人物から防御する。その目的は、攻撃者があなたに到達するのを防ぐこと、あるいは少なくとも軍隊や警察がかけつけるのに十分な時間をかせぐことである。ただし場所によっては、そのような部隊が到着するまでに長い時間がかかる可能性があり、外部からの援助を得るのは不可能なこともある。したがって侵入者が立ち去るまであなたを守るために、堅牢な部屋を設計する必要がある。 - 外部からの侵入者が簡単にこの部屋を見つけられるようではいけない。考え方としては、単純にあなたを見つけられないことを狙っている。つまり、その場所は秘密にしておかねばならない。 <p>この部屋は多くの場合、安全区域または避難所として機能する。</p>

7.1.6 必需品

活動している地域において特定されている脅威に適した緊急物品を備えておくと役立つことが多い。たとえばバックアップ通信機器、消火器、応急処置キット、発電機、懐中電灯、ICRC の旗とビブス、食料と飲料水などである。ただし、このキッ

どんな緊急物品が
どこにあって、どう
やって使用するのか
を確認しておく。

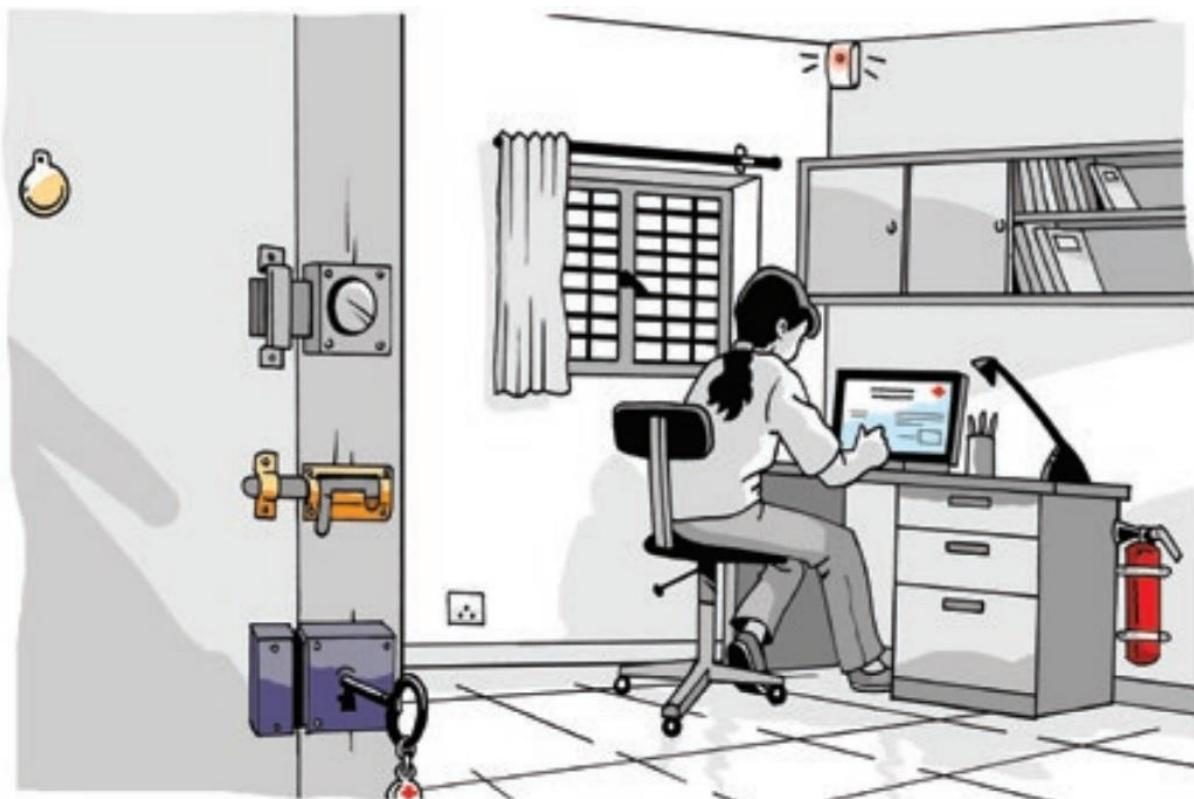
トがどこにあるのか、どのように使用するのかが分からなければ、あるいは必要なときにあるべき場所にない場合、用意しておいても役に立たない。また避難やその他の緊急事態に備えて、個人用の非常持ち出し袋を準備しておくのもよい。

7.1.7 GPS 座標を紛争当事者に提供する

紛争当事者からの偶発的な攻撃に遭うことを避けるために、ICRC は建物の GPS 座標を関係団体に共有している。これらの建物には、我々のオフィス、外国人スタッフが居住する宿舎、倉庫、ICRC が運営する医療施設などが含まれる。この措置は、建物（屋根を含む）に ICRC のロゴや照明などを付けるなどの他の予防策を補完するもので、武装勢力が人道支援のインフラであることを識別し、攻撃しないようにするものである。提供する座標の精度は正確なものでなければならず、間違った情報を渡すと致命的となる。したがって建物の正確な座標を取得しなければならない。GPS 座標の精度は約 1 メートルであるが、その精度は使用する機器の品質とアクセスできる衛星の数に大きく依存することに注意すること。スマートフォンまたはその他のデバイスによって提供される十進法座標は、十分に正確ではないことがある。

GPS 座標を取得する前に、どのような機器や方法を使用するか、どのような種類の情報を収集するかを調べる。

7.2 活動場所の安全の向上



ICRCが入居する建物の安全性を向上させるために、誰もが果たすべき役割がある。ICRCによる安全確保のための措置がどれほど優れていようと、それらは連鎖の中の1つのリンクにすぎず、それとは全く別に政治的状況や紛争力学、安全保障状況は、ICRCが安全確保の措置を適応させるよりも早く変化する可能性がある。セキュリティを脅かす要因は数多くあるが、欠陥のある照明、簡単に登れる屋根、侵入者が隠れる茂みなど、落とし穴は細部に潜んでいる。

したがって、既存の安全対策をただ盲目的に信頼するのではなく、疑問を持ち続けなければならない。たとえば、さまざまなアラームが何のためにあるのか、それらが実際に機能するのか再度確認する。自分の部屋でパニックボタンを押すと何が起こるのか？目に見える問題も探す。訪問者への対応手順の抜け穴に気づいたことはないか？建物に亀裂はないか？コンセントが古くて危険ではないか？窓に鉄格子があると、緊急時に逃げることができなくなる可能性がないか？消火器は十分か？見落とした問題は、あなたや同僚を襲うかもしれない。

- ・時間をかけて職場や住居を定期的に検査する。これは、既存のセキュリティシステムのロジックを理解し、いくつかの弱点を特定するのに役立つ。

- ・追加の安全対策が必要であると思われる場合、または既存の対策が不十分であるかリスクが生じていると思われる場合（例：内側から開かない格子のある窓）、管理者に伝える。
- ・爆発があった時に怪我を引き起こす可能性のある物を移動または固定することを検討する。

最後に、強盗、近くでの戦闘、火災の被害に遭う可能性があるのはあなただけではなく、ICRCの宿舎に滞在している国内スタッフ、家族、訪問者にも危険を及ぼす可能性がある。したがって、あなたと同居している人全員が、セキュリティに関する必要な情報をすべて受け取り、問題が発生した場合の対処法を知っていることを確認しておく。

不適切または欠如している安全対策、および異常、疑わしい、または潜在的に危険なあらゆるものを見つける。

7.2.1 オフィス/宿舎での安全確保：自身への5つの問い合わせ

1. ICRC の建物内では安全であるという印象があるか？
2. どの脅威に対してどのような警報システムがあるか？それらの違いを理解しているか？
3. 推奨される避難経路、保護区域、緊急設備の場所を知っているか？
4. 建物内に侵入者がいると言わされたらどうすればよいかを把握しているか？
5. 近くで銃声が聞こえたらどうすればよいか？

参考文献

ICRC, Passive Security – Technical Guidance for ICRC Premises in the Field, ICRC, Geneva, 2016: <https://shop.icrc.org/passive-security-technical-guidance-for-icrc-premises-in-the-field-pdf-en>.

7.3 現地スタッフ

警備員に加えて、清掃員、家事スタッフ、庭師などの現地のスタッフが、ICRC の建物の安全を維持する上で重要な役割を果たしている。彼らは、オフィスや宿舎で何が起こっているのかをいち早く察知し、異常なこと、うろうろしている不審者、その他の潜在的な脅威を見つけ出す。また、ICRC と地域社会との間の橋渡し役として、地域の治安状況の変化を伝えることもできる。彼らはおそらくあなたが思っているよりもあなたの仕事や私生活についてよく知っており、ICRC 外の人々にとっては便利な情報源である。つまり、ICRC の評判は、彼らがあなたについて何を言うかによって左右される部分があるということである。

警備員と同様に、清掃員、家事スタッフ、庭師も ICRC の安全にとって重要である。

7.3.1 プライベートでの雇用

通常、ICRC はサポートスタッフとして現場で現地スタッフを雇用するが、首都では必ずしもそうとは限らない。したがって、乳母、料理人、家政婦、運転手、庭師などのスタッフを自分で雇うこともできるが、その場合は特定の予防措置を講じる必要がある。ICRC の外部の者にあなたの宿舎へ入る許可を与えることは、一定の危険を伴う可能性があるため、注意しなければならない。あなたは、あなたが雇用する職員に対して当然全責任を負うが、その職員に重大な問題があると、あなた、あなたの家族、そして ICRC の安全に影響を与えるおそれがある。したがって、これに関しては物事を正しい道筋で行うことが重要になる。

採用：

信頼できる職員を雇用しようとするならば、採用は慎重にしなければならない。専門的な資格は重要ではあるものの、それだけが唯一の基準であってはならない。また、自分と同じ社会領域の人々と、現地の人々の両方に身元の照会をすることも重要である。

契約：

契約の質は、雇用主と職員の関係の質に大きな影響を与える。契約は、当該国内の雇用法（健康保険、税金、社会保障、休暇、退職手当など）に準拠したものでなければならない。契約には、職員が行う業務だけでなく、各当事者の責任の範囲、および各当事者が遵守しなければならない通知の条件も規定する。誤解を避けるために、双方が口頭で期待することを表明し、あなたが雇用主として提供できるもの

の限界を明確にすることを勧める。また、ICRC がこの地域で何をしているのかを一般的な言葉で説明する必要がある。

倫理：

あなたには法的義務に加えて、雇用する人々に対して道徳的義務がある。雇用了した職員に対する態度は、人道的活動の根底にある価値観を常に反映していかなければならない。これは、国内法、国際法、ICRC の行動規範にしたがって、彼らを公平に扱うことを意味する。彼らがあなたに示す忠誠心は、あなたの態度に依存する部分があることを理解する。彼らに対して公正に行動し、彼らの幸福に配慮を示すことは、間接的にあなた自身の安全に寄与することになる。

セキュリティ：

仕事に関連して講じなければならないセキュリティ対策について従業員に説明するのはあなたの義務である。誰にいつ扉を開けるべきか、鍵や電話の管理方法、調理器やオーブンの使い方、どのような情報を機密として扱うべきか、問題が生じたとき、いつあなたに警告すればよいか、緊急時にどのように対処すべきか、などを説明する。

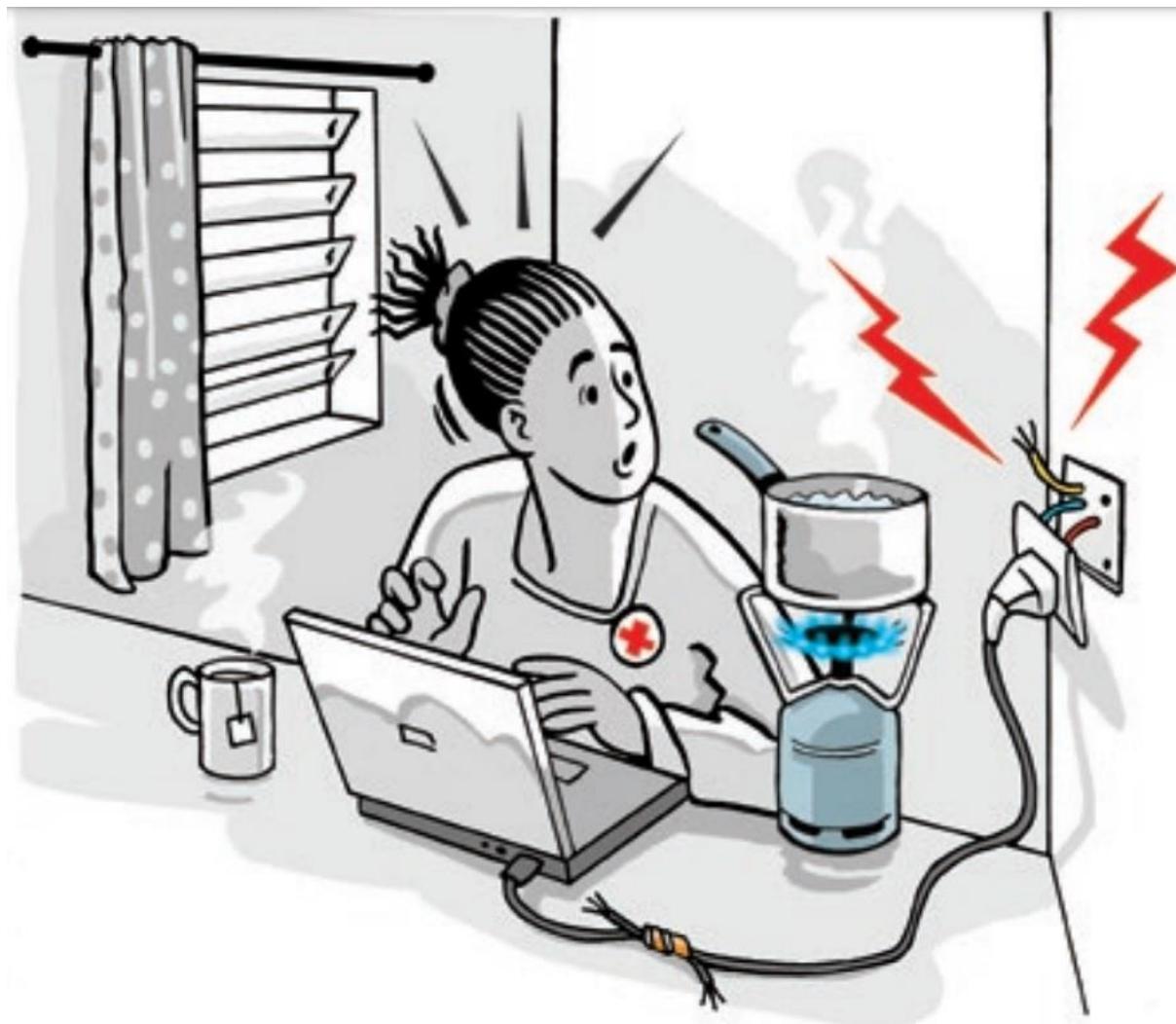
職員を採用する前に、ICRC
にアドバイスを求める
こと。確認のために雇用
契約書を ICRC に提出し、
その仕事の給与の相場を
問い合わせる。

争議：

雇用した職員との争議や対立が生じた場合には、状況が悪化するまで待ってからアドバイスを求めるのではなく、建設的な対話に取り組むように努める。未解決の意見の相違は、たとえ重要ではないように見えてもセキュリティを脅かすレベルに達するおそれがある。正式な手順を踏んで話し合うというよりも、現地のやり方や習慣に合わせたその場での解決策の方が適切な場合もあるので、ICRC や現地をよく知っている人々にアドバイスを求めるといい。

7.4 火災、電気、ガス

安全を確保するということは、活動環境からの脅威に対して予防措置を講じることだけでなく、火、電気、ガスに関する日常の危険を認識することも含まれる。



7.4.1 火災

火災は、電気設備や電化製品の欠陥、暖房システムの欠陥、可燃物の不適切な取り扱い、キッチンでの油や脂肪の過熱、あるいは単純な不注意など、いつでもどこでも発生し得る。多くの場所では消防機関にその能力がないため、緊急サービスに頼るのは無意味である。したがって、最初からそのような状況に陥らないよう、できる限りの予防策を講じ、問題が発生した場合の対処方法を知っておく方が良い。

ICRC の標準的な火災予防措置

- 煙探知機：煙が危険なレベルに達する前に、煙の存在を警告する。電池式のものもあり、定期的に電池を交換する必要がある。
- 消火器：消火器の役割は、火災が拡大する前に消火できる可能性を高めることである。言い換えれば、炎がまだ狭い範囲に限定されている間のみ効果があるということである。キッチンには防火毛布も備え付けられている。
- 避難システムと非常口：最初の出口が火や煙で遮断された場合に備えて、常に第二の出口を用意しておく必要がある。建物の設計によっては、外部に非常階段やはしごが設置されている場合もある。

防火

火災の発生を防ぎ、その拡大を止める方法を知っていれば、命を救うことができる。

- ・ 喫煙が禁止されている場合は、喫煙しない。
- ・ 非常口の位置を確認しておく。
- ・ 消火設備の欠陥はかかるべき部署にすべて報告する。
- ・ ロウソク、マッチ、炊飯器、ストーブ、その他の可燃物や材料を使用する場合は注意する。
- ・ 燃えやすいものの上に高温になるものを置かない。
- ・ コンロの近くに燃えやすいものを置かず、離れる前に必ず電源を切る。調理する際は油脂類を加熱しすぎないこと。
- ・ すべての可燃性物質は安全な場所に保管する。

火災への対応

ほとんどの火災は小規模に始まり、早く発見すれば消火できる。そのため、たとえ誤動作だと思っても、煙警報器を決して無視してはならない。

何をするか：

1. 他人に警告を発する

- ・助けを呼ぶ。
- ・危険な場所にいる人々に警告を発する。

冷静さを保つ。
火災の規模と、被害
を受けた人数を
確認する。

2. 自分を守る

- ・扉と窓を閉める。
- ・布で顔を保護し、非常口から敷地外へ出る（煙ですべてが遮られている場合を除く）。
- ・エレベーターは使用しない。地下に避難しない。
- ・屋内に閉じ込められた場合は、煙が入らないように、扉の下の隙間を毛布または衣服（可能であれば濡らした状態）で密閉する。
- ・あなたがいる部屋で火災が発生した場合は、毛布、コート、またはその他の非合成素材のもので身を守る。
- ・閉めた窓の近くで待機し、助けを呼ぶ。

3. 消火する

- ・火があまり大きくなつておらず、自分自身を危険にさらすことなく消火できる場合は、利用可能なものはすべて使って消火する。
- ・火元がガス器具の場合は、ガス栓を閉める。

火災の特徴

- 煙で視界が妨げられる：出口を見つけられず、中に閉じ込められる可能性がある。
- 炎よりも煙の方が死亡する可能性が高い：火災から発生する有毒ガスを吸い込むと、死に至る危険がある。
- 火災は激しい熱を引き起こす：その場の温度は数秒で数百度に達することがある。
- 火の回りが早い：建物全体が 5 分以内に燃え上がる可能性がある。

7.4.2 電気

ICRCは、職員が居住する建物についてはきちんと管理された安全なものであることを保証しているが、電気システムが完全に安全であると考えるべきではない。故障や気付かない損傷、欠陥、低品質の電化製品、あるいは水回りに近すぎる電気機器はすべて感電死を引き起こす可能性がある。また、フィールドで夜を過ごす場所（ホテル、学校など）の一部の電気設備は、おそらく標準に達していないものであろう。危険な電気設備のある場所に住むことに慣れる必要があるという意味ではなく、一定の予防措置を講じる必要があるということである。

まず、水と電気は基本的には一緒にあってはいけないものである。蛇口をひねったり、シャワーを浴びたりといった単純な動作でも、同時に電源に触れると死亡することもある。使用するソケット、延長コード、アダプター、電化製品の品質も安全性に影響するため、気を付けなければならない。

電気製品

- ・自分の物も含めて、使用するすべての電気製品が品質を満たしていることを確認する。また、その地域の電力供給に対応している製品かどうかも確認すること。
- ・疑問がある場合は、ICRCの専門家に相談する。

バスルームとキッチン

- ・水回り（蛇口、シャワーなど）の近くにコンセントがないことを確認する。
- ・蛇口をひねったときに、水から電気を感じた場合は、直ちに安全責任者に知らせること。

ソケット

- ・複数の電化製品を同じソケットに差し込んで配線に過負荷をかけない。
- ・延長コードやマルチウェイアダプターの使用はなるべく避ける。低品質のケーブルやアダプターは危険である可能性があるため、使用する場合は、安全責任者に検査してもらう。
- ・パソコン、テレビ、充電器などの電化製品を使用していないときはプラグを抜く。

報告

- ・電気設備に疑問がある場合は、該当する責任者に報告する。
- ・欠陥があれば報告し、問題が解決されたことを確認する。

- たとえ軽微に見える場合でも、インシデントを報告する。これによって、より深刻なインシデントを防ぐことができる。

あなたの個人用電化製品が安全であるかどうかを確認するために、遠慮せずに ICRC 専門家に依頼すること。

7.4.3 ガス

熱源がある場合、ガス漏れにより爆発や火災が発生する可能性がある。ガスは大量に吸入すると有毒であり、窒息による死亡を引き起こすこともある。ガスシステムの欠陥や損傷、機器の誤った操作、あるいは炎との接触は、あなただけでなくあなたの周囲の人にも重大な影響を与える。

- ガスボンベが適切に保管されていることを確認する。
- 調理器のバーナーを定期的に掃除する。青い炎なら正常に燃焼している。
- 数日間不在になる場合は、ガスの元栓を閉めておく。
- 自然災害発生の場合には特に注意。

ガスコンロやガス暖房器具がある場合は、正しく使うこと。

ガス漏れへの対応

- ドアや窓を開けて部屋を換気し、ガス栓を閉める。照明のオン/オフ、他のスイッチやブレーカーの操作、電話などの火花（ひいては爆発）を引き起こす可能性のあることをしない。
- ガスがすでに燃焼している場合、それ以上爆発する危険はない。この場合は、機器へのガスの流入口のコック、あるいは可能であればガスの元栓を閉め、周囲の表面を濡らし、建物から避難して助けを呼ぶ。

7.4.4 火災、電気とガス: 7つの原則

- 非常口の位置を確認する。
- 消火設備の設置場所とその使用方法を確認する。
- 初めて使う浴室でシャワーを浴びる場合は、感電の危険がないことを確認する。
- 品質が確かな電気製品のみを使用する。
- ガスの取り扱いには注意。
- 家族や家事スタッフに何をすべきかを教えておく。
- すべての不具合、損傷、インシデントを報告する。

8. 健康管理

健康と安全は密接に関係している。しかし人道支援従事者の中には、他人の世話をするのに忙しすぎて、自分自身の健康管理をおろそかにしてしまうものがいる。多くの場合厳しい環境となる状況において健康を維持する場合、一定の予防策を講じ、環境が許すかぎり健康的なライフスタイルを送る必要がある。本章では、身体的、精神的に健康を維持しながら援助活動を続ける方法について説明する。ここでは、さらされる可能性のある主な健康リスク、それへの対応方法、必要な場合の連絡先について述べる。

8.1 自身の身体的健康の管理



感染症、寄生虫、虫刺症、または過度の日光を浴びた場合などは、特に近くに医師や医療施設がない場合、健康に深刻な影響を与える可能性がある。それでは、身体の健康を維持するには何をすべきか？人道支援従事者が最も頻繁に直面する疾患は何か？どうすれば病気にならないか？そして、もし病気になったら、医師の診察を受けるまで何をすべきか？

8.1.1 新しいポジションにつく時

新しい活動を始めるときにいくつかの基本的な対策を講じることで、後で多くの問題を回避することができる。これらの対策は長期的に効果を維持するのに役立ち、病気になったり医療上の緊急事態に見舞われた場合に貴重な時間を節約できる。

ヘルスアドバイザー

ICRC には、健康関連の問題や質問について相談できる医療専門家がいる。心理的なサポートが必要な場合や、もちろん病気にかかったり事故に遭った場合にも連絡することができる。必要であれば外部の専門医も紹介する。

情報を得る：新しい活動を始めるときは、当該地域の健康に関わるリスクとサポート体制と治療の選択肢を必ず調べること。

- ・現地の医療状況や利用できる医療機関の種類について、誰から説明を受けること。
- ・身体的、精神的健康に関するアドバイザーが誰であるかを確認しておく。

医療上の緊急事態：医療上の緊急事態が発生した場合に備えて、次のことを行っておく。

- ・どのような手順に従うべきかを確認しておく
- ・連絡先相手やサービスの電話番号のリストを常に持ち歩く
- ・どのような医療施設が利用可能か、またその場所を調べる
- ・応急処置を学んでおく
- ・血液型カードのコピーと、アレルギーや特定の医学的な事項を持っていれば、そのリストを常に携帯する。

予防接種：必要な予防接種をすべて受けていることを確認する。まだ接種していない場合や全部終わったか確信が持てない場合は、ヘルスアドバイザーに相談する。

特定の健康要件：健康上の問題がある場合は、そのことをヘルスアドバイザーに通知し、着任時に記入する医療書類に記載する必要がある。

医薬品と医療用品：ICRC が提供する標準品目を確認し、必要な医薬品と基本的な医療用品を常に持っていることを確認する。

- ・**救急セット**：使用する建物や車両のどこに救急セットが保管されているか、必要なものがすべて含まれているか、またその使用方法を確認する。救急セットから物品を取り出した場合は、その物品を補充できるようにその責任者に報告する。
- ・**蚊帳**：活動地域で蚊が媒介する疾患がある場合は、常に適切な状態にある蚊帳の中で寝なければならない。蚊帳にペルメトリンベースの殺虫剤を染み込ませると効果が高まり、洗わない限り、殺虫剤の効果は数か月間持続する。小さな穴や裂け目でも修繕し、修繕できない場合は、新しい蚊帳を購入する。ICRC の宿泊施設ではないところで寝る場合は、必ず蚊帳を持参してその中で寝ること。
- ・**特定の備品**：活動の種類によっては、あなたを疾患から守るためにマスク、手袋、手指消毒用ジェルなどの保護用品や衛生用品が必要になる場合がある。必要と思われる備品がない場合は、上司に相談する。
- ・**緊急治療キット**：遠隔地に長く滞在する場合は、その前に、レイプ暴露後キットを持っていく必要があるかどうか上司に確認する。これには、汚染された血液と接触した場合に使用する暴露後予防薬も含まれている。マラリア流行地域で活動する場合は、チームはマラリアの迅速診断キットと個人用治療キットも携行する必要がある（下記を参照）。

8.1.2 現場での病気と健康問題

ワクチンはあらゆる疾患から身を守ってくれるわけではないため、ワクチンを打ったからといって、他の予防策を何もしなくてよいということにはならない。健康的なライフスタイルの維持は、一般的な病気を予防するための最も重要な方法である。また、特に熱帯病が流行している地域では、蚊やその他の虫刺症からも身を守る必要がある。

マラリアやデング熱のリスクがある地域に限らず、体温が 38°C を超えた場合は軽視してはいけない。このような高熱は、非常に深刻なものを含むさまざまな疾患の症状である可能性がある。また、発熱が何日も続いたり悪化したりした場合には、できるだけ早く医師の診察を受ける必要がある。

健康について疑問がある場合は、ヘルスアドバイザーに相談すること。

急性下痢

衛生状態が劣悪な地域では、食べ物や水に関連した疾患が非常に多い。通常、急性下痢の形をとり、場合によっては胃けいれん、嘔吐、発熱を伴う。これらの症状は汚染された食品や水に含まれる微生物によって引き起こされることが多い。ほとんどの場合、下痢は生命に危険が及ぶほどのものではないが、しばらく動けなくなる場合もある。

予防：自分自身の衛生状態および食品の衛生状態を良好に保つことが最善の予防策である。

- ・食事の前には必ず石鹼と水で手を洗う。水がない場合は、消毒用ジェルを使用する。
- ・安全に飲める水（瓶詰め、煮沸または濾過、あるいは塩素剤やヨウ素で消毒したもの）のみを飲むこと。
- ・飲み物が入ったボトルが適切に密封されていることを確認する。
- ・歯みがきには安全な飲料水を使用する。
- ・生の果物や野菜は皮をむき、飲料水で洗う。ルールは単純で、食べ物は煮るか、茹でるか、皮をむくか、である。
- ・生ものではなく、十分に調理された、まだ温かい食品を選ぶ。生または調理が不十分な卵、肉、魚介類は避けること。
- ・安全な供給源から来たものであることが確実でない限り、氷、アイスクリーム、フレッシュケーキは避ける。

下痢の治療：ほとんどの場合、何も治療しなくとも、症状は 2 ~ 3 日で自然に軽快する。

- ・経口補水液を飲んで、失われた水分を速やかに補う。
- ・白米（炊いた塩水を飲むこともできる）やバナナ（失われたカリウムを補うため）など、シンプルで固形のものを食べる。
- ・便に血液や粘液が混じっていない限り、ロペラミドなどの下痢止めを指示された用量に従って、ただし短期間のみ服用する。ロペラミドは下痢を止めはするものの、治療薬ではないことに注意。
- ・発熱、血便、または重度の下痢が 2 日以上続く場合は、医師の診察を受ける。抗生素質の服用が必要になる場合もある。

小さじ 8 杯の砂糖と小さじ 1 杯の塩を 1 リットルの飲料水に溶かして、
自家製の経口補水液を作ることができる。

過度の高気温への暴露

高気温の環境に長くさらされると重度の脱水症状、熱中症、日射病を引き起こすことがあります。発汗機能を含む体の内部冷却システムに影響を与えるため、非常に危険である。極端な場合、熱中症は死に至る。

症状：熱中症にはさまざまな症状がある。

- ・体温が 40°C を超える
- ・精神状態や行動の変化（混乱、興奮、発話困難、過敏症、せん妄、けいれん、昏睡）
- ・皮膚の熱感、発赤、乾燥
- ・頭痛、吐き気、嘔吐、腹痛
- ・頻脈、速く浅い呼吸

治療

- ・できるだけ涼しい場所に移動する。
- ・冷たい飲み物を摂取する。
- ・スポンジで体を拭き、誰かにあおいでもらう。
- ・体に冷水をかけて熱を放散し、蒸発させる。

熱に長時間さらされたり、非常に高い気温の中にいると、致命的な脳卒中を引き起こすことがある。症状が続く場合は、緊急事態の可能性があるので、できるだけ早く医師の診察を受けること。

動物媒介疾患

マラリア

マラリアは、熱帯および亜熱帯地域で一般的なマラリア原虫による寄生虫病で、日没から日の出の間に活動するハマダラカに刺されることで感染する。治療せずに放置すると重篤な合併症を引き起こす可能性があり、死に至る場合もある。毎年、マラリア流行地域を旅行した 3 万人がマラリアに罹患している⁴⁰。しかしながら、いくつかの基本的な予防策を講じることでマラリアの感染リスクを大幅に軽減させることができる。

症状：発熱、発汗、震え、頭痛などの最初の症状は、通常感染後 7 日前後に現れる。症状は、最初は軽いが、数時間または数日後に増悪する。

⁴⁰ K.M. Angelo et al., “Malaria after international travel: a GeoSentinel analysis, 2003–2016”, Malaria Journal, Vol. 16, 20 July 2017.

マラリア流行地域での予防：現在、マラリアに対するワクチンは存在せず、蚊に刺されないようにすることで身を守らなければならない。予防的に抗マラリア薬を服用することもできるが、マラリア流行地域に住んでいる人はその必要はない。ただし、数カ月間その地域を離れるとマラリアに対する免疫が失われる可能性があるため、帰国後 3 週間は警戒が必要となる。

- ・できるだけ肌を覆う明るい色の服を着る。
 - ・露出した皮膚すべてに DEET ベースの防虫剤を塗る。防虫剤には 20%～40% の DEET または 20% のピカリジンが含まれている必要がある。DEET の濃度が高いほど、保護効果は長くなる*。20% = 3 時間、30% = 6 時間、40% = 10 時間。
- *訳注：日本国内で販売されている製品は 30% が最高濃度（2025 年 3 月現在）
- ・マラリアを媒介する蚊は主に夜間に活動するため、常に穴や破れのないペルメトリンを染み込ませた蚊帳の中で寝る。野外で宿泊する場合は、同様の蚊帳を持参する。
 - ・オフィスや自宅の開口部に目の細かい蚊帳が取り付けられていることを確認しておくこと。
 - ・建物の近くに蚊が繁殖する可能性のある場所（水が溜まっている場所や池など）がないことを確認する。
 - ・医師がマラリア治療薬を処方した場合は、中断せずに服用すること。この間にフィールドトリップや休暇があれば、必ず持参すること。
 - ・質の高い医療を提供できる最寄りの医療施設から 48 時間以上離れて勤務する場合は、チームがマラリアの迅速診断検査を受けられるようにし、緊急抗マラリア治療キットを常に携行すること。

マラリアの症状がある場合

- ・医師または信頼できる検査機関にマラリアの検査を依頼する。
- ・適切な医療施設から離れた隔離された地域にいる場合は、迅速診断キットを使用して検査をする。
- ・検査機関で検査を受けられず、迅速診断キットも使えない場合、あるいは検査を受けたものの結果が正しいかどうか確信がない場合は、症状が出たらできるだけ早く緊急抗マラリア治療を開始する。
- ・症状が改善したとしても、できるだけ早く医師の診察を受けること。

マラリア流行地域により、38°C 以上の発熱が出た場合は、できれば医師を受診し、マラリアに感染していないかどうかを確認する必要がある。

デング熱とデング出血熱

デング熱は、昼夜を問わず活動するが特に日の出と日没時に活動するヤブカに刺されることによって伝播するウイルス感染症である。この疾患は世界中の熱帯および亜熱帯地域の、特に都市部および半都市部に存在する。デング熱の世界的な蔓延と旅行者のリスクは過去数十年で大幅に増加している。通常、初回感染時は重症化しないが、2回目の感染時には人の免疫系がより積極的にウイルスに反応して、より重症のデング出血熱になり、その合併症によって致死的となる可能性がある。

症状：インフルエンザに似ており、高熱（40°C）、時には重度の頭痛、筋肉痛や関節痛、目の奥の痛み、吐き気、嘔吐、腺の腫れ、あるいは皮膚の発疹を伴うこともある。これらの症状は感染後4～10日後に現れ、通常2～7日間続く。

デング熱流行地域での予防：現在、デング熱に対するワクチンはないが、研究は進行中である。したがってマラリアと同様、蚊に刺されないように身を守ることが最善の防御策であることに変わりはない。過去にデング熱に罹患したことがある場合は、必ずその旨を医師に知らせること。

デング熱の症状の治療：この疾患に対する根本的な治療法はない。早期に発見して、合併症に対する適切な医療を受けることができれば、万が一合併症が発生した場合でも命を救うことができる。

- ・十分な休息をとり、水分をたくさん摂取する。
- ・血液検査のためにできるだけ早く医師を受診し、以前にデング熱にかかったことがある場合は必ず医師に伝える。

ジカウイルス感染症

ジカ熱または単にジカとしても知られるジカウイルス感染症は、昼夜を問わず活動するが特に日の出と日没時に活動するヤブカに刺されることによって伝播するウイルス感染症である。また、症状が発現していないウイルス保有者と無防備に性行為をした場合にも感染する可能性がある。妊娠中の感染は胎児に重大な影響を及ぼし、中枢神経系の先天異常を引き起こす可能性があり、これらのうちで最も深刻なものひとつは小頭症である。胎児へのリスクを除けば、ジカ熱は通常、感染者に深刻な影響を与せず、治療を受けずとも自然に回復する。

症状：感染してもほとんどの人には症状がないが、感染後 3～14 日以内に、中等度の発熱、皮疹、結膜炎、筋肉痛または関節痛、倦怠感、頭痛などの症状が現れることがある。

ジカ熱流行地域での予防：ジカ熱にはワクチン接種も根本的な治療法もない。最善の予防策は、蚊に刺されないようにし、性交中に適切な予防措置を講じることである。この疾患は、感染しても通常、無治療でも 5～7 日後に自然回復する。

- ・ジカ熱のリスクがある地域において、妊娠中または妊娠を予定している場合、またはジカ熱を他の人に感染させるのではないかと懸念する場合は、医師に相談すること。

ウイルス性出血熱

ウイルス性出血熱は、大量の出血を伴う稀な疾患である。最もよく知られているのは、アフリカの一部地域で発生するラッサ熱、エボラ出血熱、マールブルグ病である。これらは、それぞれの疾患に応じて、さまざまな媒介動物を介して人に感染するウイルスによって引き起こされる。媒介動物には、蚊やダニ、ネズミや他の齧歯動物の糞便や尿（ラッサ熱の場合）、感染した動物との接触やその肉の摂取（エボラ出血熱の場合）がある。エボラ出血熱やマールブルグ熱は、感染者との濃厚接触、特に体液（血液、尿、便、嘔吐物）によっても伝染する。

症状：出血熱の初期症状は、通常インフルエンザの症状と似ている。症状はこのレベルに留まることもあれば、出血性の重篤な状態に進行する場合もある。出血の量は、単純な鼻血や歯茎の出血から、多くの場合死につながる臓器不全を伴う大量出血までさまざまである。エボラ出血熱は特に死亡率が高い。

予防：WHO は 2019 年にエボラ出血熱に対するワクチンを承認したが、このワクチンがどれくらいの期間有効性を保っているのかはまだ不明である。エボラ出血熱の影響を受けている地域のすべての職員は、活動で危険にさらされる場合ワクチン接種を受けなければならない。

- ・一般的な予防策として、病気の動物や動物の死骸との接触を避け、蚊、ダニ、ネズミなどの媒介動物から身を守る。
- ・これらの疾患が流行している地域で活動しなければならない場合は、医師に相談しておく。

- ・出血熱が流行している地域に旅行しなければならない場合は、従うべき手順について ICRC に相談すること。ICRC はそういった地域で働く職員向けの手順を作成しており、防護具も提供する。

治療：現在、感染そのものに対する根本的な治療法はなく、症状や合併症を治療することのみ可能である（後述）。

コレラ

コレラは、コレラ菌に汚染された食物や水の摂取によって発症する急性の下痢性感染症である。これは成人にとっても小児にとっても非常に深刻な疾患で、無治療のまま放置すると 24 時間以内に死亡する可能性がある。伝染は、劣悪な衛生環境と、清潔な水を得られない状況と密接に関係しており、大都市の貧困エリア、国内避難民キャンプ、刑務所は特にリスクが高い。

症状：ほとんどの場合、症状は軽度から中等度に留まるが、汚染された食品や水の摂取後 12 時間から 5 日の間に、重度の水様性下痢が発症する可能性がある。この下痢は重度の脱水症状を引き起こし、治療しないと死に至る危険がある。

感染しても無症状の人も多いが、彼らの糞便中にはコレラ菌がいる。このため、これらが環境中に排出されると、他の人に感染する可能性がある。

予防：水と衛生設備の改善と効果的な社会的啓蒙は、コレラの発生を予防し、発症した場合の伝染のリスクを減らす。経口ワクチンも予防対策のひとつである。

- ・リスクの高い地域にいる場合は、コレラのワクチン接種が必要かどうかを医師または保健アドバイザーに相談する。
- ・コレラ流行の影響を受けた地域で活動しなければならない場合は、ワクチン接種済みであることを確認し、ICRC が定めた手順に厳密に従うこと。

治療：症状がない感染者が多く、症状が現れても通常は軽度であり、経口補水塩により治療することが可能である。しかしながら重症例は、点滴による迅速な水分補給と抗生物質の投与が必要になる。

- ・水様性下痢の場合は、経口補水液を飲み、失われた水分を補う。
- ・水様性の下痢が頻回になった場合は、すぐに医師の診察を受けること。

呼吸器感染症

これらは、特に急激に気温が変化する時に、鼻、気管支、肺などの気道に影響を及ぼす一般的な感染症である。ストレスや疲労が加わると、この種の病気により罹患しやすくなる。風邪とインフルエンザの 2 つは呼吸器感染症の代表的な疾患である。

症状：原因がウイルスであっても細菌であっても、気道感染症の初期症状はよく似ている。数週間続くこともある長引く咳、息切れ、発熱、そして深呼吸をしたときの痛みなどはすべて、急性気道感染症の症状である。

予防：ワクチンは、インフルエンザなどの一部の呼吸器疾患を予防することができる。もしも症状がある場合は、家に留まることで、他人に感染させることを防ぐことができる。

- ・活動場所が、多くの人が集まる場所で、インフルエンザウイルスが簡単に伝染するようなところであれば、インフルエンザのワクチン接種を受けておく方がよい。
- ・衛生を保つための基本的なことを行う。特に、石鹼で定期的に手を洗う。

治療：抗生物質を服用するか抗ウイルス薬を服用するかは、感染症が細菌由来であるかウイルス由来であるかによって異なり、これは医師の判断による。

- ・呼吸器感染症の症状が 1 つ以上ある場合、または咳が 3 週間以上続く場合は、医師の診察を受けること。

重症急性呼吸器症候群（SARS）および非定型肺炎

過去 20 年間にわたり、コロナウイルス科の同じ科に属する少なくとも 3 種類のウイルスが、一般に「非定型肺炎」として知られるヒトのさまざまな種類の重篤な肺疾患を引き起こすことが確認されている。この 3 つのウイルスとは、SARS-CoV、MERS-CoV と SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）である。これらのウイルスは致死的な伝染病やパンデミックを引き起こし得る。

ヒトでは、MERS-CoV、SARS-CoV、SARS-CoV-2 は主に、誰かが咳をしたり、くしゃみをしたり、話したりしたときに排出される飛沫によって伝染する。すでに慢性呼吸器疾患、心血管疾患、コントロール不良の糖尿病を患っている、あるいは肥満や免疫抑制状態、および高齢者は、特にこれらの疾患に感染し、重篤化しやすい。

症状：肺炎の症状は、発熱、空咳、頭痛、筋肉痛、呼吸困難である。ウイルス保菌者の中には「無症状」の人もいる。これは、彼らが知らないうちに感染を広める可能性があることを意味する。

予防：現在、新型コロナウイルス以外のコロナウイルスに対するワクチンはなく、この問題についてさらに詳しく調べ、これらの病気を予防および治療する方法を開発するための研究が進行中である。定期的に石鹼で手を洗うなどの基本的な衛生対策は、感染のリスクを軽減し、ウイルスの伝播を制限するのに役立つ。

治療：さまざまな種類のコロナウイルスに対する根本的な治療法はない。提供できるのは支持療法だけである。

感染症の流行と世界的大流行（パンデミック）

一部の感染症は急速に広がり、流行を引き起こしたり（例：2003 年の SARS、2014 年のエボラ出血熱、ラッサ熱など）、大陸全体または世界全体に急速に影響を及ぼしてパンデミックを引き起こしたりする（例：2009 年のインフルエンザ A (H1N1)、2020 年の新型コロナウイルス感染症）。

ICRC が致死的伝染病の影響を受けた地域で活動しており、パンデミックが発生した場合、ICRC は主に疾患の病態、住民のニーズ、スタッフへの脅威に応じて活動を変更する。ICRC は、リスクのある活動における防護衣の使用を含む特別なプロトコルを作成する。したがって、伝染病やパンデミックが発生した場合は、ICRC が出す指示に従う。

結核

肺結核（一般的には単に結核またはTBと呼ばれる）は、気道の細菌感染症である。特定の刑務所などの密閉された人口密集環境では、より容易に感染するが、結核患者が健康な他人に結核をうつすことは少ない。

症状：初期段階では、ほとんどの人は症状を示さない。症状が現れた場合、咳（血痰を伴う場合もある）、体重減少、寝汗、発熱などがある。

予防：結核が流行している地域に勤務している場合は、公式の健康ガイドラインに従うこと。

治療：活動性結核の治療には複数の種類の抗生物質が必要である。多剤耐性結核（MDR-TB）の治療はより複雑であり、予後は不透明である。医療制度が不十分な国では、患者が診断や治療を受けることが困難な国もある。

ビルハルツ住血吸虫症

ビルハルツ住血吸虫症は、流れの遅い湖や川、池、沼地などの汚染された淡水に生息する寄生幼虫（セルカリア）によって引き起こされる。幼虫は、水と直接接触する際に皮膚から体内に侵入する。治療せずに放置すると、この疾患は膀胱（血尿）や腸（痛みや下痢）に影響を及ぼし、複数の合併症を起こす可能性がある。この疾患はヒトヒト感染はしない。

この疾患の流行地域での予防

- ・池や川などの淡水の中で泳いだり歩いたりしない。また、これらの水で手、足、洗濯物を洗わないこと。
- ・汚染された水に触れた可能性があると思われる場合は、感染のリスクを軽減するためにタオルやその他の布で皮膚を強くこすって体を乾かし、できるだけ早く医師の診察を受ける。

感染した場合：

- ・その部位を洗浄、消毒し、包帯を巻いて固定する。
- ・清潔な飲料水を少しづつ飲む。
- ・医師の診察を受ける。

皮膚感染症と創傷

特に暑い気候では、小さな切傷、擦過傷、咬傷、その他の傷でもすぐに感染する可能性がある。

- ・小さな傷でも汚れや小さな異物を取り除く。
- ・傷口を飲料水で洗い、ヨウ素ベースの消毒剤を塗布する。
- ・感染が傷口から外側に広がった場合（つまり、皮膚が赤くなって炎症を起こした場合）、できるだけ早く医師の診察を受ける。

性感染症

HIV/AIDS やその他の性感染症には国境がなく、その感染リスクはあなたが活動している地域ではなく、あなたの行動に依存する。アルコールは人々を危険な行為にふける可能性を高めることが知られている。自分自身に症状がなくても、性感染症に感染していることもある。つまり、気づかぬうちに他人に感染させる可能性もあるということである。したがって、感染したり、他人に感染させたりしないように、必要な予防措置を講じなければならない。

HIV/AIDS を持ちながら ICRC で働く

近年、HIV/AIDS 検査、HIV 感染者へのアドバイス、抗レトロウイルス療法へのアクセスが大幅に改善されたが、HIV/AIDS に感染していてもその事実を知らない人はまだ多い。さらに、世界中のどこでも継続的な治療を受けることは不可能であり、感染者は孤立し、偏見を持たれ、支援を受けられないことがよくある。

ICRC は、職員が感染する可能性を減らし、職員が個別かつ知られることなくアドバイスを受けられるようにし、抗レトロウイルス療法を確実に受けられるようにするために多くの措置を講じている。したがって、検査を受けたい場合、または自分が HIV 陽性であることがわかっている場合、または単純にそのことについて家族や友人に話せないと感じる場合は、ためらわずにヘルスアドバイザーに助言を求めるよ。あなたの質問に自信を持って答え、助言を与え、必要に応じて HIV 検査を受ける機会を提供し、HIV/AIDS の継続的な治療を受けられるようにすることも彼らの仕事の一部である。

汚染された血液への暴露

人道支援従事者は、特に医療または救急医療の分野で活動している場合、血液や体液への接触の危険がある。

主な感染リスクは：

- ・患者の血液やその他の感染性の体液が、自分の皮膚の切傷や擦過傷に触れる。
- ・口、鼻、目の粘膜に飛んだ血液、血液の混じった体液、またはその他の感染性の体液。
- ・血液で汚染された針や鋭利な器具による事故。

これらの感染性の可能性のある体液はすべて、HIV、B型肝炎、C型肝炎を伝染させる可能性がある。

血液または体液にさらされた場合：

- ・慌てない！ HIV で汚染された血液に 1 回だけさらされても感染するリスクは低く、輸血や避妊具をつけない性行為によって感染する可能性の方がずっと高い。
- ・すぐに医療アドバイザーに連絡する。彼らは何をすべきか助言し、特に状況に応じて抗レトロウイルス薬を服用する必要があるかどうかを指示してくれる。

暴露後予防

暴露後予防 (PEP) は、HIV への暴露が疑われる場合に感染を防ぐことを目的とした緊急医療行為で、これには抗レトロウイルス薬の服用も含まれる。薬の服用はできるだけ早く開始し、いずれにしても感染源にさらされてから 72 時間以内に開始する。暴露後予防は、医療専門家のアドバイスに基づいてのみ行われねばならない。

PEP キットはすべての ICRC オフィスで入手可能である。遠隔地で数日間過ごすことが予想されるチームは、このキットを携行する必要がある。PEP はレイプ暴露後のキットの一部でもある。

8.1.3 身体的健康: 自身への 6 つの問い合わせ

1. 活動地域の疾病の状況と利用できる医療機関について適切な説明を受けたか？
2. 健康問題に関して ICRC の誰に連絡すればよいか知っているか？
3. ワクチン接種はアップデートされているか？
4. ICRC の健康チェックフォームに記入する際に、健康上の問題について記したか？
5. 基本的な衛生面での規則に従っているか？
6. 疾病に対する十分な予防策を講じているか？

8.2 自身のメンタルヘルスの管理



人道的活動はやりがいがあり、刺激的である。他人の苦しみを和らげることを手伝うことは、人生に意味を与え、より多くのより良いことをしようと努力するよう促す。しかし、苦しみに直面したり、残忍な不正義や違反を目撃したり、それが自分の家族や地域社会に対するものであったり、暴力に対処しなければならなかつたり、自分自身や同僚の安全に対する恐怖を感じたり…これらすべての要因が苦痛の

原因となることもある。人道支援活動に不可欠な要素である、あなたの思いやりや苦しみを軽減したいという深い願望は、時として自分自身や組織の限界にぶつかり、大きなフラストレーションの原因となる。

活動状況はメンタルヘルスにも影響を及ぼし、他の新しい活動と同様に適応する期間が必要となるが、それはときに簡単ではない。

メンタルヘルスには、身体的な健康と同じくらいのケアが必要である。ICRCでは、うつ病やその他のメンタルヘルスの問題が、欠勤や医療退避の主な原因のひとつとなっており、本章ではストレスに焦点を当てることとする。ストレスとは何か？ストレスは常に悪いものか？ストレスが健康に影響を及ぼし始めるのはいつか？次の数ページでは、さまざまな種類のストレスと、人々がストレスにどのように反応するかについて説明する。また、ストレスを予防する方法、ストレスが問題になりつつある最初の兆候に気付く方法、可能な限りストレス関連の問題を克服する方法も記載する。

8.2.1 ストレス – 生活における正常な反応

ストレスは、均衡を乱す外部の出来事や制約に対する正常で自発的な生物的適応反応である。これは、身体的および精神的資源が活性化され、生物（たとえばあなた！）が状況に反応できるようにする自然なメカニズムである。ストレスは脳内ホルモンによって起こり、心拍数増加と頻呼吸を引き起こし、筋肉が活動に向けて準備を整える。最初の穏やかで均衡状態に戻らなければ、ストレスもおさまらない。言い換えれば、ストレス自体は危険なものではなく、絶対に避けるべきものでもない。逆に、ストレスが予期せぬ状況に適応するのに役立つのであれば、ストレスは味方になる。

ある程度のストレスは、我々が正しく行動し、機能するように動機付ける手段として不可欠である。ストレスはポジティブで刺激的なエネルギーであり、我々が必要な努力をし、効果的に活動するために重要な役割を果たす。

8.2.2 ストレスを感じるのは誰？

国籍や文化に関係なく、ストレスというものは誰にでも発生しうる。状況に対処するために必要な自分の力が不足していると感じたときに最も頻繁に発生する。つまり、ある人がストレスを感じる状況が、別の人にとってはそうでないこともある。人の許容範囲は、その人の遺伝的素因、性格や過去の経験、その人が利用できる社会的サポートなどに依存する。たとえば、過去の貧困、苦しみ、暴力の経験により、人はストレスに強くなる可能性も、より敏感になる可能性もある。

誰もが自分なりの方法で困難に対処するが、その困難さがある閾値を越えるとストレスとなる、そのある点が誰にでもある。自分がコントロールできていない、状況が予測できないという感覚、嫌な状況に繰り返しさらされる、または身体的あるいは精神的な健康が脅かされているという感覚が、自分をその閾値に近づける。

自分にとってストレスとなる要因を理解して認識し、自分のニーズと限界を知ることは、ストレスを管理する方法を見つけるのに役立つ。

8.2.3 いつストレスが問題に転じるのか

ストレスがどのように作用するかを理解すると、ストレスを管理するのに役立つ。脳が状況をストレスフルであると認識すると、身体の反応は以下の4つの段階を踏む：

- 警告**：ストレスの多い状況に対する最初の反応。心拍数と呼吸数が増加し、集中力が高まる。
- 抵抗**：ストレスが持続すると発生する。ストレス関連ホルモンであるコルチゾールが作用する。
- 疲労**：ストレスがさらに持続すると、さらにホルモンが分泌され、身体は高い警戒状態に保たれ、疲れ果てる。この疲労により、免疫システムの能力が低下し、特定の疾患へのリスクが高まる。
- 回復**：ストレスの原因が除去されると、急速に回復段階に入る。リラックスし、ときに疲れを感じるかもしれない。この段階では、身体が元の均衡状態に戻るために必要な力を蓄えることができる。

ストレスとなる要因に頻繁にさらされたり、それが強すぎたりすると、ストレスが問題になる。このような状況では、回復段階に至ることができず、人はますます対処できなくなる。さらに、人はストレスが問題になっていると認識すると、さらに悪化することが研究で示されている。言い換えれば、ストレスに対するあなたの認識は、それに対する身体の反応と状況に対処する能力に影響を与えるということである。

周囲の状況についていけなくなったり、コントロールできなくなったりすると、ストレスを感じることになる。それらの感情が続き、あまりにも激しくなり、うつ病につながる場合は支援を求めなければならない。

さまざまな種類のストレス

- ・ **ストレスの蓄積、または慢性的なストレス**：ストレスの蓄積は、いくつもの薄い層の重なりのようなものである。それぞれの「層」は1つの小さな問題であるが、それらすべてが自分の上に積み重なると、重いプレッシャーとなる。問題は、活動、健康、物理的環境、金銭的問題、人間関係など、人生のさまざまな側面から生じる可能性がある。これらの心配事を最小限に抑えて無視し、時間の経過とともに不安が増大するままにしておくと、均衡している感覚に影響を及ぼし始める。この種のストレスは、その原因に気づいていないため、さらに悪化することになる。高レベルの慢性的なストレスは、特に自分が仕事に意味を見いだせなくなった場合、燃え尽き症候群につながることもある。
- ・ **燃え尽き症候群**：適切に管理されなかつた職場での慢性的なストレスの結果起こる。燃え尽き症候群には次の3つの特徴がある。
 - 疲労、またはエネルギー不足
 - 引きこもり
 - 自分の仕事に対する否定的または冷笑的な態度、および効率の低下。
- ・ **外傷性ストレス（または潜在的な外傷性ストレス）**：これは、個人が対処できる精神的な備えを超えた、深刻な潜在的に破壊的な出来事にさらされることによって生じる。考えられる原因には、自動車事故、武力攻撃、自然災害、爆発、言葉による脅迫、虐待などが含まれる。その出来事自体がトラウマになる場合もあれば、そうでない場合もあり、同じ出来事でも、その人の性格や状況に応じて、それぞれ受け止め方が異なる。誰かが重大な事件を経験したという事実は、必ずしもその人がトラウマに関連する病状をきたすことを意味するわけではない。事件発生から数日、場合によっては数週間は、まったく正常なストレス兆候を示すこともある。しかし、こうした兆候が続く場合、その人はそのトラウマによるストレスに苦しんでいることがある。さらに、人によっては実際に事件の被害者でなくても、それを目撃するだけでもトラウマとなるストレスに苦しむのに十分であつたりする。

- ・**身代わりトラウマ**：人々が自分の経験を語るのを聞いたり、画像を見たり、報告書を読んだりすることはすべて、「身代わりトラウマ」を引き起こす可能性がある。支援者は、他人が経験したトラウマ的な出来事を吸収し、共感を通じて実際の被害者と同様のトラウマ反応を引き起こすことがある。
- ・**思いやり疲労**：思いやり、または共感とは、他人の感じたことを自分の感情レベルで理解し、彼らが経験していることに気づく能力で、それは自分に、他人の苦しみの性質と強さを意識させる。研究によると、他人の苦しみに何の判断もできず、あるいはそれを和らげるために何もできないまま長期間にわたってそれを感じ続けると、最終的には人の均衡状態に影響を及ぼし、それが飽和し、疲労状態につながる可能性があるという。

8.2.4 オフィスでのストレス

人道支援従事者がストレスにさらされるのは、現場で直面する厳しい現実だけが原因であるとよく思われているが、その労働条件もメンタルヘルスに大きな影響を与えていていることを忘のがちである。快適な職場環境や強力なチームスピリットがプラスの影響を与えるのと同様に、過剰な仕事量、サポートの欠如、リソースの不足、同僚との緊張や対立は、時間の経過とともに人に疲弊させ、深刻な悪影響を及ぼす可能性がある。多文化環境で働くには、ある程度の順応も必要だが、最初は難しいことがある。

仕事が大きなストレスの原因であると考え始めている場合は、次のことを行う：

- ・なぜそうなるのか、そして自分で何ができるのかを時間をかけて考える。たとえば、自分の仕事の一部を他の人に任せる必要はないか？完璧主義であることをやめ、自分自身に対する要求を減らしたりする時期ではないか？同僚にサポートを求めるべきではないか？
- ・懸念事項を上司に共有することを躊躇しない。そうすれば、全員が満足できる解決策と一緒に見つけることができる。

ICRC 内で利用できるさまざまな支援メカニズムについて
調べ、それを活用する。

1 人もしくはそれ以上の同僚との関係が難しい場合 :

- ・事態が悪化して雰囲気が悪くなる前に、本人または関係者と問題を解決するよう努める。必要に応じて信頼できる人にアドバイスを求めるか、サポートメカニズムを利用する。

8.2.5 前兆

心理的な苦痛がどのように現れるかは人によってさまざまである。それが自分の場合、どのように現れるかを知っていることは、均衡状態を維持するために重要である。心と身体のストレスの症状に注意を払い、自分の感情を認識し、行動の変化に注意することは、回復するための時間を与えたり、助けを求めたりする必要がある瞬間が来たことを認識するのに役立つ。

自分自身が必要としていることを無視し、健康的なライフスタイルを維持できないと、どんどん疲労が蓄積し、それによって自分や他人を危険にさらす不必要なリスクを負う可能性がある。

主な前兆	
身体	<ul style="list-style-type: none"> - 睡眠障害（不眠症、異常に長い睡眠時間、悪夢） - 頭痛 - 倦怠感 - 消化器系の問題 - 体重の増減 - 皮膚の症状 - 筋肉の緊張と痛み
ふるまい	<ul style="list-style-type: none"> - 自分の中に引きこもり、難しそうなことを避ける - 孤立 - 沈黙 - 過剰な活動、またはぐずぐず先延ばしする - 自分に気を配らない。 - リスクを取る - 食べる量が過剰になったり、少なくなったりする - アルコールの乱用、または飲酒量の増加 - 薬物使用

主な前兆	
感情	<ul style="list-style-type: none"> - 感情的に、または無関心になりやすい - 過度の恐怖 - 罪悪感 - 自尊心の低下 - リラックスできない - イライラと怒り - ユーモアのセンスの喪失 - 冷笑主義 - 相手の言動の否認 - 無力感 - 絶望
頭の中	<ul style="list-style-type: none"> - 集中すること、言葉を見つけること、書くこと、計算することが困難になる - 物忘れ - 優柔不断 - 混乱 - 自尊心の低下 - バランスのとれた判断ができない - めまい - 記憶の侵入 - フラッシュバック
精神	<ul style="list-style-type: none"> - 落胆 - 人生には意味がないと感じる - 自分の価値観や宗教的信念から遠く離れていると感じる - コミュニティとのつながりを感じられなくなる - 自然とのつながりを感じられなくなる

8.2.6 ストレスへの対応

より効果的に回復するために

ストレスに対処するということは、ストレス要因への暴露をできる限り減らし、平穏でコントロールできているという感覚を再認識できるように対応することである。利用可能な手段と活動環境の制約の中で、以下の推奨事項を考慮する。

- ・積極的なセルフケアに努める。
- ・できるだけ多様な食事を維持し、規則的に食事をとる。ストレス下ではマグネシウムの消費量が増えるため、十分なマグネシウムを摂取するようにする。ほうれん草などの緑黄色野菜、キャッサバ、バナナ、レンズ豆、エンドウ、全粒シリアル

ル、ナッツ類（ピーナッツ、クルミ、ヘーゼルナッツ、アーモンド、ピスタチオなど）など、多くの食品にマグネシウムが含まれている。

- ・十分な水分補給を心がける - 1日あたり2～3リットルの水を飲む。
- ・十分な睡眠をとるように努める。2時間の睡眠の欠如の影響は8日間残るとされる。
- ・特に治安状況により外出できない場合は、定期的に運動すること。長時間座ったままでいないようにする。歩いたり、階段を上り下りしたり、運動をしたりする。本格的なスポーツができない場合は、オフィスや敷地内でのバドミントンやサッカー、同僚とのヨガセッションなど即席でやれるようなことをする。
- ・たとえ限られたものでも、一人でいられる場所である自分のための個人的なスペースを作り、芸術、精神的/宗教的な活動、リラクゼーションテクニック、映画鑑賞、読書、音楽鑑賞など、個人の価値観による活動に使用する。
- ・休息と回復の必要性を無視しないこと。これを尊重し、権利としてある休暇を取得すること。
- ・オンラインで一人で何時間も過ごすのではなく、職場でも屋外でも、社会的なつながりを育むこと。また、仕事によって会話が邪魔されないようにする。社交的な行事や家族との接触（たとえ遠く離れていても）も、精神的な均衡状態を保つのに役立つ。
- ・文章を書くことや何か芸術的なことを試してみる - これらは、感じているストレスを表現する良い方法であり、有益な場合がある。
- ・物事を前向きかつ建設的に見るように努める。自分では変えることができないことがあるということを受け入れ、変えられることにエネルギーを集中する。
- ・思いやりを示す。これは、苦しんでいる人を思いやり、助けたいという気持ちを意味する。思いやりがあれば、自分自身を苦痛の状態に引きずり込まずに、他人の苦しみに共感できることが証明されている。

さらに、笑いは物事を客観的に見るので役立つことを覚えておく。笑いは問題に対処する良い方法になることがある。

腹式呼吸

簡単なことのように思えるかもしれないが、正しい呼吸をすることは、より効果的に回復するためのよい方法のひとつである。

- 背筋を伸ばして座ったり立ったりする。片方の手を胸に置き、もう片方の手をお腹に置く。
- 鼻から深く息を吸い、お腹を膨らませる。つまりこのとき、お腹に置いた手は上がるが、胸に置いた手はほとんど動かない。
- 次に、腹筋を収縮させて、口から非常にゆっくりと息を吐き、できるだけ多くの空気を吐き出す。お腹に当たった手は動くが、もう一方の胸に置いた手はほとんど動かないままである。
- できる限りすべての空気を吐き出したら、数秒間息を止めてから、このエクササイズを繰り返す。

してはいけないこと

以下のような回避行動は、自分がストレスに対処していると思うだけで、実際の対処にはあまり役に立たない。

- ・個人的な心配事を考える時間をなくすために、無理に仕事のことで頭の中を埋め尽くすこと。しかしながらこれは、長時間働きすぎたり、休みを取らなかつたりすると、依存症になる可能性がある。仕事中毒になると、結局は肉体的、精神的、感情的に疲れ果ててしまう。
- ・タバコ、コーヒー、アルコールや、ガムやキャンディの摂取量が増えることは、自分のバランスが崩れていることを示す典型的な兆候である。これらを一定量以上摂りすぎると、自然な回復を促進するのではなく、疲労やストレスの兆候を覆い隠すものになってしまう。
- ・辛い出来事や日常生活の困難を忘れることができる方法を持っていることは必要であり、正しく、問題はない。問題は、何かを忘れようとしたときにそれが起つたこと自体を完全に否定することに陥る可能性があることである。したがって、つらい経験を一人で抱え込まず、信頼できる人、または医療専門家に相談するようにする。
- ・テレビやインターネットの画面は気晴らしになるものが無限にある。しかし、画面を見続ける時間が長すぎると、身体的および精神的健康に悪影響を及ぼし、睡眠障害、集中力の欠如、気分の変動などを引き起こす可能性があることが研究で

示されている。

8.2.7 気分がすぐれないとき

自分自身を大事にするということは、自分の気分が悪く、サポートが必要であることを認識し、受け入れることも意味する。バランスを保つのに苦労している場合は、自分で問題を解決しようとせず、信頼できる人、または医療専門家に相談する。精神状態が依然としてよくない場合、またはさらに悪化する場合は、すぐに専門家に相談する必要がある。

自分の限界を知ること。
自分の気分が良くないこと
を認めることは、弱さの
表れではない。

8.2.8 ストレス：自身への 6 つの問いかけ

1. 環境の悪影響から身を守るにはどうすればよいか？
2. 深刻な精神的健康上の問題の兆候であるかもしれない行動の変化はあるか？
3. 再び落ち着いてコントロールできる状態に戻るにはどうすればよいか？
4. 自分は他人にとってストレスの源になっていないか？
5. 自分はまだ他人の苦しみに対処できるか？
6. 自分の疑問や経験したことについて、誰か話せる人はいるか？

9. 支援を必要としている人々へのアクセス

支援を必要としている人々へのアクセスは常に困難である。移動中、特に陸路での移動は、定期的に使用するルートでも安全に関しては特に脆弱になり、潜在的な問題には事欠かない。たとえば劣悪な道路状況、通過するための軍の検問所での交渉、支援を必要とするコミュニティに到達するため横断しなければならない複数の前線、速度を落とさねばならないような予期せぬ色々な問題に対処する必要があり、次から次へと疑問やジレンマに直面することになるであろう。フィールドトリップを延期して、切望されている支援の提供を先に延ばすべきか、それとも状況が非常に不安定であることを承知の上で、とにかく行くべきか。別の経路をとるべきか、それとも来た道を戻るべきか、などジレンマは尽きない。

本章では、危険な状況を回避する方法に関するアドバイスを提示する。

- ・フィールドトリップの計画および準備を行うときに考慮すべきことは何か？
- ・武装した組織・勢力に通知したり、車列を組んで移動したり、職場にいる同僚と連絡を維持するにはどうすればよいか？
- ・チェックポイントを安全に通過するにはどうすればよいか？
- ・宿泊をするのに安全な場所をどうやって選ぶか？

主にこれらについて次項以降で取り上げる。

9.1 フィールドトリップの準備

本章では、陸路でのフィールドトリップについて解説する。

それぞれのフィールドトリップに毎回時間をかけて適切に準備することで、事件・事故のリスクは大幅に軽減される。これまで ICRC が巻き込まれたセキュリティインシデントを分析すると、計画と準備が徹底していれば、その多くは回避できたか、あるいはそれほど深刻な結果を招かなかつた可能性があることが示されている。

過去に重大な結果をもたらした過ちには次のようなものがある：

- ・計画段階においてチームメンバーをきちんと巻き込みず、情報を完全に共有できなかった。
- ・全員の意見や懸念を考慮に入れていないかった
- ・安全面での保証が、急いで得たものか、または十分に信頼できないものであった
- ・車両に、必要な装備が欠落していた
- ・通信機器が状況に不適切であるか、機能していなかった



9.1.1 簡略化しない！

綿密な準備を行うことで、(特に) 次のことが実行できるようになる。

- ・リソース（人的、物流など）を最適化する
- ・最新の出来事と情報に照らして脅威を分析し、それに応じて計画を変更する
- ・予期せぬことを予測する
- ・重要人物・団体に自分の存在を知らせて、安全の保証やその他の許可を得る
- ・同僚や赤十字・赤新月社のボランティアなど、多くの人の知識を活用する

- ・自分の目的を同僚、および関連する他の人道団体の目的と調整する
- ・幹部に意図を説明し、問題が発生した場合の意思決定プロセスを迅速化する

経路の詳細プランと目標の策定、すべての関係機関との調整、車両と装備の準備、チームメンバー全員への説明と報告、これらすべてのステップが不可欠である。細かい点にも気を配ること。救急セットが不完全であったり、タイヤを交換するための工具がなかったりすると、致命的な結果になる可能性がある。

フィールドトリップを適切に計画し、準備することは、何よりもまず自己の規律の問題であり、また関係者全員との緊密な調整が必要である。計画と準備のプロセスを監督するのはチームリーダーの責任だが、チーム全員に果たすべき役割があり、パズルのピースが 1 つでも欠けていると、チーム全体が問題に陥る可能性がある。フィールドトリップとは、ドライバーからチームの動きを監視する責任者に至るまで、各個人の関与を必要とする集団的な活動である。

添付資料 12.5 に、フィールドトリップを計画する際に覚えておくべき主なポイントをリストアップしてある。

チームリーダーの役割

あなたはいつかチームのリーダーになるかもしれない。チームリーダーの役割には何が含まれるであろう？メンバーのタスクを相互に調整し、チームを監督し、直面する状況に応じて指示を出し、問題が発生した場合には必要な決定を下さなければならない。また、チームの安全管理にも責任を持つ。安全管理が全員の仕事であることは事実だが、リーダーには特別な責任がある。

チームリーダーは特に次のことを行う必要がある：

- ・組織内部と関係当局の両方から、意図した活動とルートに対するゴーサインを得る。
- ・チームへの説明（ブリーフィング）と報告（デブリーフィング）：
 - a) 関係する地域の安全に関する迅速かつ効果的な情報交換を行う。
 - b) 主な脅威について説明する。
 - c) チームに取るべき最も重要な措置を再認識させる。
 - d) 意図した行動に異議を唱える者がいないことを確認し、反対する者がいる場合には適切に対処する。
- ・コミュニケーションと行動に関するルールと、問題やインシデントが発生した場合に従う手順をチームに再認識させる。
- ・活動が計画通りに進むようにチームメンバーをサポートする。
- ・委任されたタスクの実施を監督および監視する。

9.1.2 現実的な目標を立てる

人道主義者は自分自身にプレッシャーをかけ、長期的な成果ではなく、短期的な成果を達成しようとして、野心的すぎる目標を設定することがよくある。また、計画外の出来事に遭遇したり、パンクなどの予期せぬ出来事に備えて十分な時間を確保できておらず、その結果、時間が足りなくなり、警戒心が低くなり、不必要なりリスクを負うことになる。また、事前に調整して動きを最適化できなかったために、複数のチームが同じ場所に集合することも珍しくない。

計画を立てる際には：

- ・過度に欲張ったスケジュールを作成して自分にプレッシャーをかけない
- ・日没の少なくとも 1 時間前には目的地に到着するようによること
- ・途中で出会った人々と話す時間も考慮して計画を立てる
- ・予期せぬ事態に備えた時間も確保する

9.1.3 ブリーフィング(事前説明)とデブリーフィング(事後報告)

毎回のフィールドトリップの前後に、チームリーダーは参加者全員を集めて、参加者が持っている情報を共有できる場を作らねばならない。これらのブリーフィングとデブリーフィングは、フィールドトリップを成功させるために不可欠である。これらは、新しいスタッフや ICRC の外部からの参加者を含む全員が、安全に関する事項を含むフィールドトリップの最も重要な側面について十分に情報を得ることができる場にしなければならない。また、全員に意見を表明する機会を提供し、状況の、より完全な概要を把握するのに役立つ。

目的を達成するには、これらのセッションは建設的で包括的な雰囲気の中で行われなければならない。誰もが自分の意見を述べたり、異議を唱えたり、チームリーダーの計画に疑問を投げかけたり、疑問を表明したりする権限があると感じていないと、ブリーフィングやデブリーフィングは無意味になる。ドライバーなどフィールドトリップの成功に貢献が不可欠なチームメンバーを除外しないことも重要である。また、あなたが使用している言語を十分に理解していない人々を排除しないように注意し、セッションに参加できるようにする方法を見つけねばならない。

ブリーフィングやデブリーフィングは、自分の意見を気軽に述べ、同僚の意見に耳を傾けてこそ効果を発揮する。

ブリーフィング（事前説明）

ブリーフィングは、すべてのフィールドトリップの参加者に安全に関連するものを含む地域の最新動向を周知し、フィールドトリップの目的を説明する場である。ブリーフィングは、各チームメンバーの役割と責任を明確にし、フィールドトリップの目的を達成するために費やされる時間を特定し、すべての準備が完了し、必要な許可がすべて取得されていることを確認する時間でもある。このブリーフィングは、ルートや活動内容、安全確保などについて異論がないかを確認する最後の機会でもある。

十分に準備されたブリーフィングセッションの所要時間は通常 15 分以内で、全員が適切な準備をするのに十分な時間を確保できるよう、出発の前日に行うのが理想的である。

ブリーフィング	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> - 役割や責任のレベルを問わず、フィールドトリップに参加する全員 - パートナーや訪問者など、外部からフィールドトリップに参加する人々 - 職場に留まりチームの動きをモニタリングする責任者
開催時期	<ul style="list-style-type: none"> - 出発前日
共有すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> - フィールドトリップの目的 - リスク評価と取るべき特別な措置 - 運転安全規則（シートベルト、速度制限、車両間隔など）および活動に関する状況に応じた規則（服装など） - 経路、所要時間、距離 - 出発時刻、休憩時刻、途中宿泊時刻 - 車列を組んだ際のリーダー氏名（該当する場合） - 途中で遭遇した人に対応するチーム代表者の氏名（チームリーダー以外の場合） - チームの動きを ICRC に伝える責任者と、その頻度 - 各チームメンバーの役割と責任 - 緊急時の連絡先の氏名 - チームの宿泊場所
チェックリスト	<ul style="list-style-type: none"> - ドライバーは、他のすべてのチームメンバーと一緒に、計画されたルートを知っており、同意している。 - 安全の保証とともに、必要なすべての認可が内部および当局から取得されている。 - 各車両に状況に適した装備があり、故障や事故などの予期せぬ事態に乗員が対処できるようになっている。 - 全員が利用可能な通信機器の使い方を知っています、そのための充電機器もある。 - 全員が緊急時に連絡すべき電話番号を知っています。 - 事故が発生した場合に取るべき手順とその地域の医療機関の場所を全員が知っている。
ブリーフィング終了前にすること	<ul style="list-style-type: none"> - 意見交換、質疑応答 - 要点のおさらい

デブリーフィング（事後報告）

デブリーフィングは全員の経験を共有し、結果をまとめる時間である。チームの各メンバーは独自の個人的な印象を持ち、さまざまな情報源から情報を入手しているため、情報の宝庫である。デブリーフィングでは、活動へのアプローチを変更する必要があるかどうか、特にセキュリティに関して特定の措置を講じる必要があるかどうかとも示される。したがって、これは発生した問題を報告し、将来に向けた提案を収集し、達成された目標を再確認する時間でもある。デブリーフィングでは、上司に渡す必要がある情報と、取るべき行動に主眼を置く。これによって、フィールドトリップの報告書やセキュリティインシデントに関する報告などの内部報告書の作成が容易になる。

チームが疲れていて、すぐにフォローアップする必要がない場合、デブリーフィングは翌日まで待ってもよい。デブリーフィングにどのくらいの時間がかかるかは状況によって異なり、特に報告することがなければ短くても構わない。

デブリーフィング	
参加者	<ul style="list-style-type: none">- 役割や責任のレベルを問わず、フィールドトリップに参加した全員- チームの動きをモニタリングする責任者
開催時期	<ul style="list-style-type: none">- 遅くともチームがフィールドトリップから戻った翌日
共有すべき情報	<ul style="list-style-type: none">- 達成された目標の概要- 遭遇した障害- 当該地域で起こった主な出来事- 当該地域への今後のフィールドトリップに関する対策案- 特別なフォローアップが必要かどうかの確認
デブリーフィング終了前にすること	<ul style="list-style-type: none">- 意見交換と質問の受付- 参加者の貢献への感謝- フォローアップが必要な点のまとめ- フィールドトリップの報告書への記載事項のまとめ

9.1.4 フィールドトリップの準備: 自身への 10 の問いかけ

1. 予想される所要時間からみて、自分の目標設定は現実的か？
2. 目標の達成を妨げる可能性のある予期せぬ出来事や要因を考慮に入れたか？
3. 滞在しようとしている地域の治安状況について、自分が十分な情報を持っていると思うか？
4. 同僚の知識を十分に活用したか？同僚にサポートを求めたか？
5. フィールドトリップを他の部門と調整したか？
6. 内部および外部の両方ですべての承認が取得されているか？
7. フィールドトリップの参加者全員がブリーフィングに参加したか？
8. 自分が抱く疑問や懸念について発言し、周りに聞いてもらったか？
9. 車両には必要なものがすべて装備されているか？
10. 出発する準備ができているという自信があるか？

9.2 移動と活動内容の共有



あなたの安全に重大な影響を与える可能性のあるすべての組織、特に軍隊や武装集団に、その地域でのあなたの動きや活動についてのすべてを伝えなければならぬ

い。知らないうちに軍事作戦の真っ只中にいたり、あなたが誰であるか、自分たちの地域で何をしているのかを知らない戦闘員からの攻撃にさらされることのないように、事前に安全の保証を得るために必要なことである。このプロセスを踏むことによって、誰があなたの存在を受け入れ、誰がそれを許容し、誰が拒否するのかがより明確になり、安全管理を調整することができる。

フィールドトリップに出発したり、支援を届けたり、新たな活動を開始したりする前に、原則としてすべての関係者から承認を得ておく必要がある。状況によつ

不安定な地域では、事前通知がフィールドトリップの準備に不可欠な要素である。各組織との合意にしたがって、口頭または書面で体系的かつ繰り返し行う必要がある。

は、これにはかなりの努力が必要となる。武装した組織や勢力に通知する際には、すでに信頼関係を築いている必要があるが、それが常に可能であるとは限らない。さらに、相手が統制のとれた指揮系統を持っているわけでもない。したがって、これは終わることのない長期的な取り組みである。実際に取得した安全の保証は、たとえそれが安全の保証と呼ばれるものであっても、実際の保証につながるとは限らない。それは単なるセキュ

リティクリアランスであり、ある程度の危険は常に残る。許可はあくまで形式上の許可である。現場の戦闘員が既に承知しているかどうかを確認するのはあなたの責任である。最終的にあなたを通過させるかどうかを決めるのはそこにいる戦闘員である。

9.2.1 手に入れた保証を確認する

特に統制が取れておらず、中央集権型ではないグループを相手にしている場合、上級指揮官からの指令は現場では何の役にも立たなかつたりする。長い交渉の末に合意が得られたとしても、実際には成立していない可能性があるということである。武装した組織・勢力は、指揮官からの命令が現場の戦闘員に効果的に伝達されることを保証するために必要な手順や通信手段を持っていない可能性もあれば、指揮官には戦闘員に知らせる時間がなかったかもしれない。

したがって、たとえこの地域を支配する武装した組織・勢力があなたの車列の通過を承認し、停

主張しすぎているように見えることを心配する必要はない。信頼できる安全の保証を得るために時間を「浪費」することは、後の時間を節約し、安全性を高めることになる。

戦が合意されたとしても、あなたが来ることを特定の部隊に誰も知らせていない可能性は十分にある。現場の戦闘員はあなたが誰であるかを知らないため、あなたの車列を脅すかもしれない。このような事態を避けるにはどうすればよいか？これに簡単な答えはない。まず、フィールドトリップを慎重に計画し、すべての関係者に連絡し、十分な余裕を持って必要な許可と安全の保証をすべて取得するように努める必要がある。許可を取得したら、現場にいるすべての部隊に正しく通知されていることを確認する。それから、もう一度確認を繰り返す。これは面倒なプロセスであるが、現場で武装した人々と対峙することを考えると、不可欠なことである。通知を急いで行うのは危険である。またSMSやWhatsAppで送信し、自動返信の受信通知を許可とみなすことも危険である。

9.2.2 安全の保証をどのように獲得するか

- ・活動地域での安全の保証を取得するための標準的な手順を尋ねる。
- ・自分の移動や輸送する物品について、知らせる必要があるすべての組織/人を特定する。
- ・各組織に通知する最も適切かつ効果的な方法を決める。特に、指揮系統のどのレベルに連絡する必要があるかを判断しなければならない。
- ・フィールドトリップの目的とその方法（車両、他の組織との提携、目的地、輸送する物品の種類など）を明確に説明する。
- ・連絡した相手が現場の戦闘員に適切に情報を伝えるのに必要な時間を考慮すること。
- ・状況は急速に変化する可能性があるため、フィールドトリップの出発日に、取得した安全の保証が有効であることを確認する。
- ・相手の指揮官があなたに安全を保証したという事実は、必ずしも現場の戦闘員があなたの動きについて適切に知らされていることを意味するわけではない。現場に入ったら、指揮官から取得した許可証を現場の職員に確認させ、アクセスについて再交渉しなければならない場合もある。
- ・戦闘員があなたがフィールドトリップを続けることを妨げようとする場合は、ただ押し問答をするのではなく、その理由が何であるかを尋ねる。もしかすると、あなたが許可を得た時点で指揮官が知らなかった差し迫った脅威について知っており、あなたの利益を最優先に考えて断っているのかもしれない。

武装した組織・勢力から得た安全の保証が実際に現場の戦闘員に伝わっているかを常に確認すること。

9.2.3 警告か、それとも妨害か

危険だからという理由で特定のエリアに入らないようにアドバイスする人もいるかもしれない。これに対してあなたは、単にあなたの活動の遂行を妨げることを目的とした戦術であるという印象を持つかもしれない。実際、誰かの「アドバイス」があなたを守りたいという純粋な願望から来ているのか、それとも何らかの下心から来ているのかを判断するのは難しい場合がある。その人物は、差し迫った、あるいは進行中の軍事作戦について知っており、あなたがいるとその作戦に支障をきたす、あるいはその作戦があなたを危険にさらす可能性があると考えているのかもしれない。あなたを自分たちのエリアから遠ざけたり、敵とみなしているコミュニティを助けることを妨げようとしているのかもしれない。どのような印象を持ったとしても、この種の警告を無視してはならない。もしその人物があなたを守るためではなく、自分の側の理由であなたをそのエリアから遠ざけようとしているのであれば、あなたが警告を無視するともっと直接的な方法であなたを攻撃する可能性がある。

誰かがあなたに特定のルートの利用を思いとどまらせようとした場合は、その問題について上司と話し合い、警告を分析し、他の情報と照合して、続行することが賢明であるかどうかと一緒に判断する。

9.2.4 武装した組織・勢力への通知：自身への5つの問いかけ

1. 通知するために使用する手段は各組織にとって適切な方法か？
2. 当該地域にいる武装した組織・勢力は、信頼できる安全の保証を自分に与えたか？それとも単に管理下にあるエリアを通過することを記録しただけか？
3. 相手は、自分が通ろうとしているルートが特に危険であることをほのめかしたか？
4. 相手は、戦闘員たちに自分が来ることを伝える手段を持っていたか、そしてその時間はあったか？
5. 与えられた保証がまだ有効であることをもう一度確認する必要があるか？

9.3 通信

拠点や同僚と常に通信できることは、セキュリティにとって不可欠である。通信システムがあると、状況の変化に関する情報を交換したり、自分の居場所を他の人に知らせたり、必要に応じて助けを求めることができる。ICRCは、状況に応じてVHFおよびHF無線、固定電話、携帯電話、衛星電話、インターネットなどのさまざまなシステムを利用できるようにしている。これらのシステムは異なるテクノロジーに基づいているため、相互に補完性があり、困難な状況でも常に通信できるようになっている。脅威が特に高い場合は、いつでも拠点に連絡を取ることができるよう、誰かが常駐して無線のモニタリングを行う。

9.3.1 主な通信システム



スマートフォン

携帯電話を持つ人の数は急速に増加している。使いやすく、複数の機能（GPS、カメラ、インターネット、アプリなど）を備えているため、便利なツールである。ただし携帯電話は、特に遠隔地や不安定な地域で、また自然災害に見舞われた場合に完全に信頼できるわけではないため、電波が届かず、通信できない場合があるなど、いくつかの安全上のリスクももたらす。自然災害や紛争が発生すると、ネット

ワークが損傷したり、破壊されたりする可能性もある。人道危機の際には、過剰な通信量によってネットワークが飽和状態となり、

スマートフォンは見た目ほど無害ではない。スマートフォンを取り出す前に、相手にその旨を伝え、使用することに異論がないことを確認すること。

使用できなくなる場合や、当局が意図的にアクセスをブロックすることがある。スマートフォンのカメラ、録音機能、および GPS 機能は、使用していなくても疑惑を引き起こす可能性があり、特定の機能やアプリもサイバー攻撃によるリスクをはらんでいる。

無線

不安定な地域では、現場での行動を監視したり、他の ICRC の車両の位置を把握したり、道路状況や車両の故障などのセキュリティ関連の情報を伝達したりするために、無線は不可欠な通信手段である。無線は、携帯電話のネットワークがダウンした場合のバックアップとしても機能する。

ICRC は 2 種類の無線を使用している：

- **HF (短波無線)**：中距離および長距離通信、特に車両と拠点（すなわち移動のモニタリングを担当する ICRC のオフィス）との間で行われる。HF 通信の質は多くの要因によって決まるが、そのほとんどはこちらがコントロールできない要因である。たとえば時間帯もそうで、日中は特定の周波数で通信が向上し、夜間は別の周波数の方がよく聞こえたりする。これに対する解決策は、時間が違えば異なる周波数を使用するということしかない。また、HF無線を使用して通信する前に、アンテナ調整ユニットが取り付けられている場合は、機器をアンテナに合わせてチューニングしなければならない。これによってつながる可能性が高まり、無線機の送信機部分が損傷から保護される。通信が確立するまでに数回かける必要が生じる場合があるので、一度でつながらなくとも諦めないこと。
- **VHF (超短波無線)**：通常、近距離にいる同僚と通信するために使用される。2 台の携帯無線機間の最大到達距離は約 2 km、携帯無線機と基地局の間は約 5 km である。高い位置にあるほど（より正確には、アンテナの位置が高いほど）、通信範囲は広くなる。木や建物などの障害物があると VHF 信号がブロックされる可能性があり、何も聞こえないか、信号が「途切れている」か歪んでいるように聞こえる。これを解決するには、数メートル移動するか、より高い場所を見つけるか、開けた場所に移動する。

どの様に無線を使うか？

すべての無線には、車載無線のマイクまたは携帯無線の側面にある通話ボタンがあり、これを押して話したり、放したりして聞くことができる。つまり自分が話している間は相手の声が聞こえず、その逆もしかりである。

- ・無線が正しいチャンネルに合っており、正しいモードに設定されていることを確認する。
- ・送信する前に 5 秒間音声を聞いて、チャンネルがクリアであることを確認する。
- ・通話ボタンを押してから話す。
- ・マイクを口から約 5 cm 離して持つ。
- ・早すぎず、はっきりと話すこと。
- ・メッセージを送信したら、通話ボタンを放す。

活動に必要な情報のみを送信する。不必要にチャットすると、同僚が緊急メッセージを送信できなくなる可能性があり、かつ誰でもあなたの話を聞くことができることに注意。

衛星電話

衛星電話の主な利点は、世界中のどこからでも他の電話と通信できることである。現地の当局が使用を禁止していない限り、衛星電話は世界中のどのエリアでも優れたバックアップシステムとなる。ただし近年は衛星電話の人気が高まっているため、衛星が飽和状態になって通話できなくなる可能性がある。衛星電話はこれさえあればよいという万能選手ではなく、通信手段のひとつとして考えておいた方がよい。適切なネットワークがある場合は、別の衛星通信システムや HF または VHF 無線、または携帯電話など、少なくとも別の選択肢を常に用意しておく必要がある。

衛星電話を使用して通信できるのは、衛星との間に障害物がなく、見通せる場合のみである。したがって、木から離れ、頭上に自分と衛星の間の信号の通過を妨げるもの（屋根など）がないことを確認する。山や丘も信号を妨げる障害物となり得る。

9.3.2 あなたがいる場所を常に誰かが把握していること

あなたが拠点や同僚に連絡できること、逆にあなたにいつでも連絡できることは、安全管理において不可欠である。必要に応じて、無線室が継続的な電波のモニタリングを行う。無線室は、緊急事態に関する情報とともに、フィールドトリップ中の職員とのすべての通信が行われる場所である。最も不安定な状況では、無線通信係は 24 時間態勢となる。無線室を担当する職員の仕事は、意思決定をすることではなく、情報を収集し、必要な行動を取れるように適切な人物に正確に伝えることである。無線係は、あなたがどこにいるかを把握し、いつでも連絡が取れる状態でいる必要がある。このため、出発前に無線通信係に予定する経路、使用する車両の台数、乗員の氏名を通知する。

フィールドトリップの
出発前に、無線通信係と
すべての手順に同意する
こと。

9.3.3 通信における基本的なポイント

通信機器やシステムそのものは、あなたの安全を守ることはできない。それらを役立たせるためには、適切に使用しなければならない。

トレーニングを依頼する

- ・利用可能な特定の通信機器に関するトレーニングを受けていない場合は、そのようなトレーニングを受けられるように要請する。
- ・それぞれの通信手段の詳細、特に長所と短所、および使用時の注意事項を調べる。安全に通信し、機密情報を保護できるように、それぞれの特性を知っておく必要がある。
- ・現場に行く前に、どのような通信機器を持っていく必要があるか、その使い方と機能を確認しておく。
- ・リスクの高い状況では、1 つの機器が故障したり、携帯電話が使用できなくなったりした場合（電波が届かない、またはネットワークが停止している）に備え、常に 2 種類の通信手段をバックアップとして用意しておくこと。
- ・従量課金制の携帯電話を使用する場合は、十分なクレジットがあることを確認しておくこと。

常に最低 2 種類の、
異なる種類の通信手段を
用意し、出発前にテスト
する。

- ・機器によってはバッテリーの容量が小さいものもあり、必ず充電器と一緒に持っていく。
- ・緊急時に連絡できる相手の電話番号のリストを常に携帯する。

明確かつ簡潔に話す

- ・どのような機器を使用する場合でも、話す前によく考える。言いたいことの要点を事前にメモしておくと、短く簡潔に話すことができる。
- ・相手が自分のメッセージを理解したかどうかを確認する。疑わしい場合は復唱してもらう。
- ・必要に応じて、フォネティックコード(通話表)を使う（添付資料 12.7 を参照）。

慎重に行動する

- ・第三者が聞いていることを常に想定しておくこと。聞かれたくないことは言わない。
- ・検問所や、非常に微妙な場所とみなされるところにいるときは、無線や電話の使用を避ける。

通信機器を大切に扱う

- ・あなたの通信機器は他人にとって非常に魅力的なものであったりする。見えない安全な場所に保管すること。
- ・なにか故障や障害があれば、オフィスに戻ったらすぐに責任者に報告する。
- ・もしも機器を紛失したら報告すること。

無線または電話で効果的にコミュニケーションをとるための 7 つのルール

準備 - 話す前に考えて、メッセージを作成する。

規律 - 送信する前に聞き取る。

簡潔さ - 短めに話す。

リズム - 一文一文を短く完結させ、自然なリズムで話す。

速度 - 速すぎず、遅すぎず。

音量 - 大声を出す必要はない。

慎重さ - どうしても必要な場合を除き、機密情報を送信しない。

9.3.4 連絡を絶やさない：自身への4つの問い合わせ

1. Who : ICRC 内の誰に連絡すればよいか？
2. When : いつ、どのくらいの頻度で連絡をとるべきか？
3. Why : どのような状況で連絡をとるべきか？
4. How : どのような手段を使用すればよいか？

9.4 自分自身の識別



ICRC のロゴはあなたを識別し、他の組織の職員と区別する。これは、紛争当事者が誤ってあなたを攻撃するのを防ぐ手段でもあるが、ICRC のロゴだけではあなたを識別するのに十分ではない。我々の車両が常に道路を走っているにもかかわらず、話をする人の多くが ICRC と我々の活動を知らないことにすぐに気づくであろう。多くの人はあなたが医者だと思うであろう。

作業している地域に適した身分証明書は何かを調べる。

したがって、自分自身を明らかにするだけでなく、あらゆる機会を捉え、簡単で具体的な例を使って自分が何をしているのかを説明する。そうすることで、徐々にその地域で受け入れられるようになる。

- ・自分自身を識別してもらえるようにする！あなたの活動地域で個人を特定できることが問題にならない限り、勤務中は公式の ICRC のバッジまたは T シャツを着用して、あなたが何に属しているのかを人々に知ってもらう。
- ・自分自身を守る！最前線の近くにいる場合、または目立つ方が安全だと判断した場合は、遠くからでも自分を識別できるゼッケンを着用し、車両に ICRC の旗を掲げ、使用しているすべての建物にロゴの大きなバージョンを表示する。
- ・ICRC のロゴがあなたを危険にさらす可能性があると感じるか？さまざまな理由から、ICRC ロゴが歓迎されないエリアが確かにある。この問題がある場合は上司と話し合うこと。他の識別手段を見つけるか、まったく識別されないことが必要な場合もある。
- ・その他の識別手段。無線信号、サーモペイント、GPS 座標の送信、または特定の活動に関するメディア発表はすべて、あなたが誰であるかを人々に確実に知らせるのに役立つ。繰り返しになるが、特定された脅威に照らして、使用する識別手段について上司と話し合うこと。もちろん、ある識別手段が別の識別手段を排除するものではない。紛争地域では通常、建物の GPS 座標を紛争当事者に通知し、屋上にロゴやエンブレムを描いて活動などをアナウンスする。

9.5 パートナーとの活動

ICRC と各パートナー組織の間の合意の内容と種類によって、セキュリティの枠組みが決まり、したがってパートナーのセキュリティに対する ICRC の責任の範囲も決まる。そのパートナーが ICRC の直接の責任の下で活動している場合は、ICRC の手順と安全管理規則に従わなければならない。

パートナーと共同で活動することを考えている場合は、その期間が限定されたものであるとか、パートナーがその地域と脅威について知っている、または問題事案が発生した際に何をすべきかを知っているなどと想定してはならない。それは誤りであり、あなたのセキュリティと彼らのセキュリティは一体であることを考えると、致命的になる可能性もある。

パートナーと一緒に現場活動を始めようとしている場合：

- ・セキュリティに関する各当事者の役割と責任を正確かつ事前に定義する。
- ・彼らと我々の間の補完性を利点に変え、彼らと知識を共有する。
- ・特定された脅威に照らして、講じるべき予防策と行動方法について話し合う。

- ・出会う人々に、あなたのパートナーが誰なのか、そしてなぜ一緒に仕事をするのかを説明する方法を熟知しておくこと。また、ICRC の性質と活動を短い言葉で説明できることも確認しておくこと。
- ・できるだけ早い段階でパートナーを活動の計画と準備に参加させ、すべてのフィールドトリップの前のブリーフィングに招待する。
- ・パートナーが危険を冒さないように、可能な限りの予防措置を講じる。
- ・そのパートナーシップが敵対的な反応を引き起こす場合は、上司に相談する。

共同活動に参加するパートナーは、どのような契約を結んでいるかに關係なく、少なくともフィールドトリップのブリーフィングに参加する必要がある。

政府代表や企業の従業員、寄付者など、ICRC 以外からフィールドトリップに同行する人を、そのためのブリーフィングに参加してもらうことを推奨する。

9.5.1 パートナーとの活動：自身への 8 つの問い合わせ

1. ICRC と共同で活動しているパートナーが署名した協定を知ることは役に立つか？
2. 活動を計画するプロセスにパートナーを十分に関与させたか？
3. 活動を計画する際に彼らの知識を活用したか？
4. 合同でのフィールドトリップのブリーフィングに彼らを参加してもらうようにしているか？
5. 計画された活動の目的とセキュリティの側面について適切に伝えたか？
6. どのような予防策を講じ、どのように行動すべきかを彼らと話し合ったか？
7. パートナーは ICRC について簡潔に紹介し、この分野での私たちの取り組みを説明することができるか？
8. パートナーの存在は、その義務や彼らのスタッフのプロフィールのために、さらなるリスクを引き起こす可能性があるか？

9.6 道路上で



交通事故は、世界中で主な死因の一つであり、人道支援活動に従事する者の死亡および負傷の主な原因の一つでもある。我々が活動する場所では、道路の状態が悪く、交通が混乱しているが、これらがすべての死傷者を作り出す原因ではない。交通事故の多くは、傲慢さや過信、あるいは処罰されないという思い込みから生まれた誤った運転や、基本的な運転規則に従わなかった結果である。このような態度は住民を危険にさらし、ICRC の車両は一目瞭然であるため、組織の評判を毀損する。むせ返るような砂煙を上げながら、高速で轟音を立てて道路を走る真新しいランドクルーザーは、嫌でも住民の注意をひく。

安全運転を心がけないと、自分自身だけでなく他人も危険にさらすことになる。

速度と危険性

速度が上がると、たとえそれがわずかであっても、事故の危険性と、発生し得る事故の深刻さの両方が大幅に増加する。特に道路の状態が悪い場所では、状況に応じて速度を調整することが重要である。

9.6.1 プロの運転手の技術を使う

ICRC の経験豊富なドライバーは、通常活動地域のことをよく知っており、多くは現地語をしゃべることができる。道で出会った人は、まず最初に話しかけてくることが多く、ドライバーは運転に加えて、車両を組んで移動するときなどいろいろな責任や任務を負う場合がある。残念なことに、その知識は十分に活かされておらず、ドライバーの意見はチーム内であまり重要視されないことが多い。ICRC が経験したいくつかの重大な事案の場合、もし治安状況や選択したルートに関するドライバーの懸念が真剣に受け止められていれば、そして、所持していた情報が状況を分析する際に含まれていれば、おそらく最悪の事態は避けられたであろう。

ドライバーは情報の宝庫であり、ドライバーの知識はあなたの安全にとって計り知れない価値がある。

自分で運転するのは本当に良いことか？

自分で運転する場合、特にその地域の出身でない場合は、さらにリスクが高くなる。したがって ICRC は可能な限り、ICRC の要件に沿った訓練を受けたプロの運転手を雇用する。活動地によっては、海外職員の運転は許可されない。非番でも ICRC 車両の運転が許可されない場合があるため、ICRC が昼夜を問わず対応できる運転手を提供する。

9.6.2 単純だが重要な予防措置

人道支援だからといって道路交通法を無視する権利はない。

プロのドライバーではないが、特定の車両を運転する権限をあなたが持っている場合でも、絶対に必要な場合を除いて、自分では運転しない方がよい。もし運転する必要がある場合は、慎重かつ責任をもって運転し、安全規則に従わなければならない。ICRC のセキュリティ規制が現地の法律よりも厳しい場合は、セキュリティ規制が優先される。現地の交通法に違反した場合、免責は受けられないことに留意する。

世界中どこでも適用される 8 つのルール

1. ICRC の車両の運転を許可するには、安全運転のための E ラーニング (Fleet Safety E-learning) をオンライン受講し、ICRC の実地運転試験に合格する必要がある。新たなミッションに就く都度、同じ手順を踏む。
2. アルコールや運転能力に影響を与える可能性のある薬を摂取した後は、運転してはならない。それとは別に、薬物の摂取は行動規範 (II.B.3) に基づいて常に禁止されている。
3. シートベルトの着用は必須である。
4. 最高速度の制限は、トラックやトヨタのランドクルーザーのような四輪駆動車を含む大型車両の場合は 80km/h、軽車両の場合は 100km/h である。ICRC が制限速度 80km/h を全世界で導入したことにより、ICRC の職員が巻き込まれる交通事故の数は大幅に減少した。
5. 武器を携行してはならない。
6. 特別な許可なく、業務に関係のない物品 (ICRC 外部からの手紙や荷物を含む) を持ち運んではならない。
7. 海外職員がオートバイを運転することは許可されていない。
8. オートバイの運転を許可されている人はヘルメットの着用が義務付けられている。

上記の規則に従うことに加え、出発前に車両の装備についてよく理解しておく必要がある。便利なだけでなく、用具がある場所とタイヤの交換方法を知っていれば、いつかあなたの命を救うかもしれない。以下に挙げる予防策を講じることで、事故なく目的地に到着できる可能性が高まる。

慎重に運転する

- ・車両の種類と状況 (背景、道路状況、視界、交通状況など) に応じて速度を調整する。
- ・前方車両との十分な距離を維持する。最大の危険は前方にある。
- ・冷静かつ礼儀正しく運転し、他の道路利用者を尊重する。
- ・危険を予測する。

警戒を怠らない

- ・2時間ごとに15分間の休憩をとるように計画する。
- ・不必要にドライバーの注意をそらすこと（会話、無線など）を避け、ドライバーを運転に集中させること。
- ・運転中に携帯電話を使用しない。

決められた手順に従う

- ・ICRCと識別される車両に関する規則に従う。
- ・合意されたスケジュールにしたがって、あなたの動きをモニタリングする責任者と連絡を取り合う。
- ・車の車体に磁気ステッカーを貼っている場合、またはICRCの旗を掲げている場合は、時速60kmを超えて運転しない。

盗難、武力攻撃、待ち伏せのリスクの軽減

- ・貴重品の持ち運びを避け、誰もが欲しがりそうな物品を目に入れるところに置いておかない。
- ・どうしても必要な場合を除き、夜間に都市部郊外を運転しない。
- ・密集した市街地では、強盗などの侵入を防ぐために車両のすべてのドアと窓を施錠すること。
- ・武器所持者のいる車両から十分な距離を保つ。
- ・倒れている人を助けようとする前に、まず考える。それが罠である可能性もある。
- ・ルートが危険すぎると思われる場合は、やみくもに進むのではなく、引き返すこと。

安全な場所に駐車

- ・最も安全であると思われる場所に車両を駐車する。同時に、選択した場所がICRCのイメージを損なわないことも確認する。
- ・常にすぐに外出できるように車を駐車する。
- ・他の車両の出口をふさがないこと、また他の車両が出口をふさいでいないことを確認する。
- ・有料駐車場を利用した場合は、お金を払わずに駐車場から出ない。

運転中に携帯電話を使用すると、事故のリスクが3倍になる。メッセージを入力すると、そのリスクが23倍になる。

- ・車に戻ったときに、誰かが車が損傷していると言つたらまず疑うこと。あなたをだますために事故を偽装した可能性もある。

9.6.3 自分で運転する前に:自身への3つの問いかけ

1. 自分が運転に適した状態にあるか?
2. 自分が現地の運転状況に精通しており、それに対処できるという確信が持てるか?
3. プロのドライバーにお願いしたほうが良いか?

9.7 車列を組む

「車列（コンボイ）を組む」というと、ランドクルーザーやトラックが長蛇の列をなして大規模な救援活動を行うイメージが一般的だが、車両2台でも立派な車列である。危険の高い場所や困難な地形では、多くの場合2台の車両で移動するのが良い。そうすることで、1台の車両が故障したり損傷したりしても、もう1台の車両が救出または牽引することができる。また、単独で走っている車両というのは何か企んでいる者たちにとって非常に魅力的なターゲットである。常に車列を組んで移動する必要があるというわけではないが、脅威とフィールドトリップの目的によって車列を組むかどうかを決める。

その規模や性質が何であれ、他の車両との走行には、絶え間ない規律、同乗者全員による合意されたルールの慎重な適用、ロジスティクスにまつわる全ての関係者の全面的な関与が求められる。

コンボイリーダーの役割

原則として、車列を組んだ際の主な責任はコンボイリーダーにあり、チームリーダーが兼ねることもある。その仕事は出発のずっと以前から始まり、到着した後も続く。特にコンボイリーダーは、その地域の治安状況について最新の情報を把握している必要がある。そして、すべての車両が全規則に従うよう徹底させる責任がある。通常、道すがら遭遇する組織の全てとコミュニケーションをとる役割も担う。コンボイリーダーは先頭車両に乗り、少なくともメンバーの1人が、リーダー補佐として最後尾の車両に乗る。

以下の推奨事項は、主にチームリーダー、コンボイリーダー、ドライバーを対象としたものである。これらは通常の予防措置や規則に追加されるものであり、車両の台数と種類、関係するパートナー、輸送する物品、および移動ルートに応じて調整する必要がある⁴¹。たとえば、車両間の距離は、道路状況によって異なる。舗装されていない道路をトラックで走るときは、車両が巻き上げる粉塵のため、通常よりも車間距離を広くとる必要がある。

車列輸送の成功には、ドライバーを含む同乗者全員に対するブリーフィングが不可欠である。その後のデブリーフィングは、今後の活動の安全性を高めるのに役立つ。

出発前に

- ・全員に、目的地、運んでいる品物の種類、従わなければならないルールを周知する。
- ・車列移動と、輸送する物品の両方に必要なすべての許可と安全の保証を得ていることを確認する。
- ・すべての車両が良好に走行できる状態にあり、正しく装備されていることを確認する。
- ・各車両の隊列内の位置を決める。
- ・適用される規則にしたがって、レンタカーを含む各車両にロゴなどを貼って識別できるように準備する。
- ・代替ルートと使用してはいけないルートを全員が再確認する。また、故障や事故が発生した場合の対処方法についても改めて説明する。全員が最高速度制限を把握していることを確認する。
- ・休憩のために立ち寄る場所を事前に決めておく。
- ・台数が多く長い車列の場合、危険地域や遠隔地を通過するときは、故障や事故に 対処するために必要な装備や資材を備えた車両整備士がチームに含まれていることを確認する。

移動中

- ・最も遅い車両を隊列の一番前に配置し、最も速い車両を後ろに配置する。最も遅い車両が車列の速度を決定する。
- ・前方の車両と後方の車両が常に見えるようにする。

⁴¹ 特定の地域においては、ICRC が他の団体とコンボイを組むこともある。

- ・車列内で追い越しをしない。
- ・他の車両が車列に進入できないように、状況が許す限り接近して走行する。
- ・先頭車両と最後尾の車両が事前に取り決められたシステムに従って相互に通信し、状況や問題について連絡し合えるようにする。
- ・情報を効率的に伝達するために、可能であれば使用言語は1種類にする
- ・全体が揃って検問所を通過する。

9.8 自分の車両で誰を運べるか

ICRC の車両は原則として ICRC の職員専用である。ここでいう「ICRC の車両」とは、レンタカーを含む、ICRC が使用するあらゆる車両（自動車、バス、オートバイ、ボートなど）を指す。実際には、この ICRC 職員専用というルールが適用されない状況もある。たとえば、業務上 ICRC の外部の技術者や保健省の代表者を同行させたり、負傷者を医療施設に搬送したりすることが必要になる場合がある。

ただし、ICRC の職員以外を乗せるのは、あくまで例外である。特に紛争時や暴力がはびこる状況下では、安全性や認識上の問題を引き起こす可能性がある。たとえば、乗せた人物が現地の武装組織とどのようなつながりを持っているかがわからぬ場合がある。また、戦闘員や紛争に直接関与する人々を同乗させると、一方を他方よりも優遇しているような印象を与えることになり、ICRC が掲げる原則に反することになる。あなた自身も潜在的なターゲットとなり、あなたの車両は停められ、同乗者が逮捕される可能性がある。ICRC 職員以外の人を乗せると、保険の問題が発生する可能性もある。

リスクの認識

ICRC の安全規則では、一般に、誰が ICRC の車両を使って移動できるかを指定している。活動上の必要性により ICRC の職員ではない人を同乗させることが正当化される場合、通常、さらされる可能性のあるリスクを記載した承認書に署名してもらう。可能であれば、しかるべき相手にもそうした人物が同乗していることを伝えておく。

9.8.1 乗車のリクエスト



おそらく乗せてくれという依頼を頻繁に受けるであろう。イエスかノーかを決める前に、常に次の 6 つを確認すること。

1. 相手に他の交通手段があるか？
2. 相手は武装しているか？
3. あなたの車で移動することで、さらなるリスクにさらされるか？
4. 相手の存在はチームの安全を脅かす可能性があるか？
5. 相手の存在は ICRC の原則や評判を毀損する可能性があるか？
6. このリクエストを拒否することは人道主義者としての自分の立場に反していないか？

ICRC 内で、問題になっている前例事案があるかどうか、またこの問題を扱う特定の規則があるかどうかを調べる。

9.8.2 住民に対する乗車拒否

毅然とした態度をとり、決断の理由を上手に丁寧に説明すれば、さほど問題なく状況を解決できるはずである。その人がすでに ICRC の原則と活動方法についてある程度知っていることが明らかなら、はるかに容易になる。ICRC とその活動に関する資料を渡すことが状況を和らげるのに役立つこともある。逆に断り方がよくなかったり、傲慢と受け取られたりすると、

搬送できないと判断した場合は、時間をかけてその理由を具体例を挙げて説明する。

ICRC の評判をも傷つけ、あらゆるトラブルに巻き込まれる可能性がある。「ICRC はバス会社ではない」「我々は救急車ではない」など、相手を不快にさせるような言い方は絶対にしてはならない。保険の概念すら存在しない状況では、「事故が起きてもあなたは保険の対象外」などという説明も無意味である。

9.8.3 武器所持者に対する乗車拒否

戦闘員から輸送を依頼される可能性も高い。銃を突きつけられたか脅迫された場合を除いて戦闘員を輸送してはならない、と単純に言えるケースだけとは限らない。実際には、この種の要求を拒否するには、特に交通手段の選択肢が少ない地域では、機転、忍耐、辛抱が必要である。

兵士や武装グループのメンバーを輸送する場合、特に武器を所持している場合には、間違いなくリスクが伴う。まず、どちらかの側を支持しているとみなされることで、中立性と公平性が危険にさらされる可能性がある。第二に、直接的なセキュリティリスクが発生し得る。車両に戦闘員を乗せていると、敵に遭遇したときに標

ICRC のルールは単純である。武器は車両に持ち込まない。

的にされる可能性がある。第三に、乗り込んだ戦闘員の敵があなたの車両を妨害し、目の前で処刑する可能性がある。第四に、紛争当事国のいずれかのために武器を携行したとして告発される可能性がある。事実よりも噂の

ほうが信じられやすい状況や、ますます世界がネットで繋がっている現状では、そういう告発は想像を絶する規模となり、その後何年にもわたって続き、当該地域での事業に損害を与える恐れがある。

9.8.4 傷病者の搬送

傷病者を、専用装備のない車両や医療従事者が同乗していない車両で搬送することは推奨しない。移動によって状態が悪化する可能性があるが、診療するための訓練もしていかなければ装備もない。ただし、ICRC の任務により、場合によっては傷病者を輸送しなければならないこともある。さらに言えば、あなたは何よりもまず人道主義者である。救急車サービスが存在しない地域、あるいは交通機関が不足している地域や危険地域では、緊急に治療が必要な患者の搬送を拒否することは、道徳的に正当化できないだろう。もし誰かが「出産を控えた女性を最寄りの医療施設まで車で送ったほうがいいでしょうか?」と尋ねたら、あなたの道徳的本能は「はい」と言うだろうし、それは当然のことである。そうしないと、危険にさらされている人を助けられなかつたことになる。

ただし、傷病者や緊急に治療が必要な人を医療施設に搬送するかどうかを決定する前に、次のことを行う：

- ・他の搬送手段があるかどうかをその場にいる人に尋ね、その傷病者が搬送可能な状態にあるかどうかを確認するよう努める。
- ・もしもそれが医療施設への搬送なら、患者は特定の書類（診断書など）の提示を要求されるため、患者がそれらの書類を所持していることを確認する。
- ・特に交通状況や最寄りの医療施設の情報については、ICRC の保健医療専門家に連絡してアドバイスを求める。
- ・特に負傷した戦闘員の場合、選択するルートが特別な危険をもたらすかどうかを判断しなければならない。そうしないと、自分自身と傷病者の命が危険にさらされることになる。

決断を下す前に、状況の緊急性、利用可能なその他の選択肢、関係者全員の潜在的なリスクを考慮して、入手可能な情報を慎重かつ迅速に検討する。

患者を医療施設に搬送することを決めた場合は、次のような手順を踏む：

- ・搬送する前に、口頭で同意を得る（意識がある場合）。
- ・ICRC の役割の限界を本人（またはその家族/友人/同僚）に説明する。後々の ICRC に対する誤解や憤りを避けるため、誰が治療費を支払うのかを明確にしておくこと。この点については、連れて行く医療施設の責任者とも話し合う必要がある。
- ・負傷した戦闘員の武器を決して一緒に持っていないか。必要に応じて、仲間の戦闘員の一人にそれを外すように頼み、自分自身では決して外さないこと。
- ・患者以外で 1 名以上の同行者を乗せることが適切かどうかを決める。状況が許せば、乗った者全員にリスク承認書に署名してもらう。
- ・追加の乗客の存在を、通知する必要がある相手に報告する。
- ・適切な速度で走行する。段差や穴を高速で走行すると、同乗者の痛みがさらに増し、出血が悪化したり、負傷した手足が動いたりする恐れがある。
- ・必要に応じて、その後車両を消毒する。

9.9 検問所の通過



検問所とバリケードは、一般に武装した人々が人や物の移動を監視し、コントロールするため路上に設置されている。紛争当事者は、検問所を設けることで、敵や部外者が自分たちのエリアに入るのを防ぎ、物資の移動をコントロールし、場合によっては料金を課すこともある。これらはセキュリティサービスによって運営されたり、民間のセキュリティ会社に下請け委託する場合もある。

検問所にはたくさんの種類がある。長期的に設置されているものもあれば、一時的なものもある。検問所は、シケイン（走行速度を提言させるために設けられる障害物や構造）やバリケードを備えた、常設用としてかなり洗練された検査および監視設備を整えているものもあれば、釘が飛び出た木片と道路脇まで張られた紐を用いて停止しなかった車のタイヤに穴が開くように設計された即席のものもある。あるいは、単に道路上に木の枝が置かれていたりする。車両が障壁を迂回して走行するのを防ぐために、道路脇に地雷が敷設されている場合もある。つまり、さまざまな状況に遭遇

その性格がどのようなものであれ、検問所は常に気をつけねばならない場所であり、いつでも問題が発生する可能性をはらんだ場所である。

する可能性があるということである。

すべての検問所が軍事的な役割を持っているわけではない。警察によるバリケード、税関検査場、行政検査場、雨よけなどもある⁴²。したがって、すべてが武装した人員によって管理されているわけではない。たちの悪い武装集団が非公式の「料金所」を設置し、通行する民間人から金を巻き上げようしたりもする。検問所は、攻撃や強盗のために車列を停止させたり、待ち伏せを容易にしたりするために使われる。本章では、待ち伏せに対処する方法については説明しないが、本章に記載した推奨事項に従うことで、待ち伏せに遭遇するリスクを軽減することはできる。

9.9.1 軍の検問所

検問所で遭遇する問題は、検問所を誰が運営しているかや、そこでの ICRC の過去の（良いまたは悪い）経験、そのエリアを通過する頻度、およびコミュニケーション能力によって異なる。いくつもの検問所を通過しなければならない場合、より多くの問題を抱える可能性がある。前線を越える必要がある場合も同様である。一方の紛争当事者の最後の検問所と、もう一方の当事者の最初の検問所の間の「無人地帯」は特に危険である。このエリアはどちらの管轄下にも置かれていないと、両方のターゲットになり得る。こうした区間では、車列を組んだ車両の間隔を広げるなど、特別な予防措置を講じる必要がある。

検問を通過するとき、検問所を管理する人々の感情も重要な影響を及ぼす因子である。疲労、ストレス、緊張、自分自身や仲間の安全に対する恐怖はすべて、どれだけ長い時間勤務しているか、一日のうちのどの時刻かなどの要素とともに何らかの影響をもたらすであろう。一方、人里離れたひっそりした地域では、退屈しおぎの娯楽がアルコールと薬物のみである場合が多い。こうした地域の検問所では人道支援の車両は気晴らしになり、おしゃべりする格好の機会と捉えられるかもしれない。

フィールドトリップを始める前に

紛争地域に足を踏み入れる前、または不慣れなルートを選択する前に、検問所があるかどうか、検問所がある場合は誰が検問所を運営しているのか、また相手を特定する制服や記章はどんなものかを確認しなければならない。入手可能な信頼できる情報源をすべて利用し、その分野に詳しい同僚に相談する。

施行されている
手順をよく理解
すること。

⁴² 荒れた道路では、車両が道路を損傷しないよう、雨季には雨よけを使用して道路を閉鎖し、乾燥する時間を確保することがある。

- ・同僚が過去に検問所で遭遇した問題について調べる。
- ・通る予定のルート上にある検問所を担当する部隊に、自分たちの車列がそこを通ることを知らせる。
- ・移動をモニタリングする責任のある同僚に、自分たちが通る予定のルートの詳細を伝え、各検問所の通過前後にその同僚に連絡する必要があるかどうかを確認する。
- ・検問所で話をする担当者を決めておく。
- ・ICRC の活動紹介資料などとともに、身分証明書と許可証を常に手元に用意しておく。
- ・外出禁止令に引っかかるないように、検問所が閉まる時間があるのか、あるなら何時かを確認する。

検問所通過

たとえ自分が必要な権限をすべて持っていて、検問所を管轄する当局が ICRC のことを知っていたとしても、検問所を通過することは単なる形式的なものと捉えてはいけない。検問所にいる担当者が、あなたを通過させなければならないことを知らない可能性を常に考えておくこと。また、上からの指示が指揮系統に沿って正しく伝達されていなかったり、担当者が変更されたり、その他の予期せぬ要因によってスムースに通れないリスクもある。検問所を管理している者全員が武装していると考えるのが賢明である。

傲慢になり、検問所を通過する「権利」があると思い込むとトラブルへの道を進むことになる。逆に敬意を持って礼儀正しく、なぜそこにいるのかを冷静に説明し、辛抱強く接することで、物事がスムースに進む可能性が高まる。

- ・検問所に近づいたら、車内のラジオと音楽を消し、相手の指示と周囲の騒音が聞こえるように窓を少し開ける。
- ・通信機器の電源を切る - 相手の疑念を招く可能性を排除するため。
- ・完全に停止せずに速度を落とし、状況を迅速に判断する。同僚の言うことに注意深く耳を傾ける。
- ・検問所との間に他の車両がある場合は、車間距離を保つ。
- ・電話やブランド品のサングラスなど、目を惹く物品をダッシュボード上に置きっぱなしにしない。

- ・サングラスをしていればはずし、帽子を取って、顔と目が相手にはっきり見えるようとする。
- ・停止すべき場所を示す指示やジェスチャーに注意深く従う。
- ・停止後は、特に指示がない限りエンジンをかけたままにして車の中に留まる。車列を組んでいる場合は、前後の車両との間に一定の距離を維持する。
- ・緊張せずに注意を払うこと。謙虚さを保つ。窓を開けて検問所の職員に、できれば現地の言語で丁寧に挨拶する。
- ・敬意を表し、協力的な姿勢を示すこと。
- ・突然の動きは避け、両手を相手からはっきりと見える位置に置く。
- ・求められた場合は（その場合に限り）、身分証明書と関連する許可証を提示する。必要に応じて、どこに行くのかを伝える。
- ・状況が許せば、ICRC がその地域で何をしているのかを簡潔に説明する。必要に応じて、担当者が興味を持ちそうな情報が載った冊子などの資料を渡す。
- ・許可を得たら不必要にその場にとどまらず、直ちに立ち去る。ただし、急いでいるという印象は与えない方がよい。

必要な権限をすべて持っている場合でも、
検問所では必ず停止すること。

夜間

夜間はさらにリスクが高い。どうしても必要な場合を除き、夜間に検問所を通過することは避ける。もし、夜間に通過するなら：

- ・自分たちを識別しやすくするために、車両に ICRC の旗を掲げて、旗に照明を当てる必要があるかどうかを確認する。
- ・検問所に近づくときは、相手の目をくらまさないように、ヘッドライトを消し、車幅灯だけを点灯させる。
- ・車両の乗員全員がはっきりと見えるように室内灯を点灯する。そうすれば、相手からあなたが脅威とみなされにくくなる。

問題が発生した場合

事前にすべての許可を取得しているにもかかわらず、また、あなたがきわめて交渉術に長けていたとしても、検問所の担当者があなたの車両の通過を拒否する場合がある。このような場合、相手にちょっとした贈り物や賄賂を提供したくなるかも

しれないが、これらは絶対にしてはならない。この種の行為は ICRC の方針に反するだけでなく、ICRC の評判を傷つける危険な前例を作り、将来的には ICRC や他の人道支援団体の車両が検問所を通過するのがより困難になる可能性がある。

検問所の職員が通過を拒否した場合：

- ・上司と話すよう依頼する
- ・担当者に圧力をかける目的で、指揮系統のさらに上の人物に連絡する可能性を検討する
- ・必要に応じて、自分の上司にサポートを求める。
- ・それでも通過が認められない場合は、攻撃的になることなく抗議をし、引き返す。
- ・武器で脅された場合は、ためらうことなく言われた通りに行動すること。
- ・できるだけ早く拠点に知らせ、同僚からアドバイスをもらったり、まもなく同じルートを通る可能性のある車両に知らせたり、必要な措置を講じる。

検問所の担当者が車両検査を求めた場合

たとえあなたの移動や輸送中の物品が指揮系統に沿って正式に通知されていたとしても、検問所の担当者が車両の検査を要求することがある。それは単純な誤解からくるものか、それともあなたを脅迫しようとしているのか。あるいは、あなたが運んでいる物が自分たちの安全を脅かさないことを確認したいのか。検査理由が何であれ、あなたが直接の脅威にさらされていると感じない限り、相手に検査を思いとどまらせるよう努めるべきである。検査に関する問題のひとつは、時間がかかり、行程が大幅に遅れる可能性があること。また、時間的プレッシャーにさらされ、場合によっては日没後もフィールドトリップを続けなければならず、さらに危険が増すことである。

法律に記載されていること

国際人道法は、紛争当事者に対して、人道支援物資のみを輸送していることを確認するために車両を検査する権限を与えており、同時に人道援助の通過を促し、あなたの移動を故意的に妨害してはならないと定めている。さらに、検査する権利は、ICRC の特権と免除によって制限される場合がある。特定の状況において、ICRC は車両を含むその財産の不可侵性を享受している。その場合、政府機関（当該国の軍隊や治安部隊を含む）による検査は法的に許可されていない。ただし、武装集団に関しては、ICRC が同様の不可侵性について交渉していない限り、これは適用されない。

あなたは何をするべきか？

担当者があなたの車を調べようとした場合、特に高度な教育を受けていない場合は、国際人道法を持ち出して相手を思いとどまらせられる可能性は低い。自分が誰なのか、その地域で何をしているのか、何を運んでいるのか、なぜ遅れないことが重要なのかを説明しながら、簡潔かつ具体的な主張をすれば、より成功する可能性がある。

- ・あなたの車両を検査したい正当な理由があるかどうかを確認する。
- ・あなたの活動が、純粋に人道に基づいたものであることを冷静に説明する。
- ・もし役立つかもしれないと思うなら、あなたが相手の指揮命令系統の中で誰と話していたかを伝える。
- ・どうしても解決しない場合は、圧力をかけてもらうために、指揮系統のさらに上の人物に連絡することを検討する。
- ・必要に応じて、自分の上司にサポートを求める。
- ・相手を説得できない場合は、協力し、車両を調べさせる。
- ・できるだけ早くこの現場での事案を上司に報告する。

あなたの車両を検査する
のを思いとどまらせる
ことができない場合は、
協力して検査させる。
ただし、この事案を
できるだけ早く上司に
報告する。

9.9.2 犯罪目的での道路封鎖

特に孤立した地域や樹木が茂った地域、険しい山道など徐行しなければならない困難な道路、または犯罪率が高いことで知られる都市部では、即席の障害物や新たな障害物を疑うこと。検問所が新しい場合、または通常は存在しない場所にある場合、明らかにその検問所は犯罪に関わるものと考えられ、そこでの安全は保証されない。

状況を理解していれば、それが正式な検問所なのか、それとも武装犯罪者によって設置された障害物なのかを判断できるはずである。後者の場合、私物や輸送中の物品を失うだけで済む場合もあるが、最悪の場合は人質に取られたり、負傷したり、死亡したりする危険がある。もしも前方に見える検問所が正規のものかどうかが不明な場合は：

- ・障害物から十分離れた場所で停止する。しばらく待って、遠くから様子を注意深く観察する。

- ・即座に同僚に意見を求める。
- ・交通量が多い場合は、他の車両に追い越させて、無事に通過できるかどうかを確認する。もう 1 つの選択肢は、対向車が来るのを待ち、その車に、先に進んでも安全かどうかを尋ねることである。
- ・引き返したほうが安全だと思うなら、自分の直感を信じるのがよい。安全に走行できる場合は、U ターンできる位置までバックしてから方向転換する。道路脇のエリアに地雷が埋められている可能性が少しでもあると思われる場合は、道路から外れること。
- ・障害物が犯罪行為に関わるものではないことが明らかならそのまま進み、前述の検問所に関する推奨事項に従う。

通常とは異なる検問所など、活動地の情勢のわずかな変化に
注意する。

9.10 秘匿情報の保護

空港での一連の検査、収容施設の訪問中や当局との会合中などに、誰かがあなたから機密情報を入手しようしたり、パソコンや電話、書類を没収しようしたりする可能性がある。外部の誰かが ICRC の機密情報を手に入れた場合、組織のイメージを損ない、業務の遂行に悪影響を及ぼし、そして何よりも自分自身と自分が接触した人々を危険にさらす可能性がある。したがって、あなたが所有する情報がいかなる形式であれ開示されることなく保護されているという事実を当局が尊重することが不可欠である。ICRC は機密情報の非開示特権を享受し、加えて、ICRC の許可なしにそのような情報にアクセスする法的権利は外部の者にはない、ということを覚えておくこと。

機密情報を開示すると、
活動とセキュリティの
両方に重大な影響を
与える恐れがある。

あなたは何をするべきか？

このような状況に陥るリスクを減らすには、仕事に絶対に必要な書類だけを持ち歩くようにする。可能であれば、パソコンを ICRC のオフィスに置いたままにし、外へ持ち出さない。誰かが機密情報を入手しようしたり、文書や通信機器、コンピューター、その他のデータ媒体を引き渡すよう求めてきたりした場合は、脅威にさらされていると感じない限り、その要求を可能な限り拒否する。

- ・自分が何者で、当該地域で何をしているのかを冷静に説明する。
- ・当該地域で安全に活動するために機密保持が不可欠である理由を、以下のような具体的な例を挙げて、相手に説明する。
 - 情報の機密性を担保して初めて、人々は私を信頼する。
 - 私が所有する情報は、国際法、およびこの国の法律の下で保護されている。
 - 雇用契約に基づき、すべての情報を機密扱いすることが、私に義務付けられている。
- ・情報の開示が適切と思われる場合は、ICRC に正式な要請を提出するよう、相手に依頼する。
- ・どうしても解決しない場合は、圧力をかけてもらうために、相手の指揮命令系統のさらに上の人物に連絡することを考える。
- ・必要に応じて、自分の上司にサポートを求める。
- ・相手をどうしても説得できない場合は、協力し、その要求の通りに情報を引き渡す。
- ・できるだけ早く、この現場での事案を上司に報告する。

機密情報にまつわる要求、および文書、通信機器、コンピューター、
またはその他のデータ媒体の没収、
または没収する試みがなされた場合は、
直ちに職場の上司に報告すること。

9.11 フィールドでの宿泊

活動の性質上、現場に一晩滞在しなければならない場合もある。状況によっては、ホテル、ゲストハウス、学校などの公共の建物、他の人道団体や宗教団体の建物に宿泊する場合もあれば、シンプルにキャンプをする場合もある。

9.11.1 宿泊先の選択

宿泊場所の選択肢が限られている場合でも、かかる費用や快適さのレベルではなく、安全性を考慮して夜を過ごす場所を選択しなければならない。最初のステップは、ICRC が推奨する宿泊先リストを作成しているかどうかを確認することである。

リストがない場合は、次の要素を考慮して選択する。

- ・**他のチームメンバーに相談する**：選択肢について話し合うことで、それぞれの長所と短所がより明確になり、全員が安全だと感じるために取るべき手順が明確になる。
- ・**近隣の家**：これは危険の元になる可能性も、安全な場所になる可能性もある。犯罪率が高いことで知られる地域や、陸軍キャンプや警察署などの潜在的な標的の近くにある建物は避ける。自然環境も脅威となる場合もある。逆に、特に田舎では、地元のコミュニティが効果的な保護を提供してくれる可能性がある。
- ・**評判**：特定のグループまたは個人と関係のある建物は、安全性を高める場合もあれば、さらなる危険にさらす場合もある。たとえば、地元のコミュニティで高く評価されている伝統的な指導者の家で一夜を過ごすと、そのコミュニティに受け入れてもらいやすい。一方で、当該地域で異なる宗教同士が深刻な緊張状態にある場合は、宗教色の強いコミュニティで一夜を過ごすのは非常に危険である。同様に、軍事キャンプに一晩滞在することは一般的に良い考えではないが、場合によつてはそれが唯一の選択肢である場合もある。
- ・**受動的保護**：テントを張って宿泊する場合を除き、選択した場所は侵入に対して十分な保護機能がなければならない。すべての窓とドアは施錠できなければならぬ。宿泊施設は、あらゆる自然災害に対して可能な限りの保護を提供する必要がある。たとえば地震が頻発する地帯では、地震に対して十分な保護が提供されるべきで、少なくとも建物がさらなる危険の源であつてはならない。
- ・**避難経路**：緊急時に宿泊施設から迅速かつ安全に避難できなければならない。

9.11.2 自分の安全を強化する

宿泊場所を決めたら、安全上の理由または表敬目的で、誰に自分の存在を知らせる必要があるかを判断する。たとえば、地元の警察署長や陸軍司令官に知らせたり、地元のコミュニティを巻き込んだりするのは良い考えかもしれない。おそらく、物理的な安全面では、ICRC の建物よりもはるかに劣る（門番がない、侵入者に対する防御が弱い、防火基準が低いなど）ので、一時的な宿をどうやってより安全にするか、その方法を考える。

武装した人々や当局にあなたの存在を知らせ、地元のコミュニティを巻き込むことで安全を確保し、最新の状況を確実に把握することができる。

状況に応じて、次の予防措置の一部、またはすべてを講じることを検討する。

- ・より危険にさらされる場合を除き、ICRC のロゴを表示して、自分の滞在場所を明らかにしておく。
- ・コミュニティのサポートを得る。おそらく訪問者の存在を非常に真剣に受け止めており、あなたに何も起こらないように慎重に最善を尽くしてくれるであろう。
- ・近隣の人と連絡を取れるようにしておく。
- ・自分の宿泊施設の弱点を調べる。
- ・非常口とそのエリアから脱出する方法を確認する。
- ・就寝する部屋の窓やドアをしっかりと閉める。錠が取り付けられている場合はそれを閉め、そうでない場合は南京錠を使って閉める。シャッターがある場合はそれを閉めて施錠する。錠がない場合は、ドアハンドルの下に椅子を挟むなど。
- ・外が暗い時間帯にはカーテンを閉め、ブラインドをおろす。
- ・コミュニティのメンバーの誰かに（適切な報酬と引き換えに）監視を依頼する。
- ・現金と書類は安全な場所に保管し、大事な物は見えるところに置きっぱなしにしない。
- ・電気やガスを使用する場合は、十分な注意を払う。
- ・ドアの向こうにいる人物が知らない人の場合、ドアを開けない。
- ・ホテルに滞在している場合は、外部から簡単にアクセスできる部屋を避ける。
- ・現地の当局やコミュニティの許可を得ずにキャンプを設営しない。
- ・車は常に最も安全だと思われる場所に停め、必要な時にすぐに逃げられるような向きで駐車する。

9.11.3 夜を過ごすのに最適な場所：自分自身への6つの問いかけ

1. その地域の治安に影響を与える可能性のある出来事について最新の情報を知っているか？
2. 宿泊場所に選んだところに滞在することにおいて、ICRCの評判を傷つけたり、自分を危険にさらしたりする可能性はないか？
3. 隣人や近所の住民は自分を守ってくれる存在となるか、それとも脅威か？
4. 問題が発生した場合、建物と当該地域からどうやって脱出するか？
5. 宿泊しようとしている場所から誰かが物を盗むのは簡単か？
6. 他のチームメンバーは選択した宿泊施設に満足しているか？

9.12 メディア対応

ジャーナリストから取材を依頼される場合がある。いくつかの基本的な予防策を講じている限り、メディアと関係を築くことには多くの利点がある。これらは、人道問題や自身の活動に世間の注目を集めたり、赤十字の基本原則を知ってもらったりする手段となり得る。またジャーナリストは、一次情報であろうと二次情報であろうと、優れた情報源となり得る。良質のメディア報道はあなたの公共のイメージを向上させ、その地域でより受け入れてもらえるようになる（ただしメディア報道が逆効果になる場合もある）。結果として、ジャーナリストとの>Contactを維持する価値はあるが、自分が支援しようとしている人々と自分自身の安全は、メディアのニーズや好奇心よりも常に優先されなければならない。

ほとんどのジャーナリスト、特に大手メディアで働くジャーナリストは、確固たる倫理原則に従って活動し、人道支援従事者の活動を尊重し、直面する安全保障問題を理解している。
したがってほとんどのメディアは、あなたが課す制限を受け入れる。

ジャーナリストから取材を求められたら

- ・相手の連絡先をメモするか、名刺をもらう。
- ・広報／メディア担当の同僚に連絡する。

自分で取材を受けたほうがよいか？ 場合によっては、広報やメディア対応の専門家に依頼するよりも、自分で取材に応じたほうが良い場合もある。

たとえば、あなたが医療分野で働いている場合、自分が扱っている医療の状況について他人に説明してもらうのではなく、自分が説明するのが合理的である。非常に機密性の高い状況やセキュリティインシデントの後では、ICRC の広報/メディア担当のみがジャーナリストと通信する権限を与えられる。

取材に同意する前に上司に報告し、広報/メディア担当者に相談するとよい。取材を受ける方法や準備についての基本的なアドバイスをくれるだけでなく、関係する報道機関の編集上の方針、ICRC との関係の歴史、取材を依頼してきたジャーナリストとのこれまでの経験などについても簡単に説明してくれる。

- ・取材の性質と目的、および取材が録画されるのかライブ放送されるのかを確認する⁴³。
- ・可能であればジャーナリストに事前に質問を送ってくれるよう依頼し、時間をかけて答えを準備する。
- ・1つまたは2つの簡単な逸話は、長い説明よりもはるかに多くのことを語ることを知しておく。
- ・自分の発言が知らないうちに録音または撮影されていないことを確認する。状況によっては、公開の可否をめぐって特定の情報を事前に指定できる場合がある。ただし、ジャーナリストはあなたの発言を取材の一部として扱うため、すべてのコメントが公開されることを常に想定しておく必要がある。
- ・不必要に怖がらない。自分が何をしているのかを簡単な言葉で説明し、人々のニーズについて説明する。自分の声を伝えるのではなく、支援対象者の声を伝えるようにする。
- ・政治情勢や紛争について話すことは避け、答えたくない質問には答えない。
- ・情報のやりとりをする前に倫理的配慮と機密保持を必ず考慮し、取材によって関係者に害が及ばないように注意する。必要に応じて、関係者本人または代理人の同意を得るように努める。
- ・固定観念を助長するような発言は避ける。
- ・必要に応じて休憩を取らせてもらう。
- ・記事やインタビューがいつ公開されるかを確認する。
追加の質問がある場合に備えて、ジャーナリストに広報/メディア担当の同僚の連絡先を伝えておく。

取材を受けても大丈夫だと感じる場合にのみ取材を受ける。

⁴³ 特にラジオやテレビの場合、ほとんどの取材は比較的短いものである。活字メディアの取材は、より詳細なものになる可能性がある。

9.13 支援を必要としている人々へのアクセス：自身への 10 の問いかけ

1. フィールドトリップ中のリスクを軽減するにはどうすればよいか？
2. 避けるべきエリアとルートを知っているか？
3. 必要な許可をすべて取得したか？
4. フィールドトリップを、治安状況を知るために利用しているか？
5. 自分の目と耳を十分に活用しているか？
6. フィールドトリップを続けないようにと言われたとき、本能に耳を傾けるか？
7. 検問所でどのように行動すべきかを正確に知っているか？
8. 誰かが私の活動に関する書類を没収した場合はどうすればよいか？
9. ICRC の外部の人々を車に乗せるとどのような問題が生じ得るか？
10. 特定の団体や個人と一緒に宿泊することは、ICRC のイメージをどのように損なう可能性があるか？

参考文献

Centre of Competence on Humanitarian Negotiation, Field Manual on Front-Line Humanitarian Negotiation, V 2.0, 2019: <https://frontline-negotiations.org/home/resources/field-manual>.

10. 活動中の安全確保

あなたは、困っている人を助けたくて人道支援の道を選んだのかもしれないが、実際は、あなたが助けようとしている人々との間に緊張が生じる事態も残念ながらある。たとえ、徹底して公平性を保ち、暴力の影響を受ける人々の立場の弱さなど、客観的な基準を適用したとしても、ある地域では活動して別の地域では活動していないという単純な事実がトラブルを引き起こす可能性がある。ロジスティクス面や治安上の理由、あるいは政治的理由で、特定の地域に入ることができない場合、一部のコミュニティはあなたの活動による恩恵を受けることができないため、状況は必然的にややこしくなる。詰めの甘い事業や透明性と妥当性に欠け、結果が伴わない活動は緊張を生み出し、問題を引き起こす恐れがある。

本章では、自分の活動がリスクの原因にならないようにする方法を学ぶ。生計の自立支援事業を実施したり、医療施設で働いたり、収容施設を訪問したりする際に取るべき予防措置を述べる。それらのほとんどは、他の活動分野にも当てはまる。本章では、遺体を取り扱う際の基本や、攻撃的な人物に対処するためのヒントもいくつか示す。

支援対象者の安全については簡単に触れるだけに留める。

10.1 一般的なアプローチ

10.1.1 活動にリスク調査を組み込む

活動を計画、実行し、その妥当性を評価するには、活動地の情勢、特に活動がもたらす脅威を理解する必要がある。したがって、これらすべての段階で職場が行ったリスク調査を考慮しなければならない。自分がさらされるリスクとそのリスクを軽減するために講じる対策は、活動している地域や活動の種類によって異なる。

人道支援活動とリスク
調査は切っても
切り離せない。



10.1.2 武力紛争への注意深いアプローチ

ICRCの活動の性質上、すべての人を満足させることは不可能である。人々は必然的に、あなたが一方の側を支持し、もう一方の側を無視している、あるいは自分たちに害を与えるとさえ考えるかもしれない。これは特に紛争状況の場合に当てはまる。紛争下では、特定のグループに手を差し伸べることが、敵対者にとっては自分の敵を直接支援していると容易に見なされてしまう。しかし少なくとも、活動自体が問題を悪化させないよう、また、コミュニティ間の根底にある緊張を悪化させたりしないようにしなければならない。

- ・利害関係者と情勢分析を考慮に入れる。新しい情報を入手した場合は、これらを考慮すべき事項に追加する。
- ・他分野で活動している同僚も含め、予定している活動について同僚と話し合う。
- ・他の人道団体の活動も含め、自分の活動地域における現在および将来の活動やプロジェクトについて最新の情報を入手する。
- ・活動地の情勢に鑑みて、計画した活動のプラス面とマイナス面を考慮し、必要に応じて活動内容を変更する。
- ・可能であれば、当局や現地のコミュニティを活動に参加させる。活動地で影響力のある個人や団体を巻き込む（次ページ参照）。

自分の活動が既存の緊張を悪化させたり、自分や住民にセキュリティリスクをもたらす危険がある場合は、他の選択肢を検討する。

害を与えない（Do no harm）

あらゆる活動のアプローチの基本原則は「害を加えない⁴⁴」ことである。これはすべての人道主義者にとっての職業的および道徳的義務で、あなたの活動が、あなたが支援しようとしている個人やコミュニティ、その他のあらゆる人々に、自然環境も含めて悪影響を及ぼしてはいけないことを意味する。したがって守るべきルールは、状況に負の影響を及ぼし、紛争や暴力を悪化させる可能性のあるあらゆる活動を予測して回避すること、そして、潜在的に良い影響を与える可能性のあるものすべて支持することである。

10.1.3 多角的アプローチ

よくある過ちのひとつは、自分の活動を他の人が行っている活動から独立したものとして見てしまうことである。たとえば、ある看護師は、戦闘員が自分の診療所を攻撃するのではないかと心配しているが、戦闘員に医療施設を攻撃してはいけないことを認識させるのが主な活動である同僚と話してみようとは思いつかなかったりする⁴⁵。実際にはそれぞれの分野で取り組んでいることが、自分の活動に影響を与え得るし、同僚の活動が、自分自身や自分が支援する人々の安全にも影響を与える。

自分の活動や組織
を超えて視野を
広げる。

また、自分の活動と、政府機関、赤十字の他の機関、国連機関、NGOなどの人道支援団体の活動との補完性も考慮する必要がある。連携せずに、それらの機関が行っている活動を無視すると、相手の知識が共有されない。さらに、一部のコミュニティでは手厚いサポートを受けている一方で、まったく支援を受けていないコミュニティがあることにも気づかない可能性があり、この状況はあなたを危険にさらす恐れがある。

⁴⁴ M.B. Anderson, *Do No Harm: How Aid Can Support Peace – Or War*, Lynne Rienner Publishers, Boulder, 1999.

⁴⁵ 以下を参照のこと。特にジュネーブ条約共通第3条、第1条約第12条、第1追加議定書第10条、第2追加議定書第7条 -M. Henckaerts and L. Doswald-Beck, *Customary International Humanitarian Law*, Volume I: Rules, ICRC, Geneva: <https://ihl-databases.icrc.org/customary-ihl/eng/docs/home>, Rule 110.

統合されたアプローチとは何を意味するか?

ICRC のアプローチは「多角的かつ統合的」とされている。これは、あなたの活動と他の分野の同僚の活動が相互に依存しており、補完的であることを意味する。あなたの活動と同僚の活動は、全体像の構成要素で、相互に強化し、困窮する人々への利益を最大化する。離散家族の絆の回復、捕虜の訪問、国際人道法の遵守の促進、医療、水と衛生、あるいは困難を克服する力を高めることを目的とした生計の自立支援事業など、それぞれの活動は他の活動と密接に関連しており、全体的な目的の達成に貢献し、紛争や暴力の影響を受ける人々の生命、健康、尊厳を守る。

10.1.4 コミュニティの価値

あなたは不安定な環境で活動することになるため、常にセキュリティについて考えることになるが、環境はリスクの源であるだけでなく、あなたを守ることもできるということは忘がちである。現地のコミュニティを脅威と考えてはいけない。誰もがあなたをサポートしてくれるわけではなく、あなたに危害を加えようとする者もいるかもしれないが、ほとんどの場合、相手の興味や関心とあなたの意志は重なり合っている。人々はあなたの活動に影響を与えることができ、支援することができる。

ある状況の影響を受ける人々は、その状況における「課題の専門家」と言ってよい。人々が何を経験しているのか、優先事項やニーズ、好みが何であるかを誰よりも把握し、問題の解決策を模索するのに最も適している。部外者が見逃してしまうような事象、特にコミュニティ内またはコミュニティ間の緊張の原因についても知っている。また、援助を受け取るべき人々に援助が渡らないリスクを特定するのに最も適している。実際に経験上、コミュニティが自分たちが立ち上げた事業に参加することで汚職が減少することがわかっている。

あなたがいる環境は危険というよりも防護の源である。
可能な限り、コミュニティに利益をもたらすこと目的とした活動の計画、実施、評価にコミュニティを参加させる。

したがって、コミュニティを巻き込み、可能な場合はコミュニティに特定の責任を持たせることで、活動の質が向上し、直面するリスクが軽減される。



10.1.5 重要人物や団体を巻き込む

活動を開始する前に、その活動に適した枠組みを作る必要がある。これには、事業を展開しようとしている分野で影響力を及ぼす個人や団体の分析、準備、意識向上が含まれる。良好な活動環境の構築は共同作業であり、他部門の参加が必要である。まず、これらの個人や影響力のある団体に、自分が何をしようとしているのかを十分に伝え、それに対するコメントや期待に耳を傾けることである。そうすることで、たとえ相手があなたをサポートするつもりはないとしても、少なくともあなた

活動を開始する前に、
まずその活動に適した
枠組みを作る。

の活動を容認し、あなたやあなたが助けるべき人々に害を及ぼすようなことは何もないことが保証される。また、特定の機関、特に軍当局、警察、武装集団の指揮官などに、その責任下にある者があなたの活動を妨害しないように依頼しなければならない場合もある。

10.1.6 閻経済のリスク

違法な活動で多額のお金を稼いでいる個人やグループがいる。これらには、天然資源（石油、ガス、鉱物など）の採掘と販売、麻薬、木材、象牙などの密売と密輸、恐喝と不法な税金（農産物や水などの品目が対象）、移民の輸送や人道支援従事者の誘拐や横領などがある。個人や地域によって、販売や課税などいかようにもできる。特に国境を越えた組織犯罪の場合、その利益は巨額になる場合がある。こういった違法市場は、政府高官と密接な関係を持つ強力な犯罪組織が牛耳っていることがよくある。

あなたの活動が人々や
影響力のある団体の
利益に反する可能性が
ある状況を予測し、
それに応じて修正する。

あなたの活動のいずれかが、気づかぬうちにこの闇経済の邪魔になった場合、あなたは重大な危険にさらされる可能性がある。これらの人々の利益が脅かされた場合の反応はおそらく容赦がなく、あなたが人道支援活動をしている職員であるという事実は何の役にも立たない。地元の有力な実業家や闇市場に関与している人物が、あなたの活動を自らの収入に対する脅威とみなす場合も同様である⁴⁶。これらすべての理由から、地元の闇経済への関与を慎重に避け、自分の活動は影響力のある個人や団体の利益を損なうものではないと相手に確信させる、可能な限りの予防策を講じる必要がある。また、武装集団が資金をどこから得ているのかを尋ねてはならない。これもトラブルの種となる。

10.1.7 活動の遂行: 6つの避けるべき過ち

1. 自分は人道主義者であるため、何らかの形で状況の外にいる信じている。
2. 自分は立派な仕事をしているため、すべての人から尊敬されると考えている。
3. 人々を助ければ助けるほど、自分の安全が高まると考える。
4. 現地の環境を分析せず、その地域のリスク調査を考慮に入れない。
5. 参加させることができたにもかかわらず、活動の計画段階で住民や当局を参加させない。
6. 守れない約束をする。

⁴⁶ 多くの場合、地元経済に対する活動の影響は、実施の詳細を最終決定する最後の段階になって初めて明らかになる。

参考文献

ICRC, Enhancing Protection for Civilians in Armed Conflict and Other Situations of Violence, ICRC, Geneva, 2017: <https://shop.icrc.org/enhancing-protection-for-civilians-in-armed-conflict-and-other-situations-of-violence-pdf-en>.

Harvard Humanitarian Initiative and ICRC, Engaging with People Affected by Armed Conflicts and Other Situations of Violence, Taking Stock. Mapping trends. Looking ahead. Recommendations for Humanitarian Organizations and Donors in the Digital Era, 2018: <https://shop.icrc.org/engaging-with-people-affected-by-armed-conflicts-and-other-situations-of-violence-pdf-en>.

ACTIONS and ICRC, Participatory Techniques Flipbook, Different Ways to Have Different Conversations with Different People, 2019: <https://www.icrc.org/en/document/different-ways-have-different-conversations-different-people>.

ICRC and International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies, A Red Cross Red Crescent Guide to Community Engagement and Accountability (CEA) : Improving Communication, Engagement and Accountability in All We Do, ICRC and International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies, Geneva, 2016: <https://www.alnap.org/help-library/a-red-cross-red-crescent-guide-to-community-engagement-and-accountability-cea-improving>.

ICRC, ICRC Rules on Personal Data Protection, ICRC, Geneva, 2017: <https://shop.icrc.org/icrc-rules-on-personal-data-protection-pdf-en>.

C. Kuner and M. Marelli, (eds) , Handbook on Data Protection in Humanitarian Action, ICRC, Geneva, 2017: <https://www.icrc.org/en/data-protection-humanitarian-action-handbook>.

10.2 援助活動の遂行

医療施設への支援や水道管の修理など、コミュニティに根差した活動を行っている場合でも、農業支援や家畜のワクチン接種などの特定の人々に対する援助プロジェクトを実施している場合でも、疎外感や排除感、不公平感を抱く一部のグループや個人は出てくる。地域に人道支援従事者が大勢いるにもかかわらず、自分たちの状況が改善されていないことに、いたく失望しているかもしれない。また、あなたの援助が民間人のみに届くよう最善を尽くしているにもかかわらず、戦闘員が直接援助の利益を受けるリスクもある。そうなると、評判を落とすことになりかねない。

では、援助活動に内在するリスクを減らすにはどうすればよいであろう。次のページでは、支援対象者の選定とリストの検証から始まるプロセスの重要性を強調し、救援物資を配付する際に取るべき基本的な注意事項を概説する。次に、利用可能なさまざまな現金送金システムと、それらに関連するリスク軽減の方法をひとく。



10.2.1 支援対象者を選定探し、リストを検証する

支援対象者の選定プロセスに関する以下の推奨事項は、主に生計の自立支援活動を念頭に置いて作成されたものだが、他の援助プログラムにも適用することができる。

助けが必要なのは誰か？

援助プログラムでは、「この紛争（または暴力）の被害を受けているのは誰か」という質問に答えなければならない。残念ながら、被害を受けている人とそうでない人を区別するための明確な基準はなく、人々をこれらのカテゴリーのいずれかに分類することは、ある程度人為的な判断になるため、常に課題に直面する。あなたが人々のために行動を取らなかった理由、または少なくとも十分な支援をしなかった理由を理解しない人は常に存在する。「ここに来た難民は皆、飲料水と無料の医療を受けているが、ここに何十年も住んでいる私たちには何も支援がないのか？」「私たちの土壤の方がやせ細っているのに、なぜ隣人の農場が支援を受けているのか？」「なぜ人道支援従事者たちは、立ち止まって私たちの問題について尋ねることもせずに、私たちの村を車で通り過ぎるのか？」

すべてのグループに身
を置き、彼らの要求を
聞く時間を作る。

これらは全く当然の疑問で、あなたはシンプルかつ明確な回答をすべきである。これらを無視すると、安全が脅かされる可能性がある。ICRCの職員が経験した重大なセキュリティインシデントのいくつかは、コミュニティの無理解や要求に適切に対応し、考慮されていればおそらく回避できたものもある。

支援対象者の選定

人々のニーズだけを支援対象者の選定基準とすることはできない。基準は全体像を反映する必要があり、ICRCの他の部門や他の人道支援機関の活動を含むあなたの置かれた環境全体の分析結果を考慮しなければならない。一部の人に援助を提供し、他の人に提供しないということが起こると、コミュニティの内部で問題が発生する可能性がある。他の人道支援団体が同様のことをした場合、その影響はさらに悪化し、支援を受けていない人々の憤りに拍車がかかるであろう。

支援対象者を可能な限り参加させる透明性のある選定プロセスにより、コミュニティの期待に対処し、多くの誤解を避けることができる。

- ・同僚の活動を補完するような方法で自分の活動を計画する。
- ・経験豊富な同僚のノウハウを活用する。
- ・同僚、特に保護*、ロジスティクス、広報の専門家にサポートを求める。
- ・誰が弱い立場に置かれ、誰がそうでないかについて、現地の住民はあなたの考えを知らないため、独自の選定基準を押し付けてはならない。自分の基準を現地住民の基準と一致させ、プロセスに可能な限り参加させ、その中に必ず女性を含めるようにすること。「リモート管理」態勢にあり、一時的に住民にアクセスできない場合は、パートナー団体や主要な情報提供者、地元組織などの仲介者を通じてそうした対話をを行うとよい。
- ・誰が条件を満たしているかどうかを簡単に確認できるような登録条件を決める。これにより、登録がより迅速かつ簡単になり、特定のリスクにさらされることが軽減され、苦情への対応も容易になる。
- ・基準を定義したら、コミュニティの代表者、特にあなたの支援の恩恵を受けられないコミュニティの代表者に、その基準を説明するために最善を尽くす。

*訳注：人権侵害が行われることを防ぐ、ICRCの特徴的な活動のひとつ。捕虜訪問など。

あなたの選定基準から除外された人々は、ICRC が地域社会に水や医療などの他の基本的なサービスを提供していることを知らない可能性がある。このようなサービスを ICRC がしていることを知ると、多くの場合、事態は沈静化する。最善の努力にもかかわらず、あなたの選定がその地域で深刻な憤りを招いたと気付いた場合は上司と相談し、基準を変更するか、取り残されているコミュニティを支援する他の方法を見つける。

支援対象者登録

登録段階では、支援対象者と非対象者に分けなければならないが、これはデリケートな作業になるため、慎重に行う必要がある。住民に簡単にアクセスでき、あなたに十分な資源がある場合、最良の方法は、人々に直接登録してもらうか、パートナー団体に登録してもらうことである。安全上の問題が

原因でそれが不可能な場合、部族の指導者、宗教関係者、少数民族の代表者などで構成される地方委員会などの第三者がその作業を行える。

純粹に技術的な基準に基づいて支援対象者を決定する場合は、選定基準の作成に、できる限り住民を参加させる。

リストに載るべきではない対象者が大勢含まれているなどリストが不適切だと、後で大きな問題となって不満、反対意見、苦情が発生する。したがってリストは可能な限り正確でなければならない。セキュリティ上の理由から、あるいは時間を節約するために、効果的な検証メカニズムを構築することなく、登録作業を現地パートナーに丸投げしたくなるかもしれないが、このような一見近道に見える方法は逆効果になる恐れがある。リストに間違いが多すぎると、現地コミュニティが登録の手順に納得しない。ただそうは言ってもできることには限界がある。特に第三者によって作成されたリストの場合、完璧なリストにはならない。したがってこのような場合は最初からリストに不備があるということを前提として、活動を計画する必要がある。

- ・現地当局や武装した団体や組織など重要な利害関係者にこのプロセスについて通知し、同意を得ていることを確認する。
- ・登録基準を当局や関係コミュニティ（疎外されていると感じている人々を含む）に明確に伝える。

迅速で丁寧かつ効率的な手続きを目指し、異議申し立てや苦情への対応体制を整備する。

- ・登録のプロセスが迅速かつ効率的に行われるよう努める。担当者を3人しか割り当てずに10日かけて行うのではなく、30人で1日で完了させる。これにより、(すでに取り残されたことに憤慨しているコミュニティを逆なでするような)現場訪問の回数を減らし、人々が自分たちに有利な状況になるようにプロセスに影響を与えるとする時間を減らすことができる。
- ・人々があらゆる苦情を表明できるよう、当局を巻き込んで異議や苦情を処理するシステムを確立する。これにより、リストに載せる選定基準に関する誤解を解くことができる。
- ・登録から物資配付までの間に長時間の遅れが生じることを避ける。

リストの検証

支援が必要な人で忘れられている人々はいないか、あるいは逆に基準を満たしていないにもかかわらずリストに載っている人はいないか。このような検証のプロセスは、誤りを発見し、誤解を防ぐために解決する必要がある問題を特定できるだけでなく、援助を受ける人が誰で、援助を受けない人は誰かを決定するという重大な責任をコミュニティと共有する機会でもある。

リストがあなた、またはパートナー団体によって作成された場合：コミュニティの代表（地元の委員会など）による検証と承認のために必ずリストを提出する。部外者には理解が難しいコミュニティのメンバーやコミュニティ間の問題の両方に誰よりも精通しており、苦情がある場合は、その解決を支援するために最適な立場にあり、問題に対する責任の一端を負ってくれる。特に複数回の援助を計画している場合は、後半でリストを再検討する必要がある場合もある。

選定基準で除外されるグループについて考慮する。
必要に応じて、基準の背後にある論理的根拠を繰り返し説明する。必要に応じて、生じた緊張を和らげる方法を考える。

リストが第三者によって作成されている場合：内部および外部の情報源からの情報や、あなた自身の観察と比較する。可能であれば、無作為に選んで支援対象者を訪問し、誤りが多すぎないかどうかの確認を行う。もしも多くの誤りがあった場合は、そのままプログラムを続行してコミュニティの怒りを引き起こす危険を冒すよりも、そのリストを使わない方がよいこともある。

10.2.2 援助の遂行: 自分自身への 6 つの問いかけ

1. 自分が活動しようとしている地域の同僚や他の人道支援団体の活動について十分に情報を持っているか？
2. 支援対象者の選定基準はトラブルを引き起こす可能性がないか？
3. 自分の分析に、援助から除外される可能性のある人々からの要求が反映されているか？ そうした人々のために何か他に支援などをする必要がないか？
4. 自分の活動が、地域の影響力のある個人や団体の利益に反するリスクはないか？
5. 現地のコミュニティ、当局、影響力のある武装した組織や集団に、自分の活動について十分な情報が提供されているか？
6. 誰か関与させる必要のある人/団体はいないか？

10.3 物資配付



危険な状況下での大規模な援助物資の配付は大変な活動である。ロジスティクスや時間の制約という問題に加え、この種の援助活動では一般に、安全管理上困難な状況下に大人数を集める必要がある。群衆の暴力、援助物資をもらいに来た人々への攻撃、酔っぱらいやその他望ましくないトラブル、略奪…多くのことが問題を引

き起こし、状況は急速に悪化し、人々を危険にさらす可能性がある。物資配付場所への行き帰りに暴力や強盗に遭う危険もある。

援助物資（食料、生活必需品、農具などの機具類など）を配付することを決める前に⁴⁷、常に他の選択肢がないかどうかを検討しなければならない。たとえば、モノの代わりに現金を提供すれば、現金の送金システムを工夫することで大規模に人を集めめる必要がなくなり、人々は都合のよいときに現金を取りに行ったり、携帯電話でお金を受け取ることができる。

10.3.1 徹底的な準備

秩序正しく規律のある援助物資の配付には、適切に選ばれた場所、綿密な計画、コミュニティの参加、関係者全員との円滑でオープンな情報共有、群衆管理と苦情処理のためのシステムが必要である。また、紛争当事者にあなたの活動を尊重してもらう、あるいは少なくとも干渉されないように、紛争当事者に知らせ、あなたが行っていることについての認識を高める必要もある。

適切な配付場所の選定：ぎりぎりまで後回しにしないこと。場所の選定には安全管理が最も大事な基準となる。敷地は、車両や援助物資、支援対象者を収容できる十分な広さが必要である。また、以下を提供する必要がある：

- ・群衆のための導線の確保と群衆管理
- ・緊急避難経路
- ・良好な通信環境
- ・攻撃されるリスクを最小限に抑えること（例：陸軍キャンプの近くで配付を計画しない）
- ・支援対象者にとってのアクセスのしやすさ

混雑を最小限に抑える：特に武力衝突や自爆攻撃のリスクが高い場合は、常に現場にいる人の数を最小限に抑えるためにできる限りのことを行う：

- ・（部族や政治的緊張などの理由で）互いに対立するグループと一緒にすることは避ける。
- ・可能であれば、支援対象者が自らグループを組織し、グループごとに物資をまとめる代表者を決めて配付するシステムを活用する。
- ・複数の配付場所を設置し、異なる地区の住民が異なる時間に物資を受け取りに来られるように手配する。

⁴⁷ 物資配付に関する詳細を知りたい場合は：ICRC, EcoSec Response Geneva, 2020, p. 59:
<https://shop.icrc.org/ecosec-response-en-pdf> を参照

物と人の流れを管理する：時間内に円滑に配付を終えるには、物と人の流れを注意深くコントロールし、人々が互いの邪魔にならないようにしなければならない。支援対象者が配付場所に到着してから家に持ち帰るまでの間に、物資を荷降ろしし、移動させて配付場所に積み上げ、数量を確認し、開梱し、実際の配付へと流れを作る必要がある。行列をなくし（少なくとも行列を短くし）、群衆が無秩序に動くことを防ぐために人々を整列しなければならない。加えて、配付場所からすぐに人々が離れられるようにしなければならない。

- ・人や物の効率的なルートを作成することで、待ち時間を短縮する。
- ・人も物も、流れを妨げる可能性があるものがないか予測する。

詳細に配付計画を練る：不明確な順序、長い行列、苦難の中にいる人々のための日陰や休憩場所の欠如など、適切に計画されていない物資配付は問題を引き起こし、群衆はすぐに憤慨し、怒り出す危険がある。たとえ対象者が会ったことのない人々であっても、またこれまでアクセスできなかった場所で行う場合でも、配付方法を慎重に計画することが不可欠である。地元の赤十字社や赤新月社は間違いなく、他のパートナー地域社会の代表者と同様に頼りになる存在となるであろう。

配付物資の到着、配付場所からの出発、実施する敷地内およびその周辺での移動、その他すべては、支援対象者の代表と協議して作成された配付計画に基づき、事前に明確に調整されなければならない。たとえば、あなたは妊婦や障害者に最初に物資を配るのが合理的だと思うかもしれないが、コミュニティの見方はまったく異なっている場合があり、あなたのプロセスが地域の慣習に反する場合、トラブルになる可能性がある。

- ・配付物資をどのように並べるかを事前に決めておくこと。
- ・全員が自分の役割と責任を確実に理解できるようにすること。
- ・配付を手伝ってくれた人々にどのような報酬を与えるかを決め、対価（現金、物品、あるいは何も渡さない場合もある）を説明する。
- ・待ち時間をできるだけ快適に過ごせるようにする（たとえば、水や日陰を用意するなど）。
- ・残った梱包材（プラスチック、段ボール箱など）をどうするかを前もって決めておくこと。これらは、不安定な状況下で生活している人にとって非常に便利であり、人々はそれをめぐって争うことさえある。

影響力のある武装した人々や組織への事前説明：戦闘員が、あなたが配付している物資を手に入れたいと思うのはごく自然なことである。たとえば防水シートは夜の雨を防ぐことができる。武装しているのだから、自力で手に入れようと思えばできる。したがって、常に可能であるとは限らないが、配付場所やその近くに、軍隊や武装グループのメンバーがいないことを確認するように努めること。自分たちに配付される予定ではない物資を押収しようしたり、人々が物資を受け取った後に取り上げたり、帰宅途中の支援対象者を脅迫・強奪したり、最も弱い立場にある人々を攻撃しようしたりする恐れがある。

そうは言っても、武装した人々が地元の住民に金銭の支払いや物品の提供を一切要求しないことを期待するのは非現実的である。理想的な状況ではないが、少なくとも地元住民の資産を盗んだり、没収したり、略奪したりしないことが期待できる、と捉えることもできる。ただしいずれにしても、武装した人々とコミュニティの間で定められた協定には決して干渉してはならない。また、緊張や群衆の暴力が生じた場合に過剰反応して状況を悪化させる危険もある。武力を行使し、その場にいる人々を危険にさらすかもしれない。このような事態の発生を防ぐため、武装した人々や組織に物資配付について事前に知っておいてもらう必要がある。何が起こっているのかを把握し、物資の配付を妨げず、実施現場でも、支援対象者が帰宅した後でも、人々に危害を加えないことを確認する。

**潜在的な問題に備えておくと、問題が発生した場合に
コントロールすることができるようになる。**

情報を共有し、チームの準備を整える：事前説明の機会を設け、関係者全員（同僚、ボランティア、コミュニティの代表者など）に配付計画を伝え、必要に応じて変更する。全員の役割と責任を繰り返し説明し、誤解を取り除く。計画を外部に伝達する必要がある場合は、データ保護の規則に違反しないよう、外部用に変更したバージョンを使用して説明する。

コミュニティにセキュリティに対する責任を持たせる：配付中の安全管理に対する主な責任は、事前に決めたコミュニティリーダーが負う必要があり、その人物に期待する役割を事前に十分に伝えることが重要である。大規模に実施する場合は、人の流れを誘導し、コントロールするための措置を講じる。コミュニティリーダーが安全管理に責任が持てない場合は、配付自体を再検討する必要がある。

苦情を反映するシステムを構築する：支援対象者が質問したり苦情を申し立てたりできるヘルプデスクを現場に設置する。そうしないと、質問や苦情のある人が配付のプロセスを遅らせたり、妨害したりすることがある。ただし、ヘルプデスクは配付場所から少し離れたところに設置し、理想的にはコミュニティの代表者と協力して運営するとよい。

10.3.2 開始前に

- ・物資の梱包方法が流通プロセスを遅らせないように注意。再梱包をする場合はリスクが高い現場ではなく、倉庫で行うこと。
- ・すべての当事者の承認を得ていること、および配付実施に伴いセキュリティの条件が整っていることを確認する。
- ・配付場所に ICRC のロゴを明示し、協力団体がいる場合はその団体のロゴも掲げる（もちろん、そうしない正当な理由がない限り）。
- ・配付に関与する全員がゼッケン、ジャケット、帽子などを着用して、明確に支援対象者と区別できるようにする。
- ・配付エリア内的人数を制限する。支援対象者、ICRC スタッフ、協力団体のスタッフ、協力してくれるコミュニティメンバーの立ち入り人数を制限する。
- ・配付のプロセスと苦情システムについて全員に明確に周知する。
- ・支援対象者が出口をふさがないように、荷物を受け取ったら速やかにその場から離れるように指導する。

コミュニティのリーダーは、トラブルの防止と解決において最も重要な協力者である。できるだけ密接に関与させること。

物資配付：主なリスクとその軽減法

リスク	推奨事項
連携の取っていないチーム	配付場所に到着する前に、チームリーダーが全員に説明済みであることを確認する。配付に関わる全員（荷下ろしを手伝う人々や安全管理担当を含む）に概要を説明し、配付をどのように行うかを確実に理解させる。
コミュニティヘルパーからの賠償請求	配付に関するコミュニティのメンバーと受け取る報酬について合意しておく。ボランティアで手伝うのか、それとも現金または現物で報酬を受け取るのか、そうであればそれはいくらかなど、関連する決定事項を明確に伝える。
群衆関連の問題（暴力、暴動、支援対象者への攻撃）	一度に現場に居合わせる人数を最小限に抑えるためができる限りのことをする（コミュニティメンバーによる配付システムの構築、配付場所の複数設置、受け取る時間帯をグループごとに設定することなど）。群衆をコントロールするための対策を練る。
アルコールや薬物の影響下にある人の存在	地元の人々がアルコールやカート*などの薬物を摂取する可能性が高い時間帯は避ける。
部外者が配付エリアに入ってくる	支援対象者のみが配付エリアに入るようにする。対象外の人がヘルプデスクにアクセスできることを確認する。ヘルプデスクは配付エリアから離して設置する必要がある。
戦闘員が配付場所に入る	配付する地域で活動している武装集団に周知し、必要な措置を取れるようにする。
略奪	略奪の重大なリスクが認められる場合は、荷下ろしせずトラックから直接配付することを検討する。略奪のリスクは、支援対象者のほとんどが物資を受け取った後の終了時に最も高くなる。
受け取った物資に不満を持つ支援対象者	苦情申し立ての手続きについて伝える。できればこれは関係するコミュニティの代表者によって管理されるべきである。

*訳注：葉にアルカロイドを含み、アフリカ等で嗜好品として使用される薬物の一種

参考文献

ICRC, EcoSec Handbook – Assessing Economic Security, Geneva, 2017:
<https://shop.icrc.org/ecosec-handbook-assessing-economic-security-pdf-en>.

ICRC, EcoSec Handbook, EcoSec Planning, Monitoring and Evaluation, Geneva, 2019:
<https://shop.icrc.org/ecosec-handbook-ecosec-planning-monitoring-and-evaluation-pdf-en>.

ICRC, EcoSec Response, Geneva, 2020: <https://shop.icrc.org/ecosec-response-en-pdf>.

10.4 送金と現金の輸送

食費や宿泊費などの経費の支払いや活動を遂行するため（ボランティアや業者への支払い、支援対象者への現金の給付など）に、活動中に現金を持ち歩かなければならぬことがある。その現金は、不安定な状況下で貧困の中で暮らす人々にとって非常に魅力的なものに映るため、犯罪者を引き寄せる。国によっては、少量の外貨でも、国内通貨に両替すると大量の紙幣の束になることがある。現金でしか支払えないものもあるが、今日のテクノロジーは、支援対象者や供給者に物理的にお金を届ける代わりとなる、さまざまな送金手段を提供している。たとえば、現金を携帯電話やカードに入金し、受取人は後でそれを換金することができる。

人道的な支援の目的にどのような現金送金システムが使用されているか？固有のリスクとは何か？また、それらのリスクをどのように軽減できるか？

10.4.1 送金システム

ICRCでは、モノの代わりに現金や商品引き換え券を配付することがますます一般的になりつつある。現金と商品引き換え券を配付すれば、人々はその時に必要な商品やサービスを手に入れることができる。どういった送金方法が適切かは、実際の制約とセキュリティ状況によるが、大量の現金を輸送したり、配付場所に大勢の人が集まることを回避することが可能なシステムがほとんどである。ただし、そのための技術的な手段（携帯電話、カード、権利を証明する文書）と、銀行、携帯電話プロバイダー、現金受け取り窓口などの金融サービスプロバイダーが必要となる。これらの送金システムが支援対象者にとって適切でない場合、あるいは紛争地域で送金システムが利用できない、あるいは機能していない時には、現金または商品引き換え券を直接配布するか、物資を配付する方が適切である場合もある。

多額の現金を現場に持ち込むのは、あらゆる選択肢を検討した上で、最後の手段としてのみ行うべきである。

現金あるいは商品引換券の配付の典型例⁴⁸

メカニズム	内容
現金の直接給付	現金は、ICRC の建物の敷地内または現場で支援対象者に直接手渡される。
窓口での現金給付	現金は銀行、郵便局、送金会社などの金融機関から支援対象者に個人的に渡される。この方法は通常、電子送金ができない、もしくは適切でない場所で検討される。
銀行口座	現金は、既存の口座またはプロジェクトのために開設された口座を使用して、支援対象者の銀行口座に直接送金される。銀行口座を通じた現金送金は、受取人の数が少なく、その受取人が銀行口座にアクセスできる場合に適している。
キャッシュカード	カードにはあらかじめ現金がチャージされており、支援対象者は ATM で現金を引き出したり、店頭で POS 端末を使って商品を購入したりすることができる。カードは受取人の銀行口座にリンクされている場合もあれば、そうでない場合もある。
モバイルマネー	現金は支援対象者のモバイルウォレットに送金される。入金されると金融機関で現金に変えたり、商品やサービスの支払いに直接使用したりできる。
紙の引換券	紙の引き換え券には、交換できる商品またはサービスの種類が示され、事前に選定された店や ICRC が運営する販売会などで、設定された数量または価格の商品と交換できる。
電子引換券	電子引換券は電子送金の一種で、提携する配付拠点でカードまたはコードを電子的に引き換えることができる。配付業者には自動的に払い戻しが行われる。現金または商品の価値を記載することができ、さまざまな電子デバイスを使用して引き換えることができる。

10.4.2 送金に伴うリスク

支援の一形態として現金の送金を行う場合に内在するリスクは、多くの点で物資の配付に伴うリスクと似ている。あらゆる種類の支援と同様、現場の情勢を徹底的に分析し、プログラムを慎重に計画し、関係コミュニティを巻き込み、透明性をもって支援対象者を選択し、適切な苦情処理メカニズムを構築し、プログラムを綿

⁴⁸ 出典 : ICRC, EcoSec Response, Geneva, 2020, p. 114: <https://shop.icrc.org/ecosec-response-en-pdf>.

密に監督することで、これらのリスクを軽減することができる。この種の支援には当局、紛争の主要当事者、そしてもちろん支援対象者の同意が必要である。配布は、当該国の法律および規制に沿ったやり方で行わなければならない。

多額の資金を送金する必要がある場合は、可能な限り電子送金、銀行送金、またはバウチャー（引換え券）を使用する。

しかし、たとえこれらの条件がすべて満たされていたとしても、現金を渡すという支援には多くのリスクが伴い、あなたと支援対象者を危険にさらす可能性がある。

市場の不安定化：現金給付プログラムを設定するための重要な前提条件のひとつは、現地の市場が現金の直接注入によって生じる需要の増加を吸収でき、価格を上昇させるおそれがないということである。給付による突然の過剰な現金の流入はインフレを引き起こす可能性がある。また、支援対象者とそうでない者の購買力に大きな差が生じることもあり、両者に緊張をもたらす可能性がある。市場分析を実施し、物価を注意深くモニタリングし、状況の推移に応じて給付額を定期的に調整することで、こうした問題を緩和することができる。貨幣供給量の過剰な増加を避けるために、現金援助と物資援助を組み合わせるという方法もある。

データの破損と悪用：手渡し以外の方法で現金を給付すると、特定の物理的リスク、特にロジスティクスに関連するリスクを軽減することができるが、モバイルマネー事業者を介した電子送金の場合は、デジタル空間にリスクが生じる可能性がある。たとえばハッキング、個人データの悪用、盗難などはすべて起こり得る。これには、安全な金融取引を提供する信頼できる金融サービスプロバイダーを選択することで、リスクを減らすことができる。

データ保護：金融サービスプロバイダーを利用すると、支援対象者に一定のリスクが生じる。たとえば、当局が個人データを使用して関係者に損害を与えた場合、企業が個人データを商業目的で使用したりする可能性がある。金融サービスプロバイダーとの適切な契約を交渉することでリスクを軽減できるが、支援対象者にこれらのリスクについて説明し、事前に承知してもらう必要がある。

現金給付を行う場合：

- ・現金の保管と輸送の手順を確認し、関連する規則を遵守する。
- ・給付の方法を決める前に、セキュリティに関することも含め、利用可能な選択肢のそれぞれの長所と短所を検討する。

- ・送金に関連して他の組織が遭遇したセキュリティ上の問題について調べる。
- ・支援対象者が問題なく現金を受け取り、計画した送金メカニズムが支援対象者に適していることを確認する。
- ・送金の詳細（日付、金額など）について知る人を最小限にしておく。
- ・資金が途中で搾取されることなく、本来の受取人に確実に届くように、プロセス全体を綿密に監視する。

10.4.3 現金輸送と直接給付

現金の直接配付には、物資の配付に比べて多くの利点がある。そのひとつは、誰もがそれぞれその時に必要な支援を手に入れられることである。しかしながら、現金の保管や輸送、取り扱いには、盗難、不正、紛失などのリスクが伴う。したがって、他の現金送金メカニズムが利用できないか、もしくは不適切な状況である場合のみ、最後の手段として、支援対象者、業者、または協力団体に対して現場で直接現金支払いを行うにとどめる。直接現金で支払う必要がある場合は、次の予防措置を講じること。

- ・目立たないように進める：現金を配ることを知っている人が少なければ少ないほど、リスクは低くなる。
- ・リスクを分散する：盗難、強盗はどこでも発生する可能性がある。最も基本的な予防策は 2 つあり、a) 現金を一か所に保管しないこと、b) 強盗に渡す用の少量の現金を常に持つておいたり、車や宿泊施設に置いておく、ことである。残りの現金は、同僚の間で分散するか、財布やマネーベルト*、靴などのいくつかの場所に隠して、目につかないように保管する。
- ・予測されないようにする：ルートやスケジュールが予測可能な場合、攻撃を受ける可能性が高くなる。毎回同じルーチンになることを避け、一人で行うことはせず、少なくとも 2 台の車を使用し、乗員の数を変える。
- ・配付の選択肢について慎重に検討する：支援対象者が夜になる前に帰宅できなければならないことを念頭に置き、コミュニティと協力して配付の最も安全な場所と時間を選択する。

*訳注：隠しポケットの付いたベルト

どうしても現金で直接支払いをしなければならない場合は、一度に多額の支払いをするよりも、定期的に少額を支払うほうが安全かどうかを検討する。

参考文献

CICR, Cash Transfer Programming, Standard Operating Procedures, ICRC, Geneva, 2018: <https://cash-hub.org/wp-content/uploads/sites/3/2020/08/ICRC-CTP-SOPs.pdf>.

10.5 医療施設での活動

医療サービスが最も必要となるのは、戦闘が勃発したときだが、皮肉なことにその時が医療が攻撃される可能性が最も高い。暴力は病院、保健センター、医療従事者、救急隊員、赤十字・赤新月社の職員やボランティア、傷病者を襲う。これらの人々は尊重され、保護されなければならないと国際人道法が明確に述べているにもかかわらず⁴⁹、医療施設で活動している場合、看護師、医師、義肢装具士、サポートスタッフの一員であっても、暴力にさらされることがある。問題のひとつは、敵の戦闘員を治療すると再び戦えるようになり、そのおかげで人々があなたの活動の本質そのものを受け入れられなくなる可能性があることである。

ここでは、傷病者に必要なケアを提供するという責務について説明するが、患者の安全というよりも、主にあなた自身の安全に焦点を当てている。

- ・自分の活動に支障をきたす可能性のある主な要因は何か？
- ・職場のセキュリティを強化するために個人的にできることは何か？

本章では、病院、診療所、保健センターの安全管理について説明する。

10.5.1 脅威の理解

医療施設が直面する脅威は、次のような要因によって異なる。

- ・その種類、規模、立地
- ・どのようなセキュリティ予防策が講じられているか
- ・ケアが提供される人々
- ・職員と患者の構成（民族、文化、宗教の多様性、患者に元戦闘員が含まれているかどうかなど）
- ・施設がどの程度質の高い医療を提供できるか

リスクを評価することにより、医療サービス全体を保護するために必要な対策を

⁴⁹ ICRC, Health Care in Danger: <https://healthcareindanger.org>. を参照

選択できるようになる。全体像を把握するには、施設とその弱点から生じる脅威だけでなく、施設の運営方法や紛争当事者による認識に関連する脅威も考慮しなければならない⁵⁰。このようなリスク評価を実行するのは通常、施設管理者、もしくはあなたの上司、または ICRC の現場セキュリティ専門家の仕事だが、あなたにもそれに貢献することが求められる。

紛争地や、暴力が発生しやすい状況下にある地域では、医療施設は次のような脅威に直面している。

- ・武器による直接的または間接的な影響（発砲、爆撃、砲撃など）
- ・火災 - 偶発的または意図的
- ・強盗と略奪
- ・暴力を使って（たとえば）患者を医療施設から強制的に追い出し、医療施設に侵入してくる武器所持者
- ・あなた、患者、または患者の同伴者に対する侮辱、脅迫、身体的攻撃
- ・医療関係者が無料での治療を強いられる、あるいは医療倫理に反する行為を強いられる
- ・ウイルス性出血熱などの重篤で伝染性の高い疾患に感染するリスク、または CBRN による汚染されるリスク
- ・交戦当事者が医療施設を占拠し、軍事目的で使用する

活動地域の医療施設が過去に直面したセキュリティ上の問題について
知っておく必要がある。

10.5.2 一般的な安全対策

ICRC が活動する場所で講じるべき基本的なセキュリティの予防措置は、医療施設にも当てはまる。「武器の持ち込み禁止」の原則、効果的なアクセスの管理、安全なエリアの設置により、他の場所と同様に、医療施設のセキュリティが大幅に強化される。ただし当然ながら、医療の提供を妨げるようなセキュリティ対策であってはならない。

武器の持ち込み禁止

ほとんどの医療施設では、職員、患者、および患者の同伴者を危険にさらす可能性のある緊張やいさかいを避けるために、敷地内での武器の持ち込みを禁止している。ただし、この方針を常に強制できるとは限らない。銃を持った人物が警備員を

⁵⁰ 医療施設における安全管理の詳細については、ICRC の Security Survey for Health Facilities, ICRC, Geneva, 2017: <https://shop.icrc.org/security-survey-for-health-facilities-pdf-en> を参照。

脅した場合、中に入れる以外に選択肢はない。戦闘員が、捜索や逮捕など、軍事作戦の一環として敷地内に侵入することもある。

- ・医療施設には武器の使用が禁止されていることを明確に示す標識があることを確認する。
- ・武器持ち込み禁止の方針を、スタッフ、患者とその家族、すべての紛争当事者、地域のリーダーに時間をかけて説明する。
- ・武装して施設に入ろうとしている人を見たら、思いとどまらせるためにできる限りのことを行う。

医療施設での軍事作戦

国際人道法は、治療を妨げたり遅らせたりしない限り、紛争下に武装した者が医療施設に入ることを明確には禁止していない。つまり軍が医療施設内で捜索や逮捕を行うことは合法である可能性がある。理想的には、軍は軍事作戦について医療提供者と調整を図り、患者やスタッフへの影響を最小限にすべきである。

アクセスのコントロール

正面玄関の位置と構造は、安全管理と患者の流れの両方にとって非常に重要である。安全管理において、予防措置は特定された脅威を反映する必要があり、かつ医療的なトリアージを妨げるものであってはならない。トリアージは安全管理システムとは別に、緊急時に医療施設が大量の負傷者の到着に対処できるように設計されていなければならない。

効率的なアクセスコントロールによりセキュリティが強化される。

理想的には、施設の敷地へのアクセスは、スタッフ、患者とその家族、傷病者を搬送する車両に制限されるべきである。多数の負傷者が到着したときは、患者を速やかに入れることを優先し、施設内の混乱を避けるために、家族の立ち入りを制限または禁止する。訪問者とスタッフの駐車

スペースは、施設の外、セキュリティコントロールの前に設置する。セキュリティチェックは訓練を受けた担当者が実施し、危険を知らせる警告システムが必要である。警備員の主な仕事は、人の立ち入りを管理し、異常事態が発生した場合に報告することであり、トリアージなど医療従事者が通常行う業務を実行したりすることではない。

アクセスコントロールのシステムが、スタッフや患者にとってセキュリティ上の問題を引き起こしていると感じる場合は、必要に応じて改善できるよう上司に相談する。

- 警備員が仕事をしていない、またはいるべき場所にいないことを察知した場合は、警備員を管理する責任者に知らせる。
- 新しい患者を受け入れたときは、後で問題が発生しないように、患者またはその家族（支払いが必要な場合）に支払いの問題を明確にする。
- 危険を警告するシステムがどうなっているのか調べる。

安全エリア

特定のエリアは、許可されていない人や武器を所持している人の立ち入りから保護されなければならない。どこにそのような保護が必要かは、施設が提供するケアの種類と状況によって異なる。たとえば病院の場合なら、これらのエリアには、手術室、集中治療室、薬局、電気および給水システムが含まれるであろう。

安全エリアがどこにあるのかを確認する。のようなスペースがない場合は、設置する必要があるかどうかについて上司に相談する。

緊急時に避難できるスペースを作つておくこと。
これは、施設の中心か、容易にアクセスできる場所に設置するのが理想的で、専門家によって設計され、その土地の脅威に対応する必要がある。ただしすべての患者を収容できる安全なスペースを作ることは不可能なので、直接的な脅威がある場合には、建物から一時的に避難するなど、他の措置を講じる必要がある。

10.5.3 活動場所の安全確保におけるあなたの役割

セキュリティシステムの弱点を特定する

安全な環境で患者を治療しようとする場合、単に医療上の役割を果たすだけではいけない。本来の活動が忙しいため、職場環境のセキュリティについて考える時間

セキュリティ上の問題を報告しなかった場合、同じ問題があなたや同僚に再び降りかかる可能性がある。

は通常あまりない。しかし、状況が突然悪化し、ニーズが最も高まるときこそ、セキュリティを強化する必要がある。医療専門家としてあなたはおそらく、セキュリティ予防措置の弱点や、ケアの提供を妨げる可能性があるものを特定するのに最も適した立場にある。たとえば、あなたは照明が医療施設の機能とセキュリティに不可欠であることをよく知っている。したがって、照明に関連する障害があればそれを報告し、電気が途絶えた場合に備えてバッ

クアップのシステムがあることを確認し、その使用方法を知っておくことが重要である。また、ドアを施錠できるかどうかを定期的に確認するだけで、いつか命が助かるかもしれない。また、職場を点検してセキュリティの抜け穴がないかどうかを確認することもよいだろう。

- ・批判的な目で職場環境を調べる。セキュリティ対策が欠落しているか、不適切または過剰であると思われる場合、あるいは追加の対策が必要であると思われる場合は、上司に相談する。
- ・建物への侵入者などの危険な状況を想像し、それを防ぐために個人的に何ができるかを考える。
- ・重篤な感染性の高い疾患（ウイルス性出血熱など）の患者の看護に携わる仕事をしている場合、または CBRN による汚染が発生した可能性があると思われる場合は、その分野における ICRC の安全手順について調べ、必ずそれらに従うこと。また、それらに改善点があれば遠慮なく提案すること。

医療を尊重するよう促す

紛争当事者、当局、地元住民があなたの活動や傷病者を尊重する場合にのみ、満足のいくレベルの安全確保が得られる。したがって、あなたが活動している施設に

率先して行うこと：

自分の活動と医療の公平性が確実に認められ、尊重されるように、地元住民と紛争当事者の意識を高めるよう努める。

に対する世間の認識には最大限の注意を払う必要がある。同僚、患者、その家族の意見、そして、そうした人々の間に生じたいさかいや口論に注意深く耳を傾ける。それらはすべて、貴重な情報源となる。自分の活動と医療の公平性が確実に認められ、尊重されるよう、一般の人々や紛争当事者の意識を高めることも良いアイディアである⁵¹。赤十字・赤新月社のボランティア、地域社会のリーダー、伝統的および宗教的指導者なども巻き込み、武装した組織や勢力を担当している同僚にも相談する。医療施設は軍事目標ではなく、傷病者と同様に尊重されなければならないことを再認識してもらう。

⁵¹ 以下を参照のこと。 ICRC, World Medical Association, International Committee of Military Medicine, International Council of Nurses and International Pharmaceutical Federation, Ethical Principles of Health Care in Times of Armed Conflict and Other Emergencies, 2015: <https://www.wma.net/policies-post/ethical-principles-of-health-care-in-times-of-armed-conflict-and-other-emergencies/>.

メディアがあなたの医療活動について住民に正しく情報を提供すれば、医療の公平性に対する理解を深め、誤解を解くのに役立つ。ただし、ジャーナリストとのやり取りにおいては、情報を交換する前に倫理的配慮と守秘義務を徹底する必要があり、メディアとの接触が施設、スタッフ、患者にリスクをもたらさないことを確認しなければならない。

- ・自分が直接の攻撃対象ではなくとも、患者やその家族が受けた言葉による脅迫に注意し、上司に報告する。
- ・病院の外で出会った戦闘員、接しているコミュニティ、あなたの家族などと話し、あらゆる機会を利用して、医療の公平性と医療を保護する必要性を説く。
- ・定期的に意識向上のためのキャンペーンを実施し、提供するサービスの種類、医療従事者の役割、活動の公平性について、一般大衆や主要な個人、団体に知らしめる。

守秘義務を尊重する

医療情報の守秘義務を尊重することは、患者の安全と、間接的には自分自身の安全を守るために不可欠な要素である。ただし、当該国の国内法が優先される場合もある。銃創やいくつかの感染症など、特定の傷病について当局に報告することを医療従事者に義務付けている国もある。また、部下の一人の様子を知りたいと言ってくる上官がいるかもしれない。患者に関する情報を提供する場合は、どんな情報であれ、提供する前に患者本人、それが不可能な場合には患者家族に口頭で同意を得る必要がある。患者または家族が拒否しても、とにかく情報を提供しなければならない場合は、その理由と起こり得る結果を説明しなければならない⁵²。患者に関する情報を第三者に提供する場合は、上司に相談する。

異常な出来事があれば報告する

ICRC は、新たな種類の傷病や、現地の治安状況に関する情報源となり得るものはすべて把握する必要がある。たとえば、誰かが地雷によって死亡または負傷したことが周知されることで、これまで把握されていなかった地雷原の存在が明らかになり、多くの人の地雷による被害を防ぐことができる。感染性の高い疾患（麻疹、出血熱など）に罹患している患者が多数見られたり、CBRN汚染の症状を示す患者がいたり、ある疾患の死亡率

自分だけがアクセスできる特定の情報を、労を惜しまず上司に伝えることで、多くの命を救うことができる。

⁵² ICRC の以下を参照のこと。Domestic Normative Frameworks for the Protection of Health Care, ICRC, Geneva, 2015: <https://shop.icrc.org/domestic-normative-frameworks-for-the-protection-of-health-care-pdf-en>.

が通常より高い場合も同様である。脅迫や侮辱など、医療の提供を妨げる可能性のある出来事は、たとえ軽微に見える場合でも必ず報告すること。

10.5.4 強行侵入



あらゆる手段を講じて侵入を阻止したにもかかわらず、武器を所持した人物が施設内に強行侵入する状況に対処する準備をしておく必要がある。何をすべきかは、状況と侵入者の目的によって異なる。

次のいずれかが選択肢となる：

- ・逃げる
- ・安全な場所に避難する
- ・隠れる
- ・交渉を試みる

武器を所持した人物の合法的な立ち入りと不法な侵入の違いを知っているのは良いことだが、彼らに対して国際人道法を説いてもあまり意味がなく、怒らせることになりかねない。あなたの命が差し迫った危険にさらされていない限り、最善のアプローチは、冷静さ、外交力、コミュニケーション能力をすべて発揮して状況を開することである。

状況の悪化を防ぐ最善の方法は、相手の要求に反対したり遮ったりせずに注意深く聞き、相手の感情を引き出すことである。

- ・侵入に対するアラートシステムがどうなっているかを調べる。
- ・2種類の異なるテクノロジーによる通信手段が、正常に機能することを確認する。
- ・避難経路、安全エリア、救助を求める手段（非常ボタンなど）を把握し、警報システムが適切に作動することを確認する。
- ・非暴力的なコミュニケーション手法について調べ、状況が許せばそれを用いる。

10.5.5 砲撃と空爆

いかなる予防措置も、激しい砲撃や空爆から医療施設を完全に守ることはできない。ただし、特定の措置を講じることで、近くでの砲撃や空爆による被害を軽減したり、防ぐことができる。すべての医療施設は、施設の安全性が損なわれない限り、医療施設であることを明確に表示し、それを適切な距離（空からを含む）から認識できるようにしなければならない。施設のGPS座標は、さらなる危険にさらされない限り、すべての紛争当事者に伝え、必要な予防策が講じられるようにする必要がある。

- ・当該エリアにおいて攻撃があった場合に避難できる非常口と場所を明らかにしておく。
- ・同じテクノロジーに依存しない2つの異なる通信手段が正常に動作していることを確認する。
- ・爆発時のガラス破片の飛散を減らすために、粘着性のあるプラスチックフィルムを窓の内側に貼り付ける。土嚢などを使って爆破壁を構築することを検討する。

10.5.6 医療施設での活動：自身への5つの問いかけ

1. 活動地域での医療の提供を妨げるインシデントはあったか？もしそうなら、それはどのような出来事か？
2. 自分の医療施設はどのようなイメージを周囲に与えているか？
3. 安全管理の違反はなかったか？もしあったなら、それを上司に報告したか？
4. 緊急時の避難経路や避難できる場所を知っているか？消火器や発電機などの緊急用機材の使い方を知っているか？
5. 攻撃的な人々をうまく扱うことができると思うか？

参考文献

ICRC, Protecting Health Care: Key Recommendations, ICRC, Geneva, 2016: <https://shop.icrc.org/protecting-health-care-key-recommendations-pdf-en>.

ICRC, Ensuring the Preparedness and Security of Health-Care Facilities in Armed Conflict and Other Emergencies, ICRC, Geneva, 2015: <https://shop.icrc.org/ensuring-the-preparedness-and-security-of-health-care-facilities-in-armed-conflict-and-other-emergencies-pdf-en>.

ICRC, Security Survey for Health Facilities, ICRC, Geneva, 2017: <https://shop.icrc.org/security-survey-for-health-facilities-pdf-en>.

10.6 収容所訪問



刑務所や拘束場所などの収容施設が堀で囲まれていて安全が保障されているという単純な事実は、収容施設が他の場所とは異なることを意味する。訪問して被拘束者のために活動を行うには、収容施設の環境とそこにいる人々の特徴を把握しなければならない。ほとんどの人は収容施設の内部について詳しくないため、収容施設は訪問者にとって特に危険な場所であるという誤った認識がある。

確かに、同じ収容施設は 2 つとしてなく、その方針も活動地の情勢によって異なるが、すべての収容施設にはいくつかの共通点がある。施設内の環境とあなたがさらされる可能性のある危険についての簡単な説明に続いて、本章では、訪問を慎重に準備することの重要性と、当局と被拘束者の両方の信頼を得る必要性を強調する。また、セキュリティに関するヒントもいくつか含まれているため、訪問前に読んで理解しておくとよい。

本章では、多数の人々を収容するすべての勾留場所を対象とし、勾留権限の種類や被拘束者のカテゴリー（再勾留中の囚人、有罪判決を受けた者、刑法上の勾留者、

保安のための勾留者、または武力紛争または暴力に関連して逮捕された者など）を区別しない。

被拘束者を訪問する目的

ICRC が被拘束者を訪問する目的は、収容された人々が適切な勾留条件下で生活し、人道的に扱われているかどうかを確認することである。そのためには、拘束されている場所で直接面会し、収容当局との建設的な対話が必要となる。私たちはすべての被拘束者を対象としているが、特に武力紛争や暴力に関連して収容されている人々に重点を置いています。なぜなら、他の被拘束者と比較して、虐待や行方不明になる危険にさらされていることが多いからである。

10.6.1 複雑な問題

ICRC が活動する多くの場所、特に状況が不安定な場所では、司法制度と拘禁制度が被拘束者を適正に扱うことに対して十分ではない。また、被拘束者の数は非常に多く、資金不足であることが多いために建物は老朽化して維持管理もうまくできていない。職員は正式な資格がなく、軽視されている。それに加えて、収容施設はしばしば非常に混雑しており、施設の一部の内部の警備など、特定の被拘束者に任せられている業務さえ存在する。こうした被拘束者は多くの場合、職員と同等か、それ以上の権限を持っていて、一部の「自主管理」刑務所では、武器を所持していることもある。

しかし、被拘束者が数百人であろうと数千人であろうと、収容施設は力関係を含むあらゆる構造を備えた社会の縮図である。被拘束者の中にはグループを組むものもいれば、敵対する者もいる。それぞれのグループには、通常その利益を守るために 1 人以上の代表者がいる。

収容施設は、複雑な権力関係と問題を抱えた、安全を保障された勾留場所であり、すべては複数の要因に基づいてバランスが保たれている。麻薬、汚職、密輸、個人や集団間の暴力、外部から持ち込まれたギャング抗争など、部外者が被拘束者の日常生活を想像するのは難しい。被拘束者と職員はさまざまなやり方で共存している。

収容施設では、高等教育を受けている人にもそれほど教養のない人にも出会うであろう。皆、共感され、尊重される権利を持っていると同時に、いくつかの特有の特徴があることを認識しておく必要がある。

- ・暴力歴のある人もいる。
- ・精神疾患を抱えていたり、自制心がほとんどない人もいる。
- ・異性との接触がほとんど、またはまったくない。
- ・絶え間ない監視、自由の欠如、外の世界の空気を触れることができないなど、閉鎖的な環境のせいで日々の生活は簡単ではない。
- ・深い不公平感、家族を養うことことができないこと、家族との別居、先の見通しがたたない、などで生じる強い憤りがある。

収容施設は閉鎖空間であるが、密閉されているわけではない。
あなたの言動はすべて、被拘束者や職員だけでなく、外の世界にも
知られる可能性がある。

10.6.2 収容施設訪問に伴うリスク

収容施設で直面する脅威は、次のようないくつかの要因によって異なる。

- ・施設の種類と規模
 - ・収容されている人々のプロフィール
 - ・内部の安全管理上の予防措置と状況
 - ・当局の能力（財政的および人的資源）
- など

脅威は外部の状況にも関連する。

勾留の目的と収容人数によっては、勾留場所には危険が伴う場合がある。たとえば、劣悪な衛生状態（換気不足、不十分な衛生設備、不十分な医療サービスなど）によって過密状態が悪化すると、伝染病の蔓延のおそれがある。停電、食料や水の提供に関する問題、訪問の制限、攻撃に対する暴力的な反応、あるいはその他の異常事態が発生すると、不満が噴出する。また、被拘束者は洗練された武器は持っていないかもしれないが、尖らせた鉛筆や硬い木片やプラスチック片など、相手を傷づけることができる物を手に入れることができることにも注意する必要がある。

ほとんどの被拘束者にとって、人道支援団体からの訪問は外の世界への窓であり、人間性や存在を認めてもらえる場となる。外部から来た人が敬意を持って挨拶してくれるという単純な事実を、自分の尊厳が少し回復したと理解し、その結果あなたの訪問が感謝されることがよくある。何よりも、グループ、あるいは個別に会話をする機会となり、その後、自分たちの待遇や生活条件が改善される可能性がある。ただし、一部は ICRC に対して否定的な認識を持っているか、繰り返し訪問しても期待していた改善がもたらされなかつたために、疑惑や敵意を抱くことも予想しなければならない。とはいっても、人道支援要員が受ける深刻なインシデントは稀で、受けたとしても、無礼な態度や侮辱、唾を吐きかける行為などが多い。

収容施設における主な脅威 (すべてを網羅したリストではないため、活動地の情勢に応じて変更)		
自分に特有のものではない脅威	外部	災害 重火器による攻撃を含む武力攻撃（当局に対するもの、被拘束者に対するもの、または特定の被拘束者の解放を目的とした）
		暴動、暴力的な衝突
	内部	火災
		伝染病、流行病、パンデミック（下痢、結核、コレラ、SARS など）
自分に特有の脅威	内部 ⁵³	侮辱、唾吐き、排泄物の投げつけ
		侮辱的なジェスチャー（性的な場合が多い）
		頼み事
		物理的攻撃
		人質に取られる

他の活動と同様、リスクを軽減するには、何よりも活動地の情勢を完全に理解する必要がある。さらに、あなた自身が潜在的なリスクの源にもなり得る。不適切な行動、計画性に乏しい援助物資の配付、あるいはあなたが所有する情報の不適切な管理、特に守秘義務の不徹底は、あなた自身を重大な危険にさらすおそれがある。

⁵³ 被拘束者の家族は、施設の入り口で座り込みやその他デモなどを行うことで、ICRC に対する不満を表明することがある。こうした状況は、適切に対処しないと厄介な事態に陥る可能性がある。

敬意と共感を示すということは、お人好しになったり、収容施設での暴力の可能性を無視することを意味するものではない。

10.6.3 訪問前に

収容施設に入ると、安全は保障されるが、自由に移動することはできなくなる。

したがって、事前に訪問の準備をしておくことが重要である。

決めておくべきポイントは以下のとおり：

- ・チームリーダーを誰にするか
- ・チームに誰が参加するか（計画した活動と、同行可能な人材のプロフィールに応じてメンバーを選択する）
- ・正確な役割と責任
- ・ブリーフィングとデブリーフィング
- ・問題やインシデントが発生した場合にとるべき措置

特に ICRC が初めて訪問する施設の場合は、事前にすべてを慎重に計画する必要がある。

チームリーダー：施設訪問は通常、特に収容状況を最初に評価する際は、リーダー、医療専門家、水/衛生の専門家、栄養士、通訳などの部門横断的なチームを構成する。したがって、訪問が円滑に進むことを保証し、特に安全に関しての連携などあらゆることに対処、管理する責任者を決めることが重要である。チームリーダーは、メンバーに訪問の目的と安全上の問題について説明しなければならない。

安全の保障：訪問は事前に収容当局に通知しなければならない。紛争地域では、通常の安全の保証を得るほかに、紛争当事者から、滞在中に施設を攻撃しないという特別な保証を得る必要がある場合もある。いずれにせよ、収容所は軍事施設ではないため、攻撃は国際人道法の違反となる。

服装規定：収容施設を訪問する際、服装は特に重要である。地元の文化に従うことに加えて、施設の特殊な性質を念頭に置く必要がある。活動地がどこであろうと、被拘束者は異性との接触がほとんど、あるいはまったくないことを心に留めおくこと。服装が派手ではなく、より「保守的」であればあるほど、不適切な外見や身振りをするリスクが少なくなる。

個人のプロフィール：収容当局や特定の被拘束者が怖いなどの理由で、施設訪問に不安がある場合は、チームリーダーに相談すること。本人の限界と性格、見込まれる脅威を考慮してチームを編成するのがチームリーダーの仕事である。

識別：原則として、自分自身を識別するために常に ICRC のロゴを身に着ける必要がある。しかし、被拘束者によっては、対応する際に、ICRC のロゴが利点というよりもリスクとなる可能性があり、外した方が賢明な場合がある。これについては事前に検討する必要があり、身に着けない場合は上司の承認が必要である。

情報：これまでに行われた訪問の報告書には、被拘束者の状況、施設内の監視システム、治安状況、被拘束者同士の関係、被拘束者と職員との関係など、重要な情報が豊富に含まれている。施設の概略図もあり、位置を把握したり、問題が発生した場合にチームが集まる場所や避難できる場所を決めたりするのに役立つ。ただしそのような図面を作った場合でも、被拘束者に会う前に、まず施設内を一度見て回る必要がある（下記参照）。図面はたとえ大まかなものであっても機密文書であり、適切に扱われなければならない。

通信：許可されている場合でも、電話や無線機を施設内に持ち込むのは一般的ではない。これらのデバイスは、盗難のリスクや、会話を録音しているとの非難を受けるなど、問題の原因となる。つまり、施設内では対面でのコミュニケーションを取る必要があるということである。したがって、チームのメンバーはそれぞれどこにいても常に見つけられるようにしておかなければならず、すべてのチームメンバーは移動についてリーダーに通知しなければならないことを意味する。対面でのコミュニケーションがいつどこで取れるかを明確に示すのもチームリーダーの仕事である。リーダーはまた、外で待機しているドライバーに、チームが長時間滞在した場合にどのような行動を取るべきかを指示しておかねばならない。

10.6.4 訪問中

気の置けない知人にディナーに招待されたと想像して欲しい。招き入れられてもいないのに知人の家に勝手には入っていかないであろうし、服装にも少なくとも気を配り、ホストの気分を害さないように適度な敬意を示すであろう。収容施設を訪れるのもこれと同じである。当局、職員、被拘束者に敬意と理解を示し、必要に応じて自分の活動を説明し、相手の懸念に耳を傾けることは自分自身を利することになる。収容施設は職員にとっては職場であり、被拘束者にとっては家であるため、慣例や習慣に合わせることが重要である。

施設職員との関係

当局や施設職員は、人道支援従事者を自分たちの仕事に干渉する「監視員」とみなすことがある。相手の立場になって考えてみると、その仕事がどれほど難しく、負っている責任の重さをまったく理解していない部外者からの評価を嫌がるのは、ごく自然なことである。したがって、相手に理解を示し、進んで相手の話を聞かねばならない。あなたにとって、人間の尊厳を尊重していないと思われることに対して、コメントするのはごく普通の反応であるが、自分の役割を超えず、確立された儀礼と現地の文化の両方を尊重しながら、外交的にコメントしなければならない。そうしないと、当局や施設職員の信頼を失う危険があり、その結果、ICRCのアクセスが断たれる。職員の仕事を批判するのではなく、職員が施設内の状況を改善できるよう支援する存在として、自分の活動を紹介するのがよい。

常に機転を利かせながらも、ICRCが支持する原則については毅然とした姿勢を保つ。

セキュリティチェック

ICRCで活動しているからといって、セキュリティチェック（所持品検査、金属探知機など）が免除されるわけではなく、そのような免除を求めてはならない。また、施設職員がチェックしない場合でも、ペンやノート、被拘束者と家族をつなぐ赤十字通信などの仕事関連のもの以外は持ち込まず、常に注意を怠らないこと。物によっては、それが悪意を持つ者の手に渡ると非常に危険になる可能性がある。特に電話、カメラ、ラジオなど、通常持ち込む際に施設の許可が必要なものがこれに当たる。報告用に写真が必要な場合は、被拘束者が写り込まないように当局に撮影してもらい、承諾を得たら自分に送信してくれるよう依頼する。

ルールは単純：

- ・郵便物を含め、物を持ち込んだり、持ち出したりする前に、収容当局の承認を得る。
- ・施設に持ち込んだものは、すべて持ち出すようにする。

当局はあなたのメモや業務資料を見ることを許可されておらず、たとえ短期間であっても、いかなる理由でもそれらを没収することは許可されていない。もしもこのようなことが起った場合は、訪問を中断し、すぐに上司に報告する。

収容当局との面会

施設に入る前に、担当職員と面会する必要がある。そこでチームを紹介し、訪問の目的とスケジュールを説明することで、担当者とチームとの対話を始めることができる。この話し合いの過程で、相手が自身の責任を果たすことに関してどんな懸念を抱いているか、問題を解決する意欲と能力がどの程度か、またどのような支援を必要としているのかが理解できるようになるはずである。こうした対話は、施設内の治安状況について話し合う機会でもあるため、必要に応じて訪問のスケジュールを変更することもできる。

あなたがすでに持っている情報と、当局があなたをどの程度信頼しているか（またはどの程度信頼していないか）に応じて、次の情報が役立つ：

- ・前回の ICRC の訪問以降の大きな変化
- ・最近発生した事件とその結果
- ・職員がどの程度、セキュリティその他のメカニズムを維持しているのか（被拘束者が監視の役割を担っているなど）
- ・従るべきタイミングと制約
- ・収容されている人々の特徴（厳重な警備が行われている被拘束者、懲戒処分を受けている被拘束者、精神疾患を患っている被拘束者など）と特に取るべき予防措置
- ・グループ間の力関係
- ・施設の概略図と考えられる脱出経路
- ・緊急時対応計画、特定の安全管理規制など

施設管理者は施設内の安全、ひいては訪問チームの安全に責任を負う。ICRCの原則や活動方法に反する場合を除き、相手のセキュリティ関連の勧告を考慮しなければならない。

面会時に、今回の訪問がどのように進められるかについて合意する必要がある。

- ・チームが安全に集まり、進捗状況について報告し合ったり、休憩したりできる、換気の良い日陰の場所の提供を当局に要請する。
- ・被拘束者と個別面談を行うのに最も安全な場所はどこなのか、また被拘束者の視点から見て最も快適な場所はどこなのかを調べる。
- ・救援物資を配付する予定がある場合は、詳細について担当者と話し合うこと。

通訳との連携

対話の質は、通訳との連携がいかにうまくいくかに密接に関係している。あなたが議論を主導しているかもしれないが、会話の最前線にいるのは通訳である。したがって、特に相手が聞きたくないことを言わなければならない場合には、決定があなたまたは ICRC によって下されたことを明確に示すことで、通訳を守らなければならない。通訳は、トラブルを引き起こす可能性のある誤解を防ぐために、あなたの言うことを現地の文化や習慣に合わせて調整する必要がある。

- ・**面接/会議の前に**：トピック、目的、使用する通訳の種類（同時または逐次）について通訳者と擦り合わせておく。
- ・**面接/会議中**：ディスカッションを開始する前に、自分と通訳の役割を説明し、通訳の責任は純粋に対話参加者の発言を伝えることであることを強調する。コミュニケーションをとっている相手に話しかけ、通訳ではなく相手を見て、たとえ通訳が話しているときであっても、相手の非言語コミュニケーションやボディーランゲージに注意を払う。短くて簡単な文で話す。
- ・**面接/会議の終了時**：議論が多少感情的になった場合は特に、必ず通訳と短いデブリーフィングを行う。これにより、会議や面接の感想を交換し、見逃していたニュアンスを拾い上げる機会が得られる。通訳にとっては、緊張を和らげる機会でもある。

施設内見学

被拘束者に会う前、または活動を開始する前に施設内を見学すると、周囲の状況をよりよく感じることができ、前回の訪問からの変化を認識し、現状を把握するのに役立つ。また、非公式に会話をすることで、担当者からの質問に答えたり、誤解を解く機会にもなる。

施設の内部事情に必要以上に立ち入らず、プロフェッショナルであり続けること。内部の力関係や、特に密輸や汚職に関連したものには関与しないようとする。加えて、可能な限り、政治や宗教に関する議論にも立ち入らないよう努める。上記の事柄について質問があれば、遠慮せずに上司にアドバイスを求ること。

担当者があなたに伝えようとするメッセージに注意を払い、時間をかけて質問に答える。

10.6.5 被拘束者との面会

個別であれグループであれ、被拘束者と非公開で面会する前に、施設の職員にアドバイスを求めることが多いこともある。被拘束者のリーダーや監房の取りまとめ役に挨拶に行き、意見を求めるのもよくあることで、彼らは仲間のことを最もよく知っている。重度の精神疾患があるなど、特定の被拘束者に対しては追加の予防措置が必要になる場合がある。

施設の職員は、危険すぎるという理由で、または何の説明もなしに、特定の被拘束者と面会することを思いとどまらせようとする場合がある。それは正しいかもしれない。彼らは被拘束者たちを毎日見ていて、あなたよりも囚人のことをよく知っているということを忘れないこと。そのような提案にどう対応するかは、担当者や被拘束者と、どの程度の信頼関係を築くことができたかに大きく依存する。すべての被拘束者へのアクセスが ICRC の活動において不可欠な部分を形成していることを（礼儀正しく！）相手に再認識させるだけでよい場合もある。

いかなる場合でも：

- ・可能であれば、第三者が立ち会わない状態で秘匿性の高い面会を実施する。
- ・被拘束者との関係を損なうことなく、取り得る最も安全な選択肢を選ぶ。
- ・監房のドアの近くに身を置く。

- ・可能であれば、被拘束者全員が見えるように、壁を背にして座るか立ってしゃべる。
- ・被拘束者の行動に常に注意する。
- ・風通しの悪い場所や日陰のない場所は、可能な限り避ける。
- ・あなたの活動の質は、あなたが被拘束者とどのように対話するかによって決まる。共感を示し、自然で正直であること。

例外的な状況ではあるが、施設職員が近くに留まる必要がある場合がある。この場合は、会話が聞こえないほど十分な距離を置いて、なにか問題が発生した場合にすぐに彼らが介入できるほどの距離を保つ。

被拘束者との直接的な関係が収容所訪問関連の活動の肝となるため、信頼を得ることと、何より相手の意見に耳を傾けることが重要である。

危険な場合

差し迫った危険にどのように対処するかは、危険の種類と周囲の環境によって異なる。

- ・もし被拘束者の行動が気になり、不安を感じ始めたら、その理由を考えてみる。後ほど、または次回の訪問時に継続することを念頭に置き、躊躇せずに（丁寧に）面会を打ち切る。
- ・施設内の緊張の度合いが著しく高まっていると感じたら、活動を中止してチームリーダーを探す。
- ・暴動、火災、攻撃などが発生した場合は、直ちに訪問を中断し、安全な場所を探す。さらなるリスクにさらされると感じられない限り、自分で脱出しようとするのではなく、施設職員、または状況をある程度コントロールできそうな人の指示に従う。
- ・不適切な身振りや、被拘束者が目の前で喧嘩をし出すなど、たとえ軽微であっても異常な出来事があればチームリーダーに報告すること。収容施設でのインシデントがきちんと報告されず、適切な結論を導き出すことが不可能になることがある。

10.6.6 刑務所に入る前に:自身への5つの問いかけ

1. 前回の訪問時の報告書を読み、同僚に当該施設の治安状況について説明を受けたか？
2. チームのリーダーは誰か？いつ、どのように連絡すればよいか？
3. 訪問に適切な服装をしているか？
4. 誰かの安全を脅かす可能性のあるものを持っていないか？
5. 自分が ICRC の職員であることが他人から明確に識別できるか？それは特定の被拘束者に対応する時に問題となるか？

参考文献

ICRC, Protecting People Deprived of their Liberty, ICRC, Geneva, 2016:
<https://shop.icrc.org/protecting-people-deprived-of-their-liberty-pdf-en>.

10.7 キャンプでの活動



国内避難民（IDPs）または難民のためのキャンプは、社会の縮図である。キャンプの住民は、キャンプに到着すると彼ら自身で組織を作り、徐々に数千人の大きな村、数万人の町、時には数十万人の規模にまで大きくなる。町や村と同じように、キャンプには政府やその他の当局、国際人道支援機関、NGOなど、管理や基本的な

サービスを担当する組織がある。安全管理を提供する別の機関も存在する。通常キャンプには、コミュニティ毎の区画があり、それぞれにリーダーがいる。キャンプは孤島ではなく、人々は行き交い、市場に行ったり、薪を集めたり、仕事に行ったり、十分状況が改善したかどうかを確認するために家に帰ったりする。地元の住民との関係は、特に地元住民がキャンプに住んでいる人々と同じレベルの支援を受けられない場合、緊張が高まることがよくある。

キャンプで活動を開始する前に、安全状況を評価しなければならない。これは、その地域の状況、キャンプの場所と規模、キャンプの組織化、利用可能な基本サービス、人口構成などの要因によって異なる。キャンプには武器所持者が侵入することがあり、攻撃を受けることもあり、口論や抗議活動、騒乱も頻繁に発生する。

キャンプが新しいほど、ICRC とその支援活動についてキャンプの住民が知っているケースは少ない。これは、あなたが誰であるか、そしてキャンプで暮らす人々のために何をしているのかを説明するのに常に時間をかける価値があることを意味する。キャンプのリーダー、警備を提供する団体、その他の人道支援団体と、専門的で敬意を持った関係を築くことで、あなたの安全が強化される。基本的にこれは、どこであっても同様に適用されるアプローチである。

以下を実行するとよい：

- ・キャンプのレイアウトと運営方法をよく理解し、安全管理規則があるのかや、問題が発生した場合に警告を受ける手段があるかどうか、避難経路と共に確認する。キャンプによっては独自の安全規定を設けているところもある。
- ・訪問を開始する際には毎回、キャンプの運営責任者および警備責任者に自己紹介し、最新の警備上の問題について尋ねる。大きな懸念事項がある場合は、訪問を続ける前に自分の上司に確認する。
- ・車は常に、最も安全と思われる場所に停め、必要な場合にすぐに逃げられる向きで駐車する。
- ・他のチームメンバーと通信する手段を常に確保しておく。ただし、通信機器の取り扱いは慎重にすること。
- ・キャンプ内を一人で移動しない。必要に応じて、コミュニティ内で尊敬される住民に同行してもらう。

キャンプ内で起こったことはキャンプの外で起こることに影響を与え、その逆も同様である。したがって、直接的、間接的にキャンプの安全に影響を与える可能性のあるものはすべて報告しなければならない。

- ・すべてを注意深く観察し、あらゆる機会をとらえてキャンプで何が起こっているかを尋ねる。
- ・いさかいに巻き込まれないようにする。
- ・状況が悪化しそうと感じた場合、または危険を感じた場合はキャンプから出る。
- ・あらゆるインシデント、およびあなたに対する、または他の人道団体に対する、あるいはコミュニティ間の攻撃の兆候について、上司に報告する。

10.8 遺体の取り扱い



本章は、感染性の高い疾患が流行している地域や、化学物質や放射線物質が使用された状況には適用されない。

自然災害や暴力事態が起きた後、メディアや一部の医療専門家、人道支援従事者は、死体が伝染病を引き起こす可能性に触れ、恐怖を広めることがよくあるが、それは間違っている！しかしどれほど間違っていたとしても、この神話が途絶えることはない。そこから生じた噂により、プレッシャーを受けた人々は、あらゆる場所で消毒剤を使用するなどの不必要な措置を講じるようになる。この圧力は、性急な集団埋葬や火葬にもつながり、後で遺体や埋葬場所を特定することが困難、あるいは

は不可能になる。遺体の不適切な管理は、犠牲者の尊厳を傷つけ、家族や現地のコミュニティがきちんと喪に服すことを妨げる。それは精神的苦痛をもたらし、重大な行政上および法的問題を引き起こす。

10.8.1 疾病のリスクは重視しなくてもよい

一般の人々にとって、死体から感染症に罹患するリスクは非常に小さい⁵⁴。自然災害や暴力事態による犠牲者は、通常、感染症ではなく、外傷、溺死、熱傷によって死亡する。亡くなったときに、たまたま伝染する可能性のある感染症を患っていたという可能性は低い一方で、血液を介して感染する慢性感染症（肝炎やHIVなど）、結核、または下痢関連疾患を患っている可能性はある。したがって遺体を扱う必要がある人は、いくつかの基本的な衛生上の予防措置を講じなければならない。感染症流行のリスクを招く遺体は、そのような感染症が風土病である地域、またはその人がコレラ、エボラ出血熱、その他のウイルス性出血熱、SARSなどの疾患で死亡した場合だけである。

10.8.2 遺体を扱う際の予防措置

遺体を扱うには、専門分野間の横断的なアプローチが必須で、かつこの業務のための訓練を受けていなければならない。どのような医療的予防策を講じるべきかを知っていることに加え、地元の習慣や伝統にも精通し、必要に応じて遺体が誰であるかを確実に特定できるようにする方法も知っていなければならない。遺体を扱うこととは心理的な観点からも非常に難しく、遺体の見た目や匂いがトラウマになるとさえある。さらに、悲しみに暮れた現地のコミュニティは、遺体を処理する人々に対して敵意を表す場合もある。

遺体を扱わなければならない場合：

- ・始める前にICRCの法医学専門家からアドバイスを受ける。
- ・作業環境が安全であることを確認する。
- ・基本的な個人用保護具、少なくとも防水手袋、エプロン、ゴム長靴（消毒マスクは必須ではない）を着用する。
- ・遺体を慎重に、敬意を持って扱う。
- ・遺体の顔や口に手を置かない。

⁵⁴ 実例があるわけではないが、遺体から出た糞便によって汚染した水を飲んだ場合に下痢を発症する可能性はゼロとは言えない。

- ・遺体を扱った後、食事の前には石鹼と水で手を洗う。
- ・再利用可能な衣類や用具はすべて徹底的に洗濯する。
- ・使用した車両を徹底的に洗浄する。
- ・上司に対して、遺体の取り扱いを伴う各種作業の後の報告会を実施するよう要請し、法医学の専門家に相談することをためらわない。

感染性の高い病気が蔓延している地域では、自らを危険にさらすことなく遺体を取り扱うことができるのは適切に装備した有資格者だけである。化学物質や放射線の脅威を伴う災害後にも同じことが当てはまる。

遺体が密閉された、換気していない空間に置かれている場合は、腐敗するにつれて潜在的に危険な有毒ガスが蓄積する可能性があるため、換気が不可欠である。有毒ガス、煙、粒子が存在する場合など、状況によっては特殊なマスクが必要になる場合もある。

慌てて物事を進めない- 遺体がもたらす健康上のリスクは
ごくわずかである。 性急かつ無秩序な方法で遺体を埋葬すると、
後で身元を確認できなくなる可能性がある。

参考文献

ICRC, World Health Organization, Pan American Health Organization and International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies, Management of Dead Bodies after Disasters: A Field Manual for First Responders, ICRC, Geneva, 2016:
<https://shop.icrc.org/management-of-dead-bodies-after-disasters-a-field-manual-for-first-responders-pdf-en>.

10.9 怒っている人の対処

人道支援活動をしていると、怒りを表わにする人々に常に遭遇する。コミュニティがあなたの支援事業の恩恵を受けられないことに怒っている村人や、自分たちが収容所を訪問できないのはあなたのせいだと考えて怒っている被拘束者の親族、あなたが相談しなかったことに怒っている役人、そして自分たちの仲間を治療しなかったと怒っている兵士などに遭遇するであろう。人道支援に関わる者として、相手が受け取る権利のあるものをあなたが与えることを拒否した、と思われて相手を怒らせるリスクを覚悟で、色々な要求を断らなければならないことがよくある。

また多くの場合、それは相手が本当に必要とするものである。相手が武装していたり、飲酒していたり、薬物を使用していたりすると、この状況の対応はより困難に、より危険になる。



10.9.1 人は皆怒る

怒りは、文化に関係なく、恐怖、悲しみ、喜びと並んで、すべての人間が共有する4つの感情のうちのひとつである。誰かが自分を尊重していない、または不当な扱いを受けているという印象を受けると、怒りを感じることがよくある。その結果、フラストレーションが生じ、憤りや攻撃的態度に発展する。相手はあなたに対して怒っている、何かを得ようとしている、あるいは危害を加えようとしているかもしれない。ただし、怒りの理由はおそらくあなたに対してだけではなく、もしかしたら、怒りを誰かに向ける必要があり、あなたがたまたまそこにいただけなのかもしれない。たとえば色々なものの喪失、暴力、度重なる大惨事は、人に無力感、挫折感、絶望感をもたらす。

相手の立場に立って考えてみる。彼らが何を感じているのか、物事をどのように見ているのかを自問してみる。

基本的なメカニズム：怒りと恐怖、悲しみ、喜び⁵⁵

怒り	
その役割	不当な扱いを受けたという感情を表現する：不当な扱いとは、人の価値観、その人に属するもの、その人の領域、または個人的な領分が尊重されていないなど。
時間と場所	今この場所で生じる。悲しみの過程にある場合は、過去に関連している可能性がある。
どう機能しているか	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞いてもらったり、自分の限度を示したりする手段。人に行動を促すこともできる。 怒りが過去の出来事から来ている場合、過去は変えられないため、機能不全に陥る。過去に起きた出来事で賠償を得られなかつた人は、自分自身の怒りに囚われていることがよくある。
欲求	尊重されること、限度を設定して積極的に耳を傾けてもらいたい。
共感的対応	怒りの表現を円滑にし、真剣に受け止めて理解し、必要なら相手の誤りを認識し修正する。
恐怖	
その役割	個人に危険を警告する。
時間と場所	近い、あるいは遠い未来
どう機能しているか	<ul style="list-style-type: none"> 脅威がある場合、人がそれを直視または回避できるようになる。 脅威が現実にはなかったり実際よりも深刻であると認識している、または行動を起こさない場合、恐怖がもたらす効用はない。その状況ではストレスレベルが上がり、制御不能になる可能性がある。
欲求	セキュリティ、保護、サポート
共感的対応	恐怖の表現を円滑にさせ、情報を与え、安心させる。
悲しみ	
その役割	喪失感、別離感、見捨てられた気持ちを経験する。
時間と場所	過去（直近の過去を含む）
どう機能しているか	<ul style="list-style-type: none"> それが悲しみの過程の一部であり、実際の喪失に関連している場合に役立つ。 うつ病や、解決していかない悲しみの過程につながる場合は、機能しない。
欲求	泣き、話を聞いてもらい、支えられ、寄りかかる。
共感的対応	人の悲しみや涙を受け止め、思いやりを示し、その場にいて、その人と連帯する。

⁵⁵ C. Progin, Les Émotions, Centre romand de soutien par les pairs, 2014.

喜び	
その役割	幸福感、満足感、喜び、成功などの感情を共有し、嗜みしめ、感謝し、表現する。
時間と場所	過去、現在、未来
どう機能しているか	<ul style="list-style-type: none"> 喜びを分かち合い、緊張と興奮を解き放ち、ポジティブな出来事を振り返ることに役立つ。 他者のニーズを尊重しない、または状況と関係のない防衛反応（皮肉や軽蔑）である場合は機能しない。
欲求	他の人に、自分の喜びを認識してもらい、受け入れて共有してもらう。
共感的対応	喜びの感情を表に出してもらい、共有し、ともにその瞬間を楽しむ。

10.9.2 手遅れになる前に怒りの兆候に気付く

文化が異なれば、怒りの表し方も異なる。文化的には、自制心や外面向けの礼儀正しさが重要とされ、イライラや怒りの表現を抑えるところが多い。このような文化では、自分に対する敵意の兆候をとらえるのが難しい場合がある。しかし、たとえば当局の役人があなたにお茶を勧めないという事実は、あなたが歓迎されていないことを示している可能性があり、笑顔が礼儀正しさの一部である文化において笑顔がないこともしかしである。

自分に対する敵意の兆候を見出すことも大事であるが、自分の対応が事態を悪化させないようにする必要もある。声のトーンやボディーランゲージなどの非言語的な要素は、多くの場合言葉そのものよりも相手のメッセージの受け取り方に影響を与える。したがって、相手が怒りを表している場合は、自分の態度や身振り、表情をコントロールし、適用される暗黙の行動ルールに従う必要がある。そうしないと、緊張のレベルが上がり、状況がさらに悪化する可能性がある。

その地域の出身でない場合は、地元の文化の中で人々がどのように敵意を示すかを調べる。また、どのような態度や表情が挑発的または侮辱的とみなされるのかも調べる。

10.9.3 自分の感情をコントロールし、他人の感情を鎮める

自分の明晰な頭脳と、感情や行動をコントロールする能力は、厄介な事態に発展する可能性のある状況において、非常に価値のあるものとなる。ただし相手が感情的にあなたの話を聞く準備ができていない場合は、どんなフレーズも役に立たないことに注意。

相手が飲酒または薬物を使用している場合

アルコールや薬物の影響下にある人は、現実に対する認識が異なる。言葉遣いや態度が攻撃的になったり、単純にコントロールを失う場合もあり、合理的な議論や意思決定、交渉は不可能となる。その結果、相手を説得しようとしても無駄になるだけでなく、事態をさらに悪化させるおそれがある。アルコールや薬物が問題になっている地域では、少なくともそれほど泥酔していない午前中に会議を設定するのがよい。

明らかに薬物やアルコールの影響下にある人が自分に対して攻撃的な態度をとった場合：

- ・落ち着いて、声を上げず、相手を刺激しないようにする。
- ・突然の動きや脅迫と解釈される可能性のある動きは避ける。
- ・可能であれば、相手との間に安全な距離を保つ。
- ・交渉を試みない。ただ状況から抜け出す方法を模索する。
- ・役立つかもしれないと思う場合は、食べ物や飲み物を提供する。
- ・相手から離れようしたり、相手に立ち去るように勧めたりする。
- ・相手が非常に脅迫的な場合、特に武装している場合は抵抗せずに言うことを聞く。

怒っている人に対処しなければならない場合

以下の推奨事項は、相手があなたに重大な危害を加える意図がないように見える場合にのみ適用される。武装していて非常に攻撃的である場合は、抵抗せずにただちに相手の言うことに従うこと。

事態の悪化を防ぐという目的に集中する：

- ・ひたすら傾聴に徹する！話を遮ったり、否定したり、正したり、挑発や非難したりすることなく、相手に自分の感情を吐露させること。そうでなければ、相手をさらに怒らせる危険がある。「落ち着け」とは言わないこと。怒りを批判せずに認識し、相手の攻撃的な態度は自分に対してではなく、組織や国際社会に向かっていると自分に言い聞かせる。

- ・敬意を持って接し、警戒を保ちながら状況の説明を求める。
- ・声のトーンに注意してしゃべる。落ち着いて模範を示す。自尊心に負けて相手を怒鳴ったりするのは事態をさらに悪化させるだけである。
- ・顔の表情やボディランゲージをコントロールする。正面から向き合うのではなく、斜めに立つか、座る。相手を見るとときも、不快感や脅威を感じさせないようにじっと見つめない。また、触れたり、指を向けたり、眉をひそめたり、憤慨して息を荒立てたりしない。
- ・恐怖を見せたり、自分を犠牲者のように見せたりすると、相手があなたを支配しやすくなるのでしてはいけない。自信と決意を持っているように見せながら、したてに出ること。相手にとって傲慢に見えてはいけないが、躊躇しているように見えたり、弱気になっているように見えたりするのもよくない。
- ・状況が許せば、もっと静かな場所で議論が続けられるよう誘い、現在いる場所に関係する緊張を取り除く。
- ・より人間的なレベルで物事を捉え、雰囲気を少し変えるために、何か食べ物や飲み物を提供するという選択肢も検討する。
- ・相手が同じことを繰り返し言い続ける場合は、あなたの言葉で簡潔に言い直す。そうすることで、あなたが聞いていること、そして相手の言っていることを理解していることを示すことができる。
- ・相手から直接非難された場合は、事態をさらに悪化させるだけなので、決して自分を弁護しようとしてはならない。あなた、あるいは組織が過ちを犯した場合はその事実を認めた旨を伝え、必要なだけ繰り返す。こちらが過ちを犯したのでなければ、相手が怒っている理由を説明してもらい、それを理解するように努める。
- ・何をするにしても、守れない約束はしない。
- ・解決策を探したいと思っていることを示すか、相手が怒りを向けている事象を検証する意思、または上司と相談する意思を伝える。あるいは単に合意に達することができなかったことを認識するにとどめる。相手の考えに同意することで相手は安心し、双方が前に進むことができるかもしれない。

あなたやその場にいる他の人の尊厳を損なうことなく、相手に面目を保つ機会を与える。

どうしても相手を落ち着かせることができない場合、その問題を相手の上司に報告したり、活動を停止したりするなど、脅しに訴えることが合理的で有効な手段であるかどうかを判断するのはあなたである。ただし、脅しは暴力の一形態であることに注意すること。そうしたやり方は特定の状況では機能するかもしれないが、あなたをトラブルに巻き込む可能性もある。相手はあなたの脅しを個人攻撃ととらえ、さらに怒りを増幅させるかもしれない。

暴力的な口論があった場合は、自分の上司に報告し、必要に応じてどのような措置を講じるかと一緒に決定する必要がある。

11. セキュリティインシデント

ICRC の活動地の複雑さと不安定性を考えると、セキュリティインシデントを経験したり目撲したりすることがあるであろう。もちろん「普通の」事故や医療上の緊急事態のリスクもあり、自分が最寄りのまともな病院から遠く離れた辺鄙な場所にいる場合、その結果はさらに深刻になるかもしれない。そのような状況を防ぐためにできる限りのことを行う必要があるのは明らかだが、事前の準備も必要である。緊急時に何をすべきかを知っていれば、インシデントの影響を軽減し、命を救うことができる。

本章では、インシデントや医療上の緊急事態に効果的に対応するための準備について説明する。

トピック：

- ・即時にする動き
- ・応急処置
- ・ICRC への（できるだけ早い）通知
- ・基本的な心理的サポートを提供する方法とその理由

本章では、意図的な行為に起因するインシデントとそうでないインシデントを必ずしも区別していない。

11.1 セキュリティインシデントとは？

車両への故意の損傷、武器による脅迫、身体的暴力、攻撃、誘拐など。…セキュリティインシデントにはいくつかの種類があり、深刻度はそれぞれ異なる。では、「セキュリティインシデント」とは何を意味するのであろう？セキュリティインシデントとは、あなたや他のスタッフに身体的または精神的な危害を与える、組織に重大な損害を与える、その業務の遂行を妨げたりする可能性のあるあらゆるイベントを指す。したがって、たとえそれがあなたの安全に直接的な影響を及ぼさないとしても、仕事関係の書類の没収や車両の破壊などの行為は、現場へのアクセスや活動を遂行する能力に影響を与える可能性がある。何者かが意図的にタイヤを損傷した場合、パンクは「解決すべき問題」ではなくなり、「セキュリティインシデント」になる。そうなると、これが無差別破壊行為だったのか、それとも ICRC を標的とした攻撃だったのかを知ることが極めて重要になる。

ニアミスもセキュリティインシデントである。それらの銃撃は自分に向けられているという印象を受けたか？ たとえ当たらなかつたとしても、当たった可能性はある。バスルームで感電しそうにならなかつたか？ もしそうなら、明らかに電気系統に問題があり、同じことが再び起こらないように直さなければならない。

すべての出来事が攻撃、銃撃、地雷の爆発、拘束など、意図的な行為の結果であるとは限らない。自然災害、火災、交通事故、感電死など、偶然または偶発的に起るものもある。人道支援に従事する職員の大部分が経験しているにもかかわらず、これらの事故に対してあまり警戒しない傾向がある。疾病についても同様のことが言える。

11.2 インシデントに対処するための準備

11.2.1 応急処置のやり方

一緒に活動している同僚の一人が負傷し、周囲に医療や救急隊の訓練を受けてい人がいない場合、医療の専門家に引き継ぐまで、その人を安定させて避難させるのはおそらくあなたの役割になる。したがって、迅速かつ適切に対応するために必要な基本的な応急処置のスキルを備えていなければならない。つまり、応急処置の研修を受け、忘れないために定期的な再教育の機会を設ける必要がある。

自分にしてもらいたいことを他人にもする。医療上の緊急事態に対処できるよう準備し、応急処置の知識を最新の状態に保つ。

11.2.2 応急処置キットの携行

清潔な応急処置キット一式を準備しておくことが不可欠である。簡単な消毒剤で軽傷の感染を防ぐことができ、患部の観察のために患者の衣服を切り取ったり、即席の包帯を作るための布として衣服の断片を切り取ったりする必要がある場合には、ハサミがあれば貴重な数秒を節約できる。通常、応急処置を行うために高度な医療資材は必要ない。少し機転を利かせれば、布やプラスチックなど、必要なもののほとんどが見つかる。ただし、兵器による脅威が大きく、適切な医療施設がない場所では、高度な応急処置キットが必要になる場合がある。

- ・ICRCが使用する建物やICRCの車両のどこに救急セットが保管されているかを確認し、その使用方法を必ず知っておくこと。
- ・中身がすでに使用済みであったり、不足している場合、あるいは汚れている場合は、必ず責任者に報告する。
- ・あなた自身のための個人用救急セットも用意する。
- ・遠隔地に滞在する前に、汚染された血液と接触した場合に使用する暴露後予防薬を含むレイプ暴露後キットを服用する必要があるかどうかを確認する。最寄りのICRC拠点から48時間以上離れることが予想される場合は、レイプ暴露後キットを持参する必要がある。レイプ発生後72時間以内に薬を服用する必要があるためである。

11.2.3 基本的な注意事項

その場で解決しなければならない問題もいくつかあるが、インシデントが発生した場合に従う手順を知っておくと、貴重な時間を節約できる。医療上の緊急事態や負傷事案が発生した場合の最も強力な武器は、迅速に正しい決定を下すことである。重大なインシデントが起きた直後の数分から数時間は、効率性や冷静さ、正しい対応が、被害を最小限に抑える上で重要である。

緊急時に貴重な時間を失わないために：

- ・事故が起きた場合に従うべき手順をよく理解しておく
 - あなたが事前に理解し、準備しておかねば意味がない⁵⁶。あなたが活動しているエリアで最も近い医療施設の位置を確認する。
- ・オフィス、宿舎、車両のどこに救急セットがあるかを確認しておく。
- ・血液型を記した証明書のコピーとアレルギーのリストを常に携帯する。
- ・緊急時の連絡先を把握し、電話帳を常に携行する
- ・救助を呼ぶための通信機器を常に携帯し、その使い方を必ず知っておく。
- ・応急処置を学ぶ。

緊急連絡先のリストが記載されたカードをラミネート加工し、常に携帯する。

⁵⁶ あなたのオフィスの安全管理規則には、最初に連絡する人（無線室、上司、医療専門家など）を含め、事件、事故、または医療上の緊急事態が発生した場合に従うべき手順が詳細に記載されている。

11.3 インシデントへの対応

11.3.1 セキュリティインシデント

一般的には、どのセキュリティインシデントにも同じ方法を適用することができる。可能な限り熟考し、調整した上で効率的に行動し、自分自身を危険にさらさないようとする。本質的なことを以下に述べる：

1. 自分とチームの安全を確認する。
2. 自分の拠点（職場）に連絡する。
3. 負傷者に対応する。

できるだけ早く自分の職場に連絡する。そうすれば、あなたをサポートし、アドバイスするために必要なリソースを動員し、別の誰かが同じインシデントの犠牲になるのを防ぐための措置を講じることができる。

誰が、何人、何を、いつ、どこで、どのように

- 被害にあったのは何人で、誰なのか？現場には誰が、何人いるのか？
- 医師の診察が必要なのは誰か？（怪我の状況を簡潔に説明する）
- 何が起こったのか？（インシデントのタイプを簡潔に説明する）
- インシデントはいつ起こったか？
- どこで？
- これまでにどのような行動をとったか、また今後どのようにするつもりか？
- すぐに必要な支援は何か？
- 現場の治安状況はどうか？

職場があなたの報告を受け取ったらどうするか？対応の本質と規模は、事件の深刻さと状況によって異なる。

一般に、拠点である職場は次のことを行う：

- ・緊急の行動についてアドバイスを与える（避難のオプション、最寄りの警察署に事件を報告する必要があるかどうかなど）。
- ・あなたを助けるために必要なリソースを動員する
- ・必要に応じて陸路または空路による医療退避を準備する

- ・同様の問題に遭遇しないように、そのエリアで活動している職員や、同じルートを使用する可能性のある職員に警告する。
- ・当局、警察、紛争当事者、その他の人道支援団体など、情報を必要とするすべての団体に情報を提供する。
- ・必要に応じて、そのエリアの安全対策を強化するか、活動を一時停止する。
- ・重案が深刻な場合には、被害を受けた人たちの家族に知らせる。

11.3.2 負傷者を伴うアクシデントまたはインシデント

状況が許せば、ICRC の医療専門家に連絡して指示を仰ぐ（予防措置、応急処置、医療退避の選択肢など）。

1. 自分とチームの安全を確認する

- ・安全なエリアを確保する。
- ・自分自身を危険にさらさず、負傷者の安全を確認する。
- ・自分の手が清潔であることを確認する。
- ・体液（血液、唾液、嘔吐物）との直接接触を避ける。

2. 連絡をとる

- ・できるだけ早く上司に知らせる。
- ・利用可能な手段（無線、電話、運転手、メッセンジャーなど）で支援を求める。
- ・同僚と調整し、役割をできるだけ効率的に分担する。
- ・現場にいる人々に、何をしようとしているのか、その理由、できることの制約について簡潔に説明する。
- ・可能な限り、インシデントの対処が完了するまで、拠点との連絡を維持し、状況を常に知らせるようにする。

3. 負傷者の優先順位に応じた治療（トリアージ）

- ・呼吸困難がある人や出血量が多い人の治療を優先する。
- ・負傷者に状況を説明して安心させる。身体が冷えないよう、気を配る。身体についた水気を拭き取り、日陰に入れる。
- ・意識がある場合は、救命の際のそれぞれの措置について本人に説明する。
- ・負傷者の協力も奨励し、尊厳を尊重して身体チェックを行う。必要に応じて衣服を脱がせて外傷の評価をするが、文化的な恥じらいの気持ちや現地の習慣を尊重する。

- ・負傷者から目を離さない。快適な姿勢にあることを確認する。
- ・応急処置を行う。
- ・負傷者にさらなる治療が必要な場合は、最適な医療施設に搬送できるように手配する。搬送時には、ルート沿いの治安状況を確認し、通知すべき団体に通知する。

常にセキュリティ面を念頭に置き、行動する前に考えてリスクを冒さない。可能であれば、職場と ICRC の医療担当者と連携して行動する。

11.3.3 住民を巻き込んだ交通事故

対応の仕方は状況によって大きく異なる。多くの状況において、交通事故が発生した場合にすぐに行なうことは他の事故の場合と同じである。つまり、安全なスペースを確保し、職場に連絡し、負傷者を治療することである。地域によっては、たとえ軽微な交通事故であっても、現地住民または住民の家畜が巻き込まれた場合、暴力的な反応を引き起こす可能性がある。家畜は多くの場合、家族にとって非常に貴重な財産または重要な生活手段である。場合によっては、すぐにその場から立ち去ることが住民の攻撃から身を守る唯一の方法になることもある。一旦安全な場所を確保したうえで、負傷者を助ける方法を考えて、必要なことを行う。

言い換れば、交通事故に不適切に対応すると、重大な危険にさらされる可能性がある。あなたが活動している地域で従うべき最適な手順については、上司に尋ねること。

一般的に：

- ・危険がふりかかる限り、事故現場を離れず、安全なスペースを確保し、職場に連絡し、負傷者を治療する。
- ・事故を警察またはその他の当局に報告する必要があるかどうかをオフィスに問い合わせる。
- ・警察が現場いる場合は、協力する。
- ・負傷者や損害をこうむった人、および目撃者の名前と連絡先を入手するように努める。
- ・関係者全員の許可を得たうえで、事故現場の写真を撮つておく。ただし、これは危険にさらされない場合に限る。

- ・現場にいる間は誰にも損害を賠償してはならない。家畜の損失や車両の軽微な損傷に対してさえも支払わないこと。
- ・事故の責任をその場で認めないこと。これは、警察、保険会社や裁判所、あるいは ICRC が決定することである⁵⁷。
- ・上司にアドバイスを求める事なく勝手に署名をしない。
- ・車を放置しなければならない場合は、すべて ICRC の所属を表示するすべての備品（マグネット盤の ICRC ロゴ、旗、ゼッケンなど）をはずすこと。

その場で損害賠償を支払おうとしてはならない。これはおそらく後で問題となり、この地域のすべての人道支援団体にとって前例となってしまう可能性がある。

11.4 フォローアップ

インシデントによる影響は、全員が職場に戻っても終わったわけではない。次の最初のステップは、被害者と目撃者に必要なケアと支援を提供し、職員と活動のリスクを最小限に抑えることである。

11.4.1 警告と通知

すべてのセキュリティインシデントを報告する必要があるのはなぜか？

多くのインシデントは報告されない。必要性を理解していない、罪悪感を感じている、批判を避けたい、レポートを書きたくないなど、理由はさまざまである。インシデントを報告すると、ICRC が組織としてあなたをサポートできるだけでなく、同僚もセキュリティに関する重要な情報を得られる。ICRC が持つ情報が多いほど、同様の事件の再発を防止するために、リスク分析やセキュリティ管理、そして活動自体を修正することがより容易になる。たとえば、あなたの職場が当該地域で人道支援車両が攻撃されたことを知っており、状況（場所、時間、方法、暴力の種類、結果など）を認識している場合、特定のルートを避けるなど、どのような予防措置を講じるべきかを決定する立場にある。したがって、職場への警告と通知はセキュリティにとって不可欠なものなのである。

「セキュリティインシデント」に該当するものはすべて、標準化されたインシデ

⁵⁷ 現地の警察は、インシデントに関する費用を一番負担できる側が負担すべきであるという考え方から、あなたに事故の責任があると判断することは珍しくない。

ント報告書のひな型を用いて報告する必要がある。最初のステップは、現場にいた人たちによるデブリーフィングを通じて事実確認することである。

このデブリーフィングの目的は、以下の疑問を明確にすることである：

- ・何が起こったのか？
- ・現場にいた人たちにどんな影響があるか？
- ・犯人（推定）は誰か？
- ・インシデントの考えられる原因は何か？
- ・加害者の動機は何だと考えられるか？
- ・このインシデントは計画的なもの、偶発的なもののどちらが考えられるか？
- ・ICRC、自分のチーム、あるいは自分個人が標的になった可能性はあるか？
- ・前兆はあったか？
- ・このようなインシデントに対処するための十分な準備ができていたか？

インシデントの種類によっては、これらの疑問のいくつかはおそらく回答がないままになるであろう。たとえば、車列が砲撃を受けた場合、責任者を特定し、その動機を見極めることは通常難しい。

すべてのインシデントはできるだけ早く報告する必要がある。全員の安全がそれにかかっている。

事件の全体的な分析を実行するのは上司の仕事となるが、全員の安全を守るには全員がそれぞれの役割を果たす必要があるため、その分析に貢献することが不可欠である。質の高い情報の収集と、事件を取り巻く状況を可能な限り完全に把握するためには、インシデ

ントと自分が犯した可能性のある過ちについてのあなたの認識が不可欠である。これは ICRC が、たとえばインシデントの管理方法に関して、将来同じ間違いを避けることを目的とした結論を引き出すための土台となる。

何を報告すべきか？

あなた自身が被害を受けていない場合でも、インシデントを報告することはできる。意図的な行為の結果であるか事故の結果であるかにかかわらず、フィールドでのアクセスや活動、あるいは ICRC に影響を与える可能性のある異常な出来事が発生した場合は報告する必要がある。たとえば、ICRC を狙った脅迫、行政による異例の妨害、支援対象者リストの没収、住民を巻き込んだ軽微な事件などである。必ずしもセキュリティインシデントとして認定されない場合でも、すべて報告する。これらは安全保障状況の変化に関する貴重な

たとえ、重要ではないと後で判断されたとしても、潜在的な脅威に関する貴重な情報を失う危険を冒すよりも、報告する方が良い。

情報となる。他団体、特に赤十字運動のパートナー社が関与する重大事案や、ICRC の備品や機器の盗難または紛失を報告することも重要である。

セキュリティインシデントが起こる前に、口頭での警告や脅迫が、直接、あるいは暗示的な方法で行われる場合があることを覚えておくこと。たとえそれが軽微なものであっても、相手があなたに送っているあらゆるシグナルに耳を傾けることが重要であるだけでなく、何かしら異常を感じた時には、上司に報告する。一見するとなんでもないように見える小さなことでも、安全管理に重大な関連がある可能性があり、ICRC によってセキュリティインシデントとみなされる場合がある。



11.4.2 ICRC は重大事案にどう対応するか？

誘拐、重傷、死亡、またはその他の重大な事態が発生した場合、ICRC は以下を含む危機管理メカニズムを発動する。

1. 現場の危機管理チーム：通常は当該国首都の代表部を拠点とする
2. ジュネーブ本部の危機管理チーム
3. ジュネーブ本部の幹部からなる危機管理委員会。

これらの 3 構造によって、インシデントに直接関連した必要措置がすべて調整される。

こうした措置には以下がある：

- ・被害者や目撃者に対して、各人に応じた心身両面におけるケアを提供する（負傷者を他国に搬送するか本国に送還するかは、本人の健康状態と現地で利用できる医療施設によって異なる）
- ・遺体の本国送還
- ・家族に対する連絡とサポート
- ・関係者全員（政府、警察、武器所持者、ジャーナリストなど）との連絡と調整
- ・必要に応じて赤十字運動パートナーとの連携
- ・保険など、特定の事務処理
- ・当該地域における安全管理上の支援、および ICRC の任務遂行や活動における必要な変更の実施
- ・誘拐の場合、職員の釈放を実現するために必要とされるすべての行動

11.5 インシデント後の同僚のサポート

同僚の誰かがセキュリティインシデントに苦しんだり目撃したりした場合、どう対応すればよいか？本章では、セキュリティインシデントを経験した人のニーズと、基本的なメンタルサポートを提供することで同僚たちを助けることができる方法について説明する。



11.5.1 基本的な心理的サポート

主にセキュリティインシデントの後に精神的苦痛を受けたり、その他の潜在的な心的外傷を負っている人へのサポートを指す。それは、実践的でニーズに即したものでなければならない。最も重要なことは、共感力と思いやりを持って注意深く話を聞き、批判することなく、抱えている苦しみを表現させることである。あなたが真剣に受け止めていると感じ、自分が受けた暴力もそのように認識されていると相手が理解できるようにすることである。

基本的な心理的サポートが適切に提供されれば、以下のことが期待できる：

- ・**安心感を取り戻す**：暴力から離れた環境で、批判することなく、注意深く思いやりを持って耳を傾けることが慰めの源となる。これにより本人は、インシデントによる精神的ショックをいくらか和らげることができ、安定化のプロセスを進んでいくことができる。
- ・**被害者を「今、この場所この時間」に戻す**：このサポートは、インシデントによって混乱した正常な感覚を被害者が取り戻すのに役立つ。時間と実体の概念を提供し、相手を現在と再びつなげる。
- ・**当面のニーズを特定**：情報が欲しい、家族に連絡したい、清潔な服に着替えたい、休みたいなど、被害者の当面のニーズを特定する。
- ・**ニーズに対応できる資質を持った担当者と連絡を取り合う。**

基本的な心理的サポートとは、セキュリティインシデントを経験した人が落ち着きを取り戻し、再び安全だと感じられるよう支援し、基本的なニーズに応え、情報を提供し、専門的なサポートを受けるのを支援することである。

重要：基本的な心理的サポートとは、人に寄り添うことを意味する。何が起こったのか事実を調査するという意味ではなく、その目的は決して、その人に何が起こったのか詳しく語ってもらうことではない。したがって、実際に何が起こったのかを正確に把握することが目的であるデブリーフィング（事後報告）とはまったく異なる。おそらく、詳細の一部について自発的にしゃべる人もいるであろう。その場合、議論が事実を立証しようとする形式をとらない限り問題ない。

11.5.2 6つの基本的なニーズ

セキュリティインシデントが発生すると、人はショック、強い恐怖、混乱状態に陥る。そのせいで自分の立ち位置を見失うかもしれないし、九死に一生を得たような気分になるかもしれない。もしくは、一貫性をもって考えることや、単純な決定を下すことさえ難しいと感じるかもしれない。したがって、空間的および時間的な自分自身の立ち位置を再確立するために、サポートが必要になる場合がある。全てをしてあげるのではなく、本人と相談しながらその希望ができる限り尊重し、ある程度の緩和につながる措置を講じることが目的である。

セキュリティインシデントを経験した人の 6 つの基本的なニーズは以下のとおり：

1. 安心できる場所でサポートをして欲しい

さらなる暴力から守られる快適な場所で、思いやりをもって受け入れることは、相手を安心させると同時に、事件が終わったと感じさせる。この段階では、守られている、認められていると本人が感じることで、正常な状態への復帰が促進される。また、インシデントによる時間と場所の概念の混乱を、元の秩序立った状態に戻すこともサポートになるであろう。

2. 身体的ニーズ：医療、食事、飲み物

必要な応急処置を受けた後は、息を整えたり、何か食べたり飲んだりするための平静な時間が必要である。安心感を与えてくれる場所に迎え入れられるのと同じように、これは相手を現在と再び結びつけ、インシデントの経験の終わりを告げ、ストレスレベルを軽減する。

3. 情報のニーズ

インシデントはその人の人生を混乱させ、自分の人生がどれほど予測可能なのか疑問に思うようになるであろう。再び安全だと感じ、人生は実際に予測可能であると感じるためには、次のような明確で簡潔かつ一貫した情報が必要となる。

- ・現在の状況、事件発生時に居合わせた人々とその家族：そうした人々はどこにいて、どうしているか？いつになったら話せたり会えるようになるか？起こったことについて自分たちは何を知っているのだろうか？
- ・未来：この 1 時間、この数時間、もしくはこの数日間で自分に何が起こるのだろうか？

4. 感情を受け入れてもらうニーズ

セキュリティインシデントを経験した人は、恐怖、パニック、悲しみ、怒り、恥、罪悪感などの激しい感情の組み合わせを持つ。感情を言葉にするのが難しい人もいるだろうし、人によっては感情を表現することが自分たちの文化にそぐわないかもしないし、また単純に自分の感情を表現したくない人もいるであろう。しかし、こうした感情が自分（被害者）にあり、自身が望んだ場合、批判することなく思いやりを持って聞いてくれる人がいることを理解することが重要である。

5. 経験したことを共有する必要性、または話を聞いてもらいたいと感じるニーズ

インシデントは、被害者に衝撃を与え、感情に深く食い込んでいるであろう。信頼する同僚と内密に話すことは、こうした感情への影響を受け入れ、安心させるのに役立ち、インシデントをコントロールするための健全なアプローチとなる。

6. 答えのない質問の意味を見つけ、回答するニーズ

暴力的なインシデントを経験した人は、一連の出来事を理解しようとはするが、多くの場合「なぜ私なの？」「そうじゃなくてこうしていたらどうなっていた？」などの答えのない疑問を自問する傾向もある。そのような問い合わせに答えようしたり、哲学的な議論に入ろうとしないこと。そういう問い合わせが正常な行為であることを彼らに示しながら、それに対しての自分の判断は示さずに、相手の話を聞くのがよい。言葉をかけるとしたら、次のようなものがある。「そうですね。こうした経験をした後に、自分に対しているいろいろな質問をしてしまう気持ちはよくわかります。」

11.5.3 基本的な心理的サポートの提供

いつ？ インシデント発生後、応急処置が施された後、デブリーフィングの前に可能な限り早く提供する。関係者がそうするのを待つのではなく、あなたが率先して行動すべきである。活動に関するデブリーフィングは、インシデントが発生した当日ではなく、翌日に行う。活動上の問題をその場で解決する必要がある場合は、別の場所で別の業務として解決するのがよい。

誰によって？ 事前にこれらに対応するトレーニングを受けており、ICRC のメンタルヘルスの専門家からサポートを受けている限り、誰でも提供することができる。インシデントに関係した人々があなたを信頼しなければ何の意味もないで、あなた個人がサポートを提供するのにふさわしい人物であるかどうか自問してみる。ファシリテーターの数は対象者の数によって異なり、その割合は、対象者 10 人に対してファシリテーター 1 人である。

誰のために？ 被害者であろうと目撃者であろうと、セキュリティインシデントを経験した人には全員、基本的な心理的サポートが提供されなければならない。

どこで？ 場所はインシデントの種類や状況によって異なる。集まって話すことは、使える施設の有無によって、屋外（木陰など）でも屋内でも行うことができる。参加者が他から見えず、気軽に感情を表現できる場所が望ましい。どうすれば安心できる雰囲気を作れるかを考える。たとえば、砲撃や空爆がからんだインシデントなら、ドアがバタンと閉まるなど、突然の騒音が起こることのない場所を選び、飛行機の音が聞こえた場合は参加者を安心させる必要がある。

手順⁵⁸

すべきこと	すべきでないこと
<ul style="list-style-type: none"> - 最後まで、その場所にいる。 - 参加者の文化と性別を考慮する。 - 思いやりを持ち、参加者の経験に沿って、参加者のニーズに応えるよう努める。 - 落ち着いて、安定した安心感のある口調で話す。 - 明確で簡潔な言葉で話す。 - セッション中もセッション後も、すべてのことは機密事項として扱われることを説明する。 - メモを取りたい場合は、参加者に許可を求め、メモを取りたい理由を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> - 押しつけがましくなったり、発言するように人々に圧力をかけたりする。 - 参加者に自分の感情をコントロールするように指導する。 - 参加者に何をすべきかをいう。代わりに、安全でやすらぎを感じるために何が必要かを尋ねること。 - 絶対に必要な場合を除き、参加者にまつわる決定を下す。 - 守れるかどうかわからない約束をする。

⁵⁸ この手順の概要は、基本的な心理的サポートを提供する訓練を受けた人のための補助的なメモとして作成したもので、トレーニングに代わるものではない。この件に関する詳細な情報については、ICRCのメンタルヘルス専門家に相談すること。

ステップ 1 - 参加者を歓迎する

- ・参加者たちに一緒に座ってもらう。誰かが個別のサポートを希望したり、または一緒に参加できない理由がある場合（たとえば誰かが入院しているなど）を除き、グループを分割しない方がよい。
- ・食べ物や飲み物を提供する。
- ・セッションの目的を説明する。
- ・あなたにとっても参加者にとっても、セッションの内容は機密事項となることを全員に伝える。
- ・ディスカッションは最大で 45 分から 90 分に制限する。

ディスカッションを開始するために使用できるいくつかの例文

- 「少しリラックスして何が必要か、数分間一緒に考えましょう。」
- 「大変なことが起きましたね。とてもお辛いことと思います。」
- 「私は何かを判断するためにここにいるのではなく、話を聞くためにここにいます。」
- 「このセッションであなたがおっしゃった内容は、一切外に出ることはありません。」
- 「私になにかできることはありますか？」
- 「ご気分はいかがですか？」
- 「今何が必要ですか？」

ステップ 2 - 倾聴する

- ・積極的に耳を傾ける。機転を利かせ、共感力と思いやりを持つ。沈黙を恐れない。
- ・議論にはできるだけ加わらないようにする。回復へと進むように努め、相手の経験を自由に共有できるようにする。話したくないということも受け入れる。
- ・何も発言しない人にも注意を払う。そうした参加者もまた、ひどい苦痛を味わっているかもしれない。
- ・回復へと導き、「今、この場所この時間」に他の人々とのつながりを再確立して安心と安らぎを取り戻すことができるよう支援する。

落ち着きのテクニック：人々を「今、この場所」に戻すためのエクササイズ

- 鼻からゆっくりと息を吸う。肺に空気が満たされるのを感じる。次に、口からゆっくりと息を吐き出す。息を吸ったり吐いたりするたびに 4 つ数える。
- 今日の日付を思い出す。
- 周囲の音に耳を傾ける。
- あなたの周りにあるすべての物体（白いもの、緑色のものなど）を観察する。
- 近くにある物を拾ったり、触れたりする。硬いのか柔らかいのか、重いのか軽いのか、温かいのか冷たいのか？ どのような質感を持っているか？ 色は何色か？
- 食べ物や飲み物を味わう。どんな味か？ 匂いはどうか？ その後舌に残るのはどんな味か？
- ハンドクリームを手に塗り込む。
- 頬にかかる毛髪、鼻にかかる眼鏡の重さ、肩にかかるシャツの重さ、心臓の鼓動や足と地面の接触など、体の各部分の感覚を意識して感じる。

ステップ 3 - 懸念事項と当面のニーズを特定する

- ・ たとえば報復など、引き続きリスクにさらされている人がいないかどうかを調べる。
- ・ 意思決定を自分で下すのに支援を必要としている人がいないかどうかを確認する。混乱している人がいる場合は、プレッシャーを軽減し、次に何をすべきかを考えられるように支援する。
- ・ 懸念事項を明らかにし、家族への連絡、清潔な服装、現金、情報、休息など、現実的なニーズが何かを特定する。

ニーズを知るための質問

- 「今、あなたにとって一番良いことは何ですか？」
- 「あなたは何を必要としていますか？」
- 「今、危険を感じていますか？」
- 「ご家族または信頼できる人に連絡をとってみたいですか？」
- 「家まで帰る交通手段はありますか？」
- 「誰か家まで送ってくれる人が必要ですか？」
- 「このあとの数時間、一緒にいてくれる人はいますか？」

ステップ 4 - 誰もが自分の経験は価値があると感じられるように手助けする

- ・相手の感情を思いやりを持って受け止めるが、感情に圧倒されないようにする。たとえば、泣いている人にティッシュを差し出すなど。
- ・参加者が、自分たちに何が起こっているのかを物理的な観点から理解するために必要な情報を提供する。
- ・最も一般的な症状と反応について、以下を説明する：
 - 身体的：発汗、めまい、動悸、胃のむかつき
 - 行動：疎外感、睡眠障害、沈黙
 - 認知機能：混乱、意思決定が困難
 - 感情：恐怖、不安、怒り、パニック、無力感、絶望
- ・これらの反応はすべて全く普通の反応であること、そして、人によって異なり、後から現れることもあるということを強調する。
- ・参加者を理解し、信じていることを示す。
- ・経験した暴力が異常であること、容認できないこと、恣意的であることを明確に指摘する。たとえ経験豊富な人道支援従事者であっても、また成熟した大人、男性であっても[その他現地の情勢・文化に合わせて例を挙げる]、恐れを抱き、何か深刻な事態を経験したように感じるのは正当であり正常であることを強調する。

ステップ 5 - 具体的なサポートを提供し、その担当窓口とつなぐ

- ・現実的な質問にできる限り答える。疑問がある場合は、その質問に対してより適切に回答できる人を紹介する。
- ・各個人のニーズや反応の度合いに応じて、最も適切に支援できる資質を持つ担当者について具体的な提案をする。
- ・必要であれば、本人の同意を得て適切な ICRC の専門家に紹介する。
- ・活動のデブリーフィング（事後報告）や、医療ケアなど、相手の今後の予定にあなたが同行することが可能であることを伝える。たとえば、「もしよろしければ、私もあなたと一緒にいろいろなこと必要なことを手伝えますよ」など。一見大丈夫そうに見える人でも、いざ一人になると物事が難しく感じたり、不安になったりする可能性があることに注意する。

ステップ 6 - セッションを終了する

- ・一緒に過ごしてくれた参加者に感謝する。
- ・次のステップについて説明する。

- あなたが提供できるサポートと、各人に申し出た事柄に関してあなた自身がどの程度関与できるかを説明する。

犠牲者のニーズは頻繁に変わるため、定期的に話し合い、何が必要なのかを確認する。あなた自身のケアも忘れないこと。同僚が経験したこと聞くことは、あなたにとってもストレスの原因になる可能性があり、必要ならサポートを求める。

11.6 暴力が伴うインシデントに見舞われたら

たとえ身体的に負傷していなかったとしても、暴力が伴うセキュリティインシデントを経験したり目撃したりすると、心理的にストレスのかかる経験となる。ショックを最小限に抑え、経験した感情について考えないようにするなど、何事もなかったかのように活動を進めようすると、たとえ短期的な影響はなくても、中期的には安定した状態を損なう可能性がある。将来的に起きる何らかの出来事により、古いトラウマがまったく予期せず再浮上し、理解できないと悩み、不安に襲われたり、苦しみを抱えたりする可能性もある。

- つらい経験をした場合は、医療専門家または信頼できる人に相談する。
- インシデント後、数週間以内にいやな記憶が出たり、あるいはフラッシュバック、悪夢、睡眠障害、パニック発作、恐怖症、うつ病などの症状が現れた場合は、ただちに医療専門家に相談すること。
- 現時点で仕事を適切に行うことができず、回復するためにしばらく休暇が必要であると感じる場合は、上司またはヘルスアドバイザーに相談し、全員のニーズを可能な限り満たす解決策を見つける。

セキュリティインシデントによる精神的負担を軽視しない。たとえ数か月後であっても、ためらわずに支援を求めること。

11.7 セキュリティインシデント:自身への7つの問いかけ

1. 事件や事故、医療上の緊急事態、または外傷を伴う事故に対処する十分な準備ができているか？
2. そのような可能性に、家族を備えさせているか？
3. 応急処置の方法を知っているか？
4. 緊急時に何をすべきかわかっているか？
5. セキュリティインシデントに巻き込まれた同僚をサポートする際の基本原則を知っているか？
6. 支援を求めるために誰に連絡すればよいか知っているか？
7. どのようなことが発生した場合に上司に報告すべきか？その理由は何か？

参考文献

ICRC, First Aid in Armed Conflicts and Other Situations of Violence, ICRC, Geneva, 2008: <https://shop.icrc.org/first-aid-in-armed-conflicts-and-other-situations-of-violence-pdf-en>.

12. 添付資料

12.1 用語解説

赤十字運動

国際赤十字・赤新月運動。この運動の主体は、赤十字国際委員会（ICRC）、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）、各国赤十字・赤新月社で構成されている。

通知（Notification）

軍や武装集団など、安全保障に重大な影響を与える可能性のある組織に、特定地域における ICRC の存在、活動と任務を通知するプロセス。

拠点/職場

大きさや組織図における位置に関係なく、現場に存在するすべての ICRC を指す。これは、当該国や地域で活動指揮を執っている代表部または地域代表部を指すこともあれば、それらの下に置かれた副代表部や、事務所など、より活動エリアを絞った拠点を指す場合もある。

ポリシー

ICRC の源となる文書は、ICRC の活動に永続的な一貫性をもたらし、その使命を遂行する際の予測可能性と信頼性を高める。文書は時の試練に耐えられるように作られているが、ICRC はそれを組織自体の変化や人道支援活動の現実の変化に適応させている。このポリシーの一部を構成する個別の文書の一部は、教義（ドクトリン）として知られている。安全保障問題に関する教義には、現場での安全に関する教義 16 と ICRC の機密性のアプローチに関する教義 58 が含まれる。

リスク

個人の幸福、安全、または組織の目的を達成する能力を危険にさらす可能性のある不確実な出来事。

本書では、繰り返しを避けるために「危険（danger）」と「脅威（threat）」という用語も使用している。

リスク評価（アセスメント）

リスクの特定、リスク分析、リスク評価の全体的なプロセス⁵⁹。

危機管理

リスクに関する意思決定を可能にする調整された活動。

リスク軽減策

リスクを軽減または軽減するための措置。このような措置は、予防的なもの（侵入を防ぐための境界壁など）または事後的なもの（医療退避など）がある。

本書では、リスクを軽減するための措置をセキュリティ予防措置（security precautions）と呼ぶ場合がある。

リスク源

単独または組み合わせて、リスクを引き起こす本質的な潜在力を持つ要素。

セキュリティインシデント

スタッフに身体的または精神的な危害を与えたり、組織に重大な損害を与えたり、業務の遂行を妨げたりする可能性のある出来事。

本書では、意図的な行為に起因するインシデント（セキュリティインシデント）とそうでないインシデント（より正確にはセーフティインシデントまたはアクシデントと呼ぶこともある*）を区別していない場合もある。

*訳注：故意のもの（拉致、誘拐、強盗等）に対する安全を「security」、故意でないもの（交通事故等）に対する安全を「safety」と呼ぶ。

性的指向

性的指向は、異性、同性、または複数の性別の個人に対して深い感情的、愛情的、性的魅力を感じ、親密な性的関係を築く各人の性質を指すものと理解されている⁶⁰。

⁵⁹ International Organization for Standardization, ISO Guide 73:2009, Risk management – Vocabulary, ISO, 2009: <https://www.iso.org/obp/ui/#iso:std:iso:guide:73:ed-1:v1:en>.

⁶⁰ Yogyakarta Principles (2006), Footnote 1, p. 6.

武器/兵器 (Weapon)

身体や重要な機器やインフラに損傷を与えるために設計または使用される物。武器には、ナイフや棒のような単純な手で持つて使うものから、数百キロ離れた目標を攻撃できる複雑な誘導ミサイルまで、あらゆる種類のものがある。

12.2 武器/兵器

12.2.1 武器のシステム

直接射撃兵器

射手がターゲットを視認できる場所で使用するように設計された武器。これらの武器は一般に（常にではないが）間接射撃武器よりも射程距離が短い。これらには、小口径または「軽量」の武器（ピストル、ライフル、機関銃など）、対戦車兵器（ロケット弾、砲弾など）、爆撃機から投下される爆弾（ミサイルや誘導爆弾）がある。

間接射撃兵器

迫撃砲やなど、地対地ミサイルなど、操作する者がターゲットを直接見ることができない場所で使用するように設計された武器。

12.2.2 武器の効果

武器は通常、次のメカニズムのいずれかにより、損傷や傷害を引き起こす。

運動エネルギー

発射物は主に運動エネルギーを使用して外傷や損傷を引き起こす。運動エネルギーを使用するシステムには、小火器の弾薬や特定の種類の対装甲車用の発射体などがある。

一般に、運動エネルギーを使用する発射体は爆発しない。それらはそのスピードと形状を利用してターゲットに突き刺さる。このような発射体がターゲットに当たると、そのエネルギーがターゲットに伝達されて損傷や傷害を引き起こす。

運動エネルギーを使用する一部の弾薬は、他の効果も生み出し、傷害を引き起こしたり損害を与えたりする能力を高める。たとえば、一部の中口径弾には、貫通後に爆発または燃焼するように設計されたものもある。

爆発

爆発による武器は、爆発時に衝撃波を発生する。引き起こされる傷害や損害は、衝撃波の力と方向だけでなく、爆薬の大きさ、そのエリアの地形、（空中から投下された弾薬や、地上で爆発するその他の弾薬の場合）どの高さで爆発したかにも依存する。

傷害や損傷は、衝撃波が人体や構造物に及ぼす圧力の結果として発生するが、破片やガラスの破片の飛来、構造物の倒壊などの二次的な影響により、さらなる傷害や損傷が発生する可能性がある。

断片化

破片による兵器は、微小なものから非常に大きなものまでサイズが異なる破片を放出することによって機能する。損傷や損傷は、これらの破片がターゲットに突き刺されることによって引き起こされる。

断片化は一次的なものと二次的なものがある。一次的断片化とは、爆発によって発射されたときに損傷や傷害を引き起こすように設計された武器そのものが破片となって飛散することを指す。これらのコンポーネントには、武器の容器（破片に分割するように設計されている場合もある）とその内容物（即席爆発装置の場合はボルトベアリング、釘、ナット、ボルトなど）が含まれる。二次的断片化とは、周囲の木、石、ガラスの破片や車両の部品など、爆発装置ではない物体が爆発によって二次的に破片となって飛散するものである。

破片は非常に高速で飛散する。爆発の威力が十分に強力なものでは数百メートル離れたところでも危険が及ぶ可能性がある。一般に、小さな破片は大きな破片ほど遠くには飛ばない。破片は、そのサイズや形状、衝撃の瞬間に伝わる運動エネルギーの量によって、貫通傷や鈍的外傷を引き起こす。

焼夷兵器

焼夷兵器は、燃焼または火災の発生によって外傷や損害を引き起こすように設計されたものである。これらには、航空機から投下された爆弾、砲弾、さらには、ある種の手榴弾も含まれる。焼夷弾には通常、可燃性の成分と、それを発火させるための成分が入っている。白リンは、酸素と接触すると自然発火し、外部発火源を必要としないため、特に危険なタイプの可燃性成分である。

これらの武器は熱傷を引き起こすだけでなく、大量に使用すると大規模な火災を引き起こす。密閉された空間では、燃焼により酸素が消費され、窒息死を起こす。

12.3 内部サポートメカニズム

ICRC では、担当者がいつでもあなたをサポートし、セキュリティ上の質問に回答する。

支援元	どこで何を支援してくれるのか
上司	<ul style="list-style-type: none"> 活動上および個人的なセキュリティについて最初に尋ねる人物。
同僚	<ul style="list-style-type: none"> 経験とノウハウの共有。活動やセキュリティに関するアドバイス。 職務上および個人的双方の問題を支援する。 一部の同僚の役割は安全管理に直接関係する。彼らは、ICRC が活動する場所のセキュリティを担当する場合がある。
人事部	さまざまな場所で <ul style="list-style-type: none"> 契約、給与、保険、ビザ、行政手続き、人事規制、研修など、活動と直接関係のない専門的/人事的な質問の連絡先。
リスク管理アドバイザー	さまざまな場所や立場で <ul style="list-style-type: none"> セキュリティに関する活動および技術サポート（トレーニングの提供を含む）。
法的アドバイザー	さまざまな場所で <ul style="list-style-type: none"> スタッフメンバーの特権と免責。
ヘルスアドバイザー	派遣先で <ul style="list-style-type: none"> 身体的および精神的健康に関するあらゆることの照会先（予防措置、移動上の健康、活動に関する疾病や事故、健康診断、妊娠、心理的サポートなど）。 インシデント後の医療ケア。 基本的な心理社会的サポートに加え、組織内外の臨床心理士または精神科医への紹介。 危機時のサポート。

支援元	どこで何を支援てくれるのか
職員のこころのケア専門家	<p>さまざまな場所で</p> <ul style="list-style-type: none"> - 精神的な健康やパフォーマンスに影響を与える困難に直面しているスタッフへのサポート。 - インシデント後、および危機時のサポート。 - 性暴力を受けたスタッフに対する専門的なサポート。 - 個別の機密性を保った心理相談（対面またはリモート）、または組織内外の臨床心理士や精神科医への紹介。
LGBT 相談員	<p>さまざまな場所で</p> <ul style="list-style-type: none"> - LGBT スタッフに対する機密性を保ったサポート。 - 適切なサポートサービスへの紹介。
ICRC 倫理、リスク、コンプライアンスオフィス (ERCO)	<p>ジュネーブの本部と一部の代表団にて</p> <ul style="list-style-type: none"> - 職員による不正行為の防止。 - 行動規範および関連するポリシーおよび手順の違反の疑いへの対処。問い合わせに対応し、調査を実施する。
オンブズマンネットワーク	<p>ジュネーブの本部と一部の派遣先にて</p> <ul style="list-style-type: none"> - 中立的かつ独立したパートナーであり、同僚との対立、ハラスメント、脅迫、報復、公正な扱い、倫理的または法的问题などの分野での懸念を内密に共有する機会をスタッフに提供する。
申し立て独立機関	<p>ジュネーブ本社にて</p> <ul style="list-style-type: none"> - 懲戒処分に対する上告の訴訟。 - 手順が遵守されているかどうかを確認し、法的拘束力のある決定を下す。

12.4 何を持っていくべきか？

12.4.1 基本書類とその他のアイテム

持っていくものと家に置いておくもの

状況に応じて項目を追加または削除する必要がある。

必須

- 有効なパスポート（複数の国籍を持っている場合は1つの国籍のみ）
- 赤十字または赤新月社のボランティア ID を含む、組織が発行した ID カード
- 組織が発行した ID バッジ
- チケット（航空券等）
- トラブル時の連絡先リスト（国際電話番号を含む）
- 予防接種記録簿
- 血液型を記したカード
- アレルギーリスト
- 常用薬の処方箋
- 着用している眼鏡またはコンタクトレンズの処方箋の詳細
- 少額の現金（通常はドル）とクレジットカード（暗証番号は一緒に持ち歩かない）
- すべての重要な書類のコピー（別にしておく）

推奨

(*利用する交通機関や航空会社、また目的地や赴任地で持ち込み OK であることを事前に確認すること)

- コンセント用アダプター
- 南京錠（鍵ではなく番号組み合わせのもの）
- 現金や書類を収納できる隠しポーチ
- トーチ（できれば巻き上げ式）またはヘッドラップ
- ライター*
- 万能ナイフ*
- 強力粘着テープ
- 紐またはコード
- 再利用可能なウォーターボトル（寒冷地に行く場合は断熱性のもの）
- 長距離を歩くことができる、快適で丈夫な防水靴
- 派手でなく耐久性があり、文化と気候の両方に適した服
- フォーマルな場に出席する際の服装
- 保温ブランケット（寒冷地に行く場合）
- 快適グッズ/気晴らし用のもの（枕、家族や友人の写真、読み物、音楽、ゲームなど）

持っていくものと家に置いておくもの
状況に応じて項目を追加または削除する必要がある。

持っていないもの	<ul style="list-style-type: none"> - 第二国籍を保有していることを示すパスポート、ID カード、またはその他の書類 - 渡航先の国で発禁となっている本、または政治的または宗教的にデリケートなテーマを扱った本 - 問題があると見なされる可能性のある活動を以前に実行したことを示す文書。プレスカード、警察令状カード、軍の ID カード、他の人道支援団体が発行した ID カードなど。 - ポルノ素材（電子形式で保存された素材を含む） - 大麻を含む薬物 - 拳銃を含む武器および弾薬
持っていないもの	<ul style="list-style-type: none"> - キャンプ用ガストーブ - 催涙ガススプレー - 双眼鏡 - 望遠鏡 - ドローン - 軍を連想させる衣類（キャップやハットを含む）、または性差別的なイメージを表現した衣類 - ぜいたく品、高価な物品（模造品を含む） - トラブルに巻き込まれる可能性のある内容や機密情報が含まれる USB メモリースティックまたはその他の記憶装置 - 象牙 - 動物（許可を得ていない場合）および野菜/植物（公衆衛生規制のため）

12.4.2 医療および個人の衛生品目

赴任国内で入手可能なものと、あなたとあなたの家族が必要とするものに応じて、以下のリストを変更すること。持ち込む医薬品や物品が赴任国で合法であり、搭乗する航空会社で問題がないことを確認すること。

赴任先で入手が困難な医薬品が必要な場合：

- ・ 3～6か月分を持参する。
- ・ 医師の署名とスタンプが押された、薬のリスト（投与量と頻度が記載されている）を持参する。あなたに何かが起こった場合、このリストはあなたの健康管理を担当する医療関係者にとって役に立つ。
- ・ 重度のアレルギー（アナフィラキシー）の病歴がある場合は、エピネフリン（アドレナリン）自己注射キットを 2 つ持参し、1 つを常に利用できる状態にしておく。

- 喘息の発作を起こす可能性がある場合は、いつでも使えるように、吸入器を 2 セット持参する。
- マラリア地域に行く場合は、家族のためのマラリア予防薬も持参する。

推薦される医療および個人の衛生品目

個人常用薬	自分（および家族）が服用している薬と、赴任する国内での入手可能状況によって異なる。
マラリア予防	<ul style="list-style-type: none"> マラリア流行地域に行く場合は、マラリア予防錠剤（家族用を含む） 防虫剤（20%～40% DEET または 20% ピカリジン） 有害な昆虫を殺すためのペルメトリン（粉末またはスプレー）蚊、ダニ、ノミなど）。これらは蚊帳や寝具などの処理に使用する。
解熱鎮痛薬	<ul style="list-style-type: none"> パラセタモール 500 mg イブプロフェン 400 mg
下痢、消化器系の薬剤	<ul style="list-style-type: none"> 経口補水液 下痢止め薬（ロペラミド 2mg） 消化不良に対する制酸剤（水酸化アルミニウムまたは水酸化マグネシウム）
鼻咽頭	<ul style="list-style-type: none"> 点鼻薬 のど飴
軽微な切り傷や擦過傷、発疹	<ul style="list-style-type: none"> 1% ヒドロコルチゾン軟膏（虫刺されや日焼け対策） 熱傷治療用ジェル ヨウ素系消毒剤 バンドエイド、できれば自分でサイズに合わせてカットするタイプ 弾力包帯 ハサミ ピンセット
眼の炎症など	<ul style="list-style-type: none"> 目薬（人工涙液）
必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> 眼鏡、予備のペア、またはコンタクトレンズ（できれば使い捨て） 補聴器、予備電池付き
その他	<ul style="list-style-type: none"> 体温計 浄水タブレット（例: Aquatabs、Puritabs、Micropur Forte） 手指消毒ジェル 赴任国内では入手できない個人用衛生用品 サングラス 日焼け止めクリーム コンドーム

自己治療は健康に重大な影響を与える可能性がある。速やかに回復しない場合は、できるだけ早く医師の診察を受けること。

12.5 フィールドトリップの準備

以下の表は、状況、交通手段、活動内容などに応じて調整する必要がある。

主な手順	特定の任務
目的を定義する	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドトリップの目的を正確な用語で定義する。
状況の分析を最新に保ち、適切な安全管理対策を選択する。必要に応じて目的の変更を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の出来事から治安状況を分析する。 ・通過予定のルートに脅威が内在し、特定の措置を講じる必要があるか、計画を変更する必要があるかを決定する。 ・最適な交通手段（四輪駆動車、バイク、ボートなど）を選択する。 ・現地で1泊以上過ごす場合は、利用可能なオプションを検討、評価する。 ・フィールドトリップ先で利用できる医療機関を調べる。 ・人道上の観点から期待される利益がフィールドトリップに伴う危険を上回るか、再考する。
必要な時間を見積もる	<ul style="list-style-type: none"> ・移動距離、実行する予定の活動、道路状況、その他の条件、天候、チェックポイントなどに基づいて、現実的なスケジュールを作成する。
調整	<p>内部：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の目的を他の部署の目的と調整し、必要に応じて他部署も参加してもらう。 ・他部署の同僚に代わって任務を実行できるかどうかを確認する。 ・上司およびすべての関連部署に通知し、必要な承認を得る。 ・必要に応じて、別の国/地域に拠点を置く ICRC に通知する（例：相手の管轄する国や地域の境界付近で活動する場合）。 <p>外部：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたの活動について知らせる必要がある団体（他の赤十字・赤新月社、武器所持者、政府当局、地元の伝統的地位を持つ有力者など）を特定し、知らせるべきことを伝える。 ・必要に応じて他の人道支援団体と既に連携していないか確認する。 ・手続きを含め、安全を担保するために必要なすべての措置を講じる。

主な手順	特定の任務
総務（管理要員）とロジスティクス	<p>人員</p> <ul style="list-style-type: none"> - 目的を達するためにチームに誰が必要かを決める。 - チームメンバーのプロフィールが問題ないか確認する。これには、赤十字・赤新月社のスタッフやボランティア、パートナー団体や政府機関の職員、訪問者など、ICRC 以外の人々も含む。
	<p>ロジスティクス</p> <ul style="list-style-type: none"> - どの車両を使用するか、そしてそれに誰が乗車するかを決定する。 - すべての車両が故障（燃料、スペアタイヤ、牽引装置など）および医療的な問題（救急セット）に対処するために必要なものをすべて搭載していること、また、チームメンバーがそれらの使用方法を知っていることを確認する。 - 識別のための（ICRC の旗、ゼッケンなど）を持っていることを確認する。 <p>計画を立てる際に、ドライバーを含むロジスティクススタッフを参加させることを忘れずに。</p>
	<p>総務（管理要員）</p> <ul style="list-style-type: none"> - リスクを考慮して、どのくらいの現金を持っていくかを決める。 - 多額の現金を持ち歩く場合は、移動中の管理の仕方と責任者を決め、適切な人から許可を得る。 <p>ICRC 総務部門の関与が必須で、多額の現金を輸送したい場合はその許可が必要である。</p>
	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - 予定期刻、チームメンバーのリスト、車両台数、予定ルートなどを記載したフィールドトリップフォームを含む内部承認に必要なものすべてに記入する。 - 必要な機器を準備し、予定している活動に必要な許可を得る。 - 会う予定の人々に応じた、情報提供のための ICRC の資料を集め。 - 遠隔地で長期滞在する場合は、レイプ暴露後キットを持参する。必要に応じてマラリアの迅速診断キットも持っていく。 - 書類（ID カード、血液型を記したカード）、医薬品、必要に応じて緊急マラリア治療薬を含む個人キットを組む。 - 必要に応じて、十分な食料と水を持っていく。

主な手順	特定の任務
通信手段	<ul style="list-style-type: none"> - 必要な通信機器を決める。 - それらが機能すること、および全員がその使用方法を知っていることを確認する。 - 何か問題が発生した場合に備えて、バックアップの通信手段を決める。 - 計画したルートでのあなたの移動をモニタリングする責任者に説明し、連絡手順（例：連絡の頻度など）について決めておく。

12.6 応急手当の基本

緊急時には、応急処置のやり方を知っており、迅速に正しい判断を下すことで命を救うことができる。以下の推奨事項は、応急処置の研修で学ぶべき内容を再確認するものである。

12.6.1 患者の反応がない場合

最優先事項は、酸素が被害者の脳に確実に届くようにすることである。これはABC ルール* - 気道 (Airway)、呼吸 (Breathing)、循環 (Circulation) と呼ばれる。

- ・ 気道：(口、鼻、喉) が通じている必要がある。
- ・ 呼吸：患者は自分で、または人工呼吸の補助下で呼吸しなければならない。
- ・ 循環：患者の血液は循環していかなければならない。つまり、心臓が鼓動しており、大量出血があれば止血が必要である。

*訳注：ABC の蘇生手順については、米国心臓協会のガイドラインの変更に基づいて 2010 年に BLS (Basic Life Support) が CAB の順に変更したが、状況に応じて ABC または CAB を使い分けるのがよいなど、議論もある。

より高度な医療支援が利用可能になるまで、患者を生かしておくための簡単な措置

- ・傷病者が呼吸しているかどうかを確認する：頭を少し後ろに傾け、見て聞いて呼吸を確認する。



負傷者が呼吸している場合

- ・呼吸がしやすく、自分の血液、唾液、嘔吐物で窒息しないように、頭をわずかに後ろに傾けて横向きの安定した姿勢（「recovery position」とも呼ばれる）にして寝かせる。
- ・毛布、衣類、その他あるもので覆う。



負傷者が呼吸していない場合

- ・負傷者を仰向けに寝かせる。
- ・定期的に胸骨圧迫を行い、胸骨（肋骨が付着している胸の中央の骨）の下部をしっかりと押し、放す。1分間に少なくとも100回の圧迫を行う。
- ・胸骨圧迫は、医療専門家が担当するか、救命の見込みがなくなるか、中止するよう指示されるまで続ける（他の人がいる場合は交代で）。



12.6.2 患者が出血している場合

戦傷に関する研究では、出血が死亡原因の 50%を占め、避けられる死の最も一般的な原因であると結論付けている。以下に示す簡単なルールに従えば、これを防ぐことができる。

訳注：以下はあくまで現場レベルで、現場にあるもので非医療職が行うことを前提とした応急処置を説明している。

圧迫包帯を巻く

- ・患者に傷を圧迫するよう頼むか、清潔な布を使用して自分で圧迫する。
- ・この用手的圧迫の代わりに、清潔な布またはその他吸収性素材で作られた 8 の字型の圧迫包帯を巻いて圧迫する。
- ・圧迫包帯が痛みを引き起こしていないか確認する。患肢を観察して、腫れたり青くなったりしているところがないか確認する。これらのいずれかの兆候がある場合は、包帯を緩める。



頸部からの出血

- ・圧迫包帯を、反対側の腋を通して巻く。



圧迫包帯から血液がにじみ出ている場合

- ・最初に巻いた包帯は外さず、その上から追加の包帯（または清潔な布）を巻く。

創部に異物がある場合

銃弾やナイフなどの異物を取り除こうとしない。異物自体は問題ではなく、問題は、内部出血や組織損傷、感染のリスクであり、いずれも致命的となる可能性がある。

- ・異物を取り除こうとしない。
- ・止血帯を巻かない。
- ・圧迫用ガーゼまたは清潔な布で創部を囲んで固定する。
- ・異物は取り除かないまま、圧迫包帯を当てる。



手足が切断された場合

重要なのは出血を止めることである。

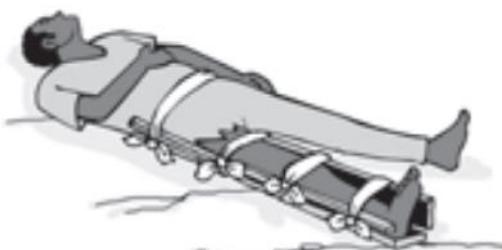
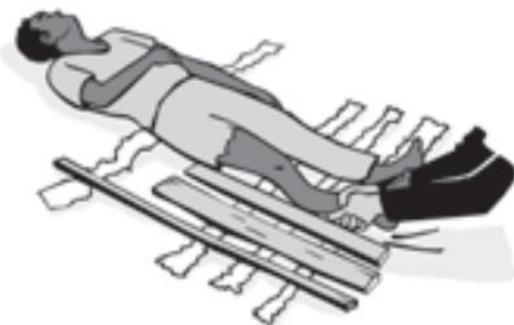
- ・圧迫包帯を巻く。
- ・四肢が切断され、患者が大量の出血をしている場合にのみ止血帯を使う。
- ・専用の止血帯を持っていない場合は、あるものは何でも使用する。それが患者の命を救う可能性がある。



12.6.3 骨折

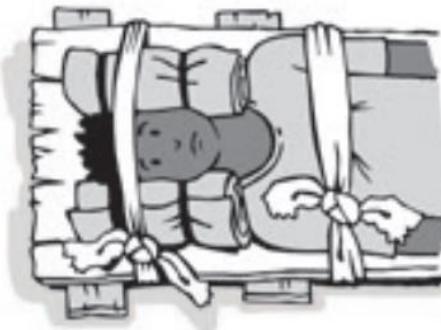
腕と脚

- ・骨折した四肢をゆっくりまっすぐにする。これにより、効果的に固定しやすくなる。
- ・次に、痛みを軽減し、さらなる怪我を防ぐために、骨折した四肢を固定する。
- ・外傷がある場合は、包帯を巻く。



頸部骨折

- ・患者を横たわらせた状態で、頭を丁寧に固定し、体をまっすぐにして、痛みを軽減し、さらなる傷害を防ぐ。



12.6.4 外傷

一般的な推奨事項

- ・小さな傷でも汚れや小さな異物を取り除く。創部を飲料水で洗い、ヨウ素ベースの消毒剤を塗る。
- ・絆創膏または清潔な湿った布で創部を覆う。
- ・創部の観察を続け、発赤や、感染が広がり始めた場合は、医師の診察を受ける。

腹部外傷

- ・患者の臓器を体内に押し戻そうとしない。
- ・清潔な湿った布で傷を覆う。
- ・患者が楽な姿勢で横たわるように、膝を曲げて横になるのを補助する。
- ・患者を退避させる。



胸部外傷

- 創部をプラスチック（または他の同様の素材）で覆い、3辺のみを固定し、1辺は開けておく。それができない場合は、傷を覆わないままにしておく。
- 患者が快適な姿勢で横になるのを補助する（半座位が最も楽なことが多い）。
- 患者の退避



12.6.5 热傷

- 痛みがなくなるか、患者が冷たさを感じ始めるまで、できるだけ長く患部を冷やす（たとえば、きれいな流水で）。
- プラスチックフィルムやビニール袋などの清潔で柔軟な素材で熱傷部分を覆う。
- 熱傷の面積が手のひらより大きい場合、または顔、性器、関節などの領域に影響を及ぼしている場合は、医師に相談する必要がある。熱傷は常に観察下に置く。痛みが続く場合、または熱傷が感染した場合は、医師に相談する。



12.6.6 咬傷

哺乳類の咬傷

このような動物咬傷は感染を伴うことが多いため、感染が明らかでない場合でも、原則として抗生物質の投与を開始する必要がある。狂犬病発生地域での動物咬傷は、狂犬病の危険性もある。

コウモリを含む哺乳類に噛まれた場合、または皮膚に突き刺さるような擦り傷や傷を負った場合、または動物の唾液が既存の皮膚の傷や粘膜に接触した場合：

- ・刺された部分を石鹼と水で注意深く洗う。
- ・ヨウ素ベースの消毒剤を塗布する。
- ・狂犬病の発生地域にいる場合は、たとえ狂犬病の予防接種を受けていても、できるだけ早く医師の診断を受けること。このような地域では、コウモリを含むほとんどの哺乳類がこの病気を伝染させる可能性がある。
- ・傷が小さい場合は、通常は自然治癒する。

ヘビ

予防策

- ・湿地帯や下草の茂った場所を歩かない。
- ・長い草や森の中を歩く必要がある場合は、ふくらはぎを覆うブーツを着用する。
- ・ヘビは耳は聞こえないが振動は感じるため、棒で地面や石を叩いて追い払うことができる。
- ・靴を履く前、または容器に手を入れる前に、ヘビ（および昆虫）がいないか確認する。

蛇咬傷

- ・不必要的リスクを冒さずに撮れる場合は、頭を含むヘビの写真を撮るか、その外観を覚えておく。ヘビの種類を知ることは、どのような治療が必要かを判断するのに役立つ。
- ・被害者（自分が被害者の場合は自分自身）を、咬傷が心臓よりも低い位置になるようにして楽な姿勢をとらせ、被害者を安心させ、落ち着かせる。
- ・創部を洗浄、消毒し、圧迫包帯を巻く。患肢手足を固定し、静かに座らせるか寝かせる。
- ・水を少しづつ飲ませる。
- ・医療における緊急事態の責任者に直ちに連絡し、次に何をすべきかの指示を仰ぐ。



注：ヘビに噛まれても死に至ることは稀*だが、疼痛が非常に強い場合がある。毒は通常、効果が現れるまでに数時間かかる。体の他の部分への毒の広がりを遅らせるには：

- ・氷を当てない。
- ・傷口を切り開かない。
- ・傷口から毒を吸い出そうとしない。
- ・止血帯を巻かない。

*訳注：毒を持つヘビは、ヘビ全体の 20%以下とされる。

蜘蛛に噛まれた場合

蛇咬傷と同様の手順である。

12.7 國際音声記号

通信状況が厳しい場合は、国際音声記号（NATO アルファベットと呼ばれることがある）を使用して文字を綴る。地名などの複雑な単語や馴染みのない単語を綴る場合にも便利である。アルファとジュリエットは通常とは異なる綴りになっている。

*訳注：英語では Phonetic code や Phonetic alphabet ともいう。相手の音声が聞き取りにくい無線でよく使用される。たとえば Osaka なら、「Oscar, Sierra, Alfa, Kilo, Alfa」とコールする。

A: Alfa	J: Juliett	S: Sierra
B: Bravo	K: Kilo	T: Tango
C: Charlie	L: Lima	U: Uniform
D: Delta	M: Mike	V: Victor
E: Echo	N: November	W: Whiskey
F: Foxtrot	O: Oscar	X: X-ray
G: Golf	P: Papa	Y: Yankee
H: Hotel	Q: Quebec	Z: Zulu
I: India	R: Romeo	

13. 参考文献

ACTIONS and ICRC, Participatory Techniques Flipbook, Different Ways to Have Different Conversations with Different People, 2019:

<https://www.icrc.org/en/document/different-ways-have-different-conversations-different-people>.

ALNAP, The State of the Humanitarian System, London, 2018:

<https://www.alnap.org/our-topics/the-state-of-the-humanitarian-system>.

Centre of Competence on Humanitarian Negotiation, Field Manual on Frontline Humanitarian Negotiation, V 2.0, 2019:

<https://frontlinenegotiations.org/home/resources/field-manual>.

Earthquake Country Alliance, Step 5: Drop, Cover, and Hold On:

<https://www.earthquakcountry.org/step5/>.

ECHO, Generic Security Guide for Humanitarian Organisations, ECHO, 2004:

https://ec.europa.eu/echo/files/evaluation/watsan2005/annex_files/ECHO/ECHO_12%20-%20echo_generic_security_guide_en.doc.

Global Conflict Sensitivity Community Hub, Conflict Sensitivity:

<https://www.conflictsensitivityhub.net/>.

Global Interagency Security Forum, Managing Sexual Violence against Aid Workers: Prevention, Preparedness, Response and Aftercare, GISF, 2019:

<https://gisf.ngo/resource/managing-sexual-violence-against-aid-workers/>.

Global Interagency Security Forum, Managing the Security of Aid Workers with Diverse Profiles, GISF, 2018: <https://gisf.ngo/resource/managing-the-security-of-aid-workers-with-diverse-profiles/>.

Harvard Humanitarian Initiative and ICRC, Engaging with People Affected by Armed Conflicts and Other Situations of Violence, Taking Stock. Mapping trends. Looking ahead. Recommendations for Humanitarian Organizations and Donors in the Digital Era, 2018: <https://shop.icrc.org/engaging-with-people-affected-by-armed-conflicts-and-other-situations-of-violence-pdf-en>.

Humanitarian Practice Network, Overseas Development Institute, Operational Security Management in Violent Environments, Good Practice Review 8, Revised edition, London, 2010: <https://odihpn.org/resources/operational-security-management-in-violent-environments-revised-edition/>.

Humanitarian Women's Network, Humanitarian Women's Network Survey, 2016: <https://www.humanitarianwomensnetwork.org/about>.

ICRC and International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies, A Red Cross Red Crescent Guide to Community Engagement and Accountability (CEA) : Improving Communication, Engagement and Accountability in All We Do, ICRC and International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies, Geneva, 2016: <https://www.alnap.org/help-library/a-red-cross-red-crescent-guide-to-community-engagement-and-accountability-cea-improving>.

ICRC, "Memorandum: The ICRC's privilege of non-disclosure of confidential information", International Review of the Red Cross (IRRC) , No. 897/898, 2016, pp. 433–444:

<https://international-review.icrc.org/articles/memorandum-icrcs-privilege-non-disclosure-confidential-information>.

ICRC, A Guide to what you Can and Cannot do While You Work for Us, ICRC, Geneva, 2020: <https://shop.icrc.org/a-guide-to-what-you-can-and-cannot-do-while-you-work-for-us-this-is-an-easy-to-read-guide-to-the-code-of-conduct-for-people-who-work-for-the-icrc.html>. [Available to ICRC personnel only]

ICRC, Cash Transfer Programming, Standard Operating Procedures, ICRC, Geneva, 2018: <https://cash-hub.org/wp-content/uploads/sites/3/2020/08/ICRC-CTP-SOPs.pdf>.

ICRC, Code of Conduct for Employees of the International Committee of the Red Cross, ICRC, Geneva, 2018: <https://www.icrc.org/en/document/code-conduct-employees-icrc>.

ICRC, Discover the ICRC, Geneva, 2018: <https://shop.icrc.org/discover-the-icrc-pdf-en>.

ICRC, Domestic Normative Frameworks for the Protection of Health Care, ICRC, Geneva, 2015: <https://shop.icrc.org/domestic-normative-frameworks-for-the-protection-of-health-care-pdf-en>.

ICRC, EcoSec Handbook – Assessing Economic Security, ICRC, Geneva, 2017: <https://shop.icrc.org/ecosec-handbook-assessing-economic-security-pdf-en>.

ICRC, EcoSec Handbook: EcoSec Planning, Monitoring and Evaluation, ICRC, Geneva, 2019: <https://shop.icrc.org/ecosec-handbook-ecosec-planning-monitoring-and-evaluation-pdf-en>.

ICRC, EcoSec Response, ICRC, Geneva, 2020:
<https://shop.icrc.org/ecosec-response-en-pdf>.

ICRC, Engaging with State Armed Forces to Prevent Sexual Violence: A Toolkit for ICRC Staff on How to Engage State Armed Forces in Dialogue on Preventing Sexual Violence in Armed Conflict, ICRC, Geneva, 2020:
<https://shop.icrc.org/engaging-with-state-armed-forces-to-prevent-sexual-violence-a-toolkit-for-icrc-staff-on-how-to-engage-state-armed-forces-in-dialogue-on-preventing-sexual-violence-in-armed-conflict-pdf-en>.

ICRC, Enhancing Protection for Civilians in Armed Conflict and Other Situations of Violence, ICRC, Geneva, 2012: <https://shop.icrc.org/enhancing-protection-for-civilians-in-armed-conflict-and-other-situations-of-violence-pdf-en>.

ICRC, Ensuring the Preparedness and Security of Health-Care Facilities in Armed Conflict and Other Emergencies, ICRC, Geneva, 2015:
<https://shop.icrc.org/ensuring-the-preparedness-and-security-of-health-care-facilities-in-armed-conflict-and-other-emergencies-pdf-en>.

ICRC, First Aid in Armed Conflicts and Other Situations of Violence, ICRC, Geneva, 2008: <https://shop.icrc.org/first-aid-in-armed-conflicts-and-other-situations-of-violence-pdf-en>.

ICRC, Health Care in Danger (website) : <https://healthcareindanger.org/hcid-project>.

ICRC, ICRC Rules on Personal Data Protection, ICRC, Geneva, 2017: <https://shop.icrc.org/icrc-rules-on-personal-data-protection-pdf-en>

ICRC, Increasing Resilience to Weapon Contamination through Behaviour Change, ICRC, Geneva, 2020: <https://shop.icrc.org/increasing-resilience-to-weapon-contamination-through-behaviour-change-pdf-en>.

ICRC, International Humanitarian Law: Answers to your Questions, ICRC, Geneva, 2015: <https://shop.icrc.org/international-humanitarian-law-answers-to-your-questions-pdf-en>.

ICRC, Passive Security – Technical Guidance for ICRC Premises in the Field, ICRC, Geneva, 2016: <https://shop.icrc.org/passive-security-technical-guidance-for-icrc-premises-in-the-field-pdf-en>.

ICRC, Code of Conduct Policies: Prevention of and Response to Sexual Misconduct, Fraud and Corruption, ICRC, Geneva, 2019: https://collab.ext.icrc.org/sites/TS_GCOI/Activities/GCO%20FINAL%20PRODUCTS/REPOSITORY%20OF%20PUBLICATIONS%20PDF/4348_002_Code_of_conduct_policies_EN.pdf.

ICRC, Protecting Health Care: Key Recommendations, ICRC, Geneva, 2016: <https://shop.icrc.org/protecting-health-care-key-recommendations-pdf-en>.

ICRC, Protecting People Deprived of their Liberty, ICRC, Geneva, 2016: <https://shop.icrc.org/protecting-people-deprived-of-their-liberty-pdf-en>.

ICRC, Protracted Conflict and Humanitarian Action: Some Recent ICRC Experiences, Geneva, 2016: <https://shop.icrc.org/protracted-conflict-and-humanitarian-action-some-recent-icrc-experiences-pdf-en>.

ICRC, Safer Access: A Guide for All National Societies, ICRC, Geneva, 2015:
<https://shop.icrc.org/safer-access-a-guide-for-all-national-societies-includes-3-case-studies-pdf-en>.

ICRC, Security Survey for Health Facilities, ICRC, Geneva, 2017:
<https://shop.icrc.org/security-survey-for-health-facilities-pdf-en>.

ICRC, The Roots of Restraint in War, ICRC, Geneva, 2018:
<https://shop.icrc.org/the-roots-of-restraint-in-war-pdf-en>.

ICRC, Urban Services during Protracted Armed Conflict: A Call for a Better Approach to Assisting Affected People, ICRC, Geneva, 2019:
<https://shop.icrc.org/urban-services-during-protracted-armed-conflict-pdf-en>.

ICRC, Weapon Contamination in Urban Settings, an ICRC Response, ICRC, Geneva, 2019: <https://shop.icrc.org/weapon-contamination-in-urban-settings-an-icrc-response-pdf-en>.

ICRC, World Health Organization, Pan American Health Organization and International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies, Management of Dead Bodies after Disasters: A Field Manual for First Responders, ICRC, Geneva, 2016: <https://shop.icrc.org/management-of-dead-bodies-after-disasters-a-field-manual-for-first-responders-pdf-en>.

ICRC, World Medical Association, International Committee of Military Medicine, International Council of Nurses and International Pharmaceutical Federation, Ethical Principles of Health Care in Times of Armed Conflict and Other Emergencies, 2015: <https://www.wma.net/policies-post/ethical-principles-of-health-care-in-times-of-armed-conflict-and-other-emergencies/>.

ILGA World, Sexual Orientation Laws in the World, 2020: <https://ilga.org/map-sexual-orientation-laws-december-2020>.

Intergovernmental Oceanographic Commission, Tsunami, The Great Waves, IOC Brochure 2012-4, UNESCO, Paris, revised 2014, 16 pp:
<http://unesdoc.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?lin=1&catno=148609>.

International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies, Stay Safe – The International Federation’s guide to a safer mission, 2008:

<https://ifrcstaysafe.org/>.

International Organization for Standardization, ISO 31000: 2018, Risk management – Guidelines, ISO, 2018:

<https://www.iso.org/obp/ui#iso:std:iso:31000:ed-2:v1:en>.

International Organization for Standardization, ISO Guide 73:2009, Risk management – Vocabulary, ISO, 2009:

<https://www.iso.org/obp/ui#iso:std:iso:guide:73:ed-1:v1:en>.

Notre Dame Global Adaptation Initiative, ND-GAIN Country Index, University of Notre Dame: <https://gain.nd.edu/our-work/country-index>.

Swiss Federal Department of Foreign Affairs, United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs and Conflict Dynamics International, Humanitarian Access in Situations of Armed conflict, Practitioners’ Manual, version 2, December 2014:

https://www.eda.admin.ch/dam/eda/en/documents/aussenpolitik/voelkerrecht/Human-access-in-sit-of-armed-conflict-manual_EN.pdf.

Transparency International, Corruption Perceptions Index, 2020:

<https://www.transparency.org/en/cpi/2020/index>.

Transparency International, Handbook of Good Practices: Preventing Corruption in Humanitarian Operations, 2nd ed., 2014:

<https://www.transparency.org/en/publications/handbook-of-good-practices-preventing-corruption-in-humanitarian-operations>.

United Nations, Code of Conduct for Law Enforcement Officials, United Nations, 1979:

<https://www.ohchr.org/EN/ProfessionalInterest/Pages/LawEnforcementOfficials.aspx>.

Anderson, M.B., Do No Harm: How Aid Can Support Peace – Or War, Lynne Rienner Publishers, Boulder, 1999.

Angelo, K.M. et al., “Malaria after international travel: a Geo Sentinel analysis, 2003-2016”, Malaria Journal, Vol. 16, 20 July 2017.

Brugger, P., “ICRC operational security: staff safety in armed conflict and internal violence”, International Review of the Red Cross, No. 874, June 2009, pp. 431-445: <https://international-review.icrc.org/articles/icrc-operational-security-staff-safety-armed-conflict-and-internal-violence>.

Charny, J.R., “Upholding humanitarian principles in an effective integrated response”, Ethics & International Affairs, Vol. 18, No. 2, 2004, p. 13-20.

Davis, J. et al., Security to Go: A Risk Management Toolkit for Humanitarian Aid Agencies, Global Interagency Security Forum, 2020:
<https://gisf.ngo/resource/security-to-go>.

Dind, P., “Security in ICRC field operations”, International Review of the Red Cross, No. 323, June 1998, pp. 335–345: <https://international-review.icrc.org/articles/security-icrc-field-operations>.

Fast, L. and O'Neill, M., A Closer Look at Acceptance, Humanitarian Practice Network, 2010: <https://odihpn.org/magazine/a-closer-look-at-acceptance>.

Fast, L., “Unpacking the principle of humanity: Tensions and implications”, International Review of the Red Cross, No. 897/89, February 2016, pp. 111–131: <https://international-review.icrc.org/articles/unpacking-principle-humanity-tensions-and-implications>.

Henckaerts, J-M. and Doswald-Beck, L., Customary International Humanitarian Law, Volume I: Rules, ICRC, Geneva, 2006:
<https://ihl-databases.icrc.org/customary-ihl/eng/docs/home>.

Krähenbühl, P., La sécurité humanitaire : “une question d’acceptation, de perception, de comportement... ”, statement to the high-level humanitarian forum, Palais des Nations, Geneva, 31 mars 2004:
<https://www.icrc.org/fr/doc/resources/documents/misc/5ybfdc.htm>.

Krieg, A. and Rickli, J-M., "Surrogate warfare: The art of war in the 21st century?", Defence Studies, Vol. 18, No. 2, January 2018, pp. 113–130.

Kuner, C. and Marelli, M., (eds) , Handbook on Data Protection in Humanitarian Action, ICRC, Geneva, 2017: <https://www.icrc.org/en/data-protection-humanitarian-action-handbook>.

Leach, J., Survival Psychology, Palgrave Macmillan, London, 1994.

Maurer, P., Humanitarian Diplomacy and Principled Humanitarian Action, speech given on 2 October 2014, Maison de la Paix, Geneva:
<https://www.icrc.org/en/document/webcast-peter-maurer-humanitarian-diplomacy-and-principled-humanitarian-action>.

Mazurana, D. and Donnelly, P., STOP the Sexual Assault against Humanitarian and Development Aid Workers, Feinstein International Center, Tufts University, 2017: <https://fic.tufts.edu/publication-item/stop-sexual-assault-against-aid-workers/>.

Melzer, N., International Humanitarian Law: A Comprehensive Introduction, coordinated by Etienne Kuster, ICRC, Geneva, 2018:
<https://shop.icrc.org/international-humanitarian-law-a-comprehensive-introduction-pdf-en>.

Merkelbach, M., Voluntary Guidelines on the Duty of Care to Seconded Civilian Personnel, Swiss Federal Department of Foreign Affairs, Stabilization Unit and Centre for International Peace Operations, 2017:
<https://gisf.ngo/resource/voluntary-guidelines-on-the-duty-of-care-to-seconded-civilian-personnel/>.

Muñoz-Rojas, D. and Frésard, J-J., The Roots of Behaviour in War: Understanding and Preventing IHL Violations, ICRC, Geneva, 2004:
<https://shop.icrc.org/he-roots-of-behaviour-in-war-understanding-and-preventing-ihl-violations-pdf-en>.

Neuman, M. and Weissman, F. (eds) , Secourir sans périr : La sécurité humanitaire à l'ère de la gestion des risques, CNRS Editions, Paris, 2016.

Perone, S.A. et al., “Psychological support post-release of humanitarian workers taken hostage: the experience of the International Committee of the Red Cross (ICRC) ”, British Journal of Guidance & Counselling, Vol. 48, No. 3, 2020, pp. 360–373: <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/03069885.2018.1461193>.

Pictet, J., “The Fundamental Principles of the Red Cross”, International Review of the Red Cross, No. 210, June 1979, p. 130-149: <https://international-review.icrc.org/articles/fundamental-principles-red-cross>.

Progin, C., Les Émotions, Centre romand de soutien par les pairs, 2014.

Roberts, D.L., Staying Alive, Safety and Security Guidelines for Humanitarian Volunteers in Conflict Areas, revised and updated edition, ICRC, Geneva, 2006: <https://shop.icrc.org/staying-alive-safety-and-security-guidelines-for-humanitarian-volunteers-in-conflict-areas-pdf-en>.

Stoddard, A., et al., Aid Worker Security Report: Figures at a Glance 2020, Humanitarian Outcomes, 2020:
<https://www.humanitarianoutcomes.org/publications/AWSDFigures2020>.

Vité, S., “Typology of armed conflicts in international humanitarian law: legal concepts and actual situations”, International Review of the Red Cross, No. 876, March 2009, pp. 69–94: <https://international-review.icrc.org/articles/typology-armed-conflicts-international-humanitarian-law-legal-concepts-and-actual>.

SAFE 人道支援要員のための安全管理マニュアル

2025 年 3 月 1 日 初版

監訳/制作 中出雅治

発行所 日本赤十字社

〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3

印刷/製本 サン美術印刷株式会社

© 2025 日本赤十字社

Printed in Japan

禁無断転載

本書は、日本語による「安全管理」を扱った数少ない書籍であり、関係諸兄にとってわずかでも寄与するものとなれば幸いです。

商業用に制作したものではなく、PDF 版は以下からご自由にダウンロードができるようにしていますので、ご活用ください。

<https://www.osaka-med.jrc.or.jp/aboutus/international/magazine.html>

なお本書は、SAFE を元に制作したものですですが、赤十字国際委員会(ICRC)駐日代表部が公式に監修・推奨するものではなく、日本語版の内容については、監訳者が一切の責任を負うものとします。



日本赤十字社

〒105-8521

東京都港区芝大門 1 丁目 1 番 3 号

<http://www.jrc.or.jp>

© 日本赤十字社 2025/03